岩手県平泉町文化財調査報告書第146集

平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅱ遺跡第20次　　国衡館跡第16次

伽羅之御所跡第31次　　西光寺跡第14・15次

志羅山遺跡第120・121次　　花立Ⅱ遺跡第30次

２０２４

令和６年３月

平泉町教育委員会

平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅱ遺跡第20次
伽羅之御所跡第31次
志羅山遺跡第120・121次
国衡館跡第16次
西光寺跡第14・15次
花立Ⅱ遺跡第30次

序

平泉町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鶏山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧観自在王院庭園・おくのほそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。また、このほかに101箇所を数える遺跡や埋蔵文化財が町内に数多く残されています。これらは地域の風土や歴史が生み出した貴重な文化遺産であり、本町の歴史･文化を考える上で重要な資料であります。また、これらの歴史資料は本町のみならず県民・国民的財産であり、その保存・活用の重要性はいうまでもありません。

本報告書は令和４年度の国庫補助事業により実施した平泉遺跡群発掘調査成果を収録したものです。同事業では祇園Ⅱ遺跡、国衡館跡、伽羅之御所跡、西光寺跡、志羅山遺跡、花立Ⅱ遺跡の６遺跡・８地点の調査を行っております。

特に志羅山遺跡第120次調査では、12世紀の四面庇建物を始めとする建物、その周辺にはトイレ状遺構や区画溝が見つかり、過年度の調査成果を併せて当時の屋敷地の様相を把握することができ、12世紀の平泉の都市空間を考える上で貴重な資料を得ることができました。

調査データは広く活用され、今後の考古学研究・文化財の愛護・理解の一助になれば幸いです。

最後に、地域住民の方々をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会に深く感謝申し上げます。

令和６年３月

平泉町教育委員会

教育長　吉　野　新　平

例　　言

1　本書は令和４年度の国庫補助事業により実施した平泉遺跡群発掘調査の報告である。
2　令和４年度の発掘調査は、祇園Ⅱ遺跡、国衡館跡、伽羅之御所跡、西光寺跡、志羅山遺跡、花立Ⅱ遺跡の６遺跡･８地点について行った。野外調査期間は令和４年４月５日から令和４年12月23日、室内整理期間は令和５年３月31日までである。
3　発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

（1）令和４年度

平泉町教育委員会

教育長	吉野新平

平泉文化遺産センター

館長	髙橋国博	主任	千葉徹
館長補佐	島原弘征	主任文化財調査員	菅原計二
主任主査文化財調査員	鈴木江利子	補助員（臨時）	二階堂里絵
文化財調査員	鈴木博之	補助員（臨時）	佐藤昌弘
主任	佐々木成淳	補助員（臨時）	熊谷明美
主任	鈴木理世	補助員（臨時）	菊地道子
文化財調査員	藤田崇志		

（2）令和５年度

平泉町教育委員会

教育長	吉野新平

平泉文化遺産センター

館長	髙橋国博	主任文化財調査員	菅原計二
館長補佐	島原弘征	主任文化財調査員	鈴木江利子
主任文化財調査員	鈴木博之	補助員（臨時）	二階堂里絵
主任	小野寺俊英	補助員（臨時）	佐藤昌弘
主任	鈴木理世	補助員（臨時）	熊谷明美
文化財調査員	藤田崇志	補助員（臨時）	菊地道子
主任	千葉徹		

4　発掘調査・室内整理は鈴木江利子・鈴木博之・藤田・菅原・島原が担当し、佐藤・熊谷・菊地・二階堂の協力を得た。事務は鈴木理世（令和４年度）、小野寺（令和５年度）が担当した。
5　本書の執筆は、Ⅰ－１・２・４・５を菅原計二、Ⅰ－６・７を鈴木江利子、Ⅰ－３・８を藤田・島原が、それ以外を島原弘征が担当した。
6　調査の基準点は、平文基準点（平面直角座標Ｘ系に準拠）をもとに調査員が打設した。なお、測量成果は過去の図面と合成できるよう測地2000に変換して使用した。
7　土層観察の土色は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄2001）によった。
8　調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備推進会議、平泉町HP等で公表している。上記と内容が異なる場合は本書を優先する。
9　発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った（順不同・敬称略）

文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備推進会議、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

10　出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。
11　発掘調査参加者（順不同・敬称略）

阿部利彦、阿部美紗、石川誠、大石しずえ、小野寺富子、川崎寛、小岩佳ゑ、佐々木政記、佐々木利雄、佐々木敏治、佐々木直久、佐藤綾男、佐藤歌奈子、佐藤さよみ、佐藤参、佐藤正一、佐藤正志、菅原聡、菅原まつ子、菅原有利、髙橋喜一、高橋純一、瀧澤昌治、束稲正博、田村功、千條あえ子、千葉一郎、千葉京子、千葉景姫、千葉忠枝、千葉晃久、千葉ナカ子、千葉正行、千葉光春、鳥畑惠美子、那須野繁男、西悠太朗、橋階義彦、藤原榮治、矢崎静香、矢崎木綿子、吉田琴子

目　　次

序

例言

目次

抄録

Ⅰ　平泉遺跡群発掘調査報告

1　祇園Ⅱ遺跡第20次 …… 2

2　国衡館跡第16次 …… 17

3　伽羅之御所跡第31次 …… 24

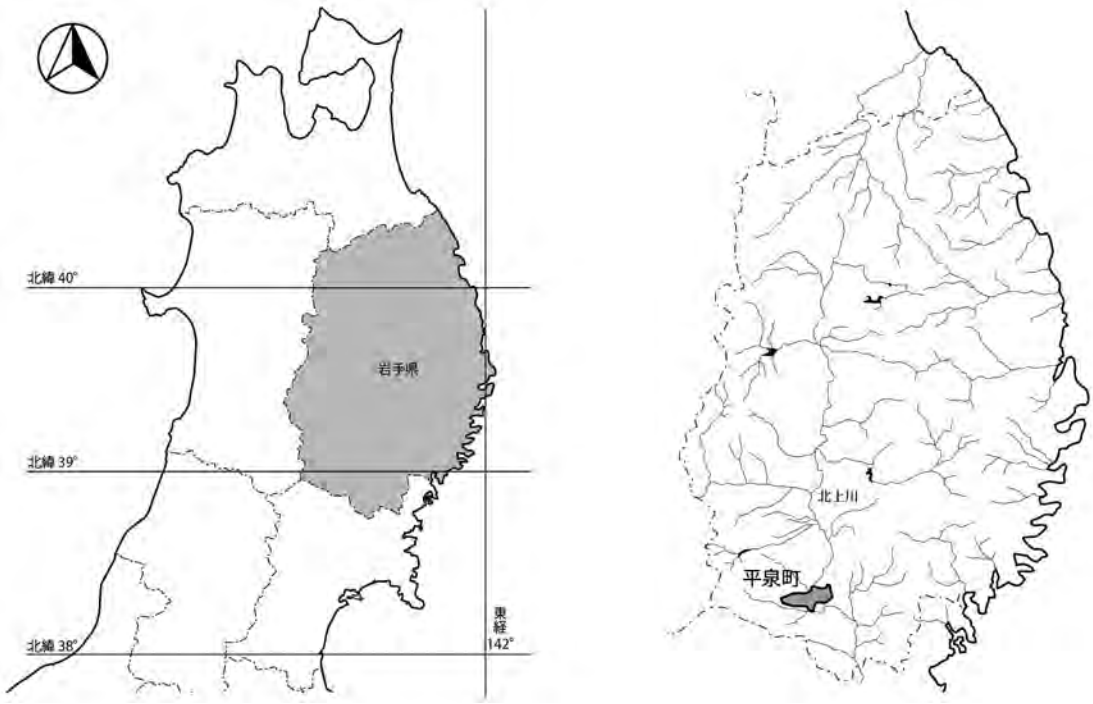
4　西光寺跡第14次 …… 36

5　西光寺跡第15次 …… 48

6　志羅山遺跡第120次 …… 66

7　志羅山遺跡第121次 …… 89

8　花立Ⅱ遺跡第30次 …… 106



平泉町の位置

報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ
書名	平泉遺跡群発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	岩手県平泉町文化財調査報告書
シリーズ番号	第146集
編著者名	島原弘征　菅原計二　鈴木江利子　鈴木博之　藤田崇志
編集機関	平泉町教育委員会
所在地	〒029-4102　岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地２　電話（0191）46-2111（代）
発行年月日	西暦2024年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
祇園Ⅱ遺跡第20次	祇園5-4	03402	NE76-2087	38° 58′ 42″	141° 06′ 59″	20220406～0513	107㎡	住宅新築
国衡館跡第16次	倉町135-1		NE76-1082	38° 59′ 09″	141° 06′ 40″	20220606～0701	66㎡	住宅新築
伽羅之御所跡第31次	伽羅楽68-3		NE76-1029	38° 59′ 32″	141° 07′ 06″	20220418～0520	61㎡	住宅新築
西光寺跡第14次	北沢16		NE84-0387	38° 58′ 06″	141° 03′ 29″	20220725～0831	11㎡	内容確認
西光寺跡第15次	北沢16		NE84-0387	38° 58′ 06″	141° 03′ 32″	20220926～1201	113㎡	仏堂建替
志羅山遺跡第120次	志羅山136-5		NE76-1065	38° 59′ 14″	141° 06′ 48″	20220405～0603	100㎡	住宅新築
志羅山遺跡第121次	志羅山155-5		NE76-1065	38° 59′ 18″	141° 06′ 52″	20220616～0823	92㎡	住宅新築
花立Ⅱ遺跡第30次	鈴沢96-2		NE76-1015	38° 59′ 25″	141° 06′ 44″	20220824～1112	80㎡	住宅新築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
祇園Ⅱ遺跡第20次	散布地・寺社	平安	掘立柱建物、土坑、溝跡、柱穴	かわらけ、須恵器、国産陶器、近世磁器	
国衡館跡第16次	屋敷地	平安・中世	土坑、溝跡、柱穴	かわらけ、陶磁器、鉄製品	
伽羅之御所跡第31次	居館	平安	近世墓、土坑、焼土	かわらけ、瓦、煙管、銭貨、羽口、陶器	
西光寺跡第14次	寺社・城館	平安・中近世	池跡	かわらけ、国産陶器、銭貨、近世陶磁器、石器、羽口	
西光寺跡第15次	寺社・城館	平安・中近世	礎石建物、溝、整地	かわらけ、土師器、銭貨、近世陶磁器	
志羅山遺跡第120次	屋敷地	平安・中近世	掘立柱建物、柱穴列、トイレ状遺構、溝、柱穴	かわらけ、中国産磁器、国産陶器、銭貨、木製品、種	
志羅山遺跡第121次	屋敷地	平安・中近世	井戸跡、土坑、溝、柱穴	かわらけ、中国産磁器、国産陶器、木製品（ヘラ・箸）	
花立Ⅱ遺跡第30次	寺社・城館	平安	整地層、土坑、溝、柱穴	かわらけ、中国産磁器、国産陶器、瓦、金属製品	

要約	平泉遺跡群の発掘調査報告書である。

1 祇園Ⅱ遺跡 第20次
2 国衡館跡 第16次
3 伽羅之御所跡 第31次
4 西光寺跡 第14次
5 西光寺跡 第15次
6 志羅山遺跡 第120次
7 志羅山遺跡 第121次
8 花立Ⅱ遺跡 第30次
0
1000m

調査箇所位置図

祇園Ⅱ遺跡第20次発掘調査

1　調査要項

地　　点　　岩手県西磐井郡平泉町平泉字祇園５番４
調査面積　　107㎡
調査期間　　令和４年４月６日～５月13日
原　　因　　住宅建築
調査担当　　菅原計二

2　位置と概要

調査地点はＪＲ東北本線平泉駅の南約1.2㎞の地点に位置する住宅地である。既存建物の解体後に住宅を新築するために発掘調査を実施した。東側は県道300号三日町瀬原線に面する。県道は国道４号が平成27年（2015）４月に国土交通省から県に移管されたもので、近世の奥州道中を踏襲するとみられる。当地の南約100ｍに所在する八坂神社は国の特別史跡毛越寺跡附鎮守社跡の飛地祇園社跡とされる。当地の地形は北上川西岸と支流太田川の右岸に広がる沖積地で、西から東に向かう緩斜面に田畑が広がり、これらの耕作地と県道沿いと住宅地がみられる。調査地点の標高は約25ｍである。

調査の結果、遺構は近世の掘立柱建物跡を含む柱穴約90個、溝跡７条、土坑２基を検出した。遺物は溝跡等から近世陶磁器、柱穴や遺構外から12世紀のかわらけや常滑産陶器甕、平安時代の須恵器、中世陶器、鉄製品などが少量出土した。建物跡は雨落ちとみられる溝跡を伴う形で検出し、近世に属するものと推定した。以下は経過である。４月６日重機搬入、５日重機で表土と解体建物の撹乱除去、12日から発掘資材搬入とテント設営、同日より作業員による残土除去と粗掘りを開始した。この後、遺構検出と精査･実測等を並行して行った。５月９日調査区の全体清掃と全体写真撮影、11日埋戻し、13日に発掘資材の撤去を行い、現地での作業を終了した。

第１図　位置図（1/5,000）

３　調査成果

（１）土層（第４図）

当地点の標高は調査区の北西端24.92ｍ、北東端24.79ｍ、南西端24.92ｍ、南東端24.84ｍである。土層は調査区北壁と東壁の断面を主に観察した。土層は表土及び撹乱から地山までⅠ～Ⅳ層に分けられる。西壁では前身建物に伴う撹乱の下で旧表土とみられる堆積土を検出し、南壁では現代のコンクリートたたきの下で薄い旧表土を検出した。Ⅰは表土（1）と撹乱（1-1・1-2）及び前身建物の礎石移動時の撹乱（1-3）と地山ブロック混入（1-4）である。Ⅱ（２）は旧表土とみられる堆積土上位で南東側に切土された地山ブロックを多く含む。Ⅲ（3）は堆積土下位で地山ブロックをわずかに含む。Ⅳ（4）は地山である。

表１　土層

層	内　　容	土色・土質
Ⅰ	表土（1・1-1～1-4）	10YR5/4にぶい黄褐シルト主体（1）　撹乱（1-1～1-4）
Ⅱ	堆積土上位（2）	10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト３～20％混　南東側に地山ブロック多く混
Ⅲ	堆積土下位（3）	10YR5/4にぶい黄褐シルト　地山ブロックをほとんど含まない
Ⅳ	地　　山（4）	2.5Y7/6～2.5Y6/6明黄褐シルト（調査区北東～南東）10YR7/6明黄褐シルト（調査区北西～中央）

（２）遺構

柱穴約90（掘立柱建物跡３棟含む）、溝跡７条、土坑２基を検出した。柱穴は調査区中央と南側で多く検出し、土坑は調査区北東と南東で検出した。溝跡は建物跡に伴う雨落溝や排水路とみられる。

柱穴並びに掘立柱建物跡と前身建物（第３・６図・写真図版２・４）

調査区の中央と南東側及び南側で柱穴が直線状に並ぶ展開が認められ、掘立柱建物跡３棟（１号建物～３号建物）を推定した。検出した柱穴の直径は20～40㎝程の円形や楕円形を呈するものから直径15㎝に満たない小穴が含まれる。３棟の建物跡以外に展開を捉えることが出来なかった柱穴が多く残るが、これらも小規模な建物を構成していたと考えられる。前身建物は本調査の事前に解体された既存の住宅を指し、この建物の基礎は直径40～50㎝の円礫の上に柱を据えた建物であった。柱筋に合わせて礎石を配置し、縁の下に長方形に切り出した角礫を連ねて外周を囲っていたが、住宅を解体する際にこれらの礫はすべて移動されていた。地権者の話によれば「父から解体した建物は大正12年建築の建物と聞いていた」とのことである。柱穴1・2・12・22・36・42・64・90が礎石掘方の痕跡である。検出した掘立柱建物跡の内、１号建物と３号建物の２棟は雨落溝とみられる溝跡と並行し、埋土の様相から近世の建物跡と推定した。２号建物は５号溝東よりも古く、近世もしくはこれ以前と推定した。柱穴からの出土遺物を表５に示す。

１号建物　調査区中央で検出した６個の柱穴（７・10・11・86・52・54）により想定した建物跡である。東西２間×南北１間の規模で、Ｎ２°Ｗの軸線をもつ南北棟の建物とみられる。５号溝と並行し、平面の配置から門もしくは小規模な倉庫と推定した。北辺（柱穴７・10・11）と南辺（86・52・54）の柱間はいずれも1.70ｍ等間で、北辺と南辺の距離は4.00ｍである。新旧関係は南西側の柱穴86が柱穴48に切られる。

２号建物　調査区南東側で検出した６個の柱穴（67・68・69・78・80・81）により想定した建物で、柱穴74・75と展開する場合は東西２間以上×南北１間以上の規模を持つ。Ｎ２°Ｗの軸線で、南北軸の５号溝と並行するが、南辺の柱穴68・69が５号溝東に切られている。柱間は北辺（柱穴78・80・81）が西から0.80ｍと1.05ｍ、南辺（柱穴67・68・69）が西から0.85ｍと1.00ｍの間隔があり、北辺と南辺は柱間2.60ｍである。柱穴68と69から柱穴74・75は各々2.60ｍの間隔で、２号建物が南側や東側に展開する可能性がある。埋土は掘方が地山ブロックとにぶい黄褐シルトの混土、柱痕跡は灰黄褐シルト主体である。遺物は柱穴69の柱痕跡から12世紀の手づくねかわらけ３が出土した。これは

近世に建物が築かれた際、周辺から埋土に混入した可能性があり、遺構の年代は近世もしくはこれ以前と推定した。

３号建物　調査区南側で検出した６個の柱穴（26・30・51・59・66・71）で想定した建物跡である。直径40～60㎝程の比較的大きな柱穴が東西方向にＮ93°Ｅの軸線で並ぶ。柱間は1.90～2.00ｍ等間でこれを北辺として南側に展開する建物と考えられる。５号溝東の軸線方向が一致し、年代は近世と推定した。柱穴59から1.80ｍ南の南壁沿いで同規模の柱穴63を検出し、南側に展開する柱穴の一つの可能性がある。

土　坑（第３図・写真図版４）

２基の土坑を検出した。１号土坑は調査区北東側、２号土坑は調査区北西側で検出した。

１号土坑　平面形は東西2.70ｍ以上、南北4.10ｍの方形もしくは長方形を呈する。北端の一部と東側は未検出で、軸線は西辺でＮ２°Ｗとほぼ南北に伸びる。断面は逆台形で深さ65㎝、底面標高は中央で23.98ｍを測る。新旧関係は５号溝より新しく、前身建物の礎石掘方90に切られる。埋土は上位がにぶい黄褐シルト主体、中位と下位は地山ブロック主体の人為埋土で、最下層は灰色味が強い黄褐シルトである。出土遺物は近世陶器の大堀相馬２点が出土した。用途は不明である。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

２号土坑　平面形は東西1.35ｍ、南北2.20ｍの楕円形を呈し、南北方向に長く軸線はＮ５°Ｅを測る。断面は皿形で深さ16㎝、底面標高24.57ｍを測る。新旧関係は前身建物の礎石掘方に切られ、１号溝を切る。埋土は上下２層に分けられる。上位はにぶい黄褐シルト主体で地山ブロックが少量混じり、下位は地山ブロックが主体でにぶい黄褐シルトの混土である。出土遺物は小礫１個のみで用途は不明である。遺構の年代は埋土の様相から近世～大正頃と推定した。

溝　跡（第３図・写真図版５）

７条の溝跡を検出した。

１号溝　調査区北西隅で検出した。検出長3.00ｍ、溝幅55㎝、断面は浅いＵ字形で深さ18㎝を測る。軸線Ｎ20°～30°Ｅで南北方向に伸び、北側は調査区域外に続く。南側はわずかに屈曲して地山削平により途切れている。新旧関係は南側で２号土坑に切られる。底面標高は北壁24.58ｍ、南端24.71ｍである。埋土はにぶい黄褐シルトである。出土遺物はかわらけ１片である。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

２号溝　調査区北側で検出した。検出長5.00ｍ、溝幅50㎝、調査区北壁の断面は皿形で深さ７㎝を測る。底面標高は北壁24.44ｍ、南端24.39ｍである。軸線Ｎ５°Ｅで東西方向に伸び、北側は調査区域外に続く。南側は地山削平のために途切れている。新旧関係は３号溝・４号溝と重複して５号溝に接し、この東側は地山平坦面で、溝跡の延長は検出されなかった。溝跡の埋土はにぶい黄褐シルトで互いに酷似し、２号溝は５号溝に合流する水路と推定した。出土遺物は無い。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

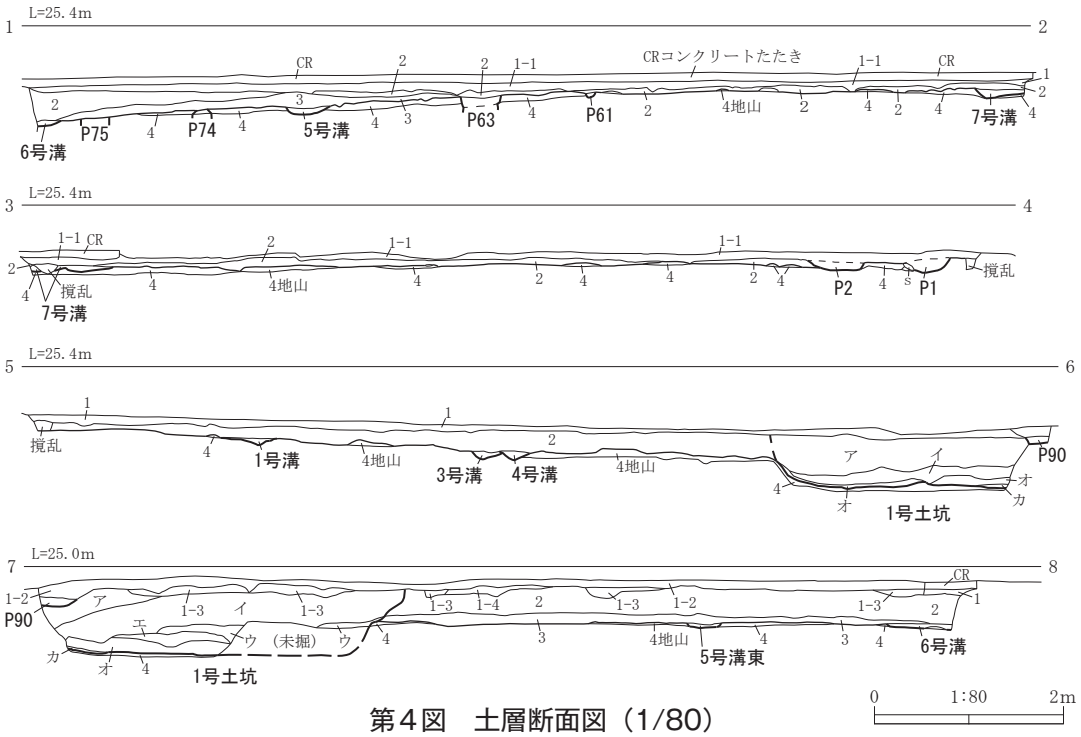
３号溝　調査区北側で検出した。検出長4.00ｍ、溝幅35㎝、調査区北壁の断面は浅いＵ字形で深さ７㎝を測る。軸線Ｎ10°Ｗから75°Ｗの角度で南北方向から東西方向にＬ字に屈曲し、北側は調査区域外に続く。底面標高は北壁24.44ｍ、南端24.40ｍである。新旧関係は北側で４号溝、東側で柱穴82に切られる。東端は５号溝と接する。この東側延長部の地山では溝の延長が認められず、３号溝は５号溝に合流していた可能性がある。埋土はにぶい黄褐シルトである。出土遺物は無い。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

４号溝　調査区北側で検出した。検出長4.00ｍ、溝幅35㎝、調査区北壁の断面は浅いＵ字形で深さ４㎝を測る。軸線Ｎ３°Ｗから85°Ｗの角度で南北方向から東西方向にＬ字に屈曲し、北側は調査区域外に続く。底面標高はほぼ平坦で、北壁24.42ｍ、東端24.40ｍである。新旧関係は北側で３号溝を

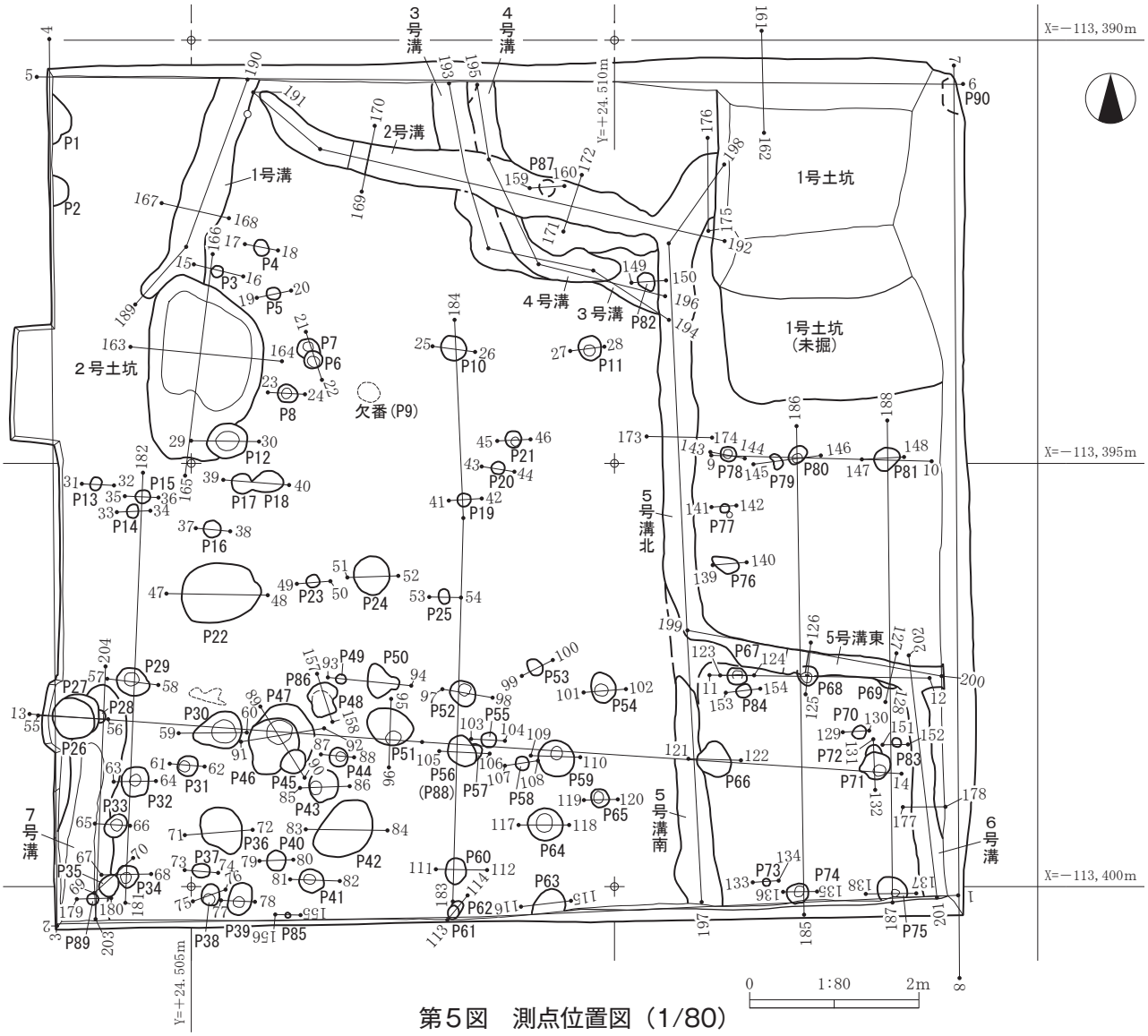
第２図　調査区全体図（1/300）

写真図版１　調査区全体（南から）

第３図　調査区平面図（1/80）



第４図　土層断面図（1/80）



第５図　測点位置図（1/80）

1-2南壁・3-4西壁・5-6北壁・7-8東壁

層序	層	名称	土色・内容
Ⅰ	1	表土	10YR5/4にぶい黄褐シルト主体
Ⅰ	1-1	撹乱	10YR5/4にぶい黄褐シルト主体　調査区南壁・西壁撹乱
Ⅰ	1-2	撹乱	10YR5/4にぶい黄褐シルト　撹乱
Ⅰ	1-3	撹乱	10YR5/4にぶい黄褐シルト　前身建物の礎石掘方と撹乱混
Ⅰ	1-4	撹乱	10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%混
Ⅱ	2	堆積土上位	10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト３～20%混　南東側に地山ブロック多く混
Ⅲ	3	堆積土下位	10YR5/4にぶい黄褐シルト　地山ブロックをほとんど含まない
Ⅳ	4	地山	2.5Y7/6～2.5Y6/6明黄褐シルト（調査区北東～南東）10YR7/6明黄褐シルト（調査区北西～中央）

遺構

１号土坑	ア	10YR5/4にぶい黄褐シルト主体　埋土上位
	イ	10YR5/4にぶい黄褐シルト主体＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%混　埋土中位
	ウ	10YR5/4にぶい黄褐シルト
	エ	10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%混
	オ	2.5Y5/3黄褐シルト　土坑底面に広がる埋土下位　灰色味が強い
	カ	2.5Y5/3黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック１～３㎝で40%混

1号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐シルト
2号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐シルト
3号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐シルト
4号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐シルト
5号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐シルト主体＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック５～10㎜大で３～５%混
6号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐シルト主体＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック５㎜大で５%混
7号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐シルト

切り、東端は５号溝と接する。この東側延長部の地山では溝の延長が認められず、４号溝は５号溝に合流していた可能性が高い。埋土はにぶい黄褐シルトである。出土遺物は無い。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

５号溝　調査区中央東寄りで検出した。南北方向に検出長8.60ｍ、溝幅50㎝の規模である。南北方向に伸びる溝跡は中央南寄りで上面が削平されて北構と南溝に分かれるが軸線Ｎ２°Ｗの同一の溝である。この南北溝からＮ83°Ｅの軸線で東に屈曲する東溝があり、全体としてＴ字形を呈する。南側と東側の延長は各々調査区域外に続く。新旧関係は北側で２号溝・３号溝・４号溝と重複するが、埋土が酷似していて分層が困難であり、２号溝～４号溝は５号溝に合流していた可能性がある。５号溝北の北端は１号土坑に切られ、５号溝東が柱穴68と69を切る。断面は浅いＵ字形で深さ12㎝を測る。底面標高は北壁24.27ｍ、南端24.45ｍ、東端24.37ｍで、北と南から流入した雨水は東に下るものと推定したが、流路が重複して変遷していた可能性もある。埋土はにぶい黄褐シルトで地山ブロックシルトが少量混入する。遺物は産地不明の近世陶器１点と焙烙等の土製品とみられる破片が出土した。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

６号溝　調査区南東隅で検出した。検出長2.45ｍ、溝幅35㎝、調査区北壁の断面はＵ字形で、深さ６㎝を測る。軸線Ｎ５°Ｅで南北方向に伸び、北側は調査区域外に続き、南側は地山削平により途切れる。底面標高は北壁24.37ｍ、南側24.34ｍである。埋土はにぶい黄褐シルトで地山ブロックシルトが少量混入する。新旧関係は北側で５号溝東と接するが埋土が酷似し分層が困難である。この様相から１号建物や３号建物の雨落溝もしくは同時期の流路として、５号溝東から続く一連の溝として存在していた可能性がある。出土遺物は17世紀後半の肥前産染付磁器瓶が出土した。遺構の年代は17世紀後半～大正頃と推定した。

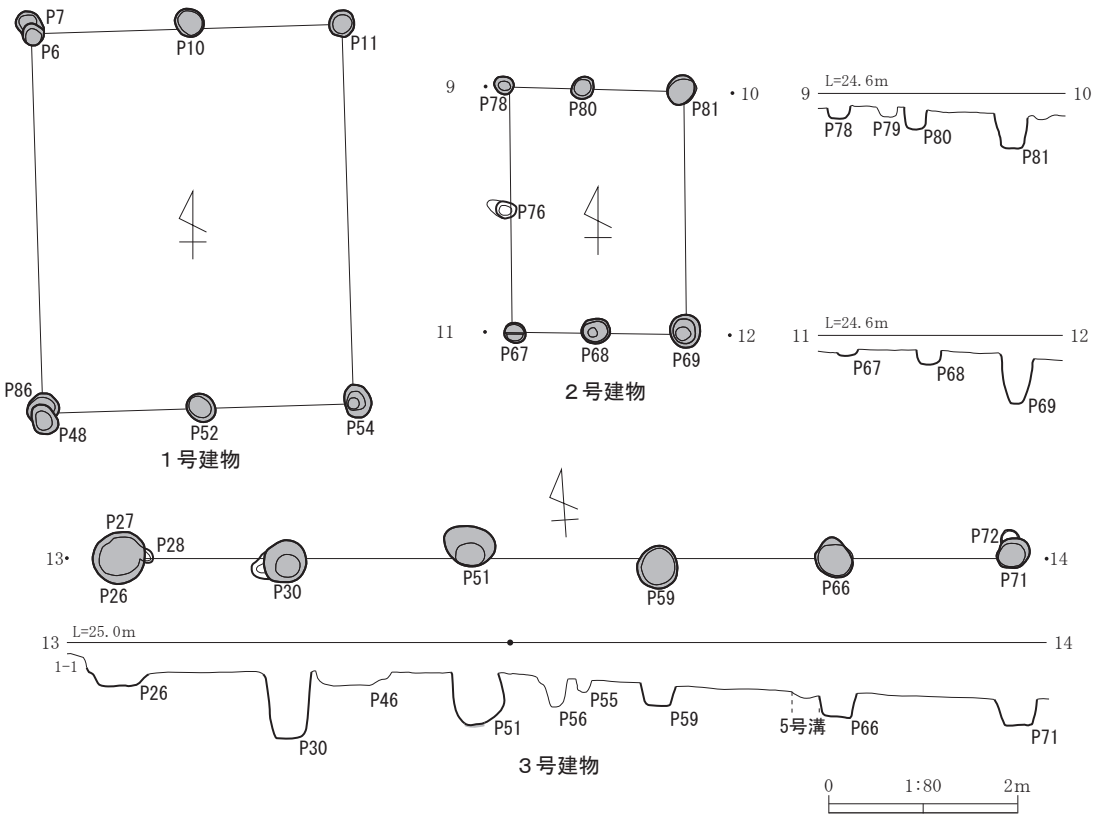
７号溝　調査区南西隅で南北方向に検出した。軸線Ｎ５°Ｅで、北側は削平により失われて浅く、南端は調査区域外に続く。検出長2.80ｍ、溝幅65㎝、断面は浅い皿形で深さ３㎝である。底面標高は北側24.68ｍ、南端24.64ｍでわずかに南側が低い。新旧関係は柱穴26・27・28・33・35・89と重複し、いずれも７号溝が新しい。埋土はにぶい黄褐シルトだが、南側は水分を含み灰色にグライ化して軟質である。出土遺物は無い。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

（３）遺　物（第９図・写真図版６）

本調査区から、12世紀のかわらけ13片（手づくね４、不明９、合計50g）、国産陶器（常滑産甕）１片、平安時代の須恵器２片、土師器１片、鉄釘１点、近世陶磁器並びに近現代陶磁器少数、不明土器や不明鉄製品が少量出土した。この内、18点を抽出して図示した。１～３は12世紀のかわらけである。１は柱穴85から、２は１号溝埋土から、３は柱穴69の柱痕跡から出土した。４は12世紀の常滑産陶器甕の肩部で遺構外から出土。５～14は近世から19世紀頃の陶磁器、15は平安時代（９～10世紀）の土師器、16・17は須恵器の小片、18は鉄釘の小片である。

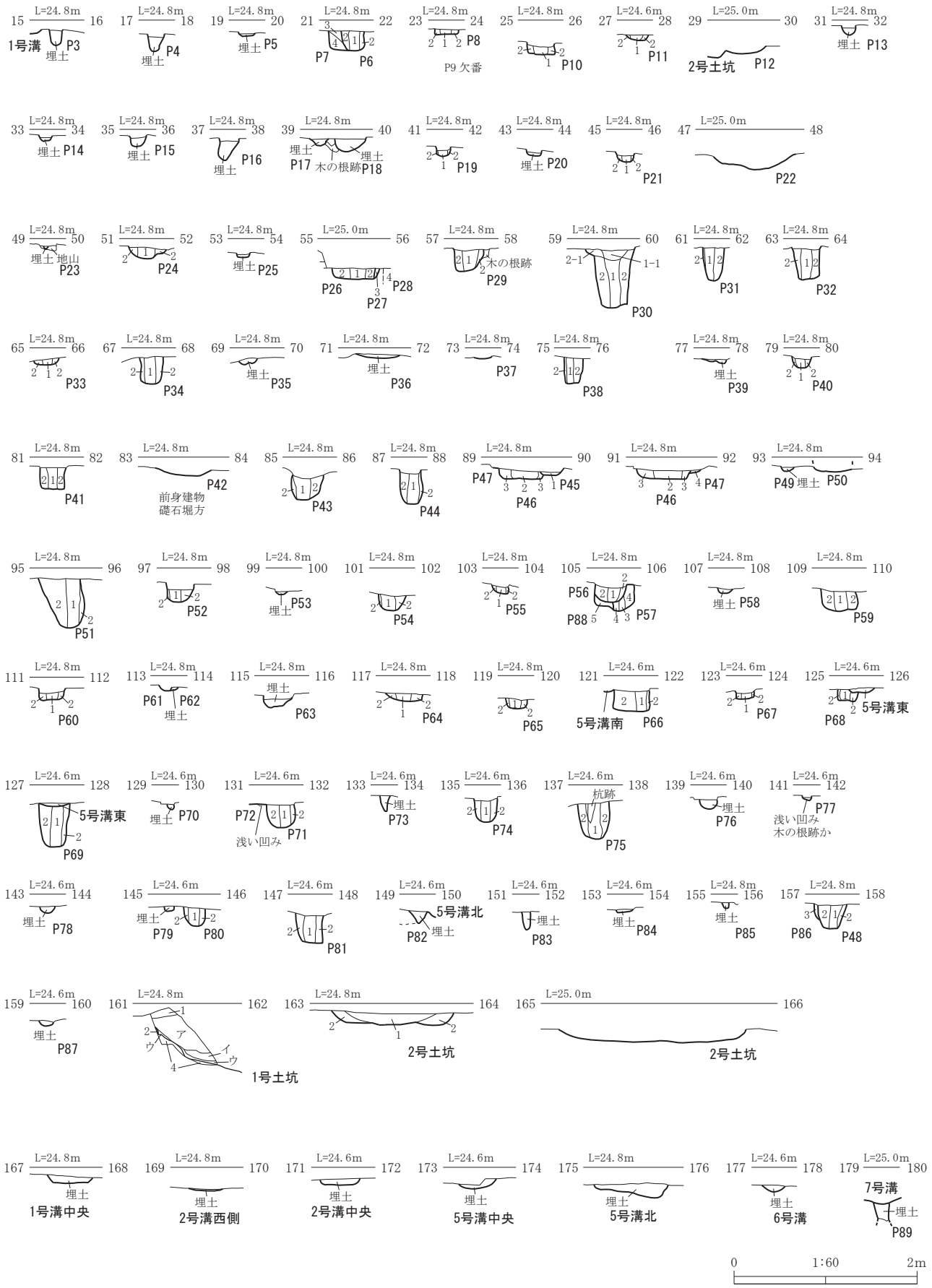
４　まとめ

調査地点は祇園八坂神社の北約100ｍに位置する。調査の結果、検出した柱穴の展開から近世の掘立柱建物跡３棟が想定される。建物跡に伴う雨落溝もしくは排水路とみられる６号溝から17世紀後半の肥前産染付磁器瓶が出土しており、１号建物と３号建物の二棟は近世の建物跡と推定した。調査区東側の２号建物の柱穴69からは12世紀の手づくねかわらけが出土したが、後世の遺構に混入した可能性があり、年代は近世もしくはこれ以前と推定した。１号土坑と２号土坑は調査前に解体した前身建物が築かれる以前の遺構で年代は近世から大正頃とみられる。７条の溝跡は近世建物に伴う雨落溝もしくは排水路と推定した。



第６図　遺構　掘立柱建物跡平面図・エレベーション図（1/80）

写真図版２　調査区全体（北西から）



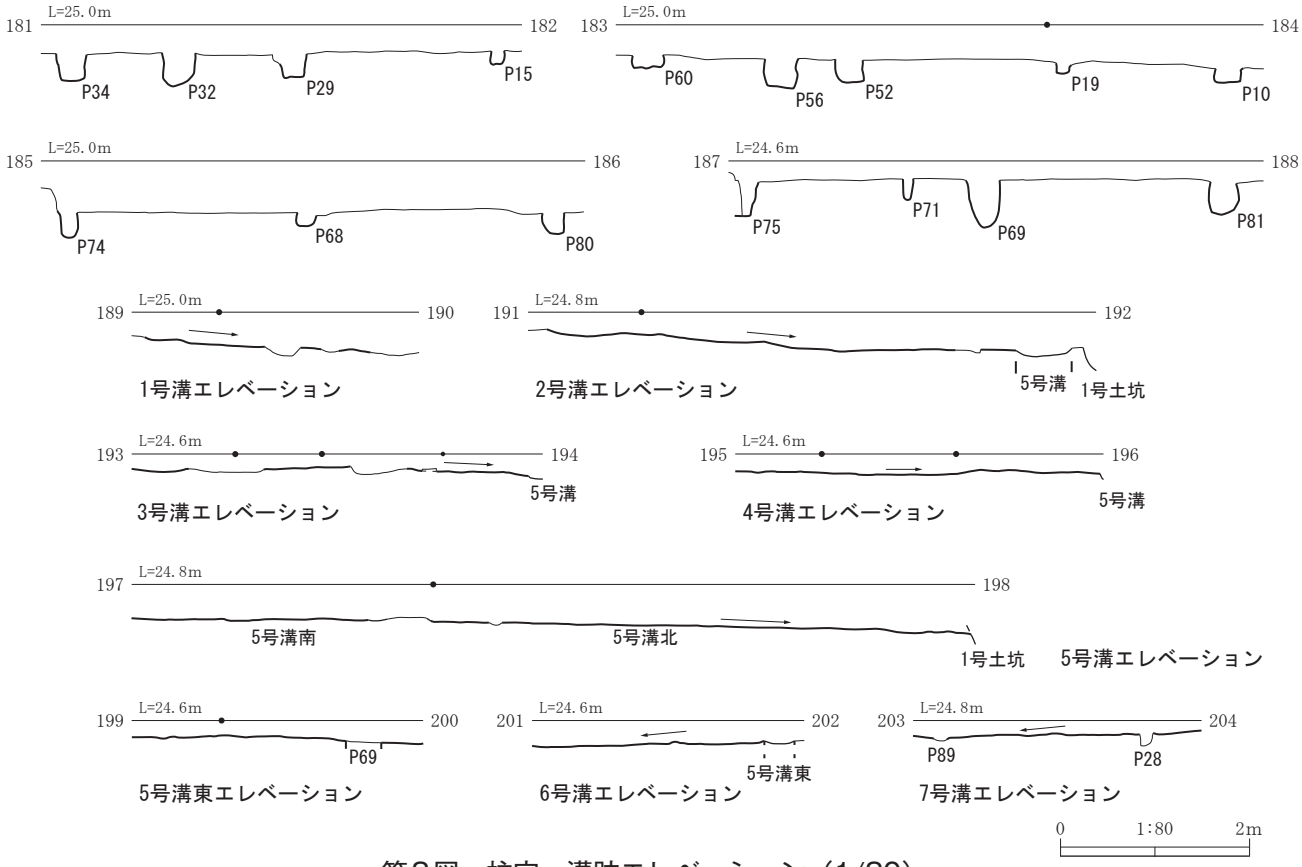
第７図　遺構断面図・エレベーション図（1/60）

表２－１　遺構　柱穴

番号	掘方	平面形	柱痕跡	平面形	深さ(cm)	底面標高(m)	埋土（1.柱痕跡 2.掘方）〈出土遺物の標高m〉	新旧関係（新>旧）	遺構	年代
1	60×－	円	－	－	(15)	23.69	埋土 10YR4/4褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック40%混　底面に根固め石（2～10cm大の礫）が多く入る		前身建物	大正～令和4年
2	38×－	円	－	－	10	23.72	埋土 10YR4/4褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック40%混　底面に根固め石（2～10cm大の礫）が多く入る		前身建物	大正～令和4年
3	14×13	円	－	－	19	24.52	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体			
4	15×17	円	－	－	20	24.46	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト			
5	16×15	円	－	－	6	24.62	埋土 10YR6/4にぶい黄橙シルト			
6	23×20	円	16×14	円	22	24.46	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック少量混	6>7		
7	29×25	円か	14×13	円	21	24.47	3. 10YR5/4にぶい黄褐シルト上位 4. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック40%混下位		1号建物	近世～大正頃
8	24×24	円	12×12	円	6	24.64	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック20%混			
9	欠番						木根跡のため欠番			
10	27×31	円	17×－	－	15	24.42	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/4にぶい黄橙シルト地山ブロック5%混		1号建物	近世～大正頃
11	27×28	円	14×14	円	6	24.38	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック少量混		1号建物	近世～大正頃
12	49×42	楕円	－	－	8	24.62	埋土 柱穴1に似る 浅い窪み	12>2土	前身建物	大正～令和4年
13	16×16	円	－	－	10	24.64	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック1cm大で20%混			
14	16×17	円	－	－	8	24.66	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%混　浅い窪み			
15	17×14	円	－	－	11	24.58	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%混			
16	25×26	円	－	－	24	24.46	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック5～7ミリ大30%混			
17	24×24	円	－	－	8	24.62	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック5～10ミリ大で20%混	17と18新旧不明		
18	36×26	楕円	－	－	16	24.56	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック1cm大で20%混			
19	16×15	円	12×－	－	12	24.49	1. 10YR4/3にぶい黄褐シルト 2. 10YR4/3にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%混			
20	17×16	円	－	－	6	24.50	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック1cm大で20%混			
21	19×19	円	11×11	円	11	24.44	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%＋10YR2/1黒色炭化物5ミリ大で1%混 2. 2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック主体＋10YR5/4にぶい黄褐シルト10%混			
22	86×68	楕円	－	－	16	24.56	埋土 柱穴1に似る 浅い窪み		前身建物	大正～令和4年
23	18×16	円	－	－	5	24.68	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体　浅い凹み　小穴			
24	41×45	楕円	19×19	－	14	24.58	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック10%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック40%混			
25	14×18	楕円	－	－	6	24.59	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック10%混			
26	50×48	円	18×－	－	11	24.54	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト　掘方よりも軟質 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体　陶器7在地香炉〈24.68〉	26>27･28 27と28の新旧不明	3号建物	近世
27	39×39	円	－	－	11	24.56	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック5～7ミリ大で30%混			
28	15×－	円	－	－	14	24.54	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック10%混			
29	40×32	楕円	19×18	円	26	24.44	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック10ミリ大で20%混			
30	58×46	楕円	31×28	円	64	24.04	1. 10YR5/4にぶい黄褐粘土　1-1. 柱痕跡上位 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック30%混 2-1. 掘方上位 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック5%混		3号建物	近世
31	23×20	円	12×12	円	47	24.34	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/4にぶい黄橙シルト地山ブロック20%混			
32	32×35	楕円	13×12	円	37	24.35	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック40%混			
33	25×25	円	13×12	円	8	24.60	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%＋5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物3%混　1cm大の焼土ブロック2%混 2. 10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック主体＋10YR5/4にぶい黄褐シルト10%混			
34	27×26	円	13×13	円	6	24.40	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%混			
35	19×24	楕円	－	－	30	24.62	埋土 10YR4/3にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%＋3ミリ大の10YR2/1黒色炭化物3%混			
36	48×49	不整	－	－	4	24.68	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体＋3cm大の小礫少量含む			
37	21×17	楕円	－	－	3	24.68	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体　浅い窪み			
38	21×26	楕円	12×12	円	39	24.44	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/4にぶい黄橙シルト地山ブロック5ミリ大で20%混			
39	26×32	楕円	－	－	5	24.62	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体			
40	24×22	円	11×11	－	3	24.58	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック10%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%混			
41	33×29	楕円	13×12	円	25	24.44	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/4にぶい黄橙シルト地山ブロック5～10ミリ大で20%混			
42	60×61	楕円	－	－	8	24.59	埋土 柱穴1に似る 浅い窪み		前身建物	大正～令和4年
43	35×30	楕円	18×18	円	27	24.33	1. 10YR5/4にぶい黄褐粘土 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック1cm大で20%混			
44	24×25	円	12×12	円	38	24.28	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック5%＋10YR2/1黒色炭化物5ミリ大で1%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック40%混			
45	30×28	円	－	－	5	24.60	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体＋2.5Y7/6明黄褐地山ブロックシルト5%混　埋土			
46	60×56	不整	30×28	円	14	24.54	2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋地山ブロックシルト5%混　柱痕跡 3. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%混　掘方	45>46>47		
47	75×－	不整	－	－	4	24.62	4. 2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック主体＋10YR5/4にぶい黄褐シルト30%混＋2～3ミリ大の10YR2/1黒色炭化物1%混　掘方			
48	38×37	不整	14×－	－	28	24.42	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐地山ブロックシルト1cm大で5%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐＋10YR7/6明黄褐地山ブロックシルト20%混	48と86新旧不明		
49	13×11	円	－	－	6	24.64	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト　浅い窪み			
50	41×40	不整	－	－	5	24.64	埋土 柱穴1に似る 浅い窪み		前身建物	大正～令和4年
51	57×42	楕円	17×16	円	54	24.14	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/4にぶい黄橙地山ブロックシルト20%混		3号建物	近世
52	31×30	楕円	14×14	円	22	24.39	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐地山ブロックシルト5～10ミリ大で10%混		1号建物	近世
53	13×20	楕円	－	－	7	24.50	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト			
54	29×35	楕円	18×15	円	19	24.33	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック20%混		1号建物	近世
55	19×18	円	11×－	－	10	24.48	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐地山ブロックシルト5%混			
56	38×32	楕円	14×－	－	20	24.60	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y6/6明黄褐地山ブロックシルト10%混	56>57>88		
57	13×(9)	円か	6×－	円	30	24.34	3. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物3%混 4. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック40%混			
58	16×16	円	－	－	6	24.52	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト　浅い窪み			
59	42×44	円	14×16	円	24	24.32	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐地山ブロックシルト5ミリ大で1%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐地山ブロック粘土1～3cm大で50%混		3号建物	近世

表２－２　遺構　柱穴

番号	掘方	平面形	柱痕跡	平面形	深さ(cm)	底面標高(m)	埋土（1.柱痕跡 2.掘方）〈出土遺物の標高m〉	新旧関係（新>旧）	遺構	年代
60	27×32	楕円	14×14	円	14	24.54	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐地山ブロックシルト5%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐地山ブロックシルト10%混			
61	15×16	楕円	－	－	6	24.63	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト	61と62 新旧不明		
62	13×(9)	楕円か	－	－	5	24.64	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト			
63	39×(29)	楕円か	－	－	13	24.45	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト			
64	41×39	円	19×20	円	8	24.52	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック10%混			
65	23×20	円	12×13	円	11	24.44	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック10%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%混			
66	36×44	不整	14×－	－	23	24.21	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック1～2cm大で10%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック1～2cm大で30%混	66>5号溝	3号建物	近世
67	23×20	円	12×－	－	10	24.34	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体＋2.5Y7/6明黄褐シルト地山ブロック5%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%混　浅い窪み		2号建物	近世
68	26×21	楕円	14×14	円	12	24.30	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物1%混　焼土ブロック1片混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック少量混	68<5号溝	2号建物	近世
69	36×－	円か	12×12	円	48	23.88	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%＋2～5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物2%混　1の下位からかわらけ3〈24.05〉 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック40%混	69<5号溝	2号建物	近世
70	15×17	円	－	－	9	24.33	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト　小穴			
71	37×31	楕円	15×14	円	25	24.13	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック5%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%混　浅い窪み	71と72 新旧不明	3号建物	近世
72	21×－	円か	－	－	6	24.33	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト　浅い窪み			
73	10×10	円	－	－	18	24.30	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト　杭状			
74	27×23	円	12×11	円	27	24.20	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック5%混 2. 10YR6/6明黄褐地山ブロックシルト＋10YR5/4にぶい黄褐シルト50%混			
75	34×－	円か	10×8	円	39	24.01	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック5ミリ大で10%混 2. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック5～30ミリ大で20%混			
76	34×18	楕円	－	－	13	24.34	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック20%混			
77	11×9	円	－	－	5	24.43	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト　浅い窪み			
78	20×17	楕円	－	－	6	24.34	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック10%混		2号建物	近世
79	26×22	楕円	－	－	6	24.36	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック30%混			
80	23×20	楕円	12×11	円	21	24.24	1. 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック1cm大で20%混 2. 5Y7/4浅黄シルト地山ブロック主体＋10YR5/4にぶい黄褐シルト20%混		2号建物	近世
81	32×24	楕円	16×16	円	31	24.04	1. 10YR4/3にぶい黄褐シルト 2. 10YR4/3にぶい黄褐＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%混		2号建物	近世
82	23×21	円	－	－	14	24.28	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%混　不整な窪み			
83	10×10	円	－	－	20	24.20	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト　陶器9　大堀相馬皿18c〈24.41〉			
84	18×16	円	－	－	4	24.40	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト　木根跡で柱穴ではない　浅い窪み			
85	9×8	円	－	－	8	24.64	埋土 10YR4/3にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック20%＋2ミリ大の10YR2/1黒色炭化物5%混　杭跡状の小穴　かわらけ1〈24.71〉			
86	28×(13)	円か	－	－	18	24.52	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト＋10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック1cm大で20%混	48と86 新旧不明	1号建物	近世
87	18×20	円	－	－	6	24.34	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト	87<2溝		
88	不明	不明	－	－	(10)	24.35	5. 2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック主体＋10YR5/4にぶい黄褐シルト10%混	56>57>88		
89	15×14	円	－	－	(22)	24.42	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト　木根跡か			
90	38×(8)	不明	－	－	18	24.59	埋土 10YR4/4褐～10YR5/4にぶい黄褐シルト　前身建物の礎石掘方の窪み	90>1土	前身建物	大正～令和4年



第８図　柱穴・溝跡エレベーション（1/80）

表3　遺構　土坑

土坑	検出長（m）	平面形	軸線	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	土色・土質	新旧関係	年代
1号土坑	東西 2.70以上×南北 4.10	方形又は長方形	N2°W	逆台形	65	23.98	ア 10YR5/4にぶい黄褐シルト　埋土上位 イ 10YR5/4にぶい黄褐シルト+10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%混 ウ 10YR5/4にぶい黄褐シルト エ 10YR5/4にぶい黄褐シルト+10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%混 オ 2.5Y5/3黄褐シルト　土坑底面に広がる埋土下位　灰色味が強い カ 2.5Y5/3黄褐シルト+10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック1～3cmで40%混	1土>5溝	近世～大正頃
2号土坑	1.35×2.20	楕円	N5°E	皿形	16	24.57	1 10YR5/4にぶい黄褐シルト+2.5Y6/6明黄褐シルト地山ブロック5%混 2 10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック+10YR5/4にぶい黄褐シルト40%混	2土>1溝	近世～大正頃

表4　遺構　溝跡

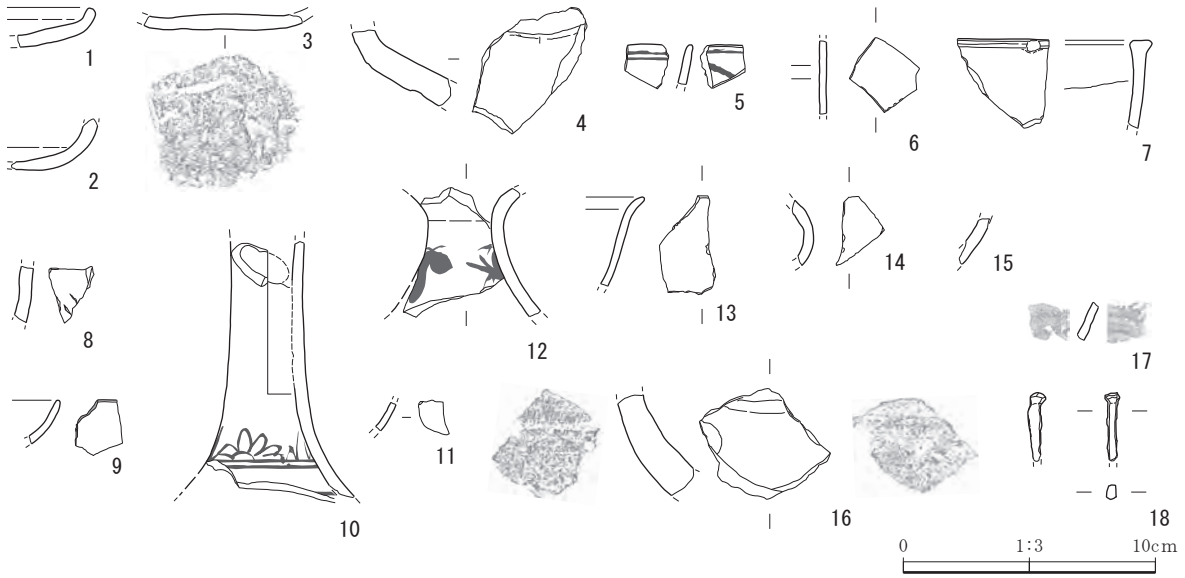
溝跡	検出長（m）	幅（m）	軸線	断面	深さ（cm）	底面標高（m）	土色・土質	新旧関係	年代
1号溝	3.00	0.75	北N20°E～南N30°E	浅いU字形	18	北24.58 南24.71	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト～10YR6/3にぶい黄橙シルト主体　2ミリ大の黒色炭化物を微量含むかわらけ片・小礫少量、常滑産陶器1点出土	2土>1溝	近世～大正頃
2号溝	5.00	0.50	N40°W～75°W	浅い皿形	7	西24.61 東24.39	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト	2溝>4溝>3溝	近世～大正頃
3号溝	4.00	0.35	北N10°W～東N75°W	浅いU字形	7	北24.44 東24.40	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト		近世～大正頃
4号溝	4.00	0.35	北N3°W～東N85°W	浅いU字形	4	北24.42 東24.40	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト		近世～大正頃
5号溝	8.60 2.90東	0.50 0.30東	南北N2°W 東西N83°E	浅いU字形	12	北24.27 南24.46 東24.37	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体+10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック5～1ミリ大で3～5%混	68・69<5溝東	近世～大正頃
6号溝	2.45	0.35	N5°W	浅いU字形	6	北24.37 南24.34	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体+10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック5ミリ大で5%混	5溝?6溝	17C後～大正頃
7号溝	2.80	0.65	N5°E	浅い皿形	3	北24.68 南24.64	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト	26～28・33・35との新旧不明	近世～大正頃

表5　遺物集計表　遺構別出土遺物

土層・遺構	かわらけ				その他
	小計	手づくね	不明	重量g	
Ⅰ（1）表土・撹乱及び遺構外一括	2		2	3	近世磁器1（在地）、近現代陶器3、瓦質土器1、不明土器2、焼土1
Ⅱ（2）堆積土上位	2		2	3	国産陶器1（常滑産甕12C）、須恵器片2、近世陶器4（瀬戸美濃3、大堀相馬1）、近世磁器7
柱穴26　埋土					近世陶器1（在地香炉）
柱穴29　柱痕跡	1	1		2	
柱穴30　柱痕跡					柱根木片少量
柱穴33　柱痕跡					焼土2
柱穴51　柱痕跡					焼土1
柱穴52　柱痕跡					不明土器2
柱穴56　柱痕跡					焼土1
柱穴68　柱痕跡	1		1	1	焼土1
柱穴69　埋土					土師器1
柱穴69　柱痕跡	4	1	3	24	
柱穴75　掘方					焼土2
柱穴83　埋土					近世陶器1（大堀相馬18C）
柱穴85　埋土	1	1		7	
1号土坑　埋土					近世陶器2（大堀相馬18C）、焼土2、鉄片3
1号溝　埋土	1	1		9	
2号溝　埋土	1		1	1	
5号溝　埋土					近世陶器1（不明）、不明土器2、焼土3
6号溝　埋土					近世磁器1（肥前産染付磁器瓶17C後）、鉄釘1
合計	13	4	9	50	

表6　遺物観察表　かわらけ

No.	図版	写図	出土位置・層位	種類	法量（推定）cm			残存率（%）	年代	備考〈標高m〉	登録
					口径	底径	器高				
1	9	6	柱穴85　埋土	手づくね・小	－	－	－	破片	12C	表面風化〈24.70〉	30
2	9	6	1号溝　埋土	手づくね・大	－	－	－	破片	12C	表面風化〈24.71〉	31
3	9	6	柱穴69　柱痕跡	手づくね	－	－	－	破片	12C	表面風化〈24.05〉	27



第９図　出土遺物（1/3）

表７　　遺物観察表　陶磁器　その他

No	図版	写図	出土位置・層位		種類	器形	部位	残存率	年代	備考	登録
4	9	6	全体層序Ⅱ	2層	陶器	甕	肩	破片	12C	常滑	19
5	9	6	全体層序Ⅱ	2層	磁器	碗	口縁～体	破片	18C	肥前　内外染付	2-2
6	9	6	1号土坑	埋土	陶器	瓶	体	破片	18C	大堀相馬	3-1
7	9	6	柱穴26	埋土	陶器	香炉	口縁～体	破片	18C	在地	14
8	9	6	5号溝	埋土	陶器	皿	体	破片	近世	産地不明	17
9	9	6	柱穴83	埋土	陶器	皿	口縁～体	破片	18C	大堀相馬	24
10	9	6	6号溝	埋土	磁器	瓶	頸～体	破片	17C後	肥前染付　花弁文様	25
11	9	6	1号土坑	埋土	陶器	椀皿	体	破片	18C	大堀相馬	46
12	9	6	遺構外	一括	磁器	瓶	頸～体	破片	近世	在地鉄絵　産地不明	52-1
13	9	6	遺構外	一括	陶器	碗	口縁～体	破片	19C	大堀相馬	52-2
14	9	6	遺構外	一括	陶器	瓶か	体	破片	19C	大堀相馬	52-3
15	9	6	柱穴69	埋土	土師器	坏	体	破片	9～10C		26
16	9	6	全体層序Ⅱ	2層	須恵器	甕	頸～肩	破片	9～10C		2-1
17	9	6	北側検出	2層	須恵器	坏	体か	破片	9～10C		7
18	9	6	6号溝	埋土	鉄釘	角釘	－	破片	不明	残存長2.4・幅0.6・厚さ0.5cm　重量1.4g	18

２号建物柱穴69柱痕跡かわらけ３出土（西から）

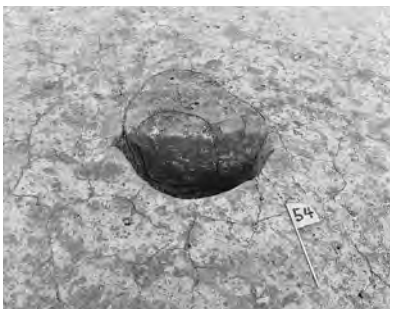
６号溝肥前染付磁器瓶10出土（北西から）

写真図版３　遺物出土状況

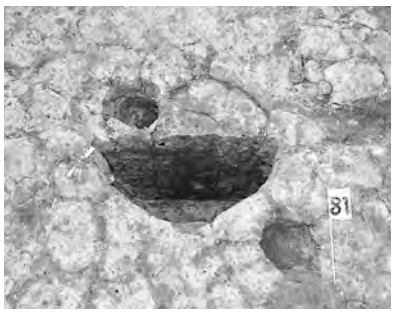
遺構検出作業（西から）

掘立柱建物跡（西から）

調査区東壁断面（西から）



１号建物柱穴54断面（南から）



２号建物柱穴81断面（南から）

３号建物柱穴51断面（南から）

１号土坑北側断面（南から）

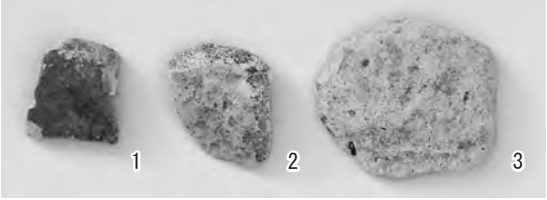
２号土坑完掘（南西から）

写真図版４　遺構検出及び完掘

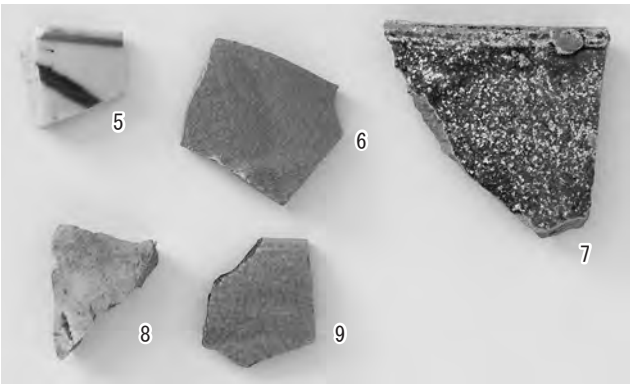
５号溝完掘（北から）

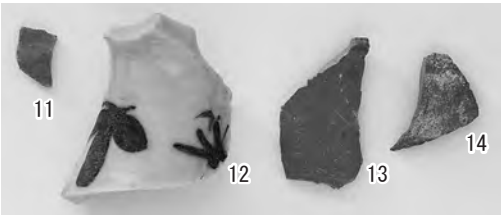
調査区北側の溝跡（東から）

写真図版５　溝跡



１～３かわらけ

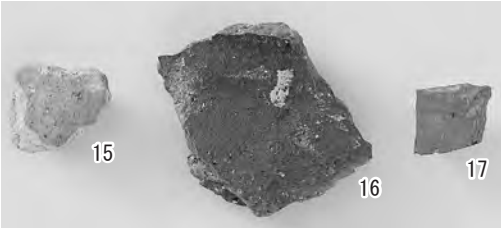




５～14近世陶磁器

４常滑産甕

10肥前染付磁器瓶



15土師器　16・17須恵器

18鉄釘

写真図版６　出土遺物

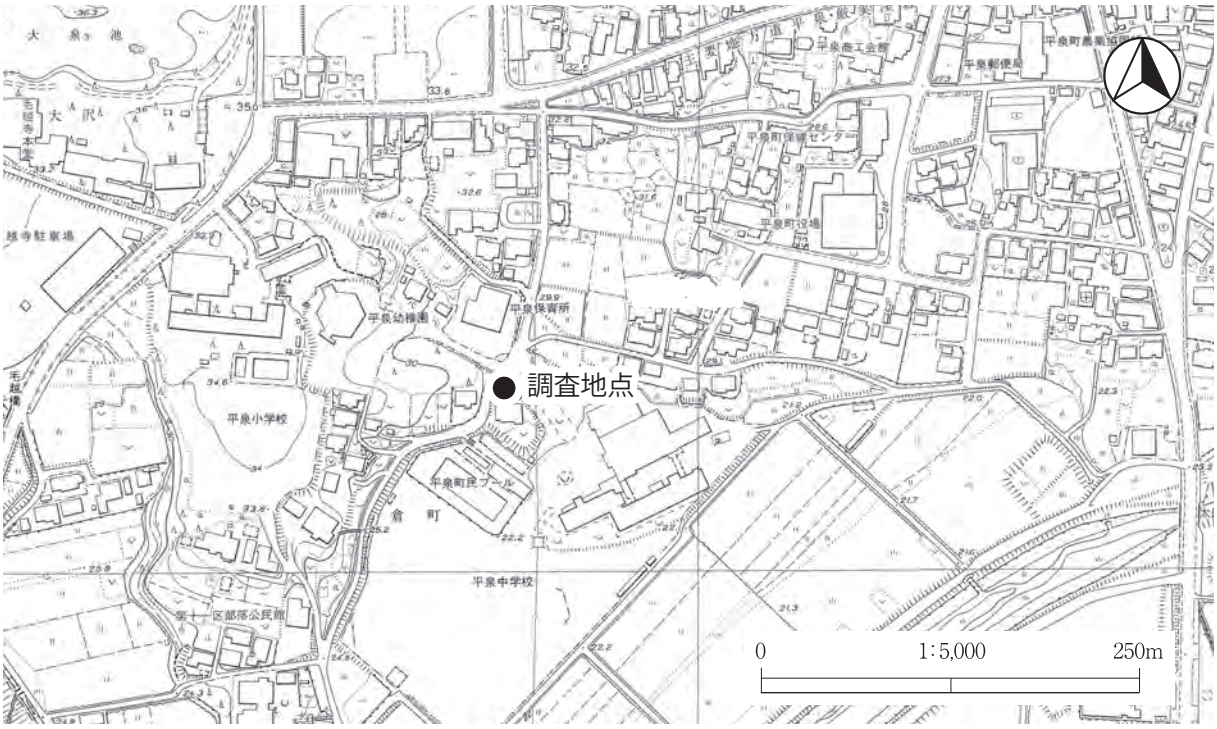
国衡館跡第16次発掘調査

1　調査要項

地　　点　　岩手県西磐井郡平泉町平泉字倉町135番1
調査面積　　66㎡
調査期間　　令和4年6月6日～7月1日
原　　因　　住宅建築
調査担当　　藤田崇志・菅原計二

2　位置と概要

調査地点は町立平泉中学校校門の西隣に位置する住宅地で、国の特別史跡毛越寺境内の山門から南東約300ｍに当たる。当地の地形は、北上川支流太田川左岸の沖積地が自然沢により浸食された舌状台地の一部で、平泉小学校の東側から発する沢の流路が当地の北と東側を開削して南の太田川の低地に至る。この沢は昭和40年代まで開口していたが、昭和50年頃に東北新幹線一関トンネル工事で派生した礫によって沢全体が埋められている。当地については近世の風土記御用書上（安永風土記）や古絵図等の史料に、「南大門の南に国衡やしき」、「クニヒラヤシキ」、「八花形」等の記載が見られ、奥州藤原氏三代秀衡公の嫡男国衡の屋敷跡とも伝わる。本調査は住宅予定地に逆Ｔ字形のトレンチを設定して重機で遺構確認面まで掘り下げた後、人力による遺構検出と精査を行った。調査の結果、切土された平坦な地山面と調査区北側と東側から沢の落込みを検出した。沢は昭和50年以降の厚い盛土に被われており、近年まで自然地形の沢が開口していたことが分った。調査区中央から南側にかけては住宅解体の撹乱を含む厚さ40㎝ほどの盛土が覆い、切土された地山面から昭和30～40年代の掘立柱建物の一部とみられる少数の柱穴や土坑、溝跡を検出した。土坑は埋土の様相から新しい掘り込みで、溝跡は沢に向かう流路とみられる。今回の調査区では12世紀の遺構は確認されなかった。遺物は風化した12世紀のかわらけ片少量と近現代の陶磁器、瓦、蹄鉄、ガラス片等の雑物が少量出土した。以下は経過である。6月6日、重機による掘削作業。調査区の北側と東側で沢跡とみられる落



第1図　位置図（1/5,000）

込みを検出。７日から発掘資材の搬入と残土除去と粗掘り。この後、遺構検出と精査、実測を並行して行い、22日に遺構の清掃と全体写真撮影・資材搬出、24日に補足的な実測、７月１日に埋戻しを行い、現地での調査を終了した。

３　調査成果

（１）地形と土層（第２図・第６・７図）

本調査区の地形は舌状台地東端が自然沢により開削された狭小な平場の先端で北から東を沢地形が巡り、南は太田川河岸の低地に至る斜面地である。標高は現状で北端26.30ｍ、南西端26.48ｍ、南東端26.20ｍである。当地の土層は南北トレンチの東・西・北壁の三面と、東西トレンチの南壁並びに南側トレンチで観察した。Ⅰ（１・1-1～1-2）は客土で昭和以降の盛土や撹乱が入る。Ⅱ（２・2-1～2-2）は切土盛土で近世や近現代の陶磁器や雑物が混じる。Ⅲ（3・3-1～3-4）は切土された地山直上の黄褐シルトの層位、Ⅳ（４・4-1～4-5-4）は１号溝（沢跡）の埋土である。Ⅴ（５・5-1・5-2）は調査区南側の客土と旧表土の上位と下位、Ⅵ（6）は地山である。地山は検出地点により灰白シルトや砂質主体の地層がみられる。

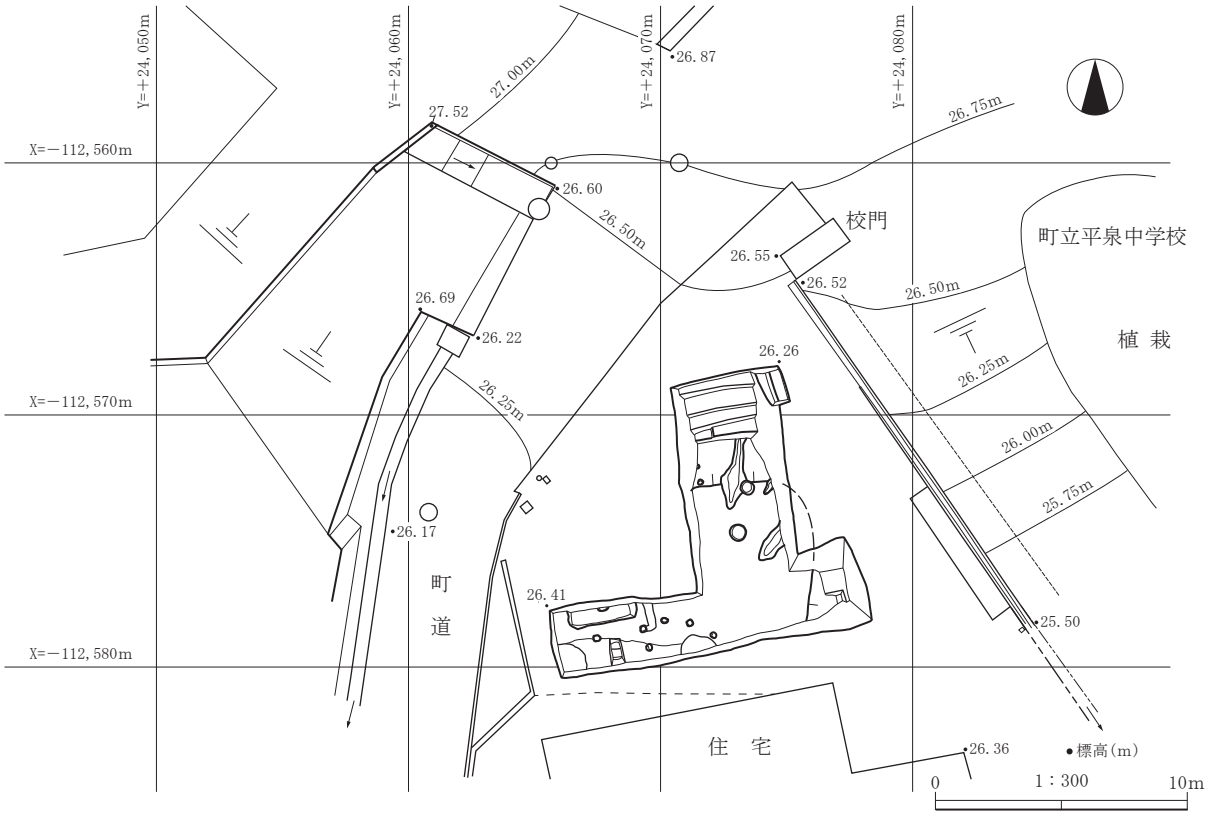
（２）遺構と遺物（第３図）

遺構は調査区の北側と東側で旧地形の沢跡の落込みを検出し、１号溝とした。調査区中央の平坦面と北側落込みにかけて柱穴10個、北東側で溝跡２条、土坑２基を検出した。遺物は、かわらけ片少量、近現代陶磁器、雑物（ガラス瓶等）が少量出土した。

溝　跡

沢跡を含めて３条を検出した。

沢跡（１号溝）　南北トレンチの北側で東西方向、東西トレンチの東側で南北方向に向かう沢跡の落込みを検出した。検出長４ｍ以上、溝幅不明、深さ２ｍ以上を測る。沢跡は当地の地山削平面から

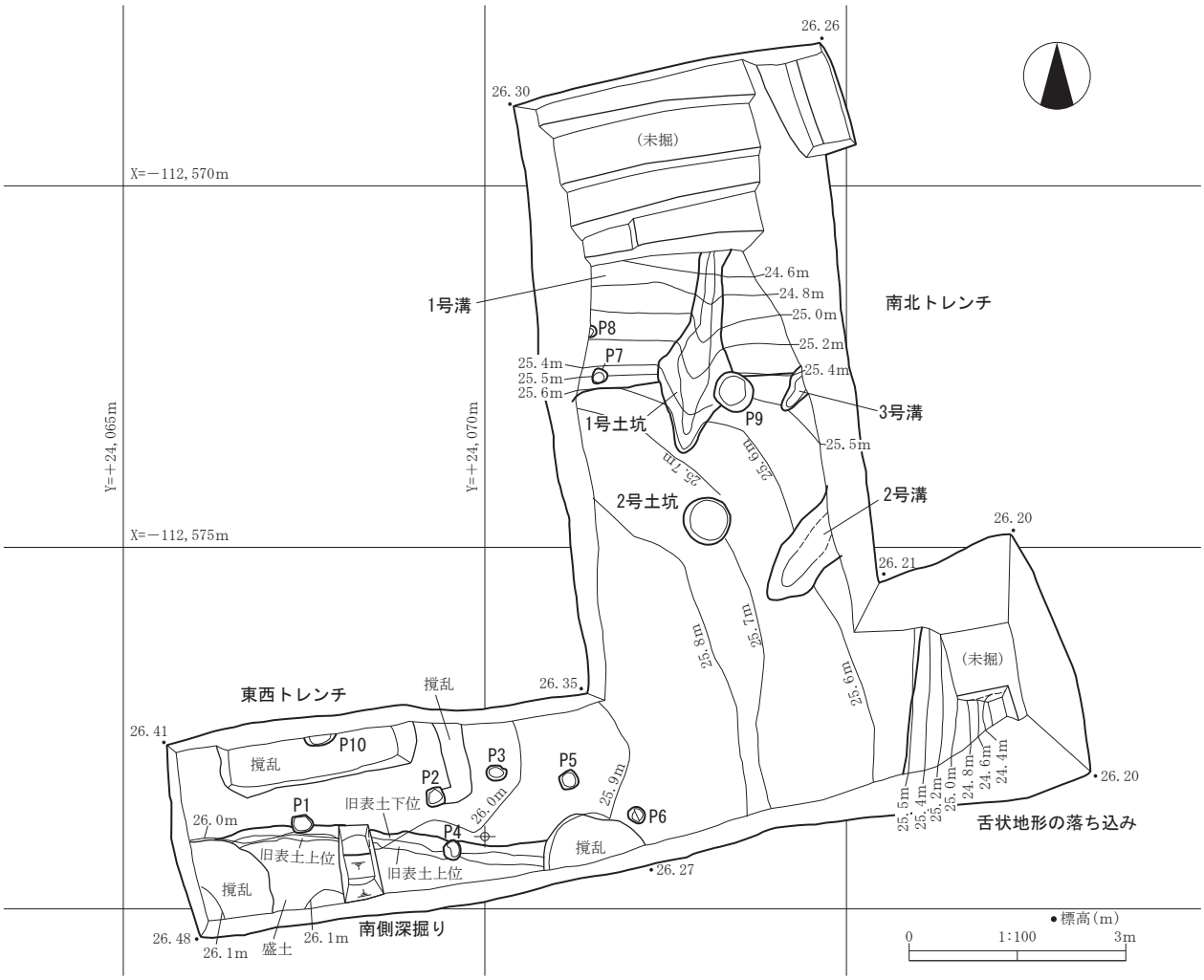


第２図　調査区周辺地形図（1/300）

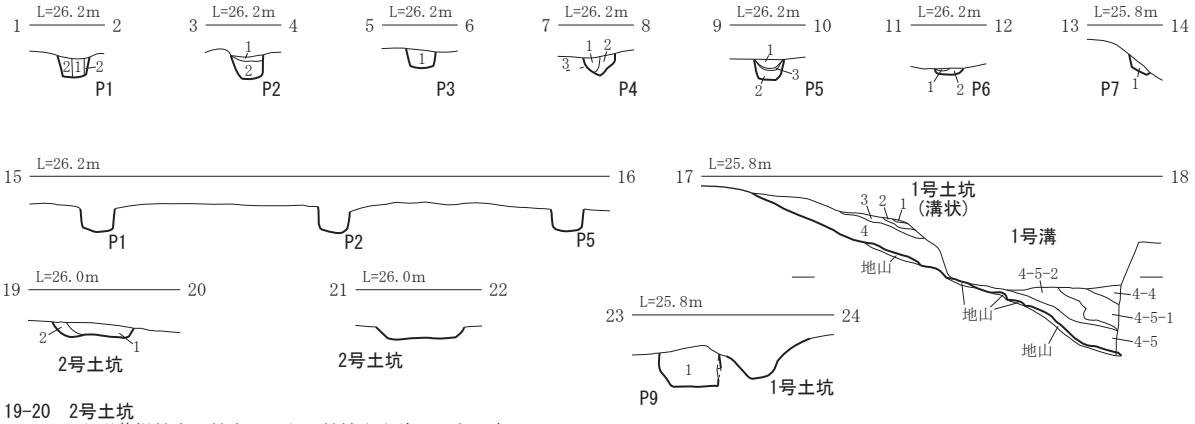
40～45度の急傾斜で北と東に落ち込み、埋土は下位がオリーブ褐シルト主体で地山ブロックが少量混入する斜面堆積土、上位は黄褐～オリーブ褐シルト主体で埋土にガラス瓶等が混入する。当地の沢は住宅地の周囲に昭和40年代まで開口していたが昭和50年頃に埋め立てられており、住宅地のかさ上げを目的とした切土盛土による客土で造成が行われた様相である。今回の調査範囲は沢跡の部分的な掘削に止まったため、岩盤掘削の派生礫を埋め立てた層位には到達していない。

２号溝・３号溝　調査区北東側から東壁で検出した。２条の溝跡は共にＮ40°Ｅの軸線で北東方向に傾きを持ち、溝跡の中心で1.50ｍの間隔を持って並行する。２号溝は検出長2.00ｍ、溝幅65㎝、深さ18㎝で、埋土は上位がにぶい黄褐シルト、中位が黄褐シルト主体で地山ブロックシルトが混入し、中位と下位には酸化鉄分をやや多く含む。下位は浅黄粘土主体である。３号溝は検出長70㎝、溝幅36㎝、深さ14㎝を測り、断面形は浅いＵ字形である。埋土はにぶい黄褐シルト主体である。いずれも出土遺物は無く、年代は不明である。２号溝と３号溝の２条は埋土の様相から沢跡に注ぐ流路とみられるが、国衡館跡第７次調査で沢地形に下る小規模な「通路跡」の両側に各々側溝が付く検出例があり、これと同様に通路に伴う側溝の可能性を想定しておきたい。

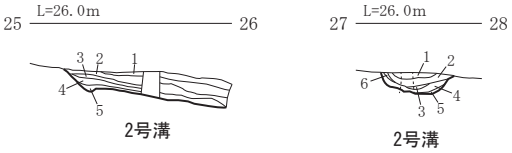
柱　穴　南側の地山平坦面と北側の１号溝の落込みにかけて10個の柱穴を検出した。柱穴は直径16～26㎝程で円形もしくは楕円形を呈し、深さは10～40㎝を測る。この内、調査区南西側で東西方向に並ぶ柱穴１・２・５は小規模な建物跡の一部とみられる。地権者の母の話では、長島地区から夫婦で当地に移り住み、昭和30年代には当地にマヤと呼ぶ建物を建てて１頭のウシを飼っていたとのことである。昭和39年作製の平泉町都市計画図（第８図）に南北棟の建物が描かれており、上記の建物



第３図　調査区平面図（1/100）



19-20　2号土坑
1　2.5Y7/6明黄褐粘土～粘土シルト　粘性やや強　しまり密
2　10YR5/4にぶい黄褐粘土質シルト＋地山ブロック2%混
　粘性やや強　しまり密



17-18　1号土坑（溝状）
1　10YR4/3にぶい黄褐シルト＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロックシルト5%混
2　10YR4/3にぶい黄褐シルト＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロックシルト10%混
3　10YR4/3にぶい黄褐シルト＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロックシルト5%混
4　10YR4/3にぶい黄褐シルト＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロックシルト5～10㎜
　大で３%混
地山　2.5Y7/4浅黄シルト　灰白シルト粘土層や砂質の自然地層が入る

25-26　27-28　2号溝
1　10YR4/3にぶい黄褐シルト
2　2.5Y5/3黄褐シルト＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロックシルト20%混
3　2.5Y5/3黄褐シルト＋10YR6/6明黄褐酸化鉄分15～20%混
4　2.5Y5/3黄褐シルト主体
5　2.5Y6/4にぶい黄地山ブロックシルト＋10YR6/6明黄褐酸化鉄分10%混
6　2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト＋2.5Y5/3黄褐シルト30%混

第４図　断面図１（1/60）

表１　柱穴

No.	掘方（cm）	平面形	柱痕跡（cm）	平面形	深さ（cm）	底面標高（m）
1	26×26	円	10	円	19	25.78
2	25×25	方形	－	－	25	25.77
3	22×18	円	－	－	14	25.86
4	21×24	方形か	－	－	21	25.79
5	25×23	方形	－	－	18	25.77
6	21×21	楕円	12	円	8	25.80
7	22×20	楕円	－	－	17	25.41
8	14×－	円	－	－	38	25.02
9	52×53	円	－	－	32	25.22
10	46×－	円か	－	－	9	25.71

表２　溝跡

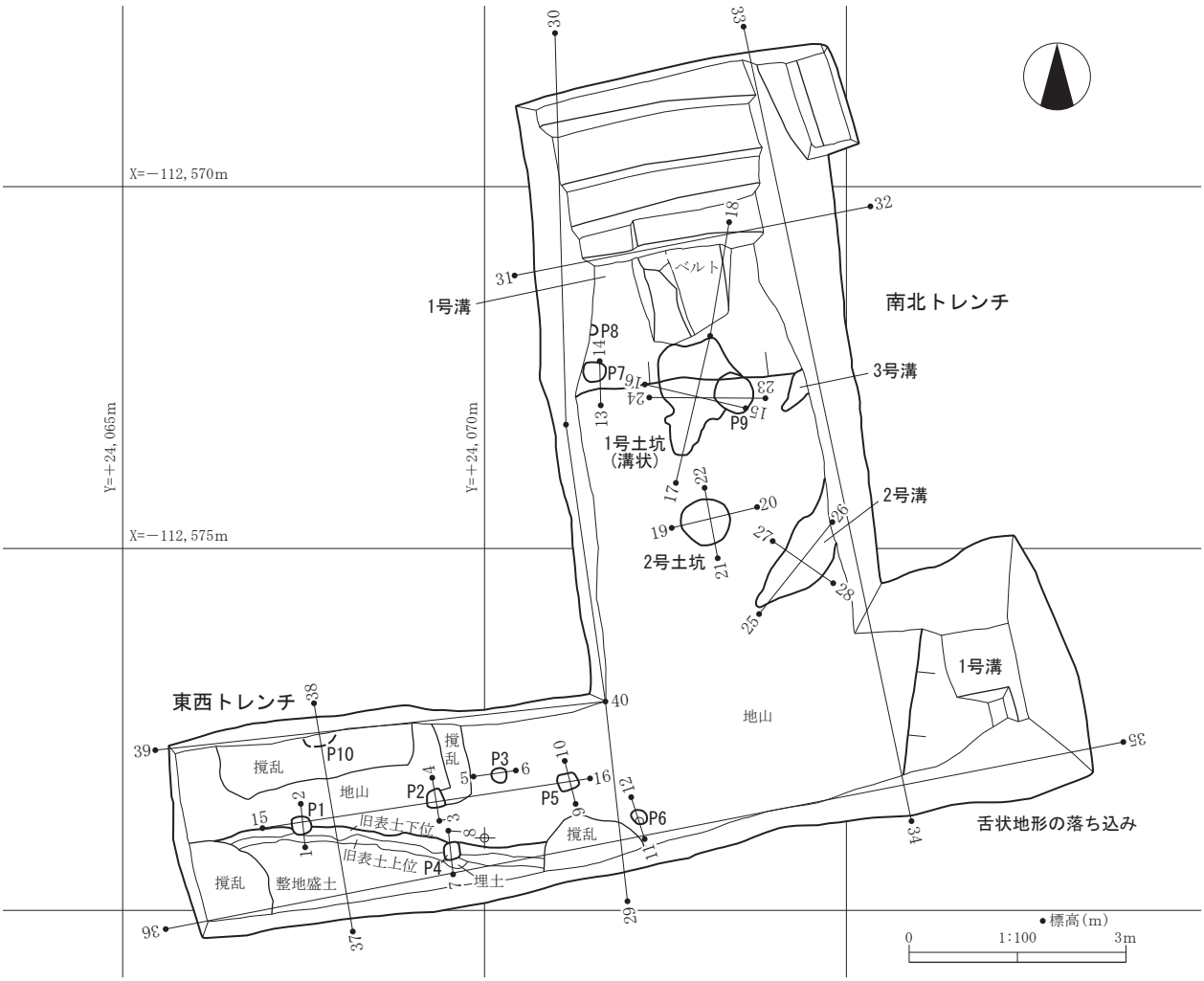
遺構名	検出長（cm）	幅（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）
１号溝	400以上	不明	不明	130以上	24.32
２号溝	200	65	U字形	18	西25.70 東25.42
３号溝	70	36	U字形	14	25.38

表３　土坑

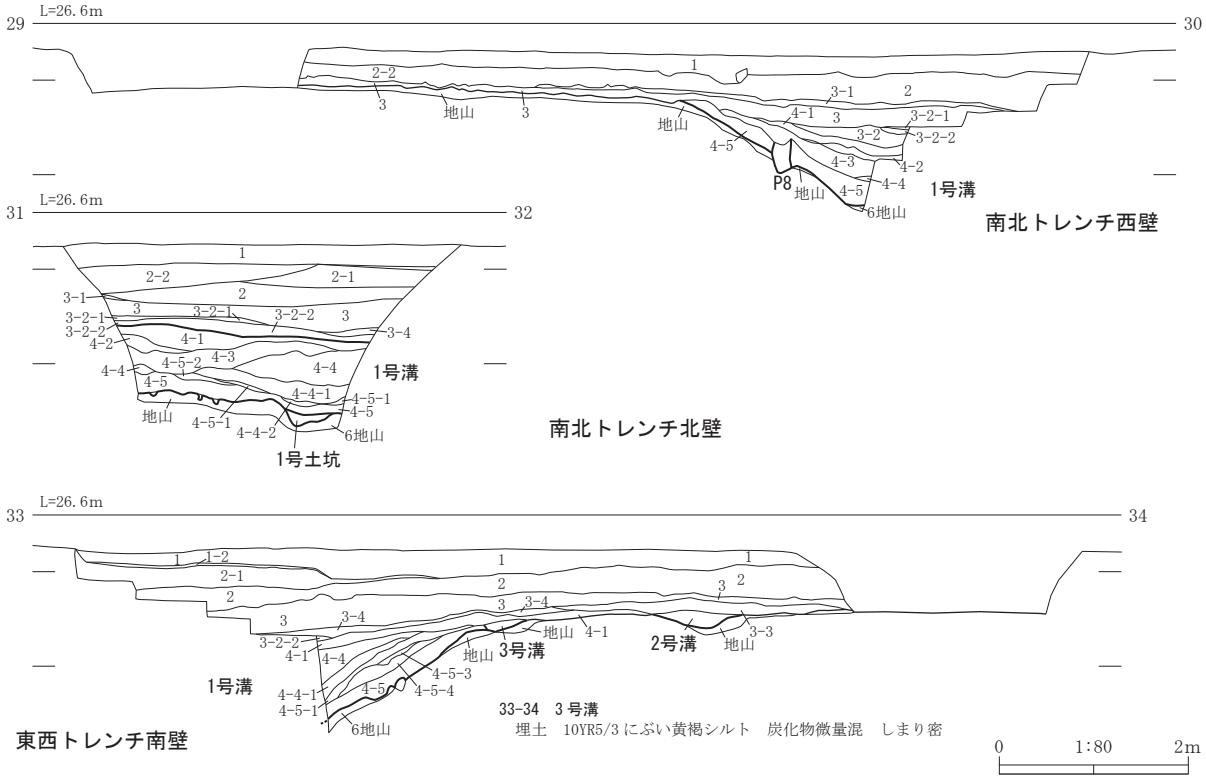
遺構名	検出長（cm）	平面形	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）
１号土坑（溝状）	260×100	楕円又は菱形	U字形	－	25.68南 24.34北
２号土坑	65×65	円	U字形	13	25.63

写真図版１　沢跡南東側の落ち込み（北から）

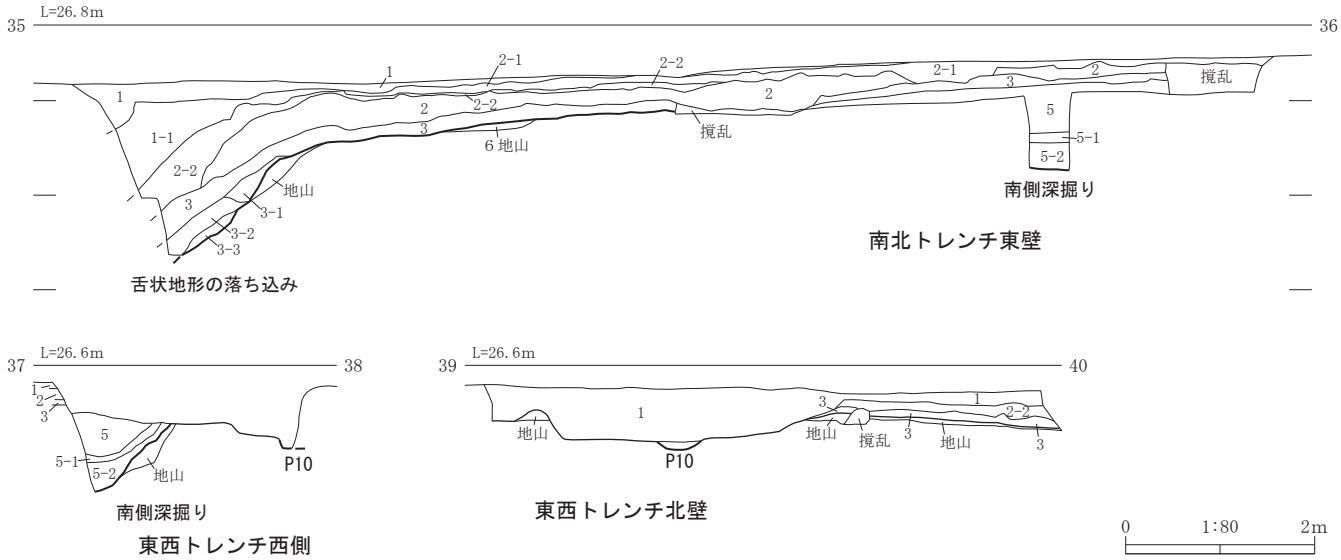
写真図版２　北東側の遺構と１号溝（東から）



第５図　測点位置図（1/100）



第６図　断面図２（1/80）



第７図　断面図３（1/80）

17-18１号溝　29-30西壁　31-32北壁　33-34東壁　35-36南壁

1　10YR4/4褐シルト　しまりやや疎　１～５㎝大の礫多く含む　現代客土
1-1　10YR5/8黄褐シルト　しまりやや密＋10～100ミリ2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック10～15%　10～30ミリ礫少量混　現代客土
1-2　10YR2/1黒色　アスファルト片　現代客土
2　2.5Y6/4にぶい黄～2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック主体＋2.5Y4/4オリーブ褐シルト5～10%混　しまり密　切土盛土
2-1　2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック＋2.5Y4/4オリーブ褐シルト30%混＋2.5Y5/6黄褐シルト1%混　しまり密　切土盛土
2-2　2.5Y7/4浅黄～2.5Y6/4にぶい黄粘土シルト＋2.5Y3/2黒褐シルトがブロック状に入る　炭化物微量混　しまりやや密　切土盛土
3　2.5Y5/4黄褐シルト＋炭化物微量混　しまり密
3-1　2.5Y5/6黄褐シルト＋炭化物微量混　しまり密
3-2　2.5Y5/6黄褐シルト＋2.5Y3/2黒褐シルト1%混　炭化物微量混　しまり密
3-2-1　2.5Y7/4浅黄シルト　しまり密＋2.5Y5/4黄褐シルトブロック30%混
3-2-2　2.5Y5/4黄褐シルト　しまり密＋2.5Y7/4浅黄シルト1%　炭化物微量混
3-3　2.5Y5/6黄褐シルト　しまりやや密＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック1%　炭化物微量混
3-4　2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック＋灰黄褐シルト50%混　3-2-1に似る
4　**１号溝埋土**
4-1　2.5Y4/4オリーブ褐シルト　しまり密＋2.5Y6/4にぶい黄地山粒1%　炭化物微量混
4-2　2.5Y5/4黄褐シルト　しまり密＋2.5Y7/4浅黄地山粘土ブロック5～10%　炭化物微量混
4-3　2.5Y4/4オリーブ褐シルト　しまり密＋炭化物微量混
4-4　2.5Y4/4オリーブ褐シルト　しまり密＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック40%混
4-4-1　2.5Y4/3オリーブ褐シルト　しまり密＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック15～20%　炭化物微量混
4-4-2　2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土主体
4-5　10YR4/4褐～10YR5/3にぶい黄褐シルト主体＋2.5Y7/4浅黄地山ブロック1%　炭化物　鉄分微量混　しまり密
4-5-1　2.5Y4/4オリーブ褐～10YR5/3にぶい黄褐シルト＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロックシルト1～30%　炭化物微量混　しまり密
4-5-2　2.5Y4/4オリーブ褐～10YR5/3にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト1～10%　炭化物1%混　しまり密
4-5-3　10YR4/4褐シルト　しまり密＋炭化物粒微量混
4-5-4　10YR4/4褐シルト　しまり密＋2.5Y7/4浅黄地山粒1%　炭化物粒微量混
5　2.5Y6/4にぶい黄粘土シルト主体　しまり密＋2.5Y5/6黄褐シルト1%混　炭化物微量混　南壁客土（昭和40年代以降）
5-1　2.5Y4/3オリーブ褐シルト　しまり密　旧表土上位
5-2　2.5Y4/6オリーブ褐シルト　しまり密　炭化物微量混　旧表土下位
6　2.5Y6/3にぶい黄シルト～2.5Y7/4浅黄粘土　地山

写真図版３　舌状台地平坦面の遺構と沢跡（東から）

第８図　昭和39年平泉町都市計画図

と推定される。これらの柱穴の埋土は、にぶい黄粘土からシルト主体で黄褐シルトや暗褐シルトが５％程混入するものと、オリーブ褐や黄褐シルトが主体のもの、地山ブロック主体の掘方埋土に黄褐シルトが混入するものがある。いずれも粘性が強くしまりは密だが、埋土の様相からいずれも昭和30年代以降の建物に伴う痕跡と判断した。柱穴３・４・６の埋土も同様で同一建物の補助的な柱と思われる。柱穴７・８・９は北側斜面に位置する。柱穴７・８の埋土は褐シルト主体、柱穴９は直径52㎝、深さ32㎝を測る比較的大きな掘方で、黄褐シルト主体で地山ブロックと炭化物が微量混入するが柱痕跡は認められず、年代・性格共に不明である。１号土坑（溝状）との新旧は不明である。柱穴10は撹乱直下で検出した。記録前に埋土が失われ、内容は不明である。

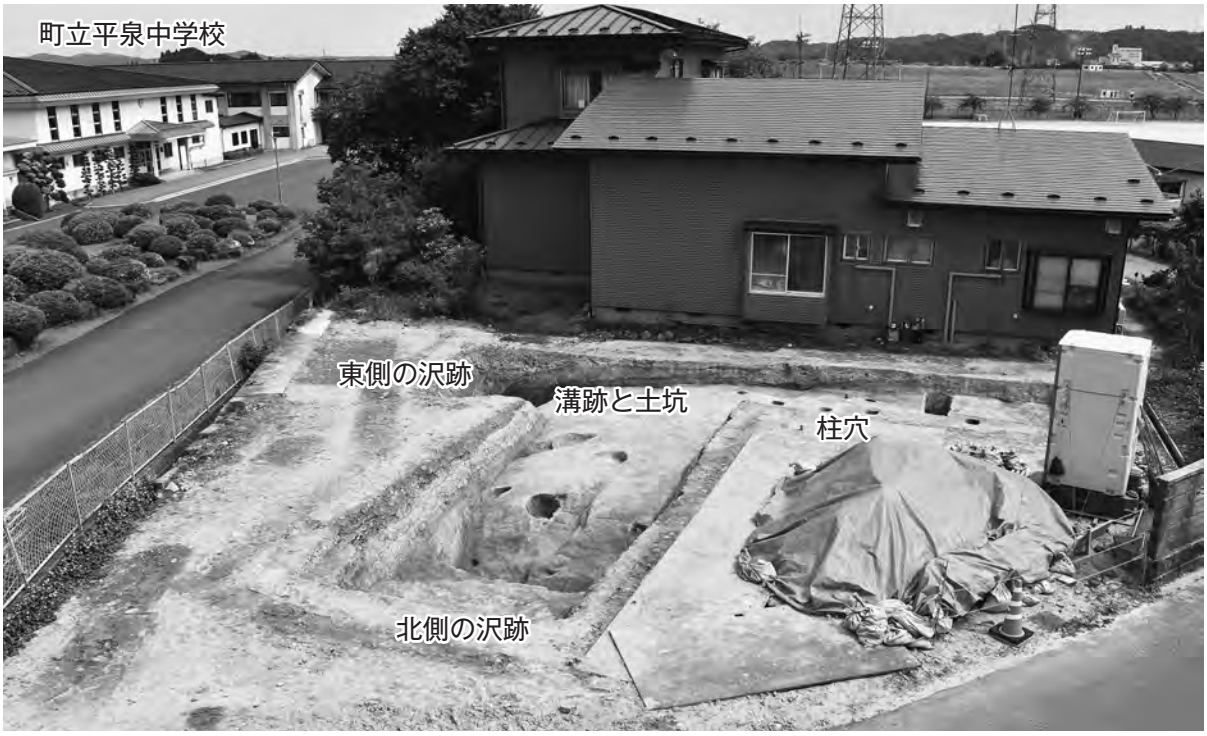
土　坑　２基を検出した。１号土坑は東西約１ｍ、南北2.60ｍ以上の楕円形又は菱形を呈し、当初土坑の名称を与えたが北側の沢に落ち込む自然流路と判明した。埋土はにぶい黄褐シルト主体で地山ブロックが少量混じる。出土遺物が無く年代は不明である。２号土坑は直径65㎝の円形で、深さ13㎝の浅いＵ字形に掘り込まれる。埋土は明黄褐粘土と地山ブロック主体で昭和30～40年代以降の掘り込みと判断した。

（３）遺　物

かわらけ15片、近世から昭和40年代頃の陶磁器片と瓦、鉄製品（蹄鉄）やガラス瓶等が少量出土した。かわらけはいずれも風化した小片で12世紀と推定されるが、実測可能なものはない。陶磁器は18世紀の陶器1片を含むが、これは昭和40年代以降の自然沢に堆積した新しい埋土から出土した。

４　まとめ

調査地点は「八花形（やつはながた）」と呼ばれる太田川左岸の沖積台地の一部で、自然沢が開削した舌状台地の東端に位置する。今回の調査で狭小な舌状台地の平坦面北側と東側で自然沢の落込みを検出した。削平を受けた地山平坦面では、昭和30～40年代の建物跡とみられる少数の柱穴、北東側では沢跡に下る小規模な溝跡と土坑を検出した。遺物は風化したかわらけ15片と近世以降の陶磁器や雑物が少量出土したが、12世紀の遺構は確認されなかった。出土したかわらけ片は当地周辺に存在した遺構や堆積土から移動した可能性がある。



写真図版４　国衡館跡第16次調査区全体（北から）

伽羅之御所跡第31次発掘調査

1　調査要項

地　　点　　岩手県西磐井郡平泉町平泉字伽羅楽68－３
調査面積　　61㎡
調査期間　　令和４年４月18日～５月20日
原　　因　　住宅新築
調査担当　　藤田崇志・鈴木博之

2　遺跡の位置（第１図）

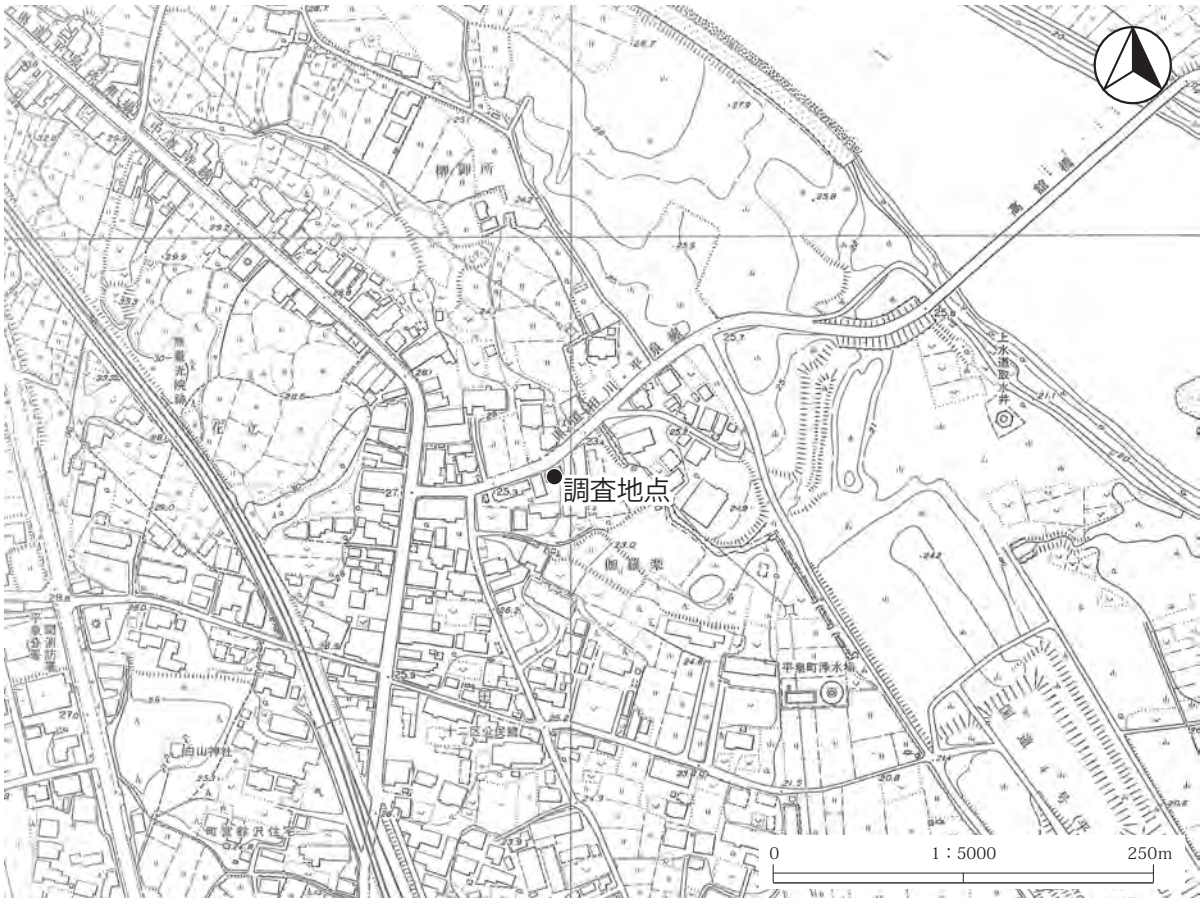
概　　要

伽羅之御所跡は、三代秀衡の日常の住まいとされた「伽羅御所」があったと推定されている遺跡である。「伽羅御所」の範囲は明らかではないが、地形や地名、伝承などから周知の埋蔵文化財包蔵地である「伽羅之御所跡」として範囲を定めている。遺跡は東側に猫間が淵跡、北～西側を無量光院跡、白山社遺跡、南側を鈴沢の池跡と接し、過去の発掘調査では四面庇建物（７・20次）、総柱の掘立柱建物（25次）や、和鏡と鏡箱がセットで出土した井戸跡（５次）等を検出している。

調査地点はＪＲ平泉駅の北約600mに位置し、標高は概ね23m、遺跡範囲の北東端にあたる。調査前の現況は宅地で、南の隣接地では昭和20年代に土取りした際に12世紀の軒平瓦が見つかっていた。

3　基本土層

Ⅰ層：表　土　10YR3/2黒褐シルト　現代の撹乱



第１図　位置図

Ⅱ層：整地層　2.5Y6/6明黄褐シルト　近年の宅地としての造成土
Ⅲ層：耕作土　10YR3/4暗褐色シルト　近～現代の旧表土、耕作土か
Ⅳ層：堆積土　10YR3/4暗褐色シルト　12世紀の遺物を含む堆積土
Ⅴ層：地　山　2.5Y7/6明黄褐粘土　一部鉄分を層状に含む
Ⅵ層：地　山　5Y6/2灰オリーブ粘土　グライ化

4　調査概要

重機により概ねⅣ～Ⅴ層まで掘削し、人力により遺構検出及び精査を行った。調査区は北から南に傾斜しており、調査区南部には12世紀とみられる遺物を少量ながら含むⅣ層が広がっていた（第２図）。遺構は全てⅤ層上面で検出した。

検出遺構：土坑６基、焼土遺構１基、柱穴１基を検出した。個々の属性は表のとおりである。

（1）土坑

６基検出した。５号土坑以外は近世の墓壙と考えられる。

遺構名	平面形	検出規模(m)	断面形	深さ(cm)	検出標高	底面標高	出土遺物等
1号土坑	不整円形	1.05×0.95	方形	75	22.83～22.85	22.08～22.10	棺桶 銭 ガラス瓶
2号土坑	不整方形	1.63×1.20	皿状	32	22.86～22.96	22.60～22.57	かわらけ 常滑片 古瓦 鏡 寛永通宝 ガラス片
3号土坑	不整方形	1.04×1.02	逆台形	116	22.84～22.87	21.68～21.70	かわらけ 磁器 古瓦 煙管 羽口 寛永通宝 銭 ガラス瓶片
4号土坑	方形	0.90×1.08	逆台形	84	22.72～22.80	21.93～21.96	寛永通宝　ガラス瓶片
5号土坑	方形	0.40×0.32	方形	19	22.82～22.82	22.62～22.63	無
6号土坑	不整方形	1.08×1.00	逆台形	84	22.85～22.91	22.03～22.06	かわらけ 煙管 ガラス瓶

１号土坑（第３図、写真図版１・４）＜位置＞調査区北端に位置し、上端の一部が調査区外に延びる。＜埋土＞上位がにぶい黄色粘土を主体とし、中位は褐色土シルト、下位は浅黄色～グライ化した灰オリーブ色の粘土シルトで構成される。底面から後述する棺桶が出土したものの陥没・崩壊的な堆積ではなく、上位から人為的に埋め戻されていることから、改葬されたと考えられる。上層からガラスが出土しており、改葬時期を示すものと思われる。また、この改葬は近接する６号土坑と一括で行われ、連続する同一層によって埋め戻されたため、新旧関係は不明である。＜出土遺物＞底面より棺桶の底及び側面の一部が出土した。上層からガラス瓶片、下層からは時期不明の固着した鉄銭（№16）が出土した。＜所属時期＞ガラス片が出土したが、改葬時に混入したものであり、底面の棺箱及び鉄銭から、近世に帰属する墓壙と考えた。

２号土坑（第３図、写真図版１・２）＜位置＞調査区中央に位置する。＜埋土＞上位が暗褐色の粘土シルトを主体とし、中位は明黄褐色粘土に暗褐色粘土シルトが混じる。下位はオリーブ灰粘土で、砂質シルトが混じる。上中位層は１号土坑と同様に改葬に伴う人為堆積である。＜出土遺物＞埋土中よりかわらけ、常滑片（№１）、平瓦（№８）、鋏（№13）、鏡（№14）、銅銭５点（№17～21）、漆膜、ガラス瓶が出土した。＜所属時期＞現代の遺物が混じるが、改葬時に混入したものであり、鏡・銅銭の出土状況から近世に帰属する墓壙と考えた。

３号土坑（第４図、写真図版２）＜位置＞調査区中央に位置する。＜埋土＞上位が暗褐色の粘土シルトを主体とし、中位は明黄褐色粘土にⅤ層ブロックが混じる。下位はオリーブ褐色粘土で、Ⅴ層ブロックが混じる。いずれも人為堆積である。１号土坑と同様に上位から人為的に埋め戻されていることから、改葬されたと考えられる。また、この改葬は近接する４号土坑と一括で行われ、連続する同一層によって埋め戻されたため、新旧関係は不明である。＜出土遺物＞埋土中よりかわらけ、渥美片（№２）、瓦（№９）、羽口片（№11）近～現代磁器、瓦（№９）、煙管（№15）、寛永通宝（№22～24）、鉄銭（№25）ガラス瓶、底面より棺箱の一部とみられる木製品が出土した。＜所属時期＞現代の遺物が含まれているが、改葬時に混入したものであり、寛永通宝の出土等から近世に帰属する墓壙と考えた。

４号土坑（第４図、写真図版２）＜位置＞調査区中央に位置する。＜埋土＞上位が暗褐色の粘土シル

トを主体とし、中位は明黄褐色粘土にⅤ層ブロックが混じる。下位はオリーブ褐色粘土で、Ⅴ層ブロックが混じる。いずれも人為堆積である。１号土坑と同様に上位から人為的に埋め戻されていることから、改葬されたと考えられる。また、この改葬は近接する３号土坑と一括で行われ、連続する同一層によって埋め戻されたため、新旧関係は不明である。＜出土遺物＞埋土中より常滑片（№３）新寛永通宝（№26）が出土し、ほかにガラス瓶、空き缶などの現代遺物が出土したが、改葬時に混入したものと思われる。＜所属時期＞現代の遺物が含まれているが、改葬時に混入したものであり、寛永通宝の出土等から近世に帰属する墓壙と考えた。

５号土坑（第５図、写真図版２）＜位置＞調査区北端に位置し、一部は調査区外に延びる。＜埋土＞にぶい黄色粘土シルトで、いずれも人為堆積である。＜出土遺物＞無。＜所属時期＞不明。

６号土坑（第３図、写真図版１・５）＜位置＞調査区北端に位置する。＜埋土＞上位がにぶい黄色粘土を主体とし、中位は褐色土シルト、下位は浅黄色～グライ化した灰オリーブ色の粘土シルトであり、いずれも人為堆積である。１号土坑と同様に上位から人為的に埋め戻されていることから、改葬されたと考えられる。また、この改葬は近接する６号土坑と一括で行われ、連続する同一層によって埋め戻されたため、新旧関係は不明である。＜出土遺物＞底面より棺桶の底及び側面の一部が出土した。埋土よりかわらけ、煙管（№12）、ガラス瓶が出土している。＜所属時期＞現代の遺物が含まれているが、改葬時に混入したものであり、煙管の出土等から近世に帰属する墓壙と考えた。

（２）柱穴

遺構名	平面形	検出規模（m）	断面形	深さ（cm）	検出標高	底面標高	出土遺物等
柱穴1	円形	0.34×0.22	皿状	8	22.66～22.67	22.56～22.59	無

１号柱穴（第２・５図、写真図版２）：調査区東端に位置する。＜埋土＞Ⅴ層ブロックの少量混じった暗褐色シルトの単層で、検出時には直上に被熱した礫が乗っていた。＜出土遺物＞なし。＜所属時期＞不明。

（３）焼土遺構

遺構名	平面形	検出規模（m）	断面形	深さ（cm）	検出標高	底面標高	出土遺物等
焼土遺構1	方形	0.25×0.30	皿状	6	22.69～22.73	－	無

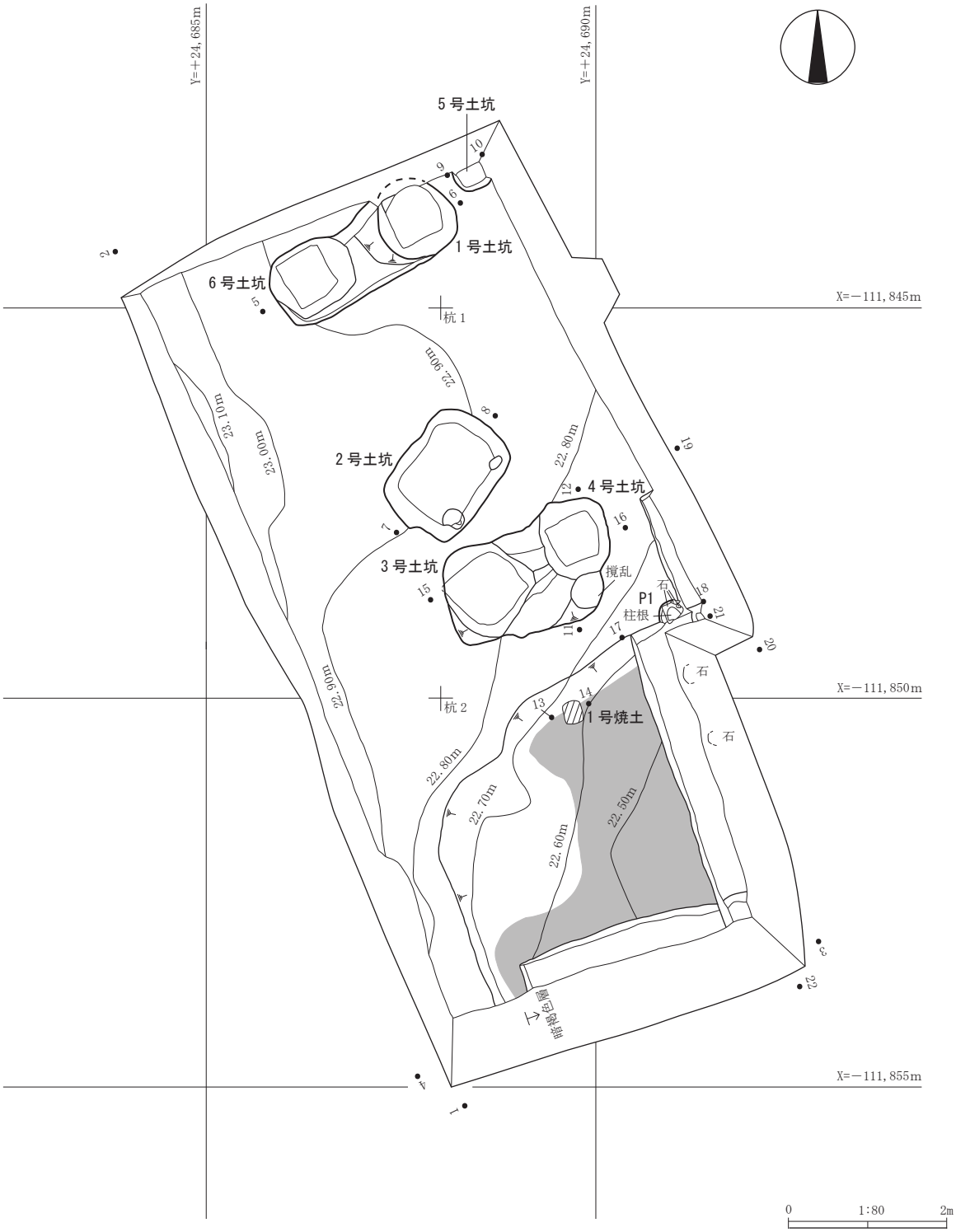
１号焼土（第２・５図、写真図版２）：調査区南部に位置する。＜埋土＞褐色シルトの単層で、炭化物粒とⅤ層ブロックを含む。＜出土遺物＞なし。＜所属時期＞不明。

出土遺物：かわらけ細片が少量、国産陶器６点（常滑・渥美各３点）、瓦３点、煙管２点、銅鏡１点、鉄製品１点、寛永通宝９枚、鉄銭５枚、羽口１点が出土し、かわらけ以外はすべて掲載した。この他に、棺桶の部材、板石（総重量2981.63ｇ）、近現代磁器やガラス瓶等が出土した。明確に遺構に帰属するものは近世墓壙に伴う、鏡・煙管・鋏・銭貨であり、12世紀に帰属する遺物は墓壙の改葬時の撹乱もしくは表土中から出土した。

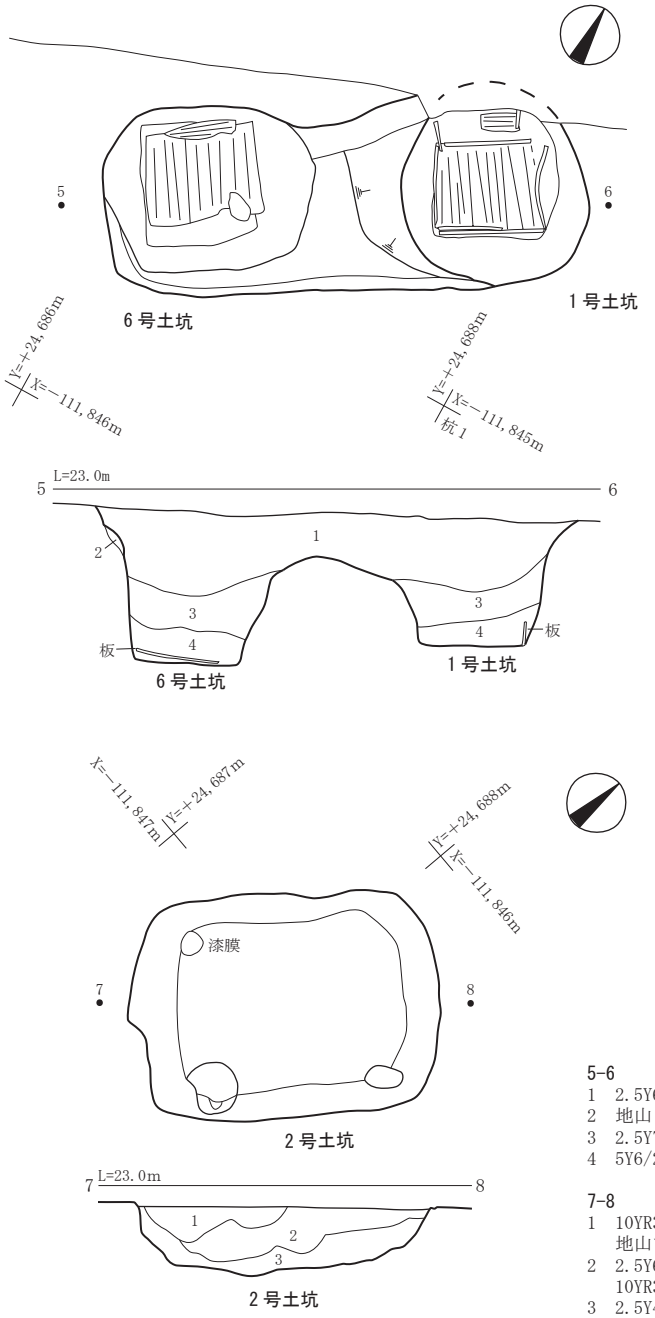
５　まとめ

今回の調査では、調査区北側から中央にかけて近世の墓壙である土坑１～４、６号土坑を検出した。各墓壙からは棺桶や副葬品である寛永通宝、手鏡の出土があったが、上位から撹乱が著しく入りガラス瓶等の現代遺物が混入していたことから、近～現代にかけて改葬を施したものと思われる。また、調査区南東側では、遺跡北側に所在する猫間が淵の低地につながる斜面肩部があり、猫間が淵の範囲

を考える上で貴重な位置情報を得ることができた。今回の調査では12世紀に帰属する遺構は確認されなかったが、かわらけ細片や国産陶器片、平瓦の出土が確認された。恐らく、斜面上位に位置する無量光院跡から流れ込んだものと思われる。



第２図　伽羅之御所跡第３１次全体図



6・1号土坑全景

1号土坑底面

5-6
1　2.5Y6/4にぶい黄粘土シルト 粘性強 しまり密 10YR3/2黒褐ブロック2%含
2　地山
3　2.5Y7/3浅黄粘土シルト 粘性強 しまりやや密
4　5Y6/2灰オリーブ粘土シルト 粘性強 しまりやや疎 φ1〜3mm礫1% 木片含

7-8
1　10YR3/4暗褐粘土シルト 粘性強 しまりやや密
　地山ブロック(φ2〜5mm)3%
2　2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック主体 粘性強 しまりやや密
　10YR3/4暗褐粘土ブロック(φ10cm)20%
3　2.5Y4/3オリーブ褐粘土 粘性強 しまり密
　地山ブロック(φ1〜5cm)20%

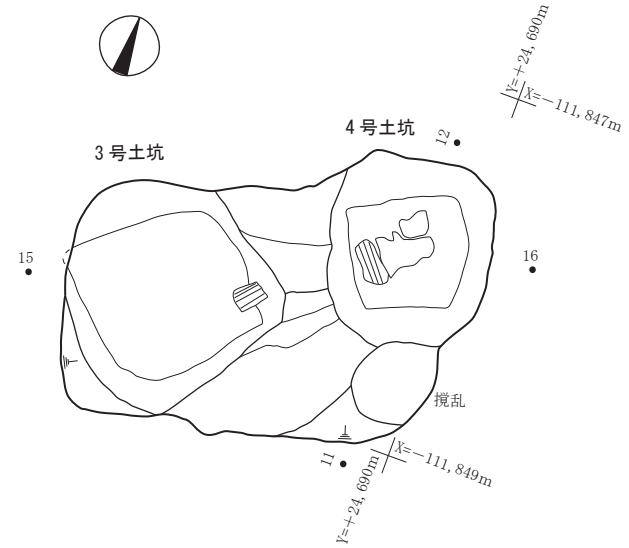
0　1：40　2m

第3図　1・2・6号土坑

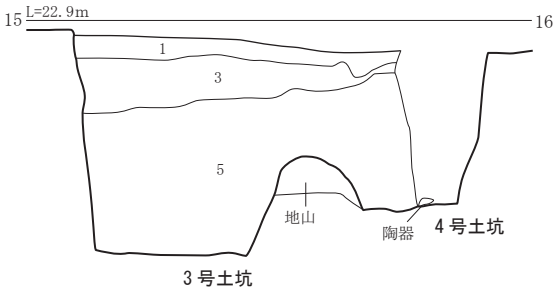
第1表　国産陶器観察表

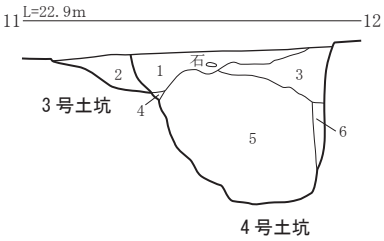
〈　〉残存値

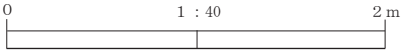
No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備　考	登録No
1	6	3	2号土坑 1層	常滑	甕	胴部	12c		18
2	6	3	3・4号土坑 5層	渥美	甕	胴部	12c		46-1
3	6	3	4号土坑 5層	常滑	甕	胴部	12c		61.64-1
4	6	3	表土	常滑	甕	底部	12c		1-1
5	6	3	表土	渥美	甕	胴部	12c		1-2
6	6	3	褐色土層	渥美	甕	胴部	12c		2-2



3・4号土坑全景







11-12・15-16
1　10YR3/4暗褐粘土 粘性強 しまりやや密 地山ブロック(φ5～30㎜)30%
2　2.5Y6/4にぶい黄粘土 粘性強 しまり密 10YR3/4暗褐粘土ブロック(φ5～10㎜)2%
3　2.5Y6/4にぶい黄粘土 粘性強 しまりやや密 地山ブロック(5～30㎜)40%
4　10YR4/4褐粘土 粘性強 しまりやや密
5　5GY6/1オリーブ灰粘土 粘性強 しまりやや密 グライ化(7.5Y5/2灰オリーブ砂質粘土シルト)30%含
6　2.5Y6/4にぶい黄粘土 粘性強 しまりやや疎 10YR3/4暗褐粘土ブロック20%含

第4図　3・4号土坑

第2表　近世陶器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備　考	登録No
7	6	3	表土	陶器	香炉	口縁部	近世	美濃産	1-3

第3表　瓦観察表

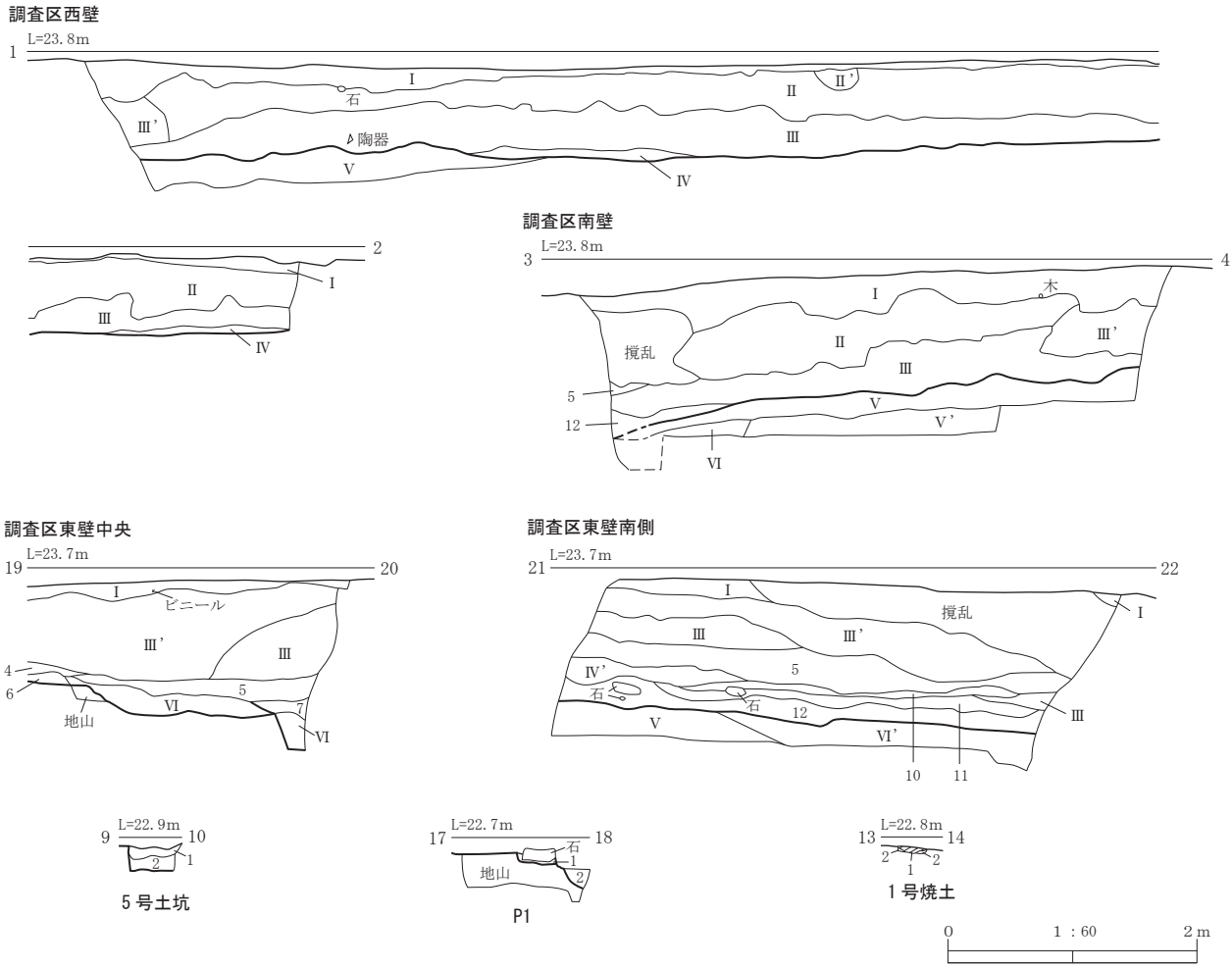
No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量(cm)			重量(g)	色調	備　考	登録No
					長さ	幅	厚さ				
8	-	3	2号土坑 埋土	平瓦	<3.4>	<3.0>	<0.8>	8.4	7.5YR7/4にぶい橙	中世 凹面に布目 剥離激しい	14-2
9	-	3	3号土坑 埋土	不明	<4.0>	<3.9>	<2.4>	29.1	7.5YR7/4にぶい橙	中世 小片 剥離激しい	17-2
10	-	3	南東部褐色土区	平瓦か	<4.0>	<3.5>	<0.9>	16.6	7.5YR6/4にぶい橙	中世 凸面に縄目 剥離激しい	66-2

第4表　羽口観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	法量(cm)			重量(g)	備　考	登録No
				長さ	幅	厚さ			
11	-	-	3号土坑 1～3層	3.2	3.0	1.9	13.1		57-2

第5表　金属製品観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類		法量(cm)			重量(g)	備　考	登録No
						長さ	幅	厚さ			
12	6	3	6号土坑 崩落層	銅	煙管	<8.1>	0.9	0.2	3.1	火皿は欠損	21
13	6	3	2号土坑 埋土	鉄	鋏	<11.8>	3.3	1.3	26.7	留め具有り 棺桶底板の木質付着	15
14	6	3	2号土坑 埋土	銅	鏡	<8.1>	7.4	0.3	28.2	表面に布付着 裏面に鶴の文様	13-1
15	6	3	3・4号土坑 5層	銅	煙管	<4.0>	1.0	0.2	1.5	火皿は欠損 何かの付着物	46-5



基本層序(1-2・3-4・19-20・21-22)

Ⅰ　10YR3/2黒褐シルト 粘性ややなし しまりやや密 炭化物粒1%
　φ5～20㎜小礫含
Ⅱ　2.5Y6/6明黄褐 粘性強 しまり密 10YR4/4褐色土ブロック3%含
Ⅱ'　2.5Y6/4にぶい黄 粘性強 しまり密 Ⅰ層ブロック20%含 撹乱？
Ⅲ　10YR3/4暗褐 粘性やや強 しまり密 Ⅱ層ブロック5%含
　φ5～30㎜礫含
Ⅲ'　10YR4/4褐色シルト 粘性ややなし しまりやや密 3層ブロック50%含
Ⅳ　10YR3/4暗褐 粘性やや強 しまりやや密 Ⅱ層ブロック40%含
Ⅳ'　10YR4/4褐シルト 粘性やや無 しまり密 小礫含
Ⅴ　2.5Y6/6明黄褐粘土シルト 粘性強 しまり密 地山
　5GY6/1オリーブ灰一部グライ化
Ⅴ'　2.5Y6/6明黄褐粘土シルト 粘性強 しまり密　地山
Ⅵ　5Y6/2灰オリーブ粘土 粘性強 しまり密 炭化物粒1%

9-10

1　2.5Y6/4にぶい黄粘土シルト 粘性強 しまりややなし
　10YR3/2黒褐粘土ブロック1%
2　2.5Y6/4にぶい黄粘土シルト 粘性強 しまりややなし
　10YR3/2黒褐粘土ブロック3%

3-4・19-20・21-22

4　2.5Y7/6明黄褐粘土 粘性強 しまり密
5　2.5Y7/6明黄褐粘土シルト 粘性やや強 しまり密
　暗褐土ブロック3%含 φ5～30㎜礫含 炭化物微量
6　10YR3/4暗褐シルト 粘性やや強 しまり密
7　2.5Y7/6明黄褐粘土 粘性強 しまり密 暗褐土ブロック3%含
10　5Y3/2オリーブ黒シルト 粘性やや強 しまり密 地山ブロック1%含
11　5Y2/2オリーブ黒シルト 粘性やや強 しまり密 地山粒1% 炭化物粒1%含
12　5Y3/2オリーブ黒シルト 粘性やや強 しまり密 褐色土ブロック1%
　地山ブロック1%含

17-18

1　10YR3/4暗褐シルト 粘性あまりなし しまり密
　地山(10YR6/4にぶい黄橙)粘土ロック5% 炭化物1%未満含
2　5Y4/1灰粘土シルト 粘性やや強 しまりあまりなし
　地山(グライ化)ブロック30% 鉄分含

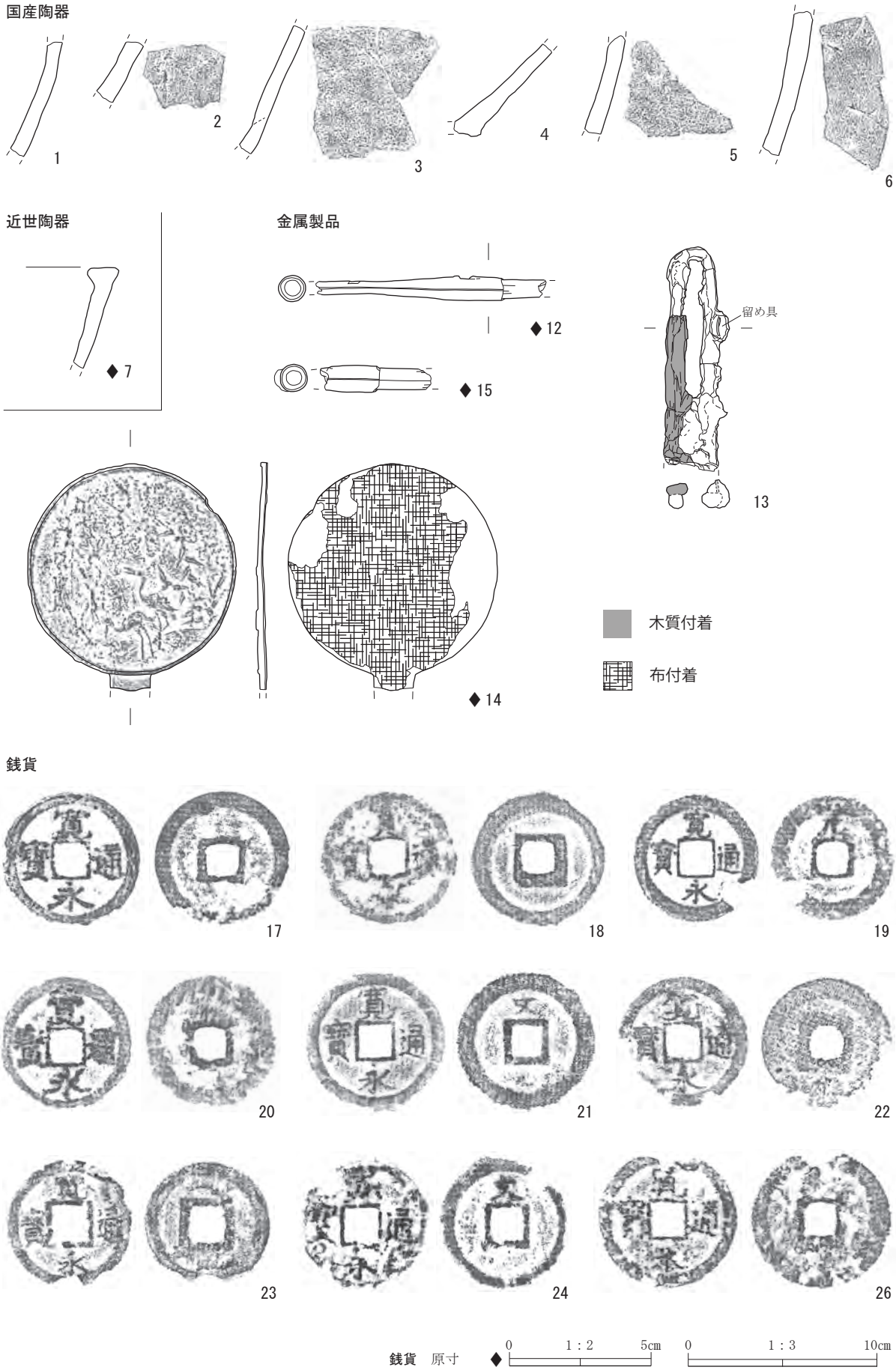
13-14

1　7.5YR4/6褐シルト 粘性なし しまり密 炭化物粒φ1～3㎜1%
　地山ブロックφ5～10㎜5%含
2　2.5Y6/4にぶい黄粘土 粘性強 しまり密 地山

第５図　断面図

第６表　銭貨観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ（cm）	重量（g）	備　考	登録No
16	－	3	1号土坑 3～4層	鉄銭	<2.3>	1.5	銭種不明 3枚	23-1
17	6	3	2号土坑 埋土	銅銭	2.4	1.9	古寛永通宝 18と重なり出土	8-1
18	6	3	2号土坑 埋土	銅銭	2.4	4.0	古寛永通宝	8-2
19	6	3	2号土坑 埋土	銅銭	2.2	1.8	新寛永通宝 裏に「文」	9-1
20	6	3	2号土坑 埋土	銅銭	2.3	1.9	古寛永通宝	9-2
21	6	3	2号土坑 埋土	銅銭	2.4	1.6	新寛永通宝 裏に「文」	9-3
22	6	3	3号土坑 5層	銅銭	<2.2>	1.8	新寛永通宝 23と重なり出土	55-1
23	6	3	3号土坑 5層	銅銭	2.2	2.0	古寛永通宝	55-2
24	6	3	3号土坑 5層	銅銭	2.2	1.4	古寛永通宝 裏に「文」	56-1
25	－	3	3号土坑 5層	鉄銭	2.3	1.6	銭種不明 2枚	56-2
26	6	3	4号土坑 5層	銅銭	2.4	1.8	新寛永通宝	62


国産陶器
1
2
3
4
5
6
近世陶器
◆7
金属製品
◆12
◆15
留め具
13
◆14
木質付着
布付着
銭貨
17
18
19
20
21
22
23
24
26
銭貨　原寸
0　1：2　5cm
0　1：3　10cm

第６図　出土遺物

調査区全景（南から）

調査区検出状況（南から）

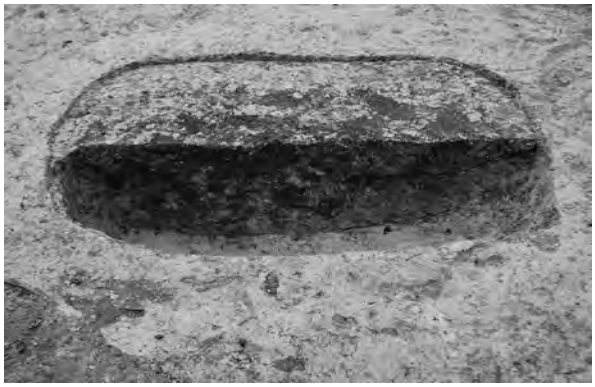
６・１号土坑完掘（南から）

６号土坑底板検出状況（南から）

６号土坑断面5-6（南から）

１号土坑断面5-6（南から）

２号土坑完掘（北西から）



２号土坑断面7-8（南から）

写真図版１

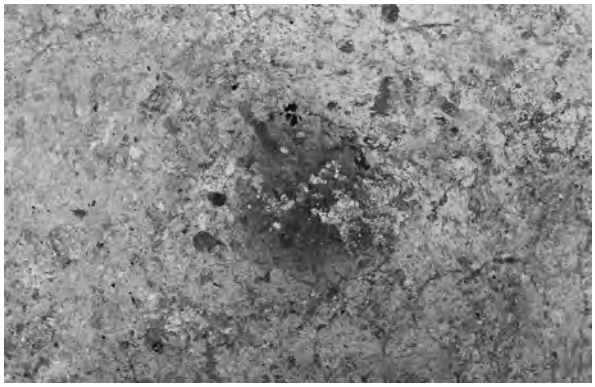
２号土坑漆膜検出状況（北西から）

調査区南東側（北西から）

３・４号土坑完掘（南から）

３・４号土坑断面15-16（南から）

５号土坑断面9-10（南から）



１号焼土（南東から）

P1完掘（東から）

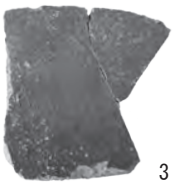
P1検出（西から）

写真図版２

国産陶器

1

2

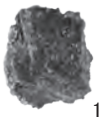

3

4

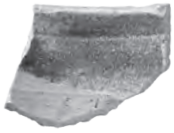
5

6

羽口


11

近世陶器



7

瓦

8

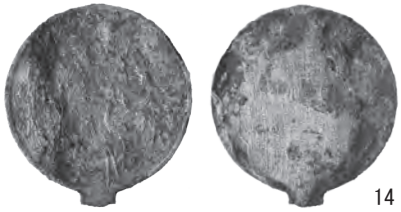
9

10

金属製品

12

13


14

15

銭貨

16

17

18

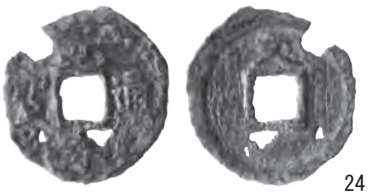
19

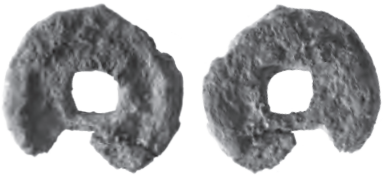
20

21

22

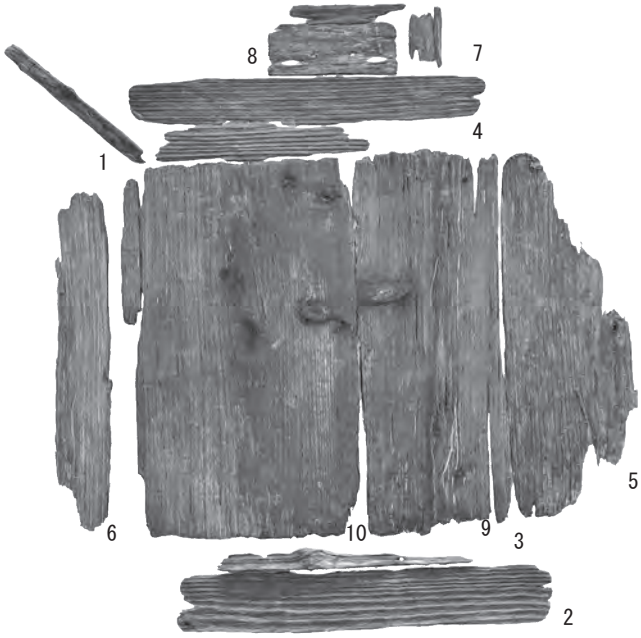
23


24

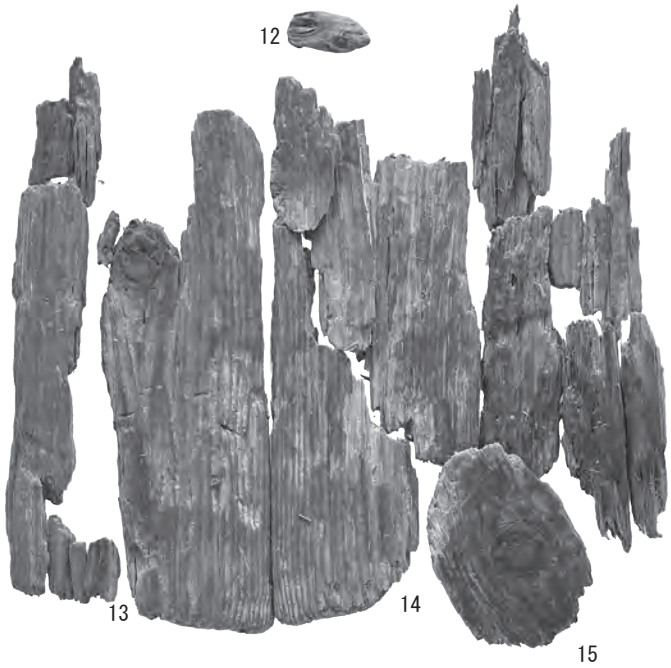

25

26

写真図版３　出土遺物



写真図版４　１号土坑　出土棺桶



写真図版５　６号土坑　出土棺桶

第７表　棺桶観察表

No.	土坑名	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考	登録No.
1	1号土坑	隅木	26.0	2.5	2.2		31
2	1号土坑	側板	51.8	8.0	0.8		32
3	1号土坑	隅木	35.2	3.0	2.5		33
4	1号土坑	側板	52.2	12.2	1.0	2片接合	34
5	1号土坑	底板	52.1	17.7	1.1		35
6	1号土坑	側板	47.5	7.0	1.0		36
7	1号土坑		9.2	4.5	0.7	2片接合	37
8	1号土坑		18.8	10.0	1.0	穴2箇所あり 2片接合	38
9	1号土坑	底板	54.4	20.5	1.0		39
10	1号土坑	底板	53.2	30.1	0.9～1.1		40
11	3号土坑	小さい板	15.1	9.5	1.0	穴4箇所あり	63
12	6号土坑	－	－	－	－		47
13	6号土坑	底板	31.8	4.9	1.1	4片に分解 1番大きい破片のみ計測	48
14	6号土坑	底板	30.5	8.0	1.2	10片以上に分解 1番大きい破片のみ計測 2片接合	49
15	6号土坑	板の破片	13.4	8.8	1.3		50

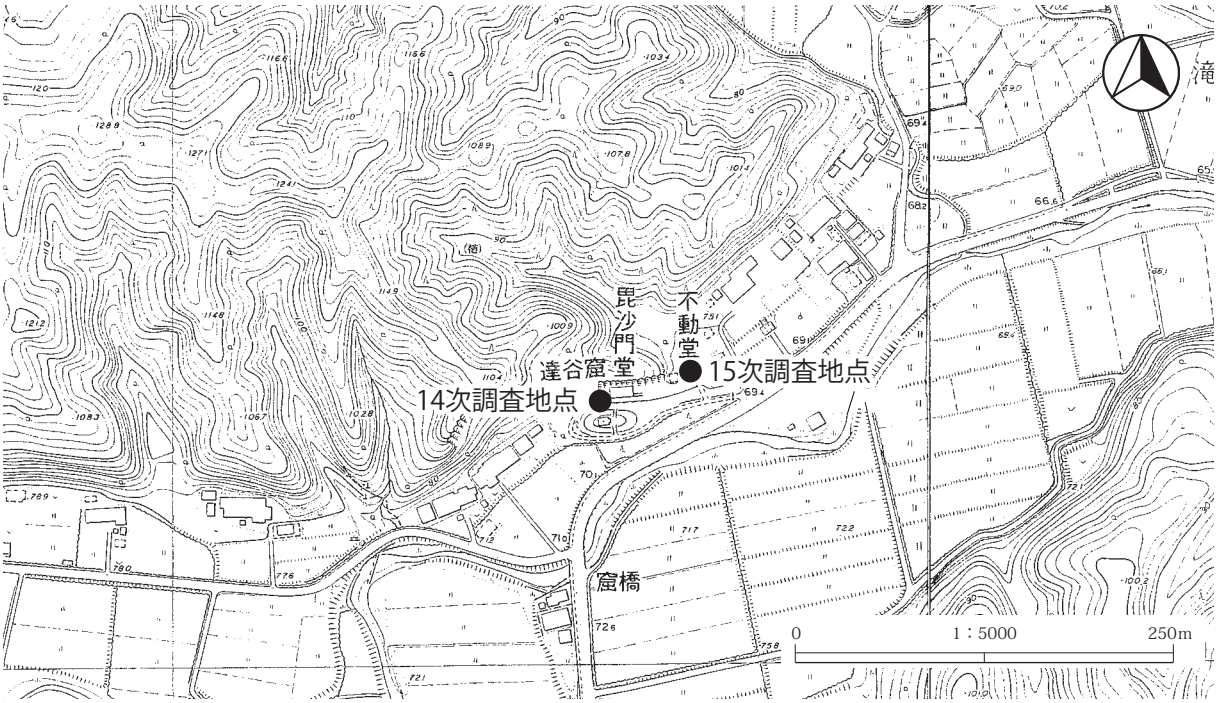
西光寺跡第14次発掘調査

1　調査要項

地　　点　　岩手県西磐井郡平泉町平泉字北沢16番
調査面積　　11㎡
調査期間　　令和４年７月25日～８月31日
原　　因　　内容確認調査
調査担当　　菅原計二・藤田崇志

2　位置と概要

本調査は達谷西光寺境内の西側に位置する窟毘沙門堂前面で実施した苑池遺構に関わる内容確認調査である。「西光寺跡」は国史跡「達谷窟」の指定を受ける眞鏡山達谷西光寺境内と周知の遺跡を含む東西約350ｍ、南北260ｍの範囲で、標高は約60～120ｍである。地形は北上川支流太田川北岸の狭い沖積平坦地と、西の奥羽山脈から続く小起伏丘陵の一つである眞鏡山の南側に立地する。達谷西光寺に伝わる縁起によれば、延暦二十年（801）に蝦夷平定を果たした征夷大将軍坂上田村麻呂により京の清水寺を模して懸造の窟毘沙門堂を建立し、翌年に別當達谷西光寺が創建されたと伝える。「吾妻鏡」の文治五年（1189）九月二十八日条には源頼朝が平泉から鎌倉への帰途の折、「田谷窟」を参詣した旨を記す。堂は火災により度々失われたがその都度再建されている。慶長20年（1615）建築の堂は仙台藩伊達政宗公によって建立されたが昭和21年（1946）に焼失し、現存する堂は昭和36年（1961）に再建された建物で５代目の堂に当たる。西光寺の発掘調査は、昭和43年（1968）に蝦蟇が池中島の辯天堂改築に伴う第１次調査が行われた後、昭和60年（1985）に岩面大佛の崖下から窟毘沙門堂の前庭にかけて暗渠関連工事に伴う第２調査を実施した。このとき窟毘沙門堂の石製基壇南側で３箇所の調査トレンチを掘削したところ、人頭大の川原石を４・５段重ねた「石積み遺構」と池跡堆積土を検出した。この石積みは窟毘沙門堂の石製基壇と並行し、トレンチ下層の池跡とみられる湿潤な埋土から奥州藤原氏時代の多数のかわらけや木製鉢等が出土した。このことから12世紀の



第１図　西光寺跡第14次・15次調査位置図（1/5,000）

苑池が窟毘沙門堂の直下まで広がることが判明した。この後、平泉町教委では蝦蟆が池の護岸整備や平成25年に辯天堂新築に伴う調査、平成27年には鐘楼改修に伴う調査を実施している。平成30年度からは苑池遺構に係わる情報を得るために窟毘沙門堂の前庭部でレーダー探査（受託者・桜小路電機有限会社）を実施した。これらの成果を元に本調査（14次）では12世紀の苑池の範囲と「石積み遺構」の延長を確認することを目的として、蝦蟆が池護岸の北西側と窟毘沙門堂西側の前庭部に２カ所のトレンチを設定して掘り下げた。前者をトレンチ１（Ｔ１）、後者をトレンチ２（Ｔ２）と呼ぶ。調査面積はＴ１が東西５ｍ×南北１ｍ、Ｔ２が東西1.5ｍ×南北４ｍの範囲で、共に現在の地表面から約２ｍの深さまで掘削した。調査地点の標高はＴ１北西で69.92ｍ、Ｔ２北西で70.14ｍである。調査の結果、Ｔ１では12世紀から中世以降とみられる池跡堆積土を検出し、この下層から10世紀初頭の十和田ａ降下火山灰とみられる層位や池底直上から植物腐植土層を確認した。これにより苑池の基盤とみられる湿潤な低地が当地点よりも西側に広がることが分った。表土直下では昭和60年以降の暗渠溝を検出し、この下に近世以降の落込みもしくは溝跡とみられる埋土が池跡堆積土の上位堆積土を掘り込んでいた。Ｔ２では昭和60年の第２次調査トレンチの掘り込み跡とみられる埋戻し土を検出し、これを取り除いて深掘りしたところ、トレンチの南側で未精査の池跡堆積土、トレンチの北側でＴ１と同様の火山灰土層とこの直上に砂質シルト主体の低地堆積土が厚く被い、旧地形の低地がさらに北側に続くことが分った。この低地堆積土は北側崖面の凝灰岩が風化崩落して堆積した層位とみられる。池跡堆積土はこの北側低地堆積土が南に下る傾斜面の上に堆積しており、この層位が一時期の苑池の水際であった様相を示すものである。レーダー探査で反応が認められた地点では、昭和60年調査で検出した12世紀の「石積み遺構」の続きとみられる明瞭な石積みの痕跡は確認されなかったが、暗渠溝の砕石や池跡堆積土から人頭大の礫がまばらに出土しており、これに反応した可能性がある。この調査結果から12世紀の苑池はＴ１地点よりも西側に広がり、Ｔ２地点は苑池の北西側で一時期の水際に当たるものと考えられる。以下は経過である。７月19日から発掘資材準備、基準点移動、地形測量。７月25日～８月４日Ｔ１精査・実測・写真撮影等、５～９日埋戻し。８日からＴ２表土粗掘り、９～31日精査・実測・写真撮影。この後埋戻しを行い、現場での作業を終了した。

写真図版１　窟毘沙門堂西側のトレンチ２（西から）

３　調査成果

Ｔ１　遺構：［低地と池跡］低地及び池底（10世紀以前の低地、火山灰土、池跡堆積土、）
［近世以降］南側落込みもしくは溝跡　［昭和60年以降］暗渠溝

遺物：［12世紀・中世］かわらけ、国産陶器（常滑・渥美産）、銭貨（熙寧元寶・永楽通寶）
［近世］近世陶磁器　［不明］加工木、種子等

Ｔ２　遺構：［低地と池跡］北側低地斜面土（苑池水際の池跡堆積土）、２次調査トレンチ埋戻し土

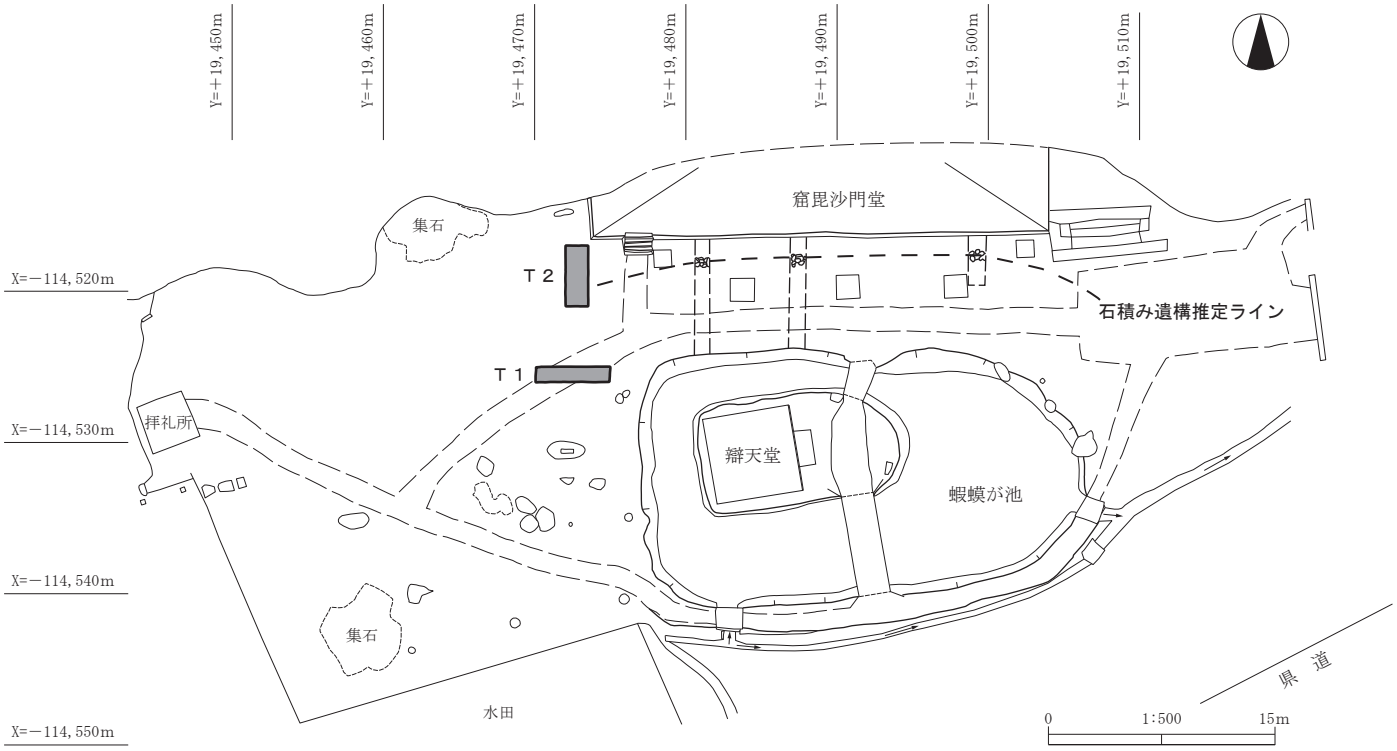
遺物：［12世紀］かわらけ　［近現代］近現代陶磁器

土層（第６～８図）

Ｔ１の土層は７層（Ⅰ～Ⅶ群）と砂礫土の地山Ⅷ、Ｔ２は８層（Ⅰ～Ⅷ群）に分けられる。Ｔ１とＴ２は約４ｍの近さにあるが、土質の特徴からトレンチ毎に層序の名称を与えた。Ｔ１のⅥ（６）層とＴ２のⅦ（７）層が同一の火山灰土として対応する。Ｔ２の６層は火山灰土直上の北側低位堆積土で、苑池構築以前に崖面が風化し堆積した層位である。

（1）Ｔ１　トレンチ１は蝦蟇が池護岸の北西端から約５～10ｍの地点で東西方向に５ｍ、南北１ｍの規模で長方形に設定して掘り下げた。Ⅰ（１・1-1）は境内参道の豆砂利敷きとトレンチ周囲の表土である。Ⅱ（２）は山砂で昭和60年以降の客土、Ⅲ（３）は暗渠溝の砕石、Ⅳ（４）は近世以降とみられる池跡上位の堆積土で（4-1～4-3）は東側に傾斜する落込みもしくは溝跡の埋土、（4-4～4-6）はシルトから砂質シルトが主体でグライ化が著しい範囲がある一方、酸化層との境界に酸化鉄分が集積する。Ⅴ（５）は12世紀から中世以降とみられる池跡堆積土で、上位のシルトから下位の粘土や泥質の遷移層に植物腐植物が混入する。下位は水分が多く粘性が増す。この層位から銭貨２点や加工木、礫などが出土した。Ⅵ（６）は火山灰土で細かいテフラが10㎝程の厚さで帯状に堆積する。Ⅶ（７）は植物腐植物堆積土、Ⅷ（８）は自然砂礫土の地山である。

低地と池跡　Ｔ１では砂礫層の地山直上に植物腐植土層（Ⅶ）、この上に厚さ約10㎝の火山灰土層（Ⅵ）



第２図　西光寺跡第14次調査トレンチ配置図（1/500）

が堆積する。二つの層位はＴ２の火山灰土層（Ⅶ）と合わせて平坦な低地が広がっていることを示す。池跡の堆積土は層序Ⅴ（５）に相当する。中～下位は泥質土と粘土、砂質シルトが堆積して植物腐植物が含まれる。この層位から12世紀のかわらけ片や銭貨２点、加工木等が出土した。近世の遺物は出土せず、12世紀から中世頃の湿潤な環境が広がる中で埋土が堆積したものと思われる。上位はシルトから砂質シルトを主体とし、グライ化の著しい部分から褐灰を呈する酸化した層位の間に酸化鉄分集積層がみられる。

南側落込みもしくは溝跡　池跡の埋没が進行した段階で、Ｔ１の南側から落ち込みもしくは溝跡のような傾斜面が認められる。この埋土から近世の肥前染付磁器（８～10）が出土した。３片が接合する。

暗渠溝　Ｔ１の表土直下で断面逆台形の溝状の掘り込みを検出した。Ｎ58°Ｅの傾きで南西から北東方向に伸び、検出長2.00ｍ、溝幅60㎝、深さ24㎝を測る。北西端にも同様の掘り込みがあり、共に１～４㎝大の砕石が均一に入ることから、昭和60年頃に施工した暗渠溝の一部とみられる。

（2）Ｔ２　トレンチ２は窟毘沙門堂の西端から約２ｍの地点で、南北方向に４ｍ、東西幅1.5ｍの長方形に設定して掘り下げた。Ｔ２は蝦蟇が池から約７ｍ離れているが池側からの漏水が激しく、調査時には水中ポンプで常時排水しながら調査を行った。Ⅰ（１・1-2～1-3）は表土と杭跡とみられる撹乱を一括した。Ⅱ（２・2-1～2-4）は昭和60年以降～平成の客土で、2-4は昭和60年調査トレンチの埋戻し土である、Ⅲ（３・3-1～3-4）は新しい盛土、Ⅳ（４・4-1～4-13）は池跡堆積土北側の直上に酸化鉄分が多く沈着した層位と北側低地堆積土の上位に当たる人為的な掘削を受けたとみられる層位を一括した。Ⅴ（５・5-1～5-5）は12世紀から中世以降にかけての池跡堆積土で、湿潤な泥質土に粘土や砂質が堆積し植物腐植物が混入する。Ⅵ（６・6-1～6-6）は火山灰土層の直上を覆う均質でしまりがあるシルトで、北側崖面が風化崩落した砂質シルト主体の低位堆積土である。これが苑池護岸の基盤層となるものと考えられる。Ⅶ（７）は火山灰土で、Ｔ１と同様に十和田ａ降下火山灰テフラが平坦な低地に二次堆積した層位とみられる。火山灰土の上面は標高68.45～68.60ｍで、これが池底面と推定される。Ⅷ（８）は粘土主体の低地堆積土で自然堆積の地山の可能性がある。Ｔ２では砂礫の地山は確認されなかった。各層序は土色・土質や内容により細分した。西壁の4-11層は4-13層を掘り込む形で６層に似た均質な砂質シルトだが、ややしまりがない。これは断崖の北壁直下から堂の石製基壇西側にかけて人為的に掘削した直後に埋め戻した可能性があるが、遺物は出土せず時期は不明である。4-8層や4-12・4-13層はⅣ群に属する層位と捉えた。

（3）出土遺物（第９図・表８　写真図版８）

Ｔ１の池跡堆積土Ⅴ層から手づくねかわらけ２片と銭貨２点（永楽通寶・熙寧元寶）、板状の加工木や杭状の木、自然木、石器１点が出土した。先端を尖らす加工木は長さ40㎝以上あり、南壁から取り上げることができなかった。ⅣとⅤ層からは凝灰岩や溶結凝灰岩、安山岩、デイサイト等の大振りな礫が10個以上出土した。南側の落込みもしくは溝跡の傾斜埋土からは近世の肥前染付磁器が出土した。Ⅳ層から12世紀の常滑産甕、表土から近現代の陶磁器と十円銅貨１点が出土した。

Ｔ２の５層から12世紀のかわらけ17片、渥美産陶器１点、加工木や自然木少量、羽口１点が出土した。表土（Ⅰ）や昭和60年の埋戻し土であるⅡ層（2-4）からは、かわらけ31片と近現代陶磁器、ガラス片などの雑物が出土した。火山灰土層や植物腐植土層からは自然木や不明種子が少量出土した。

【Ｔ１】　かわらけ、銭貨２点（永楽通寶１・熙寧元寶１）、国産陶器（渥美１・常滑１）、近世陶磁器（肥前染付磁器）、礫、石器（石鏃）１、羽口１、加工木（板・杭状・木片）少量、自然木（枝・葉）、金属製品少量、種子（モモ類・マツ球果、不明）等少量

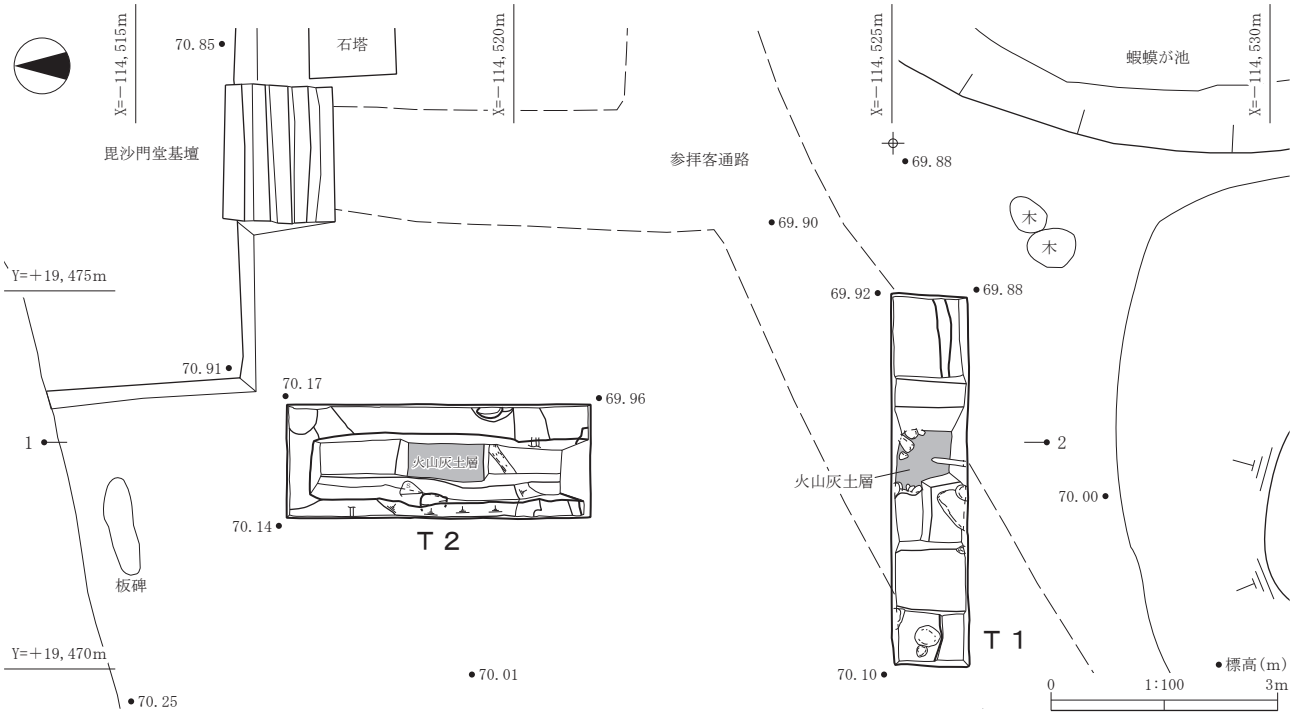
【Ｔ２】　かわらけ、不明土器、鉄製品、加工木片、自然木（枝と葉）、種子（モモ類、不明）少量

４　まとめ

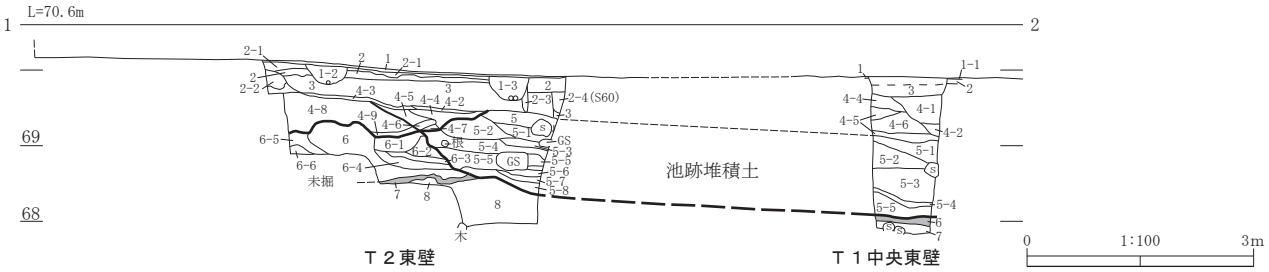
本調査は西光寺跡第２次調査で検出した「石積み遺構」の西側延長と苑池の広がりを確認するため、窟毘沙門堂南西側と蝦蟇が池の北西側に設定した２か所のトレンチを約２ｍ掘り下げた。調査の結果、Ｔ１では12世紀から中世頃とみられる池跡堆積土の層位を検出した。この層位は地山直上の植物腐植土層を覆う火山灰土の直上に堆積しており、この火山灰土の上面が池底と推定される。Ｔ１の池跡堆積土は湿潤な粘土や泥質土が主体で、この層位からかわらけ片や加工木、銭貨などが出土し、さらに西側に広がる様相を示す。Ｔ１の上位では近世の染付磁器を含む南側の落込みもしくは溝跡を検出し、池の埋没が進んだ段階での遺構の変遷が推定される。Ｔ２ではＴ１と同様に火山灰土層が北側に水平方向に続き、10世紀頃には平坦な低地が北側崖面近くまでに広がっていたと推定される。ここでは火山灰土の直上に崖面の凝灰岩が風化して堆積したとみられる均質な砂質シルトが北側低位堆積土を形成している。これを基盤とする形で南側に下る斜面の上に池跡とみられる砂質ラミナや泥質土などの水成堆積層が被っており、これが一時期の苑池の水際と考えられる。当地の地形と池跡について以下の変遷が想定される。

【年代】	［調査地点の様相］
【10世紀以前】	北側崖面の直下まで低地が広がる
【10世紀初頭（915年頃）】	火山灰土が堆積（十和田ａ降下火山灰テフラ）
【10世紀～12世紀】	北側崖面が風化崩落して土砂が低地に堆積
【12世紀】	北側の低地堆積土を切土して傾斜面を形成　一時期の苑池護岸の傾斜面
【12世紀～中世以降】	苑池に水際の浸食や風化により砂質土や粘土・泥質土が堆積、ラミナ層の形成護岸部での崩落土の堆積
【近世以降～昭和60年代】	Ｔ１付近では池跡上位まで土砂が堆積して埋没・池の縮小、溝もしくは落込みが築かれる　この後、整地により蝦蟆ケ池西側が平坦になる　境内西側に暗渠溝を設置

写真図版２　蝦蟆ケ池の北西側に当たるトレンチ１（Ｔ１）（北東から）

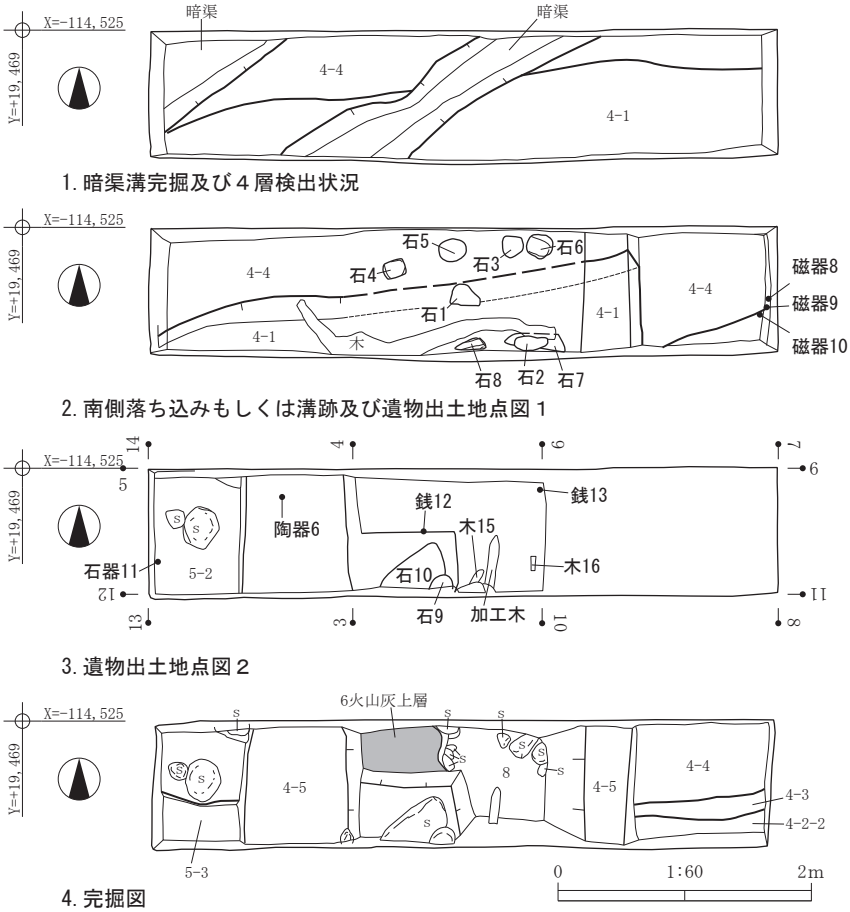


第３図　調査トレンチ平面配置図（1/100）



第４図　Ｔ１中央東壁・Ｔ２東壁土層断面合成図（1/100）

写真図版３　トレンチ２（Ｔ２）完掘（南西から）

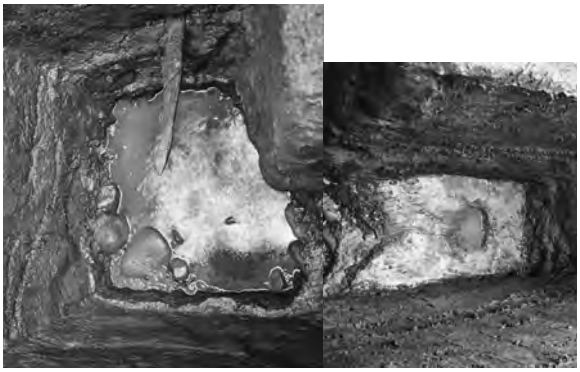


第５図　Ｔ１平面図（1/60）

写真図版４　Ｔ１完掘（西から）

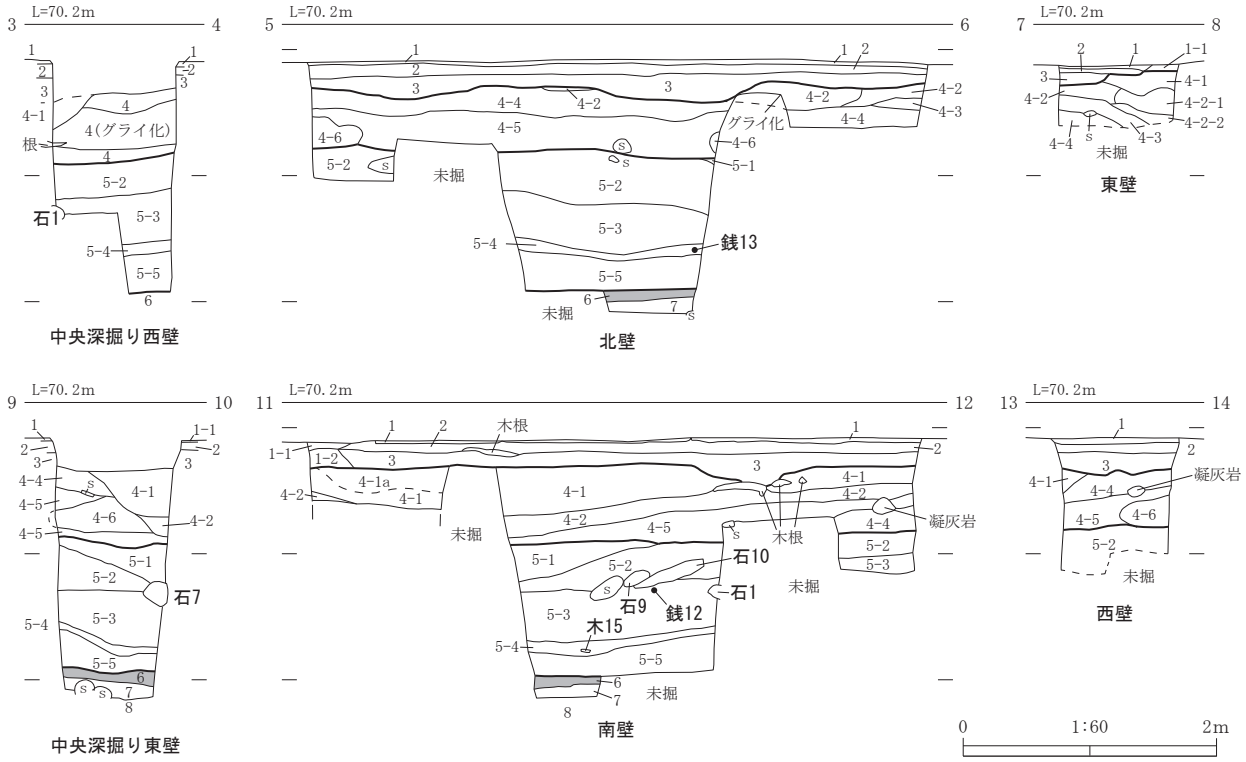
1.Ｔ１南壁土層断面（北から）

2.Ｔ１中央　南壁土層断面（北から）



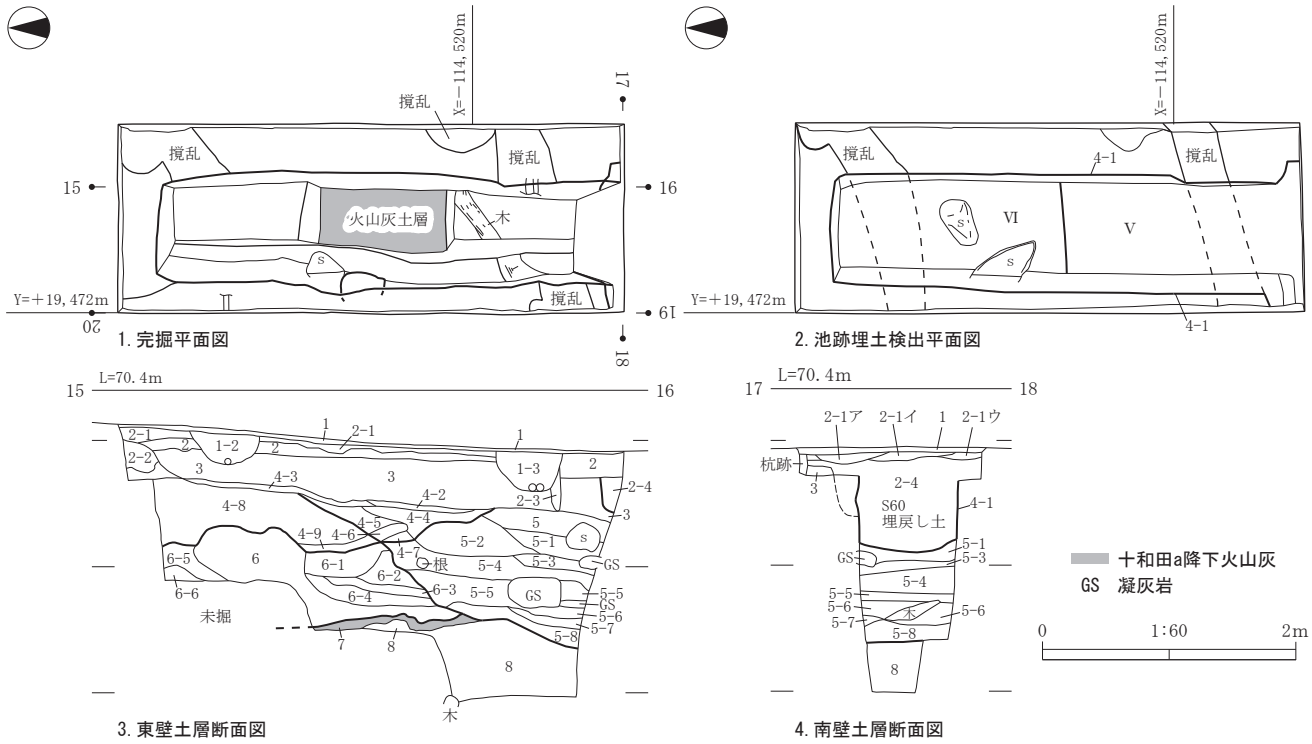
3.地山砂礫層と火山灰土層（北から）

写真図版５　Ｔ１土層断面及びトレンチ中央の状況



第６図　Ｔ１断面図（1/60）

層		名称	土色・土質　内容	推定年代
Ⅰ	1	表土　豆砂利参道	2.5Y4/3オリーブ褐　5～10ミリ大の豆砂利敷き　検出標高69.90m	平成～令和４年
	1-1	表土　南東側	10YR3/1黒褐シルト	
Ⅱ	2	客土	2.5Y5/4黄褐～2.5Y6/4にぶい黄砂質シルト　山砂　しまりあり	昭和60年以降
Ⅲ	3	砕石	2.5GY4/1暗オリーブ灰　砕石ラン 暗渠溝	昭和60年以降
Ⅳ	4	近世以降堆積土	2.5Y4/6オリーブ褐シルト　5～10ミリ大の小礫少量混	近世以降
	4-1	南側落込み埋土	5Y3/1オリーブ黒砂質シルト　グライ化　木根の細根多く入る	
	4-1-1	南側落込み埋土	5Y3/1オリーブ黒砂質シルト＋5Y4/1灰砂質シルト30～40%混	
	4-1-2	南側落込み埋土	2.5Y5/3黄褐シルト主体	
	4-2	東側落込み堆積土	2.5Y4/1黄灰～10YR3/2黒褐シルト主体＋7.5YR5/6明褐酸化鉄分10%沈着　上位グライ化	
	4-2-1	東側落込み堆積土	10YR4/2灰黄褐シルト～10YR5/3にぶい黄褐シルト主体＋7.5YR5/6明褐酸化鉄分少量混	
	4-2-2	東側落込み堆積土	10YR4/2灰黄褐シルト主体	
	4-3	東側落込み堆積土	10YR4/2灰黄褐～10YR4/1褐灰シルト＋10YR2/1黒色炭化物2%混　近世磁器出土北壁 2.5Y5/2暗灰黄砂質シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄凝灰岩ブロック3～5cm大で3%混	
	4-4	池跡上位堆積土	10YR4/3にぶい黄褐シルト～砂質シルト　グライ化して2.5Y5/2暗灰黄シルト＋2.5Y6/4にぶい黄砂質シルト3～5cm大で3%混	中世～近世以降
	4-5	池跡上位堆積土	5GY4/1暗オリーブ灰シルト主体（グライ化）酸化して2.5Y5/3黄褐となる＋7.5YR3/2黒褐砂質少量含む	
	4-6	池跡上位堆積土	10YR4/3にぶい黄褐シルト＋7.5YR6/6褐酸化鉄分シルト20%＋2.5Y6/4にぶい黄凝灰岩シルト地山ブロック30%混　4-5の間層	
Ⅴ	5	池跡堆積土	上位グライ化したシルト～下位は植物腐植物主体の層　植物茎や種子が少量入る	12世紀～中世以降
	5-1	池跡堆積土	10YR4/1褐灰シルト（酸化）グライ化して2.5GY4/1暗オリーブ灰となる	
	5-2	池跡堆積土	10YR4/1褐灰シルト　植物腐植物混入　グライ化して2.5GY4/1暗オリーブ灰シルトとなる	
	5-3	池跡堆積土	10YR3/2黒褐粘土質シルト＋植物腐植物混入　5-2と5-3の間にやや大振りの礫が入る	
	5-4	池跡堆積土	10YR3/2黒褐粘土主体　植物腐植物が多く入る	
	5-5	植物腐植土層	10YR3/2黒褐泥質粘土　植物腐植土が多く入る	
Ⅵ	6	火山灰土層	2.5Y7/1灰白～N7/灰　厚さ約10cmの火山灰テフラ　所々に植物腐植物が薄くラミナ状に堆積　十和田a降下火山灰の二次堆積層とみられる	10世紀初頭 （西暦915年頃）
Ⅶ	7	植物腐植土層	10YR2/2黒褐　植物腐植土　軟質シルト20%混	10世紀初頭以前
Ⅷ	8	砂礫土	7.5Y4/1灰　砂礫質の地山　3～25cm大の礫が主体で砂質分が入る	

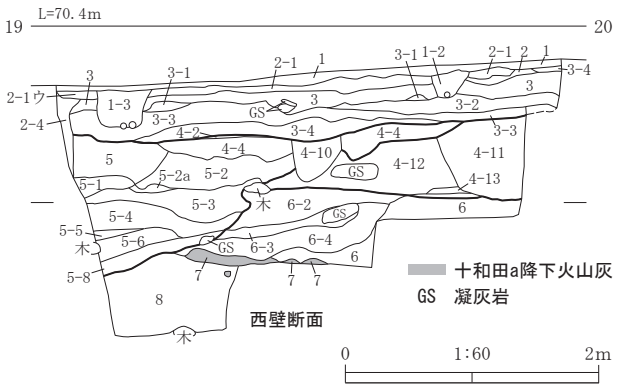


第７図　Ｔ２平面図・断面図（1/60）

1.Ｔ２完掘（西から）

2.Ｔ２西壁と中央の火山灰土層（南東から）

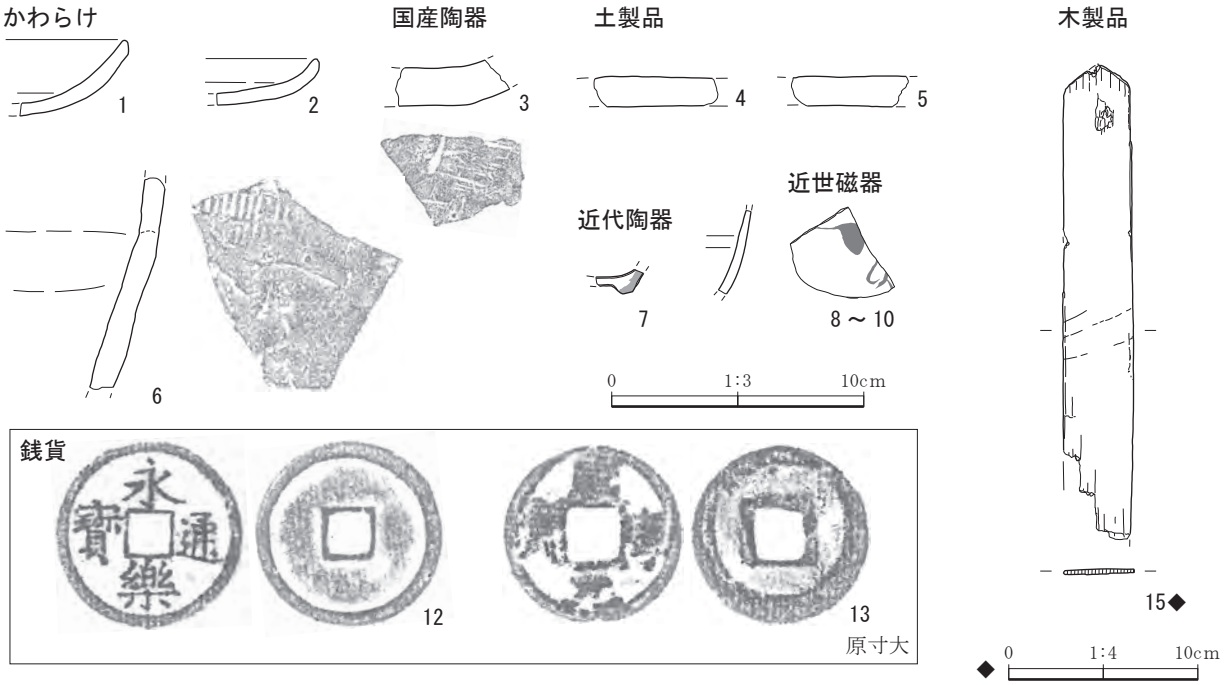
写真図版６　Ｔ２完掘



第８図　Ｔ２西壁断面図（1/60）

写真図版７　Ｔ２北西側断面（南東から）

層		名称	土色・土質　内空	推定年代
Ⅰ	1	表土	10YR3/4暗褐～10YR3/2黒褐シルト	平成～令和４年
	1-2	撹乱　電線埋設	2.5Y5/4黄褐砂質シルト＋10YR5/2灰黄褐シルト20%混	昭和～平成
	1-3	撹乱　電線埋設	2.5Y5/4黄褐砂質シルト＋10YR5/2灰黄褐シルト40%混	
Ⅱ	2	客土	2.5Y5/4黄褐～2.5Y4/6オリーブ褐砂質シルト　2-1の下位	昭和～平成
	2-1	客土	10YR4/4褐砂質シルト＋2.5Y7/4浅黄砂質シルト地山ブロック5%混　粘性余りなし　２の上位	
	2-1ア	客土	2.5Y5/1黄灰砂質シルト	
	2-1イ	客土	2.5Y5/4黄褐砂質シルト	
	2-1ウ	客土	2.5Y6/4にぶい黄砂質シルト	
	2-2	客土	10YR5/4にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄砂質シルト地山ブロック30%混	
	2-3	杭跡　撹乱	10YR5/2灰黄褐シルト主体	
	2-4	埋戻し土	2.5Y4/1黄灰シルト＋2.5Y6/4にぶい黄砂質シルト30～40%混　下位グライ化　昭和60年調査トレンチの埋戻し土	
Ⅲ	3	盛土	東7.5YR5/4にぶい褐～10YR5/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト5%混　酸化鉄分微量混　上位2.5Y5/4黄褐シルト 西10YR4/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄シルト地山ブロック1～3cm大で20%混　ビニール片混入　新しい埋土	昭和以降
	3-1	盛土	2.5Y6/4にぶい黄シルト　西壁の土層	年代不明
	3-2	盛土	10YR4/3にぶい黄褐砂質シルト＋2.5Y6/4にぶい黄砂質シルト20～30%混	
	3-3	盛土	10YR5/4にぶい黄褐砂質シルト＋7.5YR5/6明褐酸化鉄分沈着土20%混	
	3-4	盛土	10YR5/3にぶい黄褐砂質シルト	
Ⅳ	4	酸化鉄分沈着土	7.5YR5/6明褐シルト　酸化鉄分沈着層　シルト主体堆積土	
	4-1	酸化鉄分沈着土	7.5YR5/6明褐シルト　酸化鉄分沈着層　2-4（昭和60年調査トレンチの埋戻し土）との間に5～10ミリ厚で鉄分が集積した層	昭和60年以降
	4-2	黒色炭化物土	2.5Y5/1黄灰シルト＋10YR2/1黒色炭化物30%混　3～4cm厚さで堆積	年代不明 近世以降か
	4-3	帯状堆積土	2.5Y5/1黄灰シルト＋2.5Y6/4にぶい黄シルト～砂質シルト混　西壁3-4と同か	
	4-4	酸化鉄分沈着土	2.5Y5/1黄灰シルト＋10YR4/4褐シルト酸化鉄分30%混	
	4-5	酸化鉄分沈着土	7.5YR5/6明褐シルト　酸化鉄分沈着層	
	4-6	酸化鉄分沈着土	7.5YR5/6明褐シルト　酸化鉄分沈着層	
	4-7	酸化鉄分沈着土	7.5YR5/6明褐シルト　酸化鉄分沈着層	
	4-8	北側上位埋土	10YR5/4にぶい黄褐砂質シルト　ややしまりなし	
	4-9	酸化鉄分沈着土	7.5YR5/6明褐シルト　酸化鉄分沈着層	
	4-10	掘り込み状	10YR5/4にぶい黄褐シルト＋砂質シルト＋2～5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物３%混　地山ブロック20%混　柱穴か	
	4-11	北側掘込み状	10YR4/6褐砂質シルト＋2.5Y6/4にぶい黄砂質シルト30%混　ややしまりなし　北側崖下の一時的な掘込みか　4-13を切る	
	4-12	北側低位堆積土か	2.5Y6/4にぶい黄砂質シルト＋5GY5/1オリーブ灰砂質シルト30%混　礫入る　4-11層よりも固くしまる　６層北側低位堆積土に似る	
	4-13	黒色硬化土	10YR2/1黒色マンガン粒集積とみられる固い土層　4-11に切られる	
Ⅴ	5	池跡堆積土	2.5Y4/1黄灰シルト　水成堆積土	12世紀～中世以降
	5-1	池跡堆積土	2.5Y4/1黄灰シルト＋5GY5/1オリーブ灰シルト10%混	
	5-2	池跡堆積土	2.5GY5/1オリーブ灰シルト＋2.5Y4/1黄灰シルト50%混	
	5-2a	池跡堆積土	2.5Y4/1黄灰シルト＋5GY5/1オリーブ灰砂質シルト30%混　5-1に似る	
	5-3	池跡堆積土	2.5Y4/1黄灰シルト＋5GY5/1オリーブ灰シルト地山ブロック40%混	
	5-4	池跡堆積土	2.5Y4/1黄灰シルト＋5GY5/1オリーブ灰シルト地山ブロック30%＋礫少量混	
	5-5	池跡堆積土	2.5Y4/1黄灰シルト＋5GY5/1オリーブ灰砂質シルト20%混	
	5-6	池跡堆積土	2.5Y4/1黄灰粘土	
	5-7	池跡堆積土	2.5Y4/1黄灰粘土＋2.5GY5/1オリーブ灰砂質シルト10%混	
	5-8	池跡堆積土	2.5Y4/1黄灰粘土泥質土　植物腐植物入る	
Ⅵ	6	北側低位堆積土	2.5GY6/1オリーブ灰砂質シルト　崖面の風化堆積土とみられる層位	10世紀以降
	6-1	北側低位堆積土	10YR5/6黄褐シルト酸化鉄分沈着＋5GY6/1オリーブ灰シルト30%混　グライ化	
	6-2	北側低位堆積土	5GY5/1オリーブ灰シルト＋2.5Y4/1黄灰シルト30%混	
	6-3	北側低位堆積土	2.5Y4/1黄灰シルト	
	6-4	北側低位堆積土	2.5Y4/1黄灰シルト～2.5Y3/1黒褐粘土	
	6-5	北側低位堆積土	10YR4/3にぶい黄褐砂質シルト	
	6-6	酸化鉄分沈着土	10YR5/6黄褐シルト	
Ⅶ	7	火山灰土	7.5Y8/1灰白　十和田a降下火山灰テフラ　直下グライ化　5GY6/1オリーブ灰	10世紀初頭 （西暦915年頃）
Ⅷ	8	低地堆積土	7.5Y4/1オリーブ灰粘土主体　トレンチ北端に自然木か	



第９図　出土遺物（1/3・原寸大・1/4）

表１　遺物観察表　かわらけ

No.	図版	写図	出土位置	層位	種類	器種・部位	法量（推定）cm 口径	底径	器高	残存率（%）	年代	備考〈標高m〉	登録
1	9	8	T２	V層	かわらけ	手づくね皿・小	－	－	－	15	12C	小片	60-1
2	9	8	T２	V層	かわらけ	手づくね皿・大	－	－	－	20	12C	小片	60-2

表２　陶磁器　土製品

No.	図版	写図	出土位置	層位	種類	器種・部位	年代	備考〈標高m〉	登録
3	9	8	T２	V層	陶器　渥美	甕・底	12C	焼成不良〈68.68〉	59
4	9	8	T２	Ⅳ層	土製品　鉢か	底か	不明	焙烙か	43
5	9	8	T２	撹乱	土製品　鉢か	底か	不明	焙烙か	41
6	9	8	T１	Ⅳ層（4-5）	陶器　常滑	甕・胴	12C	格子状押印　内外面摩滅〈69.25〉	22
7	9	8	T１	Ⅱ層	陶器　不明	皿・底	近代	小片	1-2
8	9	8	T１	Ⅳ層（4-3）	磁器　肥前	瓶・体	18c	8～10　3片接合　外面染付	5
9	9	8	T１	Ⅳ層（4-3）	磁器　肥前	瓶・体			8
10	9	8	T１	Ⅳ層（4-3）					9

表３　石器

No.	図版	写図	出土位置	層位	種類	形状	法量（cm）長さ	幅	厚さ	残存率（%）	年代	備考〈標高m〉	登録
11	－	8	T２	V層	土製品	凹基無茎	2.0	1.3	0.45	100	不明	〈69.15〉	25

表４　銭貨

No.	図版	写図	出土位置	層位	種類	法量（cm, g）大きさ	重量	残存率（%）	年代	備考〈標高m〉	登録
12	9	8	T１	V層（5-2）	永楽通寶	2.5	2.7	100	1408	明銭〈68.71〉	13
13	9	8	T１	V層（5-4）	熙寧元寶	2.4	3.5	100	1068	北宋銭〈68.41〉	14

表５　土製品

No.	図版	写図	出土位置	層位	種類	器種・部位	法量（cm）（残存値）長さ	幅	厚さ	残存率（%）	年代	備考〈標高m〉	登録
14	－	8	T２	V層（5-5）	土製品	羽口	(5.0)	(4.8)	(1.2)	破片	不明	４片接合〈68.71〉	56

表６　木製品

No.	図版	写図	出土位置	層位	種類	形状	法量（cm）長さ	幅	厚さ	残存率（%）	年代	備考〈標高m〉	登録
15	9	8	T１	V層（5-3）	加工木	板状	25.0	3.7	0.2	不明	不明	一端山形に加工〈68.28〉	16
16	－	8	T１	V層（5-3）	加工木	杭状	21.8	6.2	－	不明	不明	先端焼け焦げ〈68.22〉	17

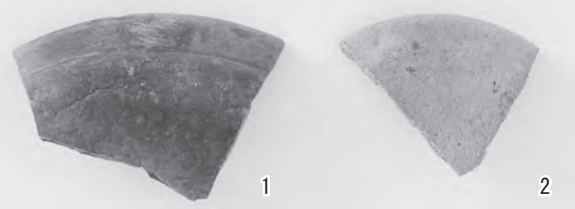
表７　T１出土礫（石１～10）

No.	大きさ（cm）	石質	層位	標高（m）
石1	22×16×7	デイサイト	Ⅳ（4-5）	69.15
石2	30×20×10	デイサイト	Ⅳ（4-5）	69.62
石3	21×16×7	凝灰岩	Ⅳ（4-5）	69.23
石4	15×14×15	溶結凝灰岩	Ⅳ（4-5）	69.32
石5	19×15×12	凝灰岩	Ⅳ（4-5）	69.27

No.	大きさ（cm）	石質	層位	標高（m）
石6	16×14×8	凝灰岩	V	69.15
石7	62×18×15	安山岩	V	69.62
石8	31×15×11	デイサイト	V	69.23
石9	20以上	溶結凝灰岩	V 5-2	69.32
石10	60以上	凝灰岩	V 5-2	69.27

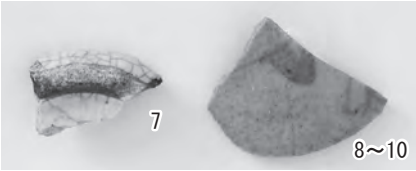
表８　遺物集計表

地点・層位	かわらけ				遺物（年代・種類・図等）
	小計	手づくね	不明	重量ｇ	
Ｔ１・Ⅱ（2）					十円青銅貨（昭和44）1、近代陶器1
Ｔ１・Ⅳ一括					常滑産陶器甕1、木片少量、加工木少量
Ｔ１・Ⅳ（4-3）	1		1	1	肥前産染付磁器3片接合（図８～10）
Ｔ１・Ⅳ（4-5）					礫（石１～５）
Ｔ１・Ⅴ（5）	2	2		14	銭貨2（永楽通寶１、熙寧元寶1）、加工木2（図15）、杭状1（図16）、種子12（モモ類10、マツ球果1、不明1）、石器（石鏃）1、礫（石６～10）、骨?1
Ｔ１・Ⅶ（7）					木片（枝）1
Ｔ１・層位不明					金属製品か
小計	3	2	1	15	
Ｔ２・攪乱	6	4	2	24	土製品1（焙烙）、ガラス少量
Ｔ２・Ⅱ（2-4）	10	7	3	72	土製品1（焙烙）、近現代磁器1（昭和60年トレンチ埋戻し）
Ｔ２・Ⅲ（3）	12	7	5	28	種子1（不明1）
Ｔ２・Ⅳ（4）	21	12	9	107	木の枝葉少量
Ｔ２・Ⅴ（5）	17	12	5	38	かわらけ（図1・2）渥美産陶器甕1（図3）、加工木1、木片少量、種子1（不明1）
Ｔ２・Ⅵ（6-1）					凝灰岩2、木枝3
Ｔ２・層位不明	2	2		2	
小計	68	44	24	272	
合計	71	46	25	287	

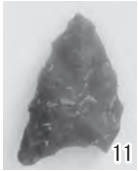


渥美産陶器　　土製品

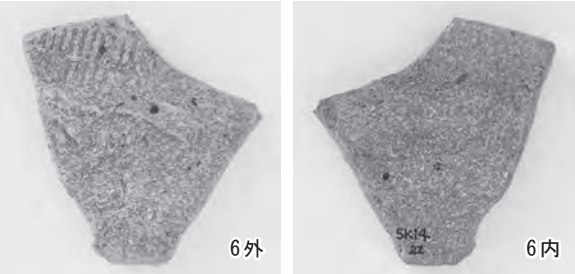
かわらけ



陶磁器

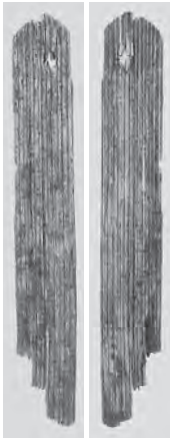


石器



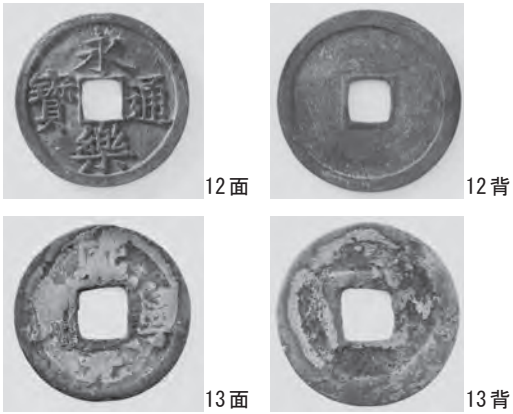
常滑産陶器

羽口

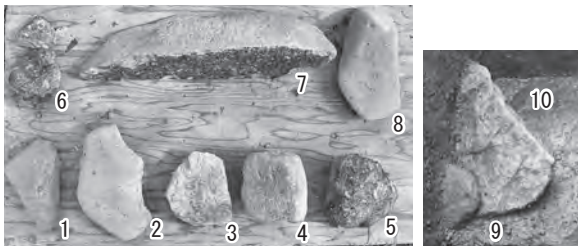


加工木

杭状



銭貨



Ｔ１出土礫（石１～10）

写真図版８　出土遺物（１～16）・Ｔ１出土礫（石１～10）

西光寺跡第15次発掘調査

1　調査要項

地　　点　　岩手県西磐井郡平泉町平泉字北沢16番
調査面積　　113㎡
調査期間　　令和４年９月27日～12月１日
原　　因　　内容確認調査（堂改修に伴う発掘調査）
調査担当　　菅原計二

2　位置と概要

本調査は、達谷西光寺境内の「姫待不動堂」の改修（新築建替）に伴う内容確認調査である（36頁第１図参照）。堂は境内西側の窟毘沙門堂並びに鐘楼堂と境内中央の本堂の間に挟まれた白山沢右岸に立地し、標高は約72ｍである。別當代達谷窟敬祐氏によれば、寺伝に太田川の姫待滝付近に達谷西光寺の飛地があり、ここに奥州藤原氏二代基衡公により堂が建立されて本尊を祀っていたが、長年の風雨により堂が朽ちたため、これを再建するのに際して現在地に移されたものと伝わる。堂は桁行三間梁間三間一重宝形造萱葺で、南面する正面と左右の三方に縁を巡らし正面には向拝と階段が取付く。本尊は木造不動明王坐像（岩手県指定有形文化財）で平安時代後期の作とされ、堂には寛政元年（1789）の棟札が残る。本調査は現状の堂建物を解体して礎石が残された段階から開始した。礎石の平面断面を実測した後に重機で礎石を移動し、堂の盛土基壇中央に十字トレンチ及び堂跡の四辺と柱筋の礎石掘方に沿って方眼状のトレンチを設定して掘り下げ、土層と遺構の状況を確認した。調査の結果、姫待不動堂は自然沢を２回埋めた整地の上に築かれていた。自然沢が中ほどまで埋没した時期に１回目の地業を行い、直後に幅約３ｍの大溝である１号溝を築いて一時期の流路としていた。この１号溝が自然堆積によって半分ほど埋まった時期に、当地の上面を切土して大溝も含めた形で２回目の地業を行っており、この盛土上面に姫待不動堂の基盤となる礎石を据えて堂を構築していた。検出した遺構は旧地形の沢跡、地業層（１期整地）、大溝（１号溝）、堂建物の地業（２期整地）並びに礎石遺構（礎石・掘方・根固め石）、堂の雨落溝（２号溝）である。主な遺物は寛永通寶などの銭貨、沢の西側斜面土から土師器甕、沢の東側斜面土から１２世紀のかわらけと常滑産陶器、南側の斜面土から縄文土器が出土した。以下は経過である。９月27日基準点とレベル移動、28日基準点杭打ち、29日平板による地形測量開始、10月11日発掘資材搬入・礎石検出並びに実測開始、20日礎石の移動と計測、21日礎石の計測と地形測量、24日礎石掘方の根石検出と実測、28日西トレンチ精査開始、11月２日調査区中央の十字トレンチ精査、10日調査区北東側の１号溝精査、14日礎石掘方の根石検出と写真撮影、18日南側深掘りと北側トレンチ精査・実測、24日十字トレンチ西側斜面精査・実測、30日全体清掃と写真撮影、12月１日実測の捕捉と発掘資材の撤去を行い、現場での作業を終了した。

3　調査成果

遺　構　［平安～近世］沢跡（白山沢）、地業層（１期整地）、１号溝
［近世］姫待不動堂（礎石・礎石掘方・根固め石）並びに地業層（２期整地）
［昭和～現代］２号溝

遺　物　［平安（９～10世紀）］土師器甕、土師器
［12世紀］かわらけ・常滑産陶器

［近世］銭貨（寛永通寶）、陶磁器

［その他］縄文土器、不明土器、鉄釘等少量、近現代陶磁器少量、近現代銭貨（賽銭）

（1）土層（第３図・表１）

土層は北側トレンチと十字トレンチ、南西側の深掘りトレンチの層序を主として確認した。本調査区の層序は大きくⅠ～Ⅸ群の９層に分けられる。Ⅰは表土と撹乱及び堂の雨落溝である２号溝を一括した。表土には堂の床下と基壇の風化土層を含む。Ⅱは堂礎石の掘方埋土、Ⅲは２期整地で堂の基壇となる造成土、Ⅳは１号溝、Ⅴは１期整地、Ⅵは東側斜面堆積土、Ⅶは西側斜面堆積土、Ⅷは沢跡埋土、Ⅸは地山である。

表１　土層

Ⅰ	1	1-1～1-1-2	表土　堂基壇上面埋土　10YR4/3にぶい黄褐シルト主体　　撹乱　２号溝（雨落溝）
Ⅱ	2	2-1·2-2	堂礎石掘方埋土　掘方底面に根石が入る　一部の礎石据え直しの際に銭貨混入
Ⅲ	3	3-1～3-5	２期整地　人為的な切土盛土　10YR4/3にぶい黄褐シルト＋地山ブロックシルト混
Ⅳ	4	4-1～4-10	１号溝　上位は流路の上層　中位は火山灰土　下位は流路の下層　２期整地が被う
Ⅴ	5	5-1～5-4	１期整地　人為的な切土盛土　2.5Y7/4浅黄シルト～粘土地山ブロック主体
Ⅵ	6	6-1～6-4	東側斜面堆積土　沢跡左岸の斜面堆積土　12世紀のかわらけ片出土
Ⅶ	7	7-1～7-4	西側斜面堆積土　7.5YR3/2黒褐シルト他　旧表土及び地山壁面崩壊土混　土師器出土
Ⅷ	8	8-1～8-9	沢跡　上位褐灰粘土　中位火山灰土　下位泥質土と砂質シルトが交互に堆積
Ⅸ	9	9-1～9-5	地山　2.5Y7/4浅黄シルト～粘土主体　にぶい黄橙砂質土やグライ化層がみられる

（2）遺構

姫待不動堂の概要

解体された近世の「姫待不動堂」の規模は礎石中央で東西7.50ｍ、南北8.30ｍを測る。三間×三間の身舎は間飛びの礎石の上に柱を据え、外周の四面に縁を回して床束で支える形で、中央内陣の須弥壇に不動明王座像を安置する。前面の階段は角型の木材と石材を併用する。第11図の堂外観と間取り図は達谷窟敬祐氏の原図によるものである。礎石の一部については昭和から現代にかけての縁の補修や防災関連の電気ケーブルを埋設した際に礎石を据え直した痕跡が見られた。遺物は堂床下の表土や礎石掘方の埋土から寛永通寶や明治・大正の銭貨が出土したが、これらは礎石を据え直しの際に混入したもので、地鎮等で埋納された状況とみられるものは無い。解体された堂の部材は境内近くの倉庫に保管し、状態が良好な柱や壁板などの部材は礎石とともに新築する堂に使用されることとなった。姫待不動堂の礎石には堂の修復を担当する棟梁により番号が付けられており、本報告もこの番付の名称を使用した（第３図）。

姫待不動堂の基礎　２期整地（Ⅲ）並びに礎石･掘方･根固め石（Ⅱ）（第２～６図･表２･写真図版４）

姫待不動堂の礎石は前述の通り、二回の整地の上に築かれていた。自然沢を人為的な切土盛土で埋める一回目の地業層である「１期整地」を逆台形の１号溝が掘り込み、１号溝が流路の土砂や有機質の堆積物で中ほどの深さまで埋まった段階で、堂の基壇を造成する二回目の地業である「２期整地」を行っている。そして堂造営のための一連の工程として２期整地の上面を掘り込み、礎石の掘方となる穴の底に拳大の小礫を多数敷き詰めて根固めとし、この上に礎石を据えて堂を構築している。２期整地の厚さは中央トレンチ北側から中央で10～20㎝、中央トレンチ南側で約60㎝である。１期整地の直上に２期整地の埋土が乗ることから、２期整地の地業の際に１期整地の上位を切土削平したものと考えられる、遺構は確認できないものの、１期整地を行う段階で当地の上面に何らかの建造物等を造作する目的があった可能性がある。

沢跡（白山沢）と東側斜面堆積土（Ⅵ）・西側斜面堆積土（Ⅶ）（第７図・写真図版６）

沢跡は姫待不動堂の基盤となる２回の整地と１号溝の下で検出した。堂北側の上流側から眞鏡山の表層地盤である凝灰岩を開削し、北上川支流の太田川に至る自然沢の流路である。沢跡は本調査区のほぼ全面に広がる様相で、北側トレンチの東西両端を拡張して掘り下げ、地山とみられる土層を検出した。検出長約10.50ｍ、溝幅14.00ｍ、深さ200㎝以上を測る。調査区北西端の深掘りトレンチで検出した土層断面では、沢跡堆積土の直上に１期整地が被い、これを逆台形の１号溝が掘り込む。１期整地の直上には堂の基盤となる２期整地の地業層が被い、１号溝が存在した頃の表土は認められない。これは２期整地の盛土を行う直前に当地一帯を平坦に切土する地業を行ったのちに盛土を施したものと考えられる。沢跡の埋土は下層が砂や泥質土・植物腐植土の堆積がみられる自然堆積土の様相で、中位の火山灰土層を挟んで上位には流水性のシルトが堆積する。沢跡の埋土は、上位が褐灰～黒褐粘土で植物腐植物がやや多く入る。中位が十和田ａ降下火山灰とみられるにぶい黄～褐灰土で細かい粒子のテフラ層、下位は灰～褐灰を呈する砂質土と粘土のラミナや水分が多い泥質土が重なる。東側斜面土は１期整地以前の沢跡堆積土である。12世紀のかわらけ片が出土した。西側斜面堆積土は旧地形の上面に堆積する土砂が、９～10世紀の土師器と共に自然沢に流れ込んだ層位である。黒色炭化物を含む。

１期整地（Ⅴ）（第７・８図・写真図版２）

１期整地は当地の旧地形である自然沢の流路に地山を切土した土砂を用い、当地を平坦にするために行った大規模な地業層である。検出範囲は本調査区西辺と北東側の東西間で約14ｍの幅があり、北側トレンチの北壁側でも整地と同様の埋土が覆っていることから、沢地形のほぼ全面に広がっているものと考えられる。北西側トレンチ断面では約70㎝の厚さがあり、鐘楼堂から当地の北側を回る参道通路の一段高い平坦部も含めてこれらは人為的な盛土地形であると推定される。１期整地に係わる遺構については、１期整地の上面が削平されているために痕跡は確認できないが、堂などの建造物や施設を構築することを目的として地業が行われた可能性がある。１期整地の年代は確定できないが、東側の沢跡斜面堆積土（Ⅶ）からかわらけ片が出土していること、堂の建立が近世であることから12～18世紀以前と推定した。

溝　跡（第１・７図・写真図版２）

沢跡と２条の溝跡を検出した。沢跡は当地で「白山沢」と呼ばれる流路の前身で、12世紀～近世以前の自然流路である。１号溝は自然流路の１号溝を埋めた１期整地の直後に掘り込まれた溝跡である。18世紀まで開口し、２期整地により埋められている。２号溝は姫待不動堂の雨落溝で現代の溝跡である。

１号溝（Ⅳ）　１号溝は調査区北西側の北壁から南西側にかけて検出した。白山沢の自然流路全体を人為的に埋めた１期整地層を掘り込んで築かれた溝跡で、断面形は逆台形を呈し溝幅約３ｍ、底幅1.20ｍ、深さ約１ｍの大溝である。Ｎ10°Ｗの軸線で、底面標高は北西側74.28ｍ、南西側74.04ｍ以下で北から南に下る。上位の埋土は２期整地とみられる人為的な埋め戻し土である。自然堆積の埋土は中位のにぶい黄褐や黄橙、灰黄褐シルトから下の層位がそれに当たり、下位は砂質と泥質土のラミナである。１号溝は１期整地の地業に伴い、白山沢の排水を確保する目的で築かれた一時期の流路と考えられる。

２号溝（Ⅰ）　姫待不動堂の四方を巡る雨落溝である。検出長は北辺9.80ｍ、南辺10.80ｍ、東辺10.00ｍ、西辺10.00ｍ、溝幅45～70㎝、深さ２～10㎝を測り、断面形は浅い皿形である。埋土はにぶい黄褐砂質シルト主体である。埋土から現代の陶磁器やガラス片などが出土し、古い様相は認めらない。

写真図版１　西光寺跡第１５次調査終了全景（南から）

写真図版２　北側トレンチ北西側　１号溝・１期整地・沢跡断面（南から）

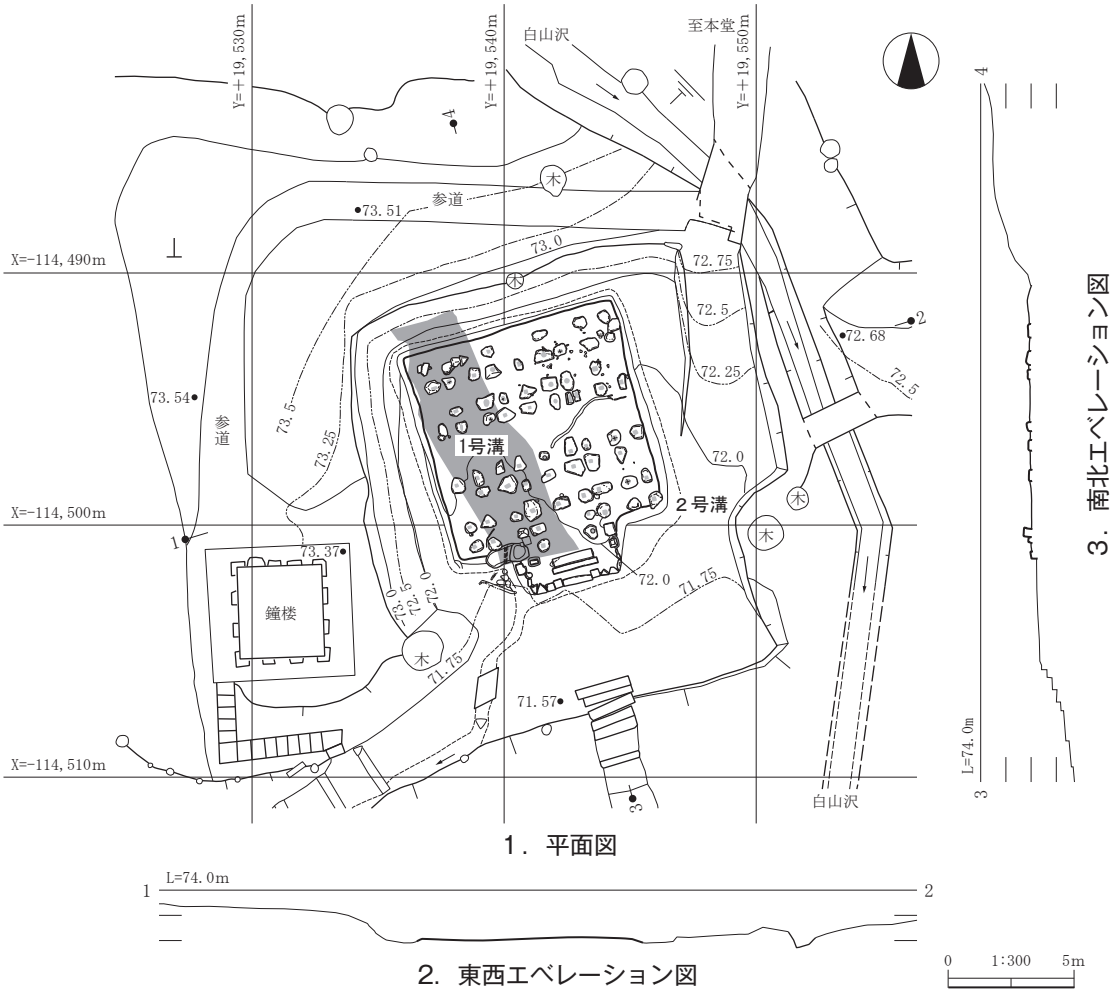
(3) 遺　物（第９・10図・表４～９・写真図版７）

本調査区から１２世紀のかわらけと常滑産陶器1点、平安時代（9～10ｃ）の土師器甕１点と内黒土師器、銭貨、近世陶器、縄文土器、不明土器、鉄釘、鉄製品、近現代の陶磁器や雑物等が少量出土した。銭貨は古寛永と新寛永の波銭のほか、仙台通寶や明治や大正時代の銭貨がある。賽銭とみられる現行の貨幣については達谷西光寺の所有物として扱った。これらの出土遺物の中から36点を抽出して図示した。1～3は12世紀のかわらけである。１は口縁で沢跡東側堆積土出土、２は手づくね、３はロクロ底部、４は国産陶器で渥美産甕（12ｃ）、５～８は近現代磁器（19～20ｃ）、９は近世陶器で大掘相馬の鉢（18c）、10は在地産の陶器碗（19c）、11～13は土師器甕（9～10c前半）。11は小型甕の接合完形、12は内黒甕の胴部、13は長胴甕の底部破片である。土師器は調査区西側の黒褐斜面堆積土から多く出土し、旧表土からの流れ込みとみられる。14・15は縄文土器で、14は鉢もしくは深鉢、15は深鉢底部、16～31は銭貨で表土もしくは礎石掘方から出土した。16～23・25・29は寛永通寶で18と25は背11波である。21と22は古寛永、その他は新寛永である。24は桐一銭青銅貨（大正9年）、26～28は仙台通寶で26は錆が著しく、27は錆と風化のため粉々の状態だが、28は状態良好である。30・31は半銭銅貨（1873～1888年）、32は不明鉄製品、33～35は鉄製品の和釘で堂の解体時に落下したものとみられる。36は１号溝出土の釘状の不明鉄製品である。

４　まとめ

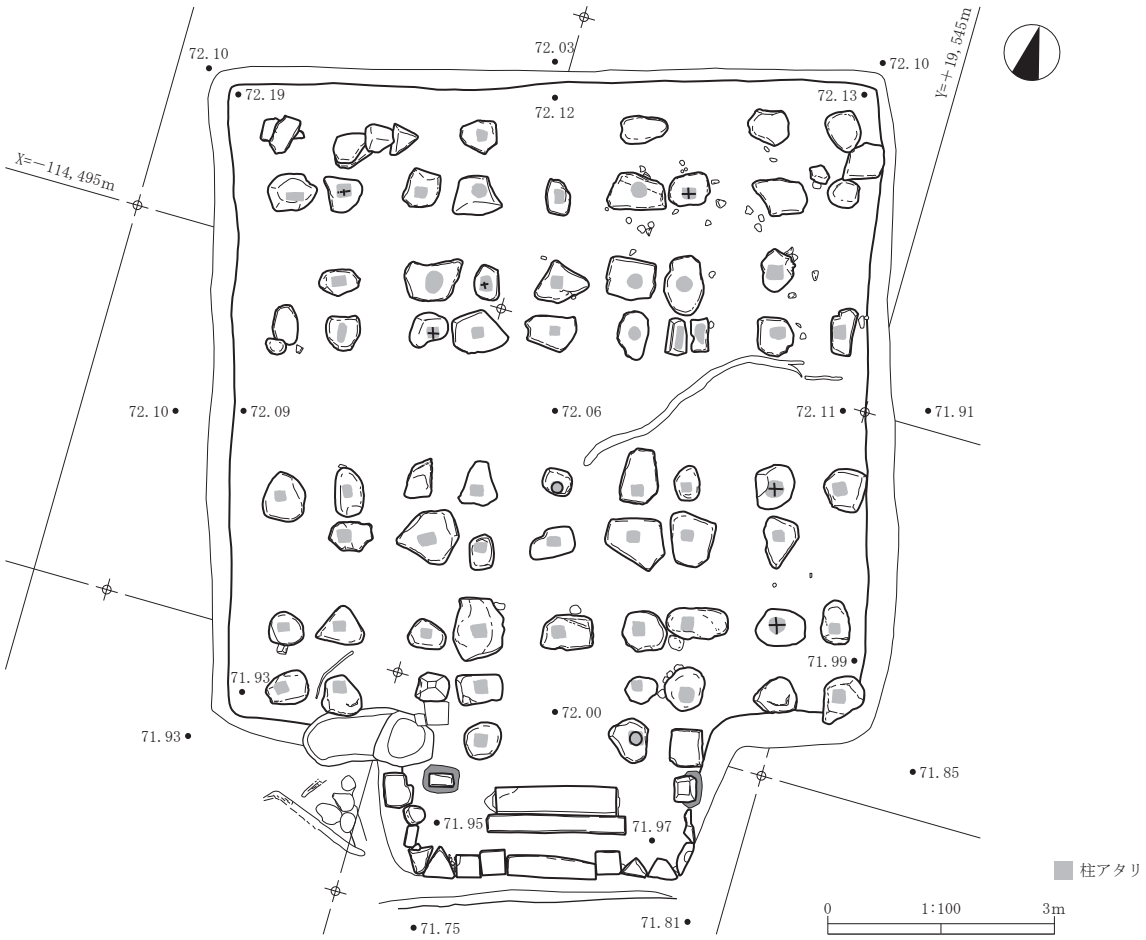
本調査は達谷西光寺境内の「姫待不動堂」の改修（新築建替）に伴う内容確認調査である。調査の結果、堂は白山沢の旧地形である自然流路を人為的に埋めたてた二回の地業（１期整地・２期整地）と１期整地を逆台形に掘り込む１号溝の上に築かれていた。沢跡の下層には十和田a降下火山灰とみられる層が自然堆積しており、10世紀以前には沢の流路が開口した地形であったと考えられる。この流路が自然堆積により中ほどまで埋まった時期に１期整地を行い、この直後に１号溝が掘り込まれている。この溝には周辺部の土壌が風雨の侵食や風化により周辺から土砂が流れ込み、溝が中ほどまで自然堆積が進んだ段階で、姫待不動堂の基盤となる「２期整地」が行われ、基壇に礎石を据えて堂が築かれた。堂の周囲にみられる雨落溝には現代の雑物が混じる。出土した遺物は平安時代（９～10世紀）の土師器甕、12世紀のかわらけと常滑産陶器、近世以降の陶磁器、寛永通寶などの銭貨、鉄製品、縄文土器、近現代陶磁器や雑物が少量出土した。これらの調査成果から当地点の様相について、以下の変遷を想定している。

年　代	内　容
【10世紀以前】	白山沢（自然沢）の周囲に土師器甕を使用した生活空間が存在
【10世紀初頭】	白山沢の下層に十和田a降下火山灰が堆積（915年頃）
【12世紀】～【中世・近世】	沢に土砂が自然堆積して中位まで埋まる。人為的な地業による「１期整地」で沢全体を埋め立てる。この直後「１期整地」の西側に１号溝を南北に掘り込み、一時期の白山沢の流路とする
【18世紀】	１号溝が自然堆積土で中ほどまで埋まった頃に「１期整地」の上面を平坦に切土し、この直上に「２期整地」の地業を行う。「２期整地」の上面に礎石を据えて姫待不動堂が築かれる（1789年）
【昭和～現代】	堂の縁補修、保安設備等の電気ケーブル敷設工事、堂の全面的改修のため解体（令和4年）

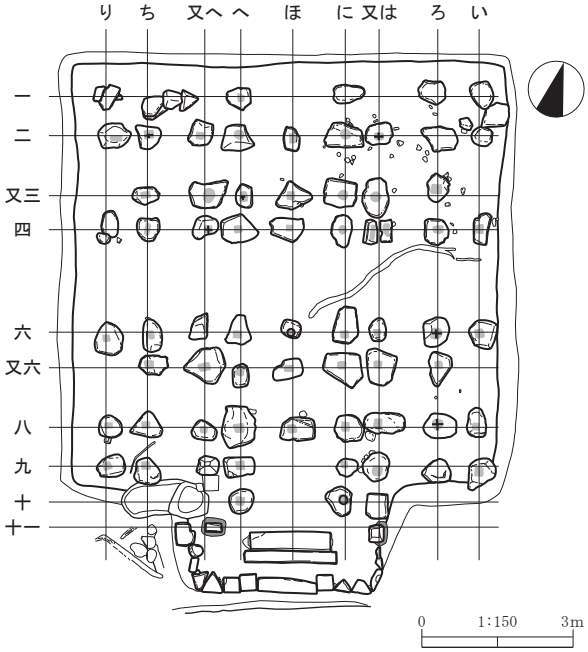


第１図　地形　平面図・エレベーション図（1/300）

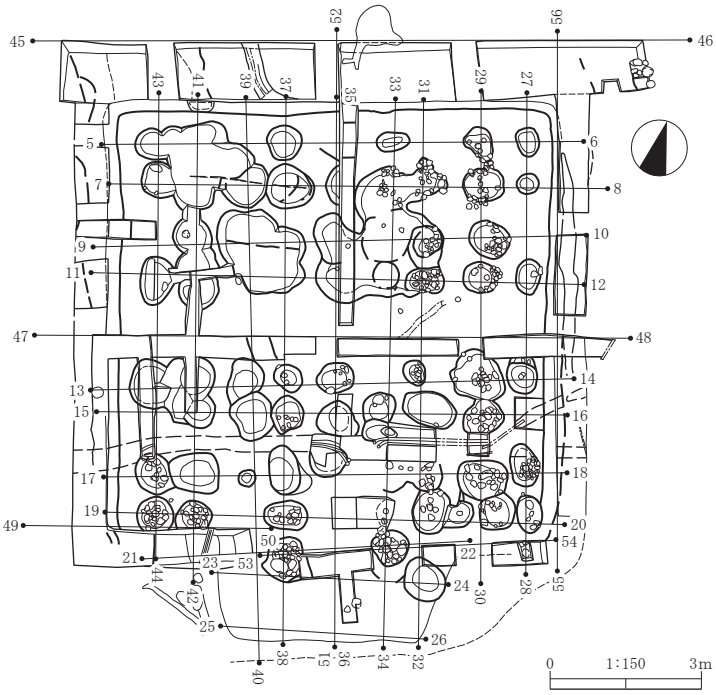
写真図版３　調査前状況（南西から）



第２図　基壇及び礎石配置図（1/100）



第３図　礎石番付図（1/150）



第４図　測点位置図（1/150）

表２　姫待不動堂礎石一覧

礎石番付	一	二	又三	四	六	又六	八	九	十	十一		
い	い一 37×52×24 71.99m（堂北東端）	い二 41×37×27 71.95m	なし	い四 32×52×21 72.03m	い六 51×54×18 72.02m	なし	い八 37×55×35 71.85m	い九 48×64×28 71.90m （堂南東端）				
ろ	ろ一 46×50×15 72.06m	ろ二 66×48×20 71.99m	ろ又三 42×51×25 72.00m	ろ四 40×48×34 71.92m	ろ六 44×54×28 71.92m	ろ又六 44×65×20 71.96m	ろ八 63×45×37 71.83m	ろ九 55×47×20 71.95m				
又は	なし	又は二 52×42×18 72.03m	又は又三 51×75×28 71.95m	又は四 礫1（25）×43×－ 72.08m 礫2（29）×49×21 72.06m	又は六 32×48×20 72.01m	又は又六 60×69×21 71.97m	又は八 77×41×27 71.86m	又は九 47×56×36 71.92m	は十 39×50×19 71.92m	又は十一 22×32×41 71.91m 砕石の上にコンクリート東石 71.91m	階段（北）長155×幅35×厚さ（30）長方形　71.98m	階段（南）長184×幅19×厚さ（14）長方形　－m
に	に一 55×37×19 72.05m	に二 70×48×20 71.99m	に又三 56×51×26 71.99m	に四 38×63×17 72.02m	に六 50×72×15 72.04m	に又六 72×69×28 71.86m	に八 59×49×25 71.88m	に九 33×38×20 71.86m	に十 43×58×34 71.86m			
ほ	なし	ほ二 32×48×21 71.96m	ほ又三 73×54×32 71.93m	ほ四 64×37×19 71.96m	ほ六 36×34×28 71.91m	ほ又六 58×40×20 71.92m	ほ八 64×43×29 71.92m	なし	なし			
へ	へ一 51×43×22 71.99m	へ二 60×53×24 71.94m	へ又三 29×46×19 71.95m	へ四 73×58×25 71.90m	へ六 50×62×19 71.91m	へ又六 36×48×24 71.88m	へ八 60×80×24 71.82m	へ九 50×35×39 71.71m	へ十 38×41×36 71.71m			
又へ	又へ　なし ち一東隣り 西礫① 36×37×29 東礫② 33×45×27	又へ二 46×50×22 71.93m	又へ又三 74×55×35 71.82m	又へ四 51×48×27 71.85m	又へ六 34×50×15 71.92m	又へ又六 79×67×25 71.83m	又へ八 47×36×28 71.76m	又へ又九 40×39×43 71.83m	又へ十 31×31×12 71.91m	又へ十一 34×19×33 －m 砕石の上にコンクリート台 71.93m		
ち	ち一 東側礫 50×（43）×13 72.02m	ち二 50×43×14 71.85m	ち又三 51×32×14 71.96m	ち四 42×48×31 71.79m	ち六 36×61×38 71.74m	ち又六 54×38×29 71.81m	ち八 62×50×33 71.72m	ち九 47×55×20 71.83m				
り	り一 上礫24×47×12 72.14m 下礫56×（36）×18 71.99m （堂北西端）	り二 64×49×12 72.03m	なし	り四 34×48×22 71.97m	り六 52×59×28 71.92m	なし	り八 48×44×28 71.80m	り九 53×44×27 71.81m （堂南西端）				

凡例　礎石東西通り番付　漢数字（一～十一）　　礎石南北通り番付　いろは順（い～り）
礎石番付：　長さ×幅×厚さcm（ ）内は推定値　　礎石上面の標高（m）　備考の順に記載

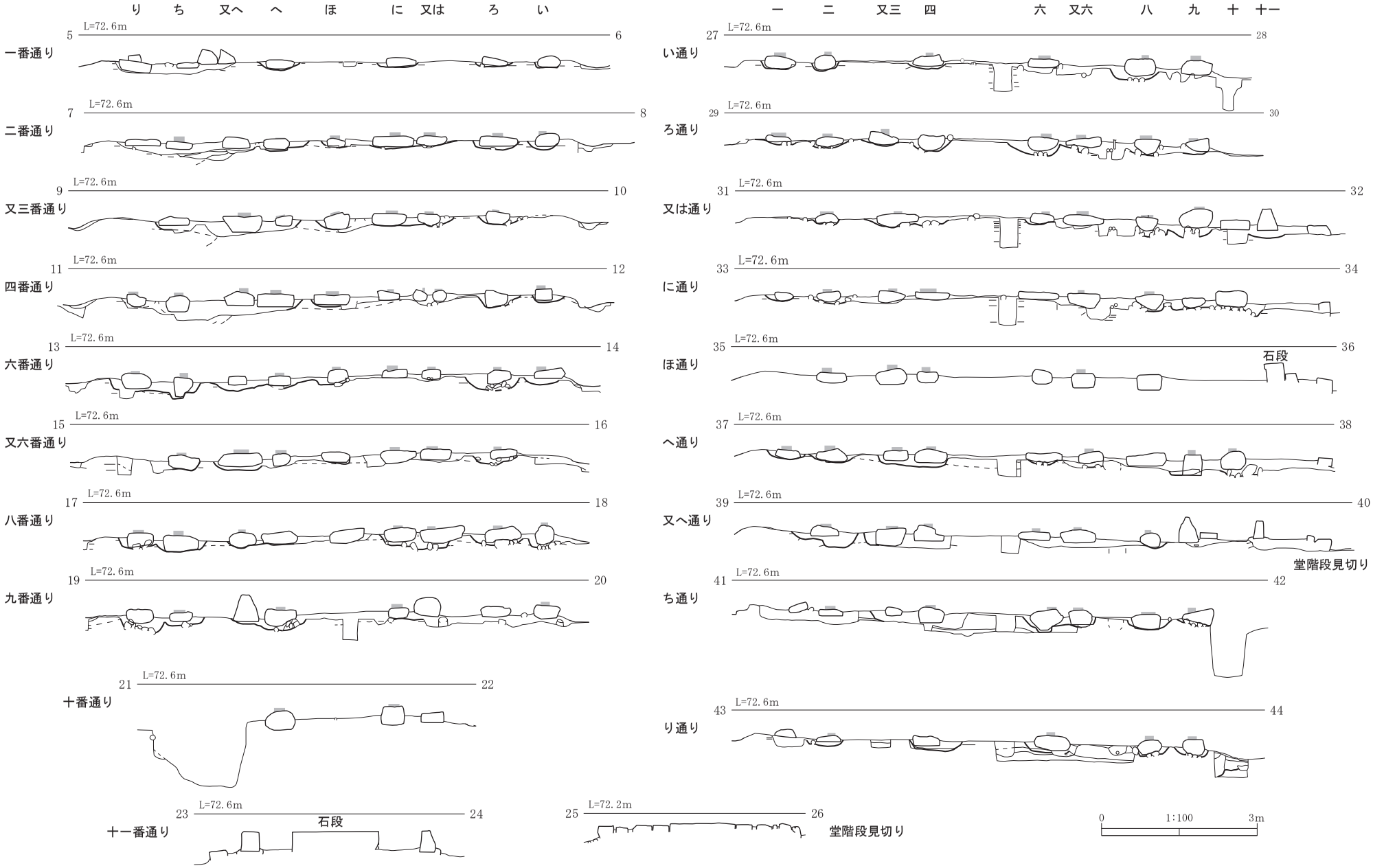
堂礎石検出（南西から）

堂礎石の根石検出状況（東から）

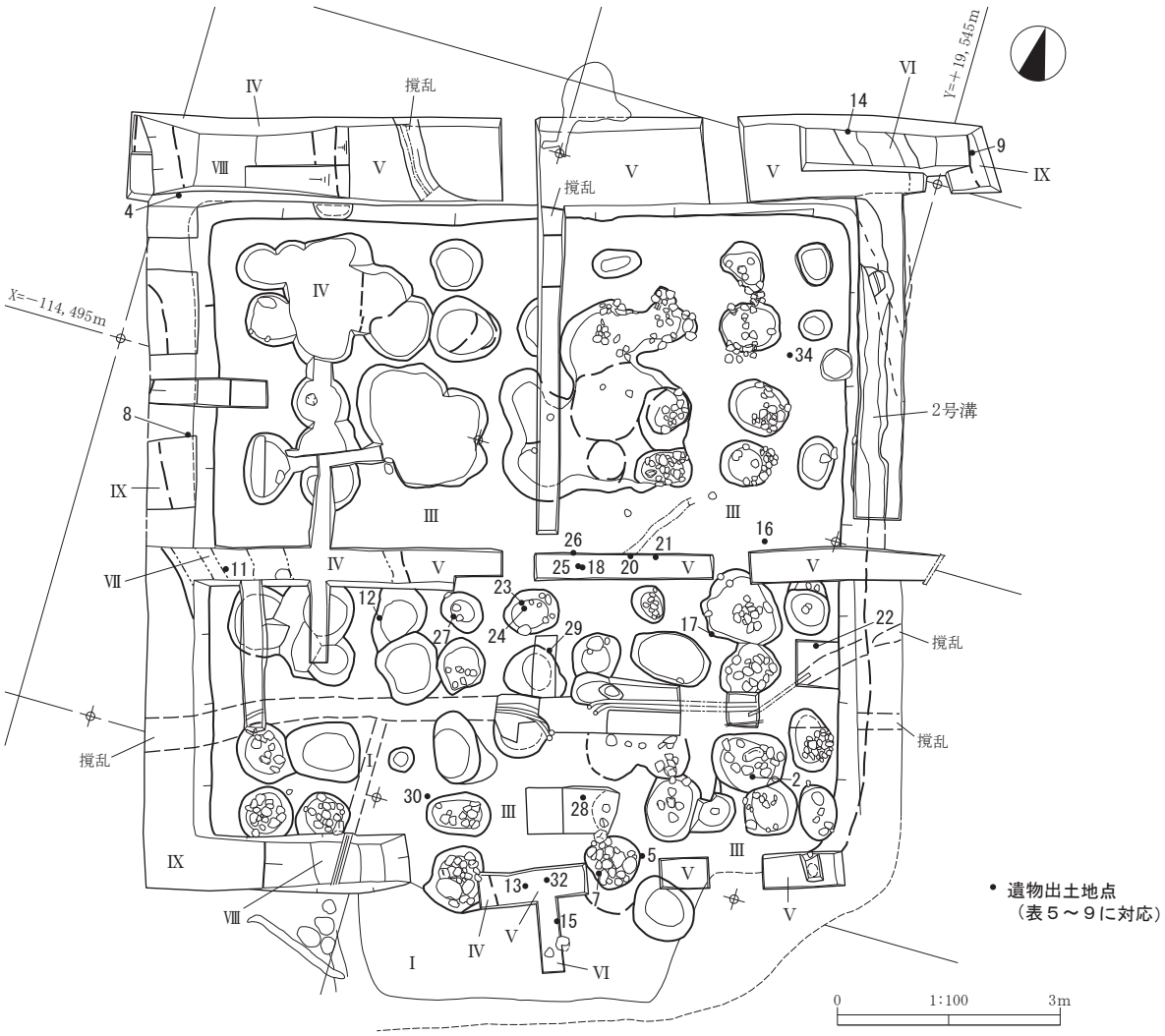
写真図版４　姫待不動堂の礎石と根石

表３　遺構　溝跡

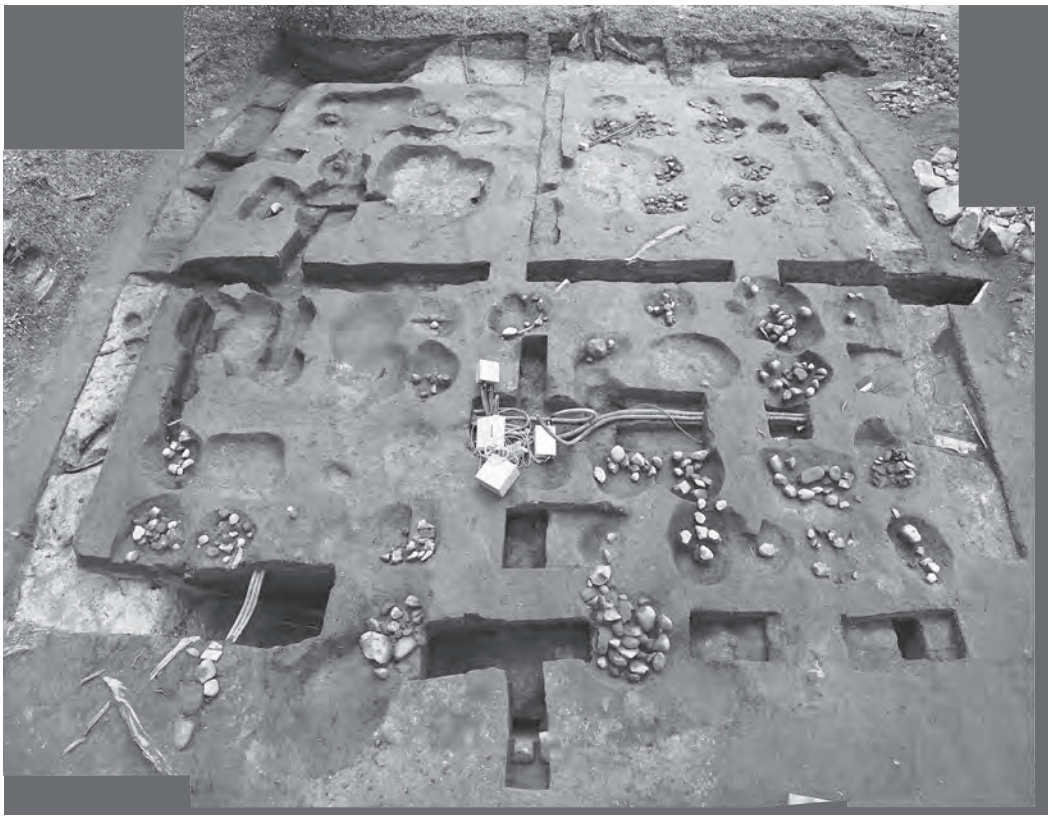
溝跡	検出長（m）	幅（m）	軸線	断面	深さ（cm）	底面標高（m）	土色・土質　備考	新旧関係	年代
１号溝	3.00	0.75	N23°W（推定）	逆台形（推定）	18	北壁71.58	上位　２期整地　人為埋土 中位　にぶい黄褐～黄橙、灰黄褐シルト流路の自然堆積土 下位　砂質土と泥質土のラミナ　自然堆積土	２期整地（堂）＞１号溝＞１期整地＞沢跡（白山沢）	18世紀以前
２号溝	北 9.80 東10.00 西10.00 南10.80	0.50	N　15°W	浅い皿形	7	北辺中央72.02南西71.62	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト 電球ガラス片等の雑物少量混入	不動堂に伴う雨落溝	昭和～現代
沢跡（白山沢）	10.50	14.00	N20°W（推定）	逆台形もしくはU字形（推定）	200以上	未掘削	上位　褐灰～黒褐粘土 中位　十和田a降下火山灰テフラ 下位　灰～褐灰砂質シルト・泥質粘土ラミナ 西側地山斜面崩壊土　東側堆積土	なし	12世紀以前



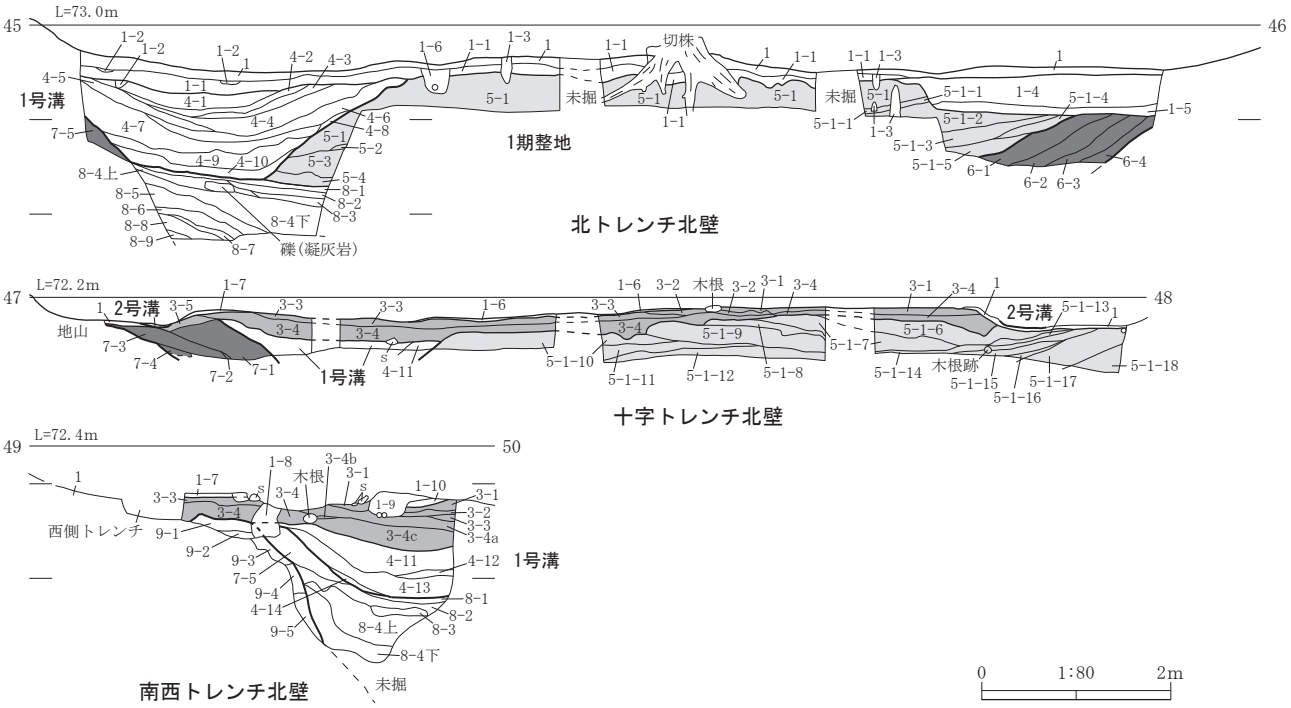
第５図　礎石断面図（1/100）



第６図　完掘図及び遺物出土地点位置図（1/100）

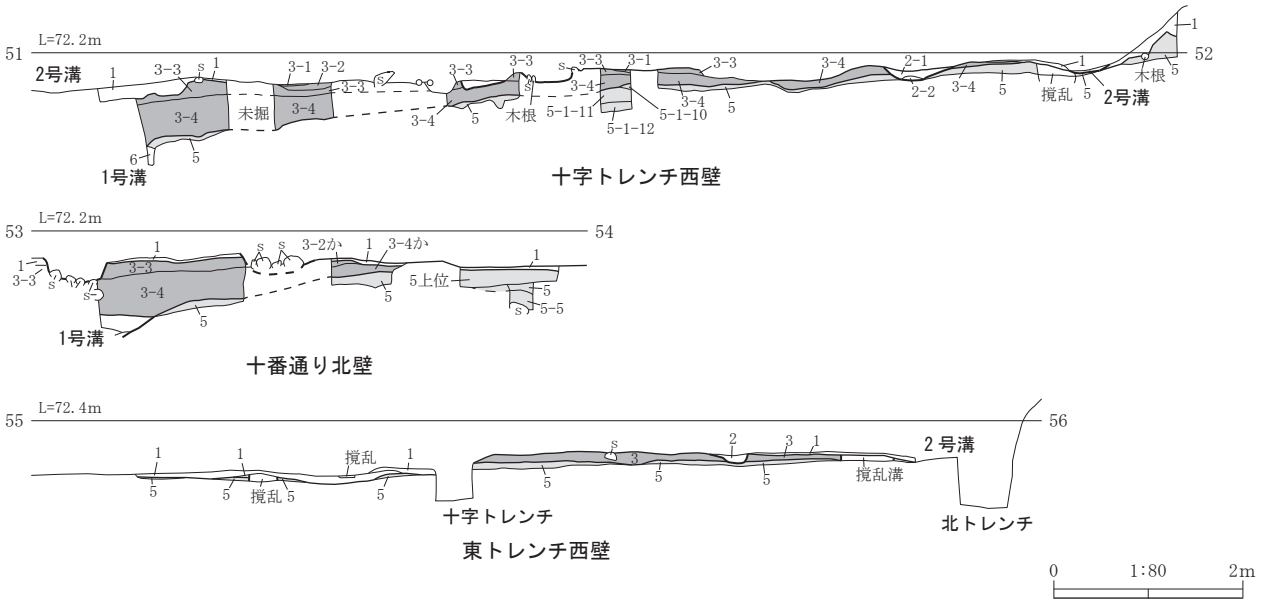


写真図版５　礎石掘方根石とトレンチ完掘（南から）



第７図　土層断面図１（1/80）

属	層	名称	土色・土質　内容	推定年代
Ⅰ	1	表土	10YR4/3にぶい黄褐シルト　堂周囲に草木生える	昭和～現代
	1-1	斜面埋土	10YR4/3にぶい黄褐シルト　電線パイプ埋設溝に撹乱される	
	1-2	斜面混土	10YR4/3にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック10%混　1-1の上位混土層	
	1-3	杭跡	10YR4/3にぶい黄褐シルト	
	1-4	北東側掘込み	2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック＋10YR4/2灰黄褐シルト30%　掘込みを埋めた切土盛土	
	1-5	北東側掘込み	10YR4/2灰黄褐シルト　東側10YR4/2灰黄褐～2.5Y4/2暗灰黄シルト　平坦な段状の掘込み	
	1-6	堂床下表土	10YR4/3にぶい黄褐シルト　堂床下の風化堆積土　賽銭が出土	
	1-7	表土	10YR4/2灰黄褐シルト　グライ化　堂基壇西側の表土	
	1-8	撹乱	10YR4/3にぶい黄褐シルト＋浅黄シルト地山ブロック10%混　堂案内板支柱の撹乱か	
	1-9	撹乱	10YR4/3にぶい黄褐シルト＋浅黄シルト地山ブロック20%混　電線ケーブル埋設の撹乱　礎石掘方と整地の一部を掘り込む	
	1-10	表土	10YR4/3にぶい黄褐シルト　撹乱下の堂床下表土	
Ⅱ	2	堂礎石掘方埋土	10YR4/3にぶい黄褐シルト主体　姫待不動堂礎石掘方埋土	18世紀
	2-1	堂礎石掘方埋土	10YR4/3にぶい黄褐シルト主体	
	2-2	堂礎石掘方埋土	10YR4/2灰黄褐シルト　グライ化	
Ⅲ	3-1	２期整地	10YR4/3にぶい黄褐シルト主体　やや明るい	18世紀
	3-2	２期整地	10YR4/3にぶい黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロック30～40%混	
	3-3	２期整地	10YR4/3にぶい黄褐シルト	
	3-4a	２期整地	10YR4/3にぶい黄褐シルト主体	
	3-4b	２期整地	10YR4/3にぶい黄褐シルト＋地山ブロックシルト20%	
	3-4c	２期整地	上位10YR3/2黒褐シルト主体～中位10YR4/2灰黄褐シルト　下位7.5YR4/4褐酸化鉄分10%混　全体に2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック1cm大で1%混	
	3-5	２期整地	10YR4/3にぶい黄褐シルト主体	
Ⅳ	4-1	１号溝	2.5Y7/4浅黄～10YR7/4にぶい黄橙地山ブロック主体＋10YR4/3にぶい黄褐シルト30～40%　２期整地の一部か	12世紀～近世
	4-2	１号溝	2.5Y7/4浅黄～10YR7/4にぶい黄橙地山ブロック主体＋10YR4/3にぶい黄褐20%混　人為埋土　２期整地の一部か	
	4-3	１号溝	10YR4/3にぶい黄褐主体＋10YR7/4にぶい黄橙10%混	
	4-4	１号溝	2.5Y7/4浅黄～10YR7/4にぶい黄橙シルト主体＋下位10YR4/3にぶい黄褐40%混	
	4-5	１号溝	10YR4/3にぶい黄褐～10YR4/2灰黄褐シルト＋10YR6/6明黄褐シルト5ミリ大で10%混	
	4-6	１号溝	10YR4/3にぶい黄褐～下位10YR4/2灰黄褐シルト主体	
	4-7	１号溝	10YR3/3暗褐シルト～10YR3/2黒褐シルト主体　10YR2/1黒色炭化物多く入る	
	4-8	１号溝	10YR5/3にぶい黄褐シルト　7層の下　１期整地の崩壊土か	
	4-9	１号溝	10YR6/4にぶい黄橙シルト主体～7.5YR4/4褐色酸化鉄分５%混＋2.5Y5/3黄褐シルトがラミナ状に堆積	
	4-10	１号溝　最下層	5Y4/2灰オリーブ砂質シルトもしくは10YR5/3にぶい黄褐～2.5Y5/3黄褐シルト主体	
	4-11	１号溝　南側上位	2.5Y7/4浅黄～10YR7/4にぶい黄橙地山ブロック主体＋10YR4/3にぶい黄褐シルト30～40%　２期整地の一部か	
	4-12	１号溝　南側中位	2.5Y7/4浅黄～10YR7/4にぶい黄橙地山ブロック主体＋10YR4/3にぶい黄褐20%混　人為埋土　２期整地の一部か	
	4-13	１号溝　南側下位	10YR4/3にぶい黄褐主体＋10YR7/4にぶい黄橙10%混	
	4-14	１号溝　南側底面	10YR2/1黒泥質粘土　黒色炭化物を多く含む　１号溝掘削後に西側から流れ込んだ堆積土	
Ⅴ	5	１期整地	2.5Y7/4浅黄粘土～シルト地山ブロック主体＋10YR3/3暗褐シルトもしくは10YR6/6明黄褐シルト30～40%混	12世紀～近世
	5-1	１期整地	2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック主体＋2.5Y4/2暗灰黄シルト3%混	
	5-1-1	１期整地　北東側	2.5Y4/2暗灰黄シルト主体　整地中間層　地山ブロックをほとんど含まない	
	5-1-2	１期整地　北東側	2.5Y7/4浅黄シルト～粘土地山ブロック＋10YR6/6明黄褐シルト30～40%混　整地埋土からかわらけ片少量出土	
	5-1-3	１期整地　北東側	2.5Y7/4浅黄シルト60%＋2.5Y4/2暗灰黄シルト40%混	
	5-1-4	１期整地　北東側	2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック＋2.5Y4/2暗灰黄シルト50%混	
	5-1-5	１期整地　北東側	2.5Y4/2暗灰黄シルト主体＋地山ブロック20%混	
	5-1-6～ 5-1-18	１期整地 十字トレンチ北壁	5-1-6浅黄シルト地山ブロック主体　5-1-7浅黄地山ブロック＋暗灰黄シルト10%　5-1-8浅黄地山ブロック主体　5-1-9にぶい黄橙地山ブロック主体　5-1-10浅黄地山ブロック＋暗灰黄シルト20%　5-1-11にぶい黄橙シルト＋浅黄地山ブロック30%　5-1-12黒褐シルト主体＋暗灰黄シルト30%　5-1-13h黒褐シルト主体＋浅黄地山ブロックシルト20%　5-1-14暗灰黄シルト＋浅黄地山ブロック5%　5-1-15浅黄地山ブロックシルト＋暗灰黄シルト20%　5-1-16黒褐シルト主体＋地山ブロック10%　5-1-17灰黄シルト主体＋浅黄地山ブロックシルト10%　5-1-18灰褐シルト主体＋浅黄地山ブロック20%	
	5-2	１期整地	7.5YR4/4褐シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト30%　酸化鉄分沈着層	
	5-3	１期整地	7.5YR6/8橙粘土＋2.5Y7/4浅黄粘土～シルト40%　酸化鉄分多い層	
	5-4	１期整地	5GY6/1オリーブ灰粘土地山ブロック主体＋10YR4/1褐灰粘土少量混　グライ化	
	5-5	１期整地	10YR3/2黒褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック20%混	

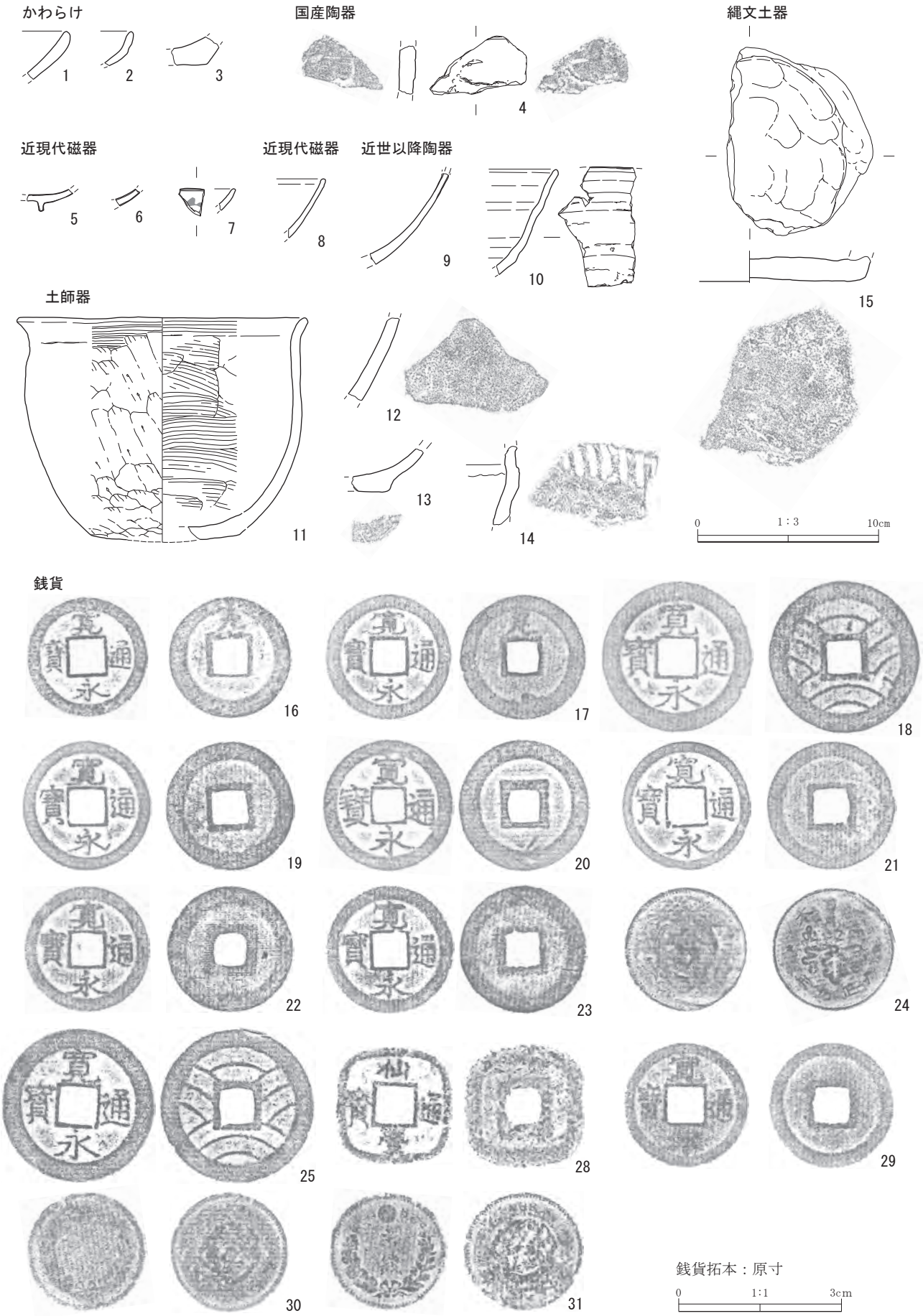


第８図　土層断面図２（1/80）

属	層	名称	土色・土質　内容	推定年代
Ⅵ	6	東側斜面堆積土	10YR5/2灰黄褐～10YR3/2黒褐泥質・10YR3/3暗褐シルト主体	12世紀～近世
	6-1	東側斜面堆積土1	10YR4/2灰黄褐シルト主体　下位泥質	
	6-2	東側斜面堆積土2	10YR3/2黒褐シルト主体　下位泥質	
	6-3	東側斜面堆積土3	10YR3/3暗褐シルト主体　酸化鉄分少量混	
	6-4	東側斜面堆積土4	10YR3/2黒褐シルト主体	
Ⅶ	7-1	西側斜面堆積土	10YR3/2黒褐シルト　白山沢西側の旧地形堆積土	9～10世紀
	7-2	西側斜面堆積土	7.5Y6/2灰オリーブ砂質シルト　斜面崩壊土　下位は地山ブロック主体	
	7-3	西側斜面堆積土	7.5YR6/8橙粘土酸化鉄分沈着土＋2.5Y7/4浅黄粘土～シルト40%　酸化鉄分多い	
	7-4	西側斜面堆積土	5Y4/1灰砂質シルト	
	7-5	西側斜面堆積土	10YR5/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック20%混　地山崩壊混土　南西トレンチ	
Ⅷ	8-1	沢跡	10YR4/1褐灰～10YR3/1黒褐粘土　泥質で植物腐植物がやや多く入る	10世紀以降
	8-2	沢跡	2.5Y4/3オリーブ褐火山灰上位層　細かい粒子に粘土が混入して黒味がある	10世紀初頭
	8-3	沢跡　火山灰土	2.5Y6/4にぶい黄火山灰テフラ　細かい粒子状の火山灰土　十和田a降下火山灰とみられる二次堆積土	
	8-4-1	沢跡	5Y4/1灰砂質シルト　凝灰岩礫含む　斜面崩壊土	10世紀以前
	8-4-2	沢跡	2.5Y4/1灰砂質シルト＋2.5GY5/1オリーブ灰地山ブロック砂質シルト20%1～2cm大で混　水分多い	
	8-5	沢跡	10YR4/1褐灰粘土主体	
	8-6	沢跡	10YR4/1褐灰砂質シルト＋粘土10%	
	8-7	沢跡	10YR3/2黒褐粘土＋シルト20%混　水分多く軟質	
	8-8	沢跡	5Y4/2灰オリーブ砂質土＋泥質土20%混	
	8-9	沢跡	5Y4/2灰オリーブ粘土	
	8-10	沢跡　南西トレンチ	10YR4/1褐灰粘土　粘性強い沢埋土	10世紀以降
	8-11	沢跡	10YR4/2灰黄褐シルト主体	
	8-12	沢跡　火山灰土	2.5Y7/3浅黄～2.5Y7/2灰黄テフラ　約10cmの厚さで堆積する十和田a降下火山灰とみられる層　8-3と同一	10世紀初頭
	8-13	沢跡	7.5Y5/2灰オリーブシルト＋砂質土20%＋5Y4/1灰泥質土10%混	10世紀以前
	8-14	沢跡	5GY6/1オリーブ灰シルト主体＋砂質土20%＋5Y4/1灰泥質土10%混	
Ⅸ	9	地山	2.5Y7/4浅黄シルト主体	
	9-1	地山	2.5Y7/4浅黄シルト	
	9-2	地山	10YR6/4にぶい黄橙砂質シルト	
	9-3	地山	2.5Y7/4浅黄シルト～粘土	
	9-4	地山	2.5Y7/3浅黄砂質シルト＋7.5YR6/8橙色酸化鉄分沈着層	
	9-5	地山	5GY6/1オリーブ灰シルト主体	
	２号溝	埋土	10YR4/3にぶい黄褐砂質シルト　堂の雨落溝　ガラス片、近現代磁器、ビニール等少量出土	昭和～現代

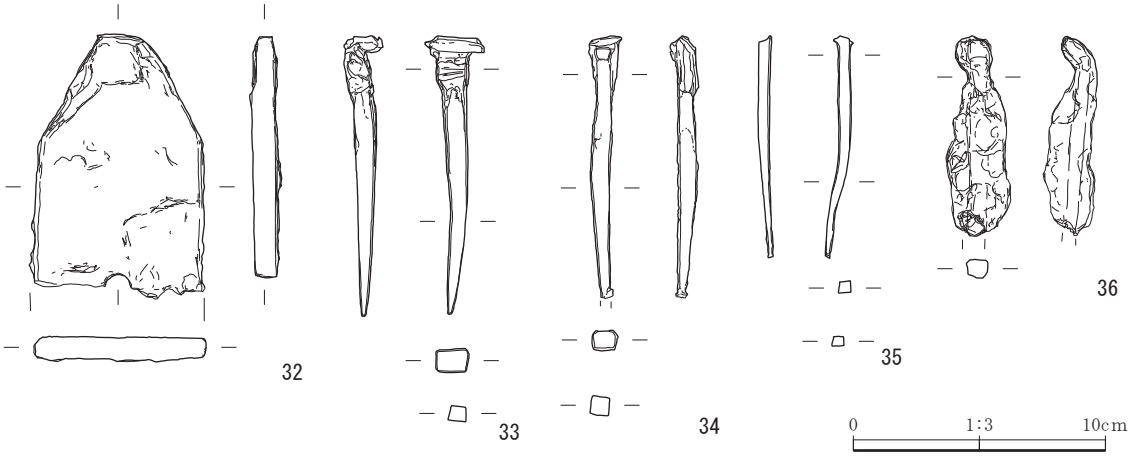
表４　遺物集計表

層	出土地点・層位	かわらけ（成形技法）	国産陶器	土師器	近世陶磁器	近現代陶磁器	金属製品	銭貨	その他
Ⅰ(1)	表土・撹乱	3（不明）		2	陶器1（大堀相馬18c）	磁器2 陶器1	不明鉄製品5 鉄釘(角釘)6 鉄釘(洋釘)2	寛永通寶8 仙台通寶2 半銭銅貨１	縄文土器1、不明土器4、漆塗膜１、雑物少量
Ⅰ	２号溝　埋土					磁器1			ガラス片等少量
Ⅱ(2)堂礎石掘方	い六　掘方							寛永通寶1	
	に十　掘方（礎石据え直し）					磁器1			
	ほ六　掘方（礎石据え直し）							寛永通寶1 桐一銭青銅貨1	
	ほ八　掘方	1(不明)							
	へ六　掘方							仙台通寶1	
	へ九　掘方（礎石据え直し）							半銭銅貨1	
	ち二　掘方	1(ロクロ)							
	り二　掘方	1(不明)							
	り九　掘方	1(不明)							
Ⅲ(3)	２期整地	(不明)	1(渥美産甕12c)	3					縄文土器1　不明土器1
Ⅳ(4)	１号溝			3					縄文土器2　不明土器2
Ⅴ(5)	１期整地	14(手づくね1・不明13)							縄文土器1
Ⅵ(6)	東側斜面堆積土	1(ロクロ)							
Ⅶ(7)	西側斜面堆積土			4(甕26片接合)					
Ⅷ(8)	沢跡(白山沢)								
合計	合計	24(手づくね1・ロクロ2・不明21)	1(渥美産甕12c)	49(甕1個体接合)	陶器1（大堀相馬18c）	磁器4 陶器1	不明鉄製品6 鉄釘(角釘)7 鉄釘(洋釘)2	16(寛永通寶10・仙台通寶3・一銭青銅貨1・半銭銅貨2)	縄文土器5　不明土器6 土製品1　漆製品1 雑物(ガラス片、ビニール片等)少量



第９図　出土遺物１（1/3・原寸大）

金属製品



第10図　出土遺物２（1/3）

表５　遺物観察表　かわらけ

No.	図版	写図	層	出土位置・層位	種類	形状	部位	法量(推定)cm 口径	底径	器高	残存率(%)	年代	備考（標高m）	登録
1	9	7	Ⅵ	北側トレンチ北東　東側堆積土	かわらけ	ロクロ・坏	口縁～体	－	－	－	小片	12c	(71.78)	67
2	9	7	Ⅴ	ろ八の南隣り・1期整地	かわらけ	手づくね・皿	口縁～体	－	－	－	小片	12c	(71.92)	17
3	9	7	Ⅴ	東側・１期整地検出面	かわらけ	ロクロ・皿	底	－	－	－	小片	不明	(71.75)	85

表６　遺物観察表　国産陶器・近世～現代陶磁器

No.	図版	写図	層	層位	種類	器種	部位	年代	備考(標高m)	登録
4	9	7	Ⅲ	西トレンチ　２期整地	陶器　渥美	甕	底	12c	焼成不良(72.03)	25
5	9	7	Ⅰ	に十の東　表土1層	磁器	皿	底～高台	19～20C	型紙染　(71.99)	4
6	9	7	Ⅰ	全体検出一括　１層	磁器	碗	体	19～20C	産地不明	5-1
7	9	7	Ⅱ	に十南西掘方　礎石据え直し	磁器	皿	底～高台	20C	型紙染　(71.85)	15
8	9	7	Ⅰ	西トレンチ　２号溝埋土	磁器	碗	口縁～体	20C	産地不明　(71.91)	29
9	9	7	Ⅰ	北トレンチ　東端1層	磁器	鉢	体	18C	大堀相馬　(72.23)	16
10	9	7	Ⅰ	北トレンチ　東端1層	陶器	碗	口縁～体	19	在地　4片接合　(72.42)　被熱	4

表７　遺物観察表　土師器・縄文土器

No.	図版	写図	層	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考(標高m)	登録
11	9	7	Ⅶ	西側斜面堆積土　灰黄褐シルト	土師器	長胴甕	口縁～胴	9～10C	口径16.0・底径8.2・器高12.3cm　破片接合(71.71)	80
12	9	7	Ⅰ	又へ六の西　表土1層	土師器	長胴甕	胴下	9～10C	内面黒色　(71.94)	10
13	9	7	Ⅲ	ほ九付近　十字トレンチ1号溝の上　3-1層	土師器	長胴甕	胴下～底	9～10C	内面ナデ調整	70
14	9	7	Ⅴ	北側トレンチ東側深掘り　１期整地	縄文土器	不明	胴	縄文	7cm大の破片　(71.67)	81
15	9	7	Ⅵ	十字トレンチ南端　にぶい黄褐シルト	縄文土器	不明	底	縄文	内面ナデ痕　底径12.8cm　(71.27)	47

表８　遺物観察表　銭貨

No	図版	写図	層	出土位置・層位		素材	法量 直径(cm)	重量(g)	鋳造年代(初鋳)	備考(標高m)	登録
16	9	7	Ⅰ	ろ六の北	表土1層	銅銭	2.3	1.9	1626(寛永３年)	寛永通寶(古)　(72.14)	1
17	9	7	Ⅰ	ろ六・ろ又六の西	1層	銅銭	2.3	2.3	1668(寛文３年)	寛永通寶(新)　(72.11)	2
18	9	7	Ⅰ	十字トレンチ	1層	銅銭	2.7	4.2		寛永通寶(新)波銭(11波)　腐蝕穴　(72.05)	39
19	9	7	Ⅰ	調査区全体一括	1層	銅銭	2.3	2.2		寛永通寶(新)	12
20	9	7	Ⅰ	十字トレンチ	1層	銅銭	2.4	3.4	1626(寛永８年)	寛永通寶(古)　(72.08)	40
21	9	7	Ⅰ	十字トレンチ	1層	銅銭	2.4	2.9		寛永通寶(古)　(72.08)	41
22	9	7	Ⅱ	い六の南	1層	銅銭	2.3	2.7		寛永通寶(古)　(71.91)	14
23	9	7	Ⅱ	ほ六礎石据え直し	掘方埋土	銅銭	2.3	1.8	1626(寛文８年)	寛永通寶(古)　(71.98)　据え直し混入	34
24	9	7	Ⅱ	ほ六礎石据え直し	掘方埋土	青銅銭	2.3	3.8	1920(大正９年)	桐一線青銅貨　(71.97)　据え直し混入	35
25	9	7	Ⅰ	十字トレンチ	1層	銅銭	2.8	4.5	1769(明和６年)	寛永通寶(新)波銭(11波)　(72.05)	38
26	－	7	Ⅰ	十字トレンチ	1層	鉄銭	2.2	2.9	1784(天明４年)	仙台通宝　鉄錆が著しい　(72.05)	37
27	－	－	Ⅱ	へ六	掘方埋土	鉄銭	不明	2.5		仙台通宝　鉄錆著しく、現状粉々(71.96)	49
28	9	7	Ⅰ	に八・に九の西	1層	鉄銭	2.1	3.2		仙台通宝　(72.04)	3
29	9	7	Ⅰ	ほ又六付近	1層	銅銭	2.3	2.5	1626(寛永３年)	寛永通寶　(72.04)	45
30	9	7	Ⅱ	へ九礎石据え直し	掘方埋土	青銅銭	2.2	3.3	1873～1888 (明治６～21年)	半銭銅貨　年号摩滅のため不明(71.80)	36
31	9	7	Ⅰ	全体清掃一括	1層	銅銭	2.1	2.9		半銭銅貨　年号摩滅のため不明	74

表９　遺物観察表　金属製品

No	図版	写図	層	出土位置・層位		種類	法量(残存)cm 長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考(標高m)	登録
32	10	7	Ⅰ	全体一括	表土1層	鉄製品	10.3	7.0	0.8	265.8	一端欠損穴の窪み　外面に錆　(71.92)	11
33	10	7	Ⅰ	不動堂解体時	表土1層	鉄釘	11.0	2.3	1.5	40.8	角釘	6-1
34	10	7	Ⅰ	い二・ろ二の南	表土1層	鉄釘	<10.4>	1.4	0.9	28.7	(72.12)	9
35	10	7	Ⅰ	西側トレンチ　２号溝	埋土	鉄釘	<8.8>	0.5	0.4	9.4		30-1
36	10	7	Ⅳ	南西トレンチ　1号溝	埋土	鉄製品	7.8	2.6	0.8	29.4	不明鉄製品　角釘か　(71.25)	77

写真図版５　調査終了全景（北から）

1.北側トレンチ北壁と北東側礎石掘方（南から）

2.北側トレンチ北東側　北壁断面（南から）

3.南西トレンチ北壁断面（南から）

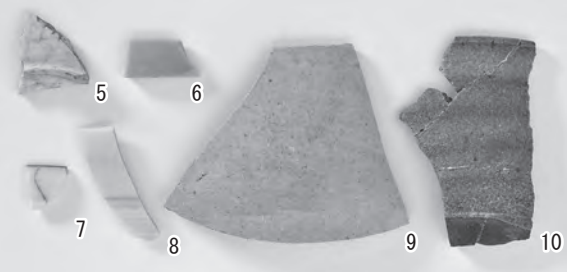
4.十字トレンチ東側と礎石掘方の根石（南から）

写真図版６　遺構完掘状況

かわらけ

渥美産甕

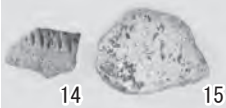
陶磁器



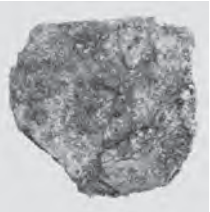
土師器

土師器

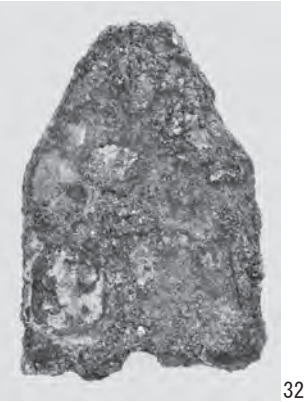
縄文土器



銭貨



金属製品



写真図版７　出土遺物

姫待不動堂　解体前現状（南から）

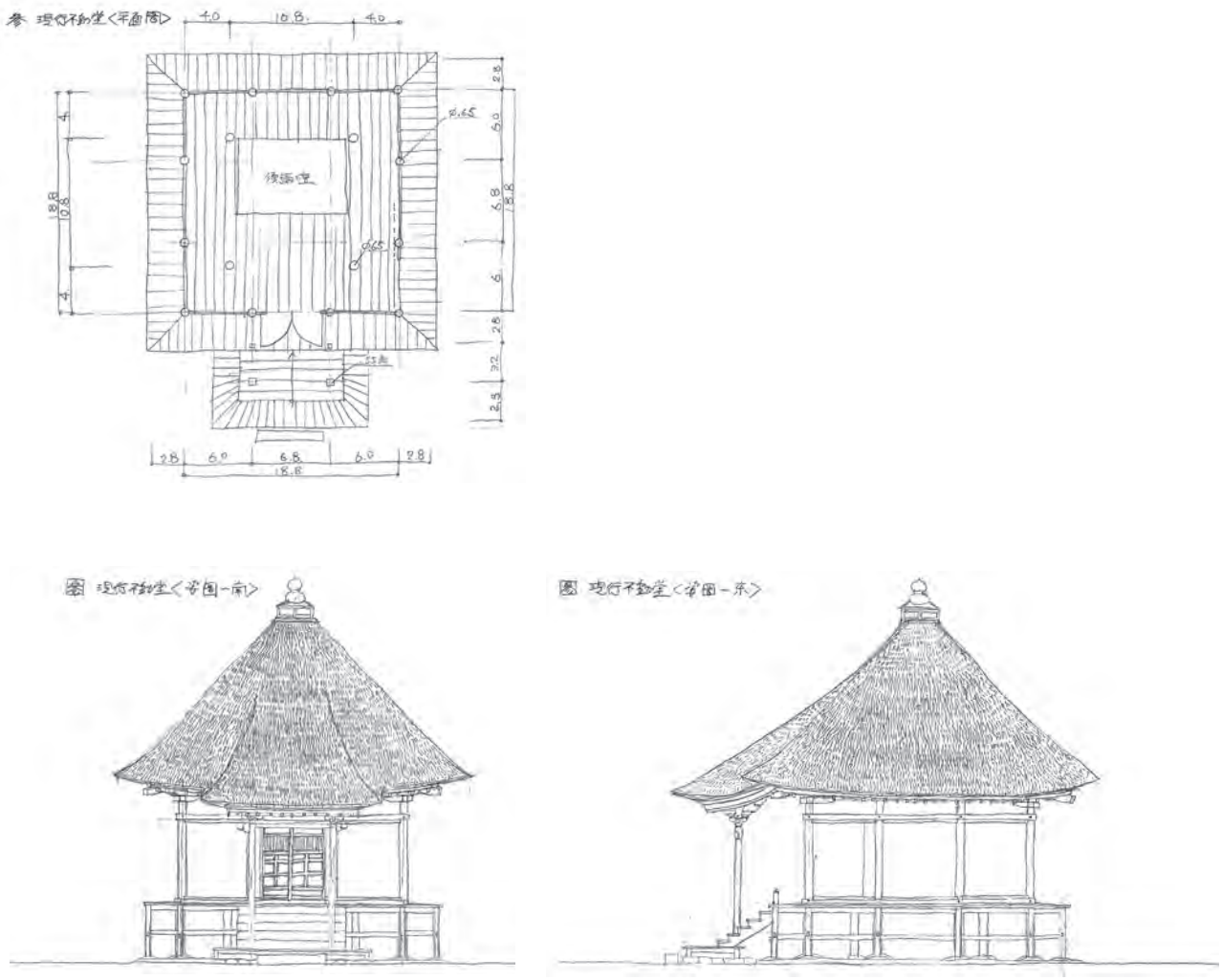
姫待不動堂（東から）

姫待不動堂（北東から）

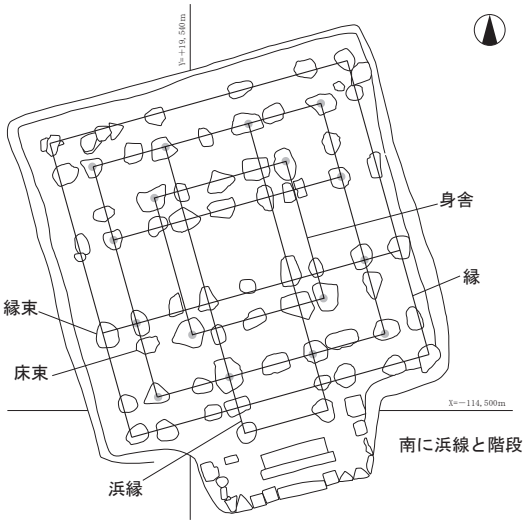
堂付近の白山沢上流（南から）

堂付近の白山沢下流（北から）

写真図版８　解体前の姫待不動堂と現状の白山沢



第11図　現行不動堂　（原図　達谷窟敬祐氏）



第12図　姫待不動堂礎石配置図

写真図版９　堂礎石と実測（南西から）

志羅山遺跡第120次発掘調査

1　調査要項

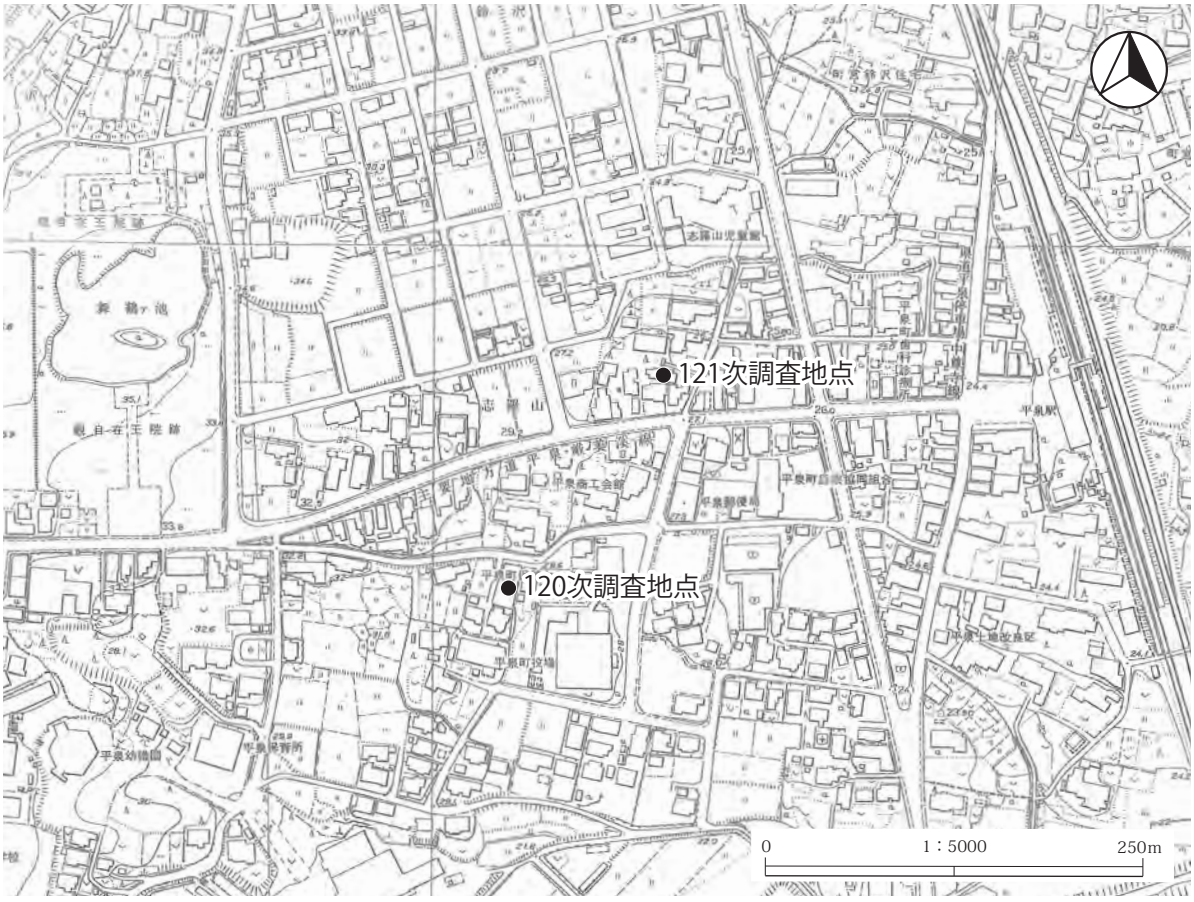
調査地点　岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山50番地１
調査面積　216㎡
調査期間　（120-1）令和４年４月５日～６月３日
　　（後調査：120-2）６月21日～７月６日
原　　因　住宅及び駐車場整備
担　　当　鈴木江利子

2　位置と経過

調査箇所はＪＲ東北本線平泉駅や公共施設から近い住宅地にある。志羅山遺跡の中央に位置し、これまでの周辺の調査では区画溝や掘立柱建物跡、井戸や土坑など多くの遺構を検出し、遺物も多く出土している。周辺の地形は平坦な箇所が多いが、本調査区の北側を東西方向に通っている町道は、やや低くなっている。この町道は特別史跡・特別名勝となっている毛越寺から東に向かう12世紀の道路と重なり、縮少されながらも現在まで使われている。

調査は住宅建築箇所を中心に行っているが、駐車場を計画した北側も、擁壁解体や整地などの掘削を伴うため後日調査を行った。報告は住宅予定地を「120-1」とし、駐車場部分の後からの調査を「120-2」もしくは「後調査」とする。本文中や表は特に断りがない場合は「120-1」である。両方にまたがる溝などは合計の数値で報告している。

また調査区内で下水管の取付け工事の立会を行っており、合わせて報告する。（第２図・写真図版５）



第１図　位置図

３　調査成果

検出遺構は柱穴94個、土坑４基、トイレ状遺構１基、溝跡９条等である。

出土遺物はかわらけ、中国産陶磁器、国産陶器、鉄製品、古銭、木製品等である。

（１）柱穴・掘立柱建物跡

柱穴：調査途中で欠番となったものもあるが、全体で94個検出した。また百番代は後調査で検出した柱穴である。周辺の検出状況や埋土の状態から12世紀の柱穴が多いと考えられる。西・南側の一部の柱穴は、開口部は狭いが深く、締まりのない埋土のため近世と考えられる。Ｐ６・72・129は２間分であるが特徴が一致し、同じ建物を構成する柱穴と考えられる。P113からは永楽通宝が２点出土し、近世の地鎮遺構の可能性がある。P19・37など１・２号土坑周辺の柱穴も近世と考えられる。

掘立柱建物跡は２棟構成している。位置が重複することから建替を行っているが、どちらも12世紀中と考えられる。柱穴列は東西方向の１号柱穴列は１号掘立柱建物跡と重複する。２号柱穴列は軸方向も異なり、近世の建物の一部と思われる。

１号掘立柱建物跡：南北３間、東西１間の母屋に、四面に庇を持つ建物である。母屋の柱間隔は東西が4.3 ～ 4.4ｍ、南北は2.4 ～ 2.55ｍである。東西方向は本来２間であったと考えられるが柱穴の想定位置が調査区外や撹乱があったため確認できなかった。庇の出は西が1.5 ～ 1.6ｍ、南は1.6ｍ、北は1.6ｍの箇所には無く2.0ｍ離れた２個を使用した。南東側は調査区外にある。

２号掘立柱建物跡：南北１間、東西３間以上が考えられ西側に延びる可能性がある。柱間隔は南北が1.9 ～ 2.0ｍ、東西は2.4 ～ 2.55ｍである。Ｐ27・59の１号掘立柱建物跡との切り合いから２号掘立柱建物跡の方が古い。また３個の柱穴が重複しており、新旧関係と柱間隔から構成する柱穴を判断した。

遺構名	規模（庇を含む・ｍ）					方向	新旧	構成柱穴	出土遺物（遺物番号）
	南北		東西		庇				
	間数	全長	間数	全長					
１号建物	5	10.2	3	7.3	四面	N-2°-E	４号溝１期・２号建物より新、１・２・５号溝・４号溝２期より旧	101・111・75・65・105・77・38・28・106・24・23・60・54・21・67・40	かわらけ 土壁（65・69）柱根（109）
２号建物	1	1.9	3	7.4	－	N-90°-E	１号溝・１号建物より旧	31・2・27・69・4・3・59	かわらけ 粘土塊
１号柱穴列	－	－	4	9.8	－	N-90°-E	10号溝より新	128・66・102・103・110	かわらけ 国産陶器（34）土壁（89）
２号柱穴列	2	5.9	－	－	－	N-18°-E	６号溝より新	6・72・129	かわらけ（9）

１号柱穴列：殆どを120-2調査で検出した。東西方向に並び、東側に延びる可能性がある。柱間隔は2.4 ～ 2.5ｍである。P66が１号掘立柱建物跡P65と僅かに接しており、当遺構が古いと判断した。

２号柱穴列：調査区西端に位置する。P129・72・６で構成され、柱間隔は2.9 ～ 3.0ｍである。南調査区外に延びる様子で、西に展開する近世の建物の一部と考えられる。水分を含む埋土で深く掘り込んでいることなど柱穴の特徴が似る事から、同じ建物を構成するものと判断した。

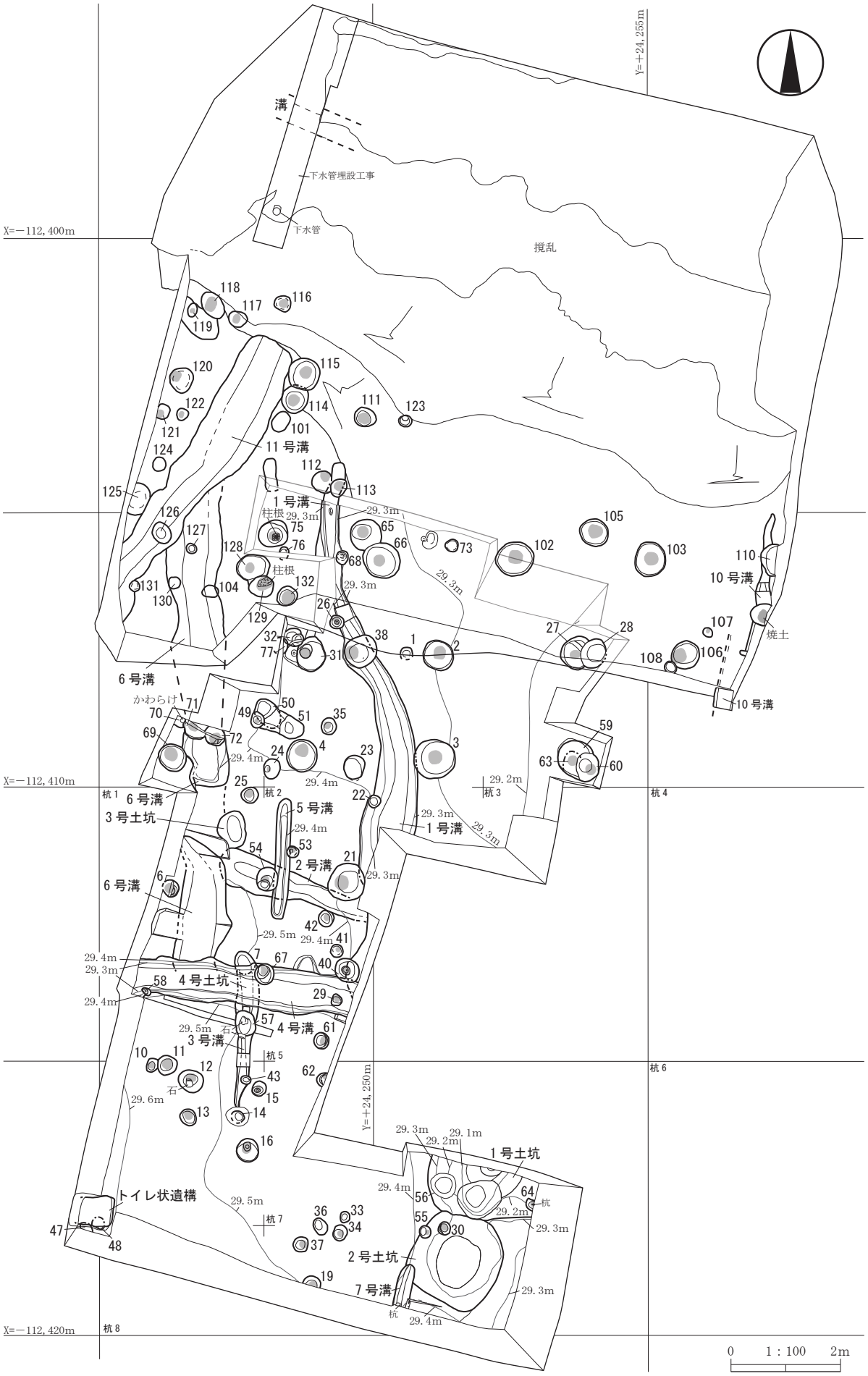
（２）土坑

１号土坑：調査区南側で検出した。上層は黒色、下層は明黄褐色等の粘土ブロックが主体となっている。底には窪みを数か所有している。２号土坑との新旧関係は定かではないが、当遺構の上層が若干２号土坑を覆っていた様子がある。共に近世以降の遺構である。

２号土坑：１号土坑と隣り合っている。浅い皿状の遺構で、埋土は１号土坑の上層と似通っている。P30には切られており、P55・７号溝は当遺構より古い。近世の遺構である。

３号土坑：調査区の中央付近に検出している。かわらけを多く含み、12世紀の遺構と考えられる。極浅い皿状であり、上部が削られて下層のみ残った状態で、浅い窪みの可能性がある。

４号土坑：４号溝上に検出し埋土にはかわらけや炭を多く含んでいる。３号溝の北の延長上にあり、Ｐ57の上層に延びている。形状は窪み状で、深さは10㎝程度である。年代は12世紀と考えている。


溝
下水管埋設工事
下水管
撹乱
Y=＋24,255m
X=－112,400m
X=－112,410m
X=－112,420m
Y=＋24,250m
11 号溝
1 号溝
柱根
6 号溝
かわらけ
10 号溝
焼土
3 号土坑
5 号溝
2 号溝
4 号土坑
4 号溝
3 号溝
石
杭 1
杭 2
杭 3
杭 4
杭 5
杭 6
杭 7
杭 8
トイレ状遺構
1 号土坑
2 号土坑
7 号溝
杭
0 1：100 2m

第２図　全体図

（3）トイレ状遺構（18号土坑）

調査区南西隅に検出した。遺構の北東隅を先に検出し、後に拡張している。南端は柱穴（P 47・48）に切られている。北東の上層でかわらけの破片が多く出土した部分があり、柱穴等が重なっていた可能性があるが断面では確認出来ていない。埋土上層は暗オリーブ褐色の締まった土で、炭を多く含んでいる。中層に壁の崩壊層があり、下層は滞水性の粘土層で、最下層の種を多く含む層の上は地山起源の緑灰色の粘土を主体に埋めている。遺物は木片や、ちゅう木と思われる細い板、ナス類等の種、寄生虫卵が７層から多く出土した。12世紀のトイレ状遺構と考えられる（88頁参照）。

遺構名	平面形	規模（m）		標高（m）		深さ（m）	新旧	出土遺物（遺物番号）
		上面（長×短）	底面（長×短）	検出	底面			
1号土坑	円か	[1.00]×[2.05]	0.66×[0.34]	29.40	28.92	0.50		かわらけ 国産陶器（12）土壁（68）木片 種子（115）石器剥片
2号土坑	円	1.70×1.70	0.90×0.80	29.41	29.23	0.18	7号溝	かわらけ 国産陶器（13）土壁（69～76、84～86）角釘（95）鉄滓（103）
3号土坑	楕円	0.70×0.50	0.50×0.25	29.51	29.47	0.04		かわらけ
4号土坑	長楕円	[1.04]×0.44	[0.86]×0.24	29.53	29.41	0.12	4号溝より新	かわらけ（8）
トイレ状遺構	隅丸方	0.60×[0.65]	0.63×0.64	29.62	28.70	0.92		かわらけ 縄文土器（51）土壁（68）加工木 種子（117・118）

※[ ]は未完掘での計測値

（4）溝跡

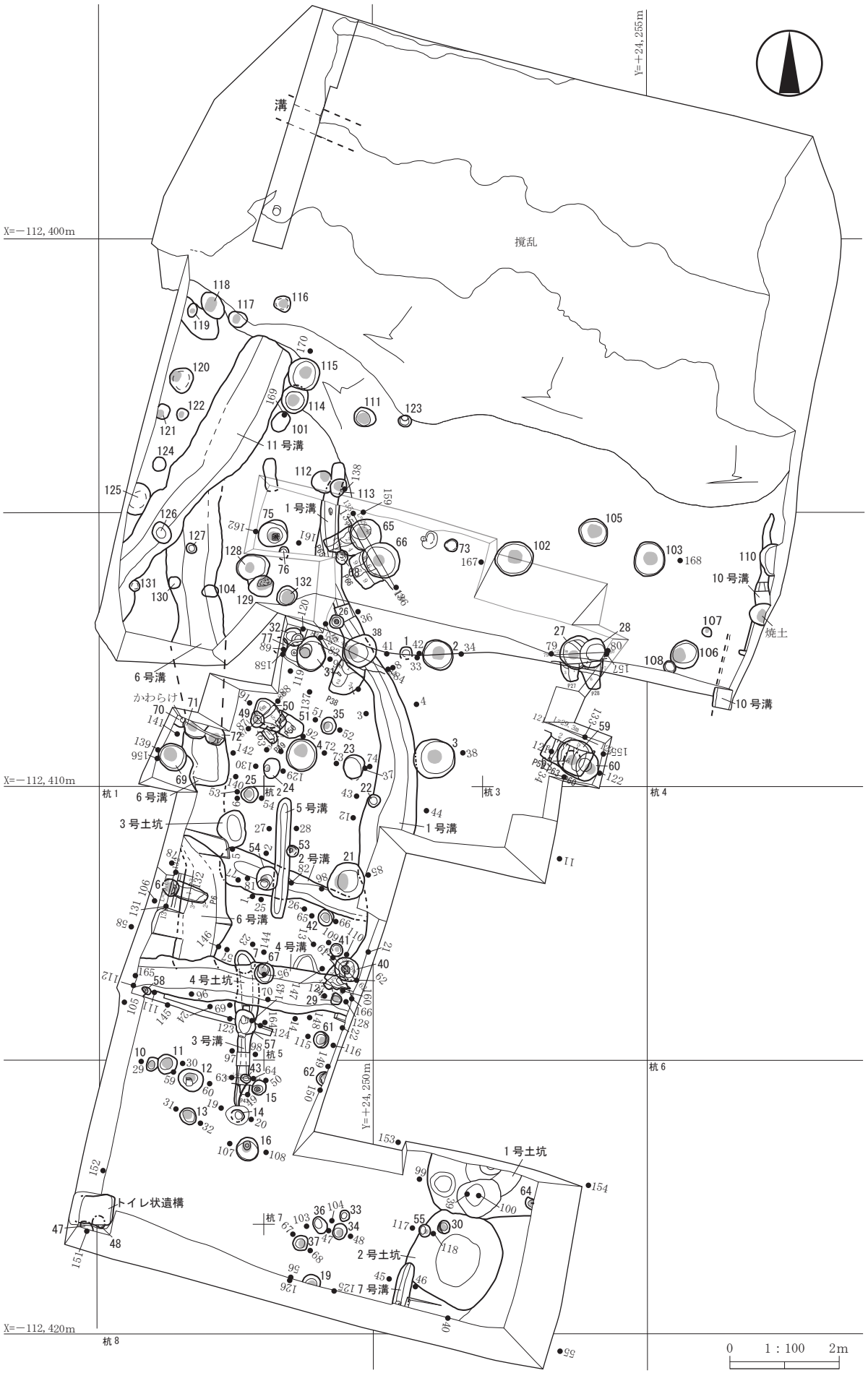
１号溝から11号溝まで９条の溝を検出した。１号溝は南に向かい幅が広くなっており、かわらけを多く出土した。４号溝は直線的な形状から区画を意図した可能性がある。６号溝は浅いが北側の120-2調査区まで延びている。３・５・７・10号溝については浅いこと、砂の堆積が見られない点で共通する。底の一部に板の打込み跡が残り、塀の残欠の可能性がある。

１号溝：調査区中央から北側で検出した。方向は南側では南北方向で、中央は北西方向に傾き、北側では南北方向を示す。南側は調査区外に延び、西側の縁は４号溝の上を通っている。南延長は検出していないため、消失したか流路を変えている可能性もある。延長上に１号土坑と２号土坑があり、掘削されている事も考えられる。かわらけが多く出土している事から12世紀の遺構と考えられる。

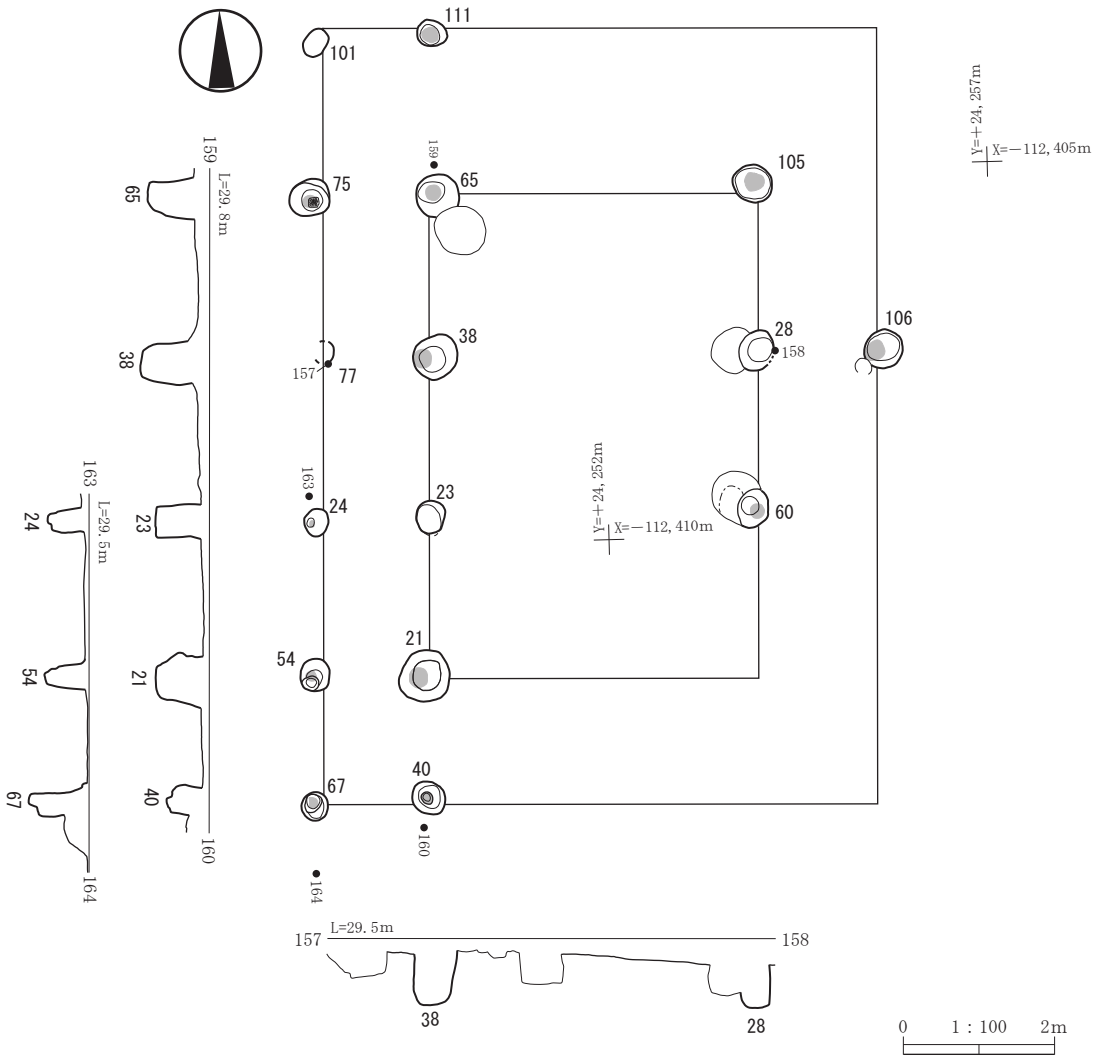
２号溝：調査区中央に検出し、東西方向に伸びている。柱穴等の遺構の上を覆うことから、周辺よりは新しい遺構である。東側の調査区外に向かい底が若干低くなる。端部は消失しているため、１号溝との関係が不明瞭である。年代は不明である。

遺構名	規模（m）		方向	標高（m）		深さ（m）	新旧	出土遺物（遺物番号）
	検出長	検出幅		検出	底面			
1号溝	10.10	0.25～1.08	N-10°-W	29.33～29.42	29.22～29.27	0.07～0.20	4号溝・1・2号建物より新	かわらけ（1～5）国産陶器（11）中国産陶磁器（37･38）土壁（77～79）鉄製品（91～93）鉄滓（100・101）粘板岩 不明土製品
2号溝	3.00	0.40～0.70	N-65°-W	29.40～29.52	29.40～29.47	0.03～0.06	5・6号溝・1号建物より新	かわらけ
3号溝	1.80	0.10～0.25	N-5°-E	29.51	29.43～29.45	0.05～0.08		かわらけ 土壁（88）不明土製品
4号溝	4.00	0.65～0.80	N-84°-W	29.52	29.17～29.27	0.08	P29より新、1・6号溝・4号土坑より旧 1号建物より2期は新・1期は旧	かわらけ 角釘（94）
5号溝	2.20	0.25	N-5°-E	29.44～29.50	29.39～29.42	0.03～0.09	1号建物より新 2号溝より旧	
6号溝	9.50	0.60～1.00	N-1°～3°-W	29.42～29.50	29.33～29.42	0.03～0.10	4号溝より新 2号溝・11号溝より旧	かわらけ 鉄滓（102）
7号溝	0.80	0.35	N-15°-E	29.43～29.48	29.36～29.40	0.25～0.32	2号土坑より旧	
10号溝	3.80	0.15～[0.33]	N-7°-E	28.90～29.20	[28.87]	0.07～0.10	1号柱穴列より旧	
11号溝	5.60	0.90～1.10	N-36°-E	28.56～29.41	29.24～29.33	0.08～0.15	6号溝より新	かわらけ 中国産磁器（47）

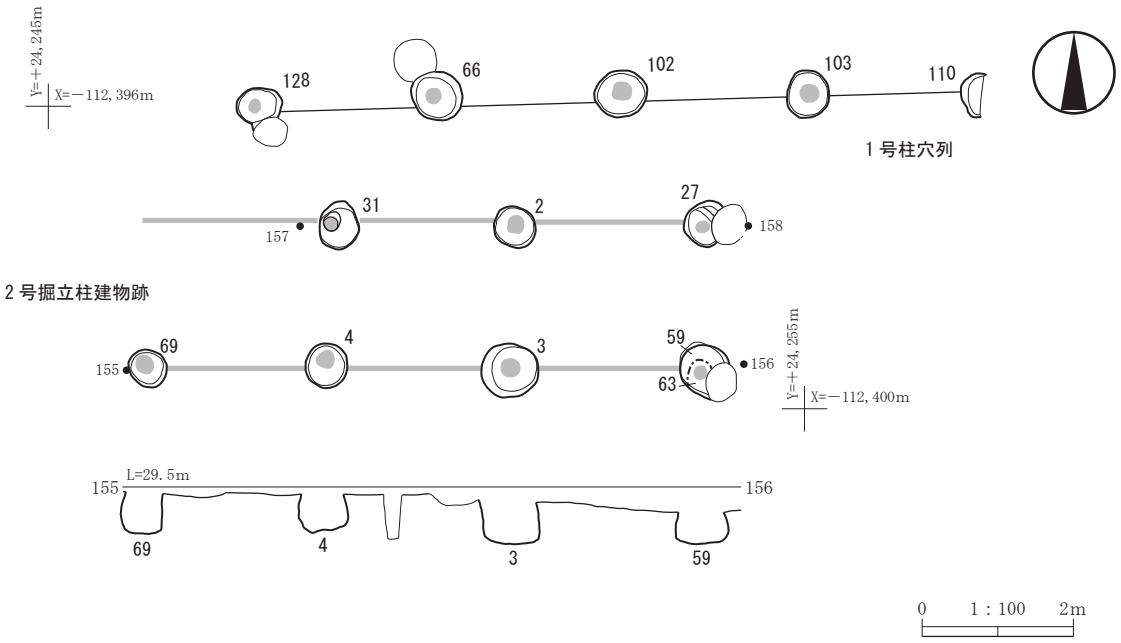
※無い番号は欠番［ ］未完掘での計測値


溝
撹乱
Y=+24,255m
X=−112,400m
X=−112,410m
X=−112,420m
Y=+24,250m
11 号溝
1 号溝
6 号溝
10 号溝
焼土
かわらけ
3 号土坑
5 号溝
2 号溝
4 号溝
4 号土坑
3 号溝
1 号土坑
2 号土坑
7 号溝
トイレ状遺構
杭 1
杭 2
杭 3
杭 4
杭 5
杭 6
杭 7
杭 8
0 1：100 2m

第３図　測点位置図



第４図　１号掘立柱建物跡



第５図　２号掘立柱建物跡・１号柱穴列

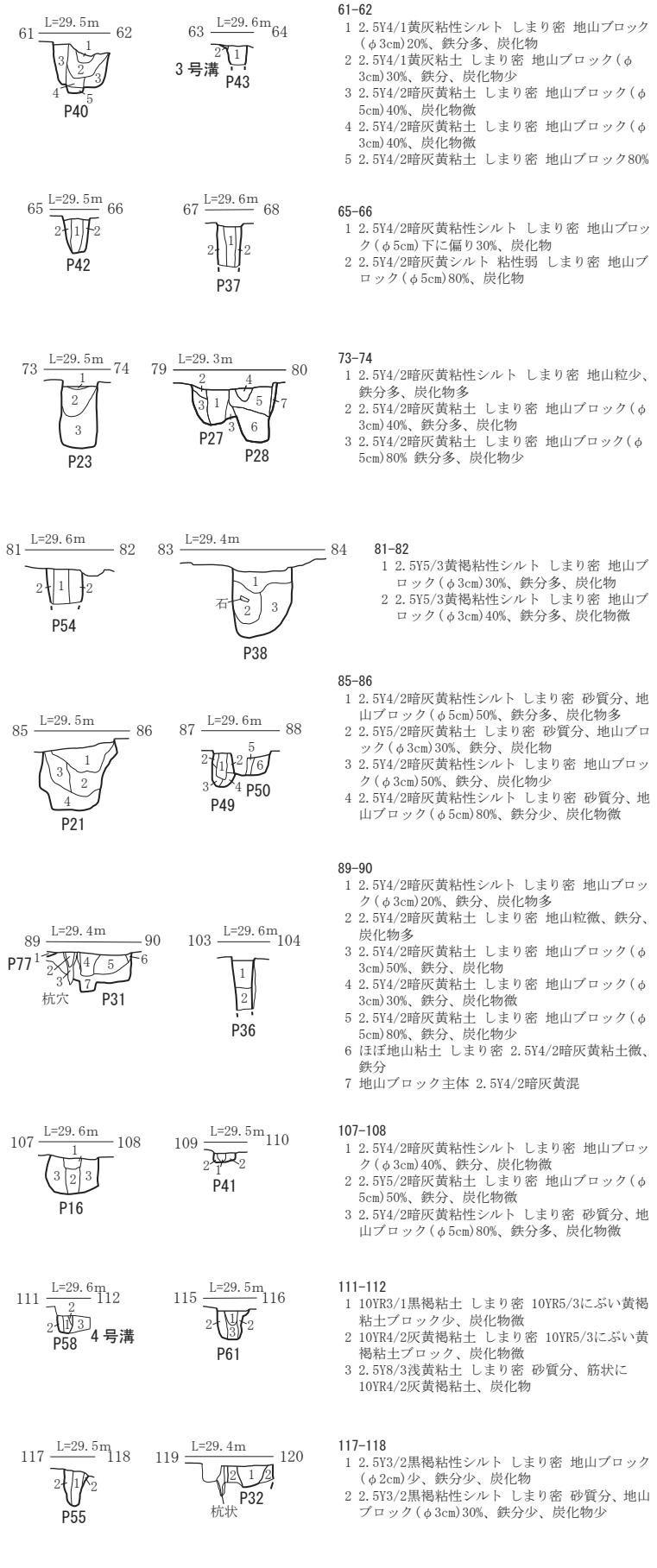
３号溝：調査区南側で検出した。1.6 ～ 1.7ｍの距離で、南北方向に伸びている。北側で石２か所と絡んでいるが、溝に収まらない大きさで、南側の石の上を当遺構が通る様子である。北側の石の箇所にトレンチを設け、柱穴57と３号溝の関係を確認したが、断面では判断できなかった。平面確認では柱穴の上面を溝が通る様子から、Ｐ57より新しい可能性がある。４号溝に接触する箇所では、４号土坑の層と思われるかわらけを含む層が上面に広がり、当溝の延長はなくなっている。

４号溝：南寄りで検出した東西方向の溝である。東側は１号溝が上部をかすり、西側は調査区外から続く自然堆積層や６号溝が重なり全体の姿を隠していた。また中央にも柱穴や窪みとの重複があった。当初４号溝は一時期の溝跡と思われ調査を進めたが、堆積状況や、柱穴との切り合いから二時期あると判断した。上層は暗灰黄色やオリーブ褐色を呈し、上位に淡黄色粘土ブロックが堆積する場合がある。下層は淡黄色や浅黄橙色の粘土ブロックを主体としている。溝中に検出したＰ67は４号溝の上層には切られ、下層は切っている。この事から４号溝は下層（Ⅰ期）と上層（Ⅱ期）で時期差があり、間にＰ67（１号掘立柱建物）の時期をはさむ。遺物を出土しない事もあり下層の年代は不明であるが、上層は12世紀中と思われる。

５号溝：調査区中ほどに検出した南北方向の溝で、小規模であるが直線的である。断面25-26にある板状の痕跡は他所には検出していないため、塀跡と判断する材料は少ない。

第６図　断面図（１）

柱穴（2）



61-62
1 2.5Y4/1黄灰粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)20%、鉄分多、炭化物
2 2.5Y4/1黄灰粘土 しまり密 地山ブロック（φ3cm)30%、鉄分、炭化物少
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ5cm)40%、炭化物微
4 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ3cm)40%、炭化物微
5 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック80%

63-64
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)20%、鉄分多、炭化物
2 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)10%、炭化物微

65-66
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ5cm)下に偏り30%、炭化物
2 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック（φ5cm)80%、炭化物

67-68
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)30%、鉄分、炭化物微
2 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック（φ5cm)80%、鉄分多、炭化物微

73-74
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山粒少、鉄分多、炭化物多
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ3cm)40%、鉄分多、炭化物
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ5cm)80% 鉄分多、炭化物少

79-80
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)下に偏り30%、鉄分多、炭化物微
2 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)50%、鉄分多、炭化物少
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ5cm)80%、鉄分多、炭化物微
4 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山粒10%、鉄分、炭化物少
5 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ5cm)端に偏り20%、鉄分、炭化物少
6 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ10cm)80%、鉄分多、炭化物微
7 ほぼ地山 しまり密 わずかに2.5Y4/2暗灰黄の濁り入る 鉄分多

81-82
1 2.5Y5/3黄褐粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)30%、鉄分多、炭化物
2 2.5Y5/3黄褐粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)40%、鉄分多、炭化物微

83-84
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック（φ3cm)40%、鉄分多、炭化物多
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック（φ5cm)40%、鉄分多、炭化物
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック（φ10cm)80%、鉄分多、炭化物微

85-86
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック（φ5cm)50%、鉄分多、炭化物多
2 2.5Y5/2暗灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック（φ3cm)30%、鉄分、炭化物
3 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)50%、鉄分、炭化物少
4 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック（φ5cm)80%、鉄分少、炭化物微

87-88
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 鉄分微、炭化物多
2 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ5cm)30%、鉄分、炭化物
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ3cm)20%、鉄分多、炭化物微
4 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ3cm)80%、鉄分多
5 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ5cm)40%、鉄分、炭化物少
6 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ5cm)下と東に偏り40%、鉄分多、炭化物

89-90
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)20%、鉄分、炭化物多
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山粒微、鉄分、炭化物多
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ3cm)50%、鉄分、炭化物
4 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ3cm)30%、鉄分、炭化物微
5 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ5cm)80%、鉄分、炭化物少
6 ほぼ地山粘土 しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘土微、鉄分
7 地山ブロック主体 2.5Y4/2暗灰黄混

103-104
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)20%、鉄分多、炭化物多
2 2.5Y4/1黄灰粘土 しまり密 地山ブロック80%、鉄分

107-108
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)40%、鉄分、炭化物微
2 2.5Y5/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ5cm)50%、鉄分、炭化物微
3 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック（φ5cm)80%、鉄分多、炭化物微

109-110
1 10YR5/2灰黄褐粘土 しまり密 10YR7/2にぶい黄橙粘土ブロック、炭化物少
2 10YR5/2灰黄褐粘土 しまり密 10YR7/2にぶい黄橙粘土ブロック、炭化物微

111-112
1 10YR3/1黒褐粘土 しまり密 10YR5/3にぶい黄褐粘土ブロック少、炭化物微
2 10YR4/2灰黄褐粘土 しまり密 10YR5/3にぶい黄褐粘土ブロック、炭化物微
3 2.5Y8/3浅黄粘土 しまり密 砂質分、筋状に10YR4/2灰黄褐粘土、炭化物

115-116
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ5cm)40%、鉄分、炭化物多
2 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ3cm)80%、鉄分多、炭化物微
3 2.5Y5/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック（φ3cm)30%、鉄分少、炭化物

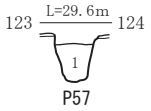
117-118
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック（φ2cm)少、鉄分少、炭化物
2 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック（φ3cm)30%、鉄分少、炭化物少

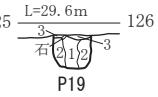
119-120
1 2.5Y3/1黒褐粘性シルト しまり密 2.5Y4/2暗灰黄シルト20%、鉄分、炭化物(P32)
2 2.5Y4/2暗灰黄シルト粘性弱 しまり密 地山ブロック（φ3cm)70%、鉄分、炭化物多

0 1：60 2m

第７図　断面図（２）

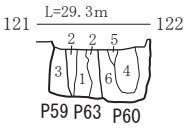
柱穴（3）

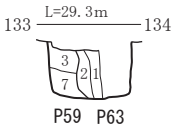




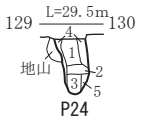
123-124
1 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)40%、鉄分、炭化物多

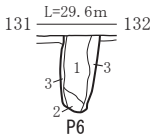
125-126
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)上に偏り10%、鉄分多、炭化物少
2 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)40%、鉄分多、炭化物微
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック50%、鉄分多、炭化物微(水田鉄分集積層か)





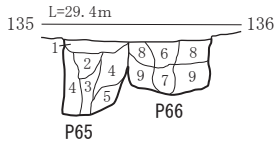
121-122・133-134
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘土 しまり密 地山ブロック(φ5cm)20%、鉄分、炭化物(P63)
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)40%、鉄分、炭化物(P63)
3 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)30%、鉄分、炭化物多(P59)
4 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)下に偏り20%、鉄分、炭化物少(P60)
5 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山粒微、鉄分、炭化物微(P60)
6 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ5cm)50%、鉄分、炭化物(P60)
7 ほぼ地山粘土 しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト少、鉄分多、炭化物微(P59)



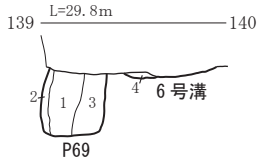


129-130
1 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、鉄分多、炭化物少
2 2.5Y4/1黄灰粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、鉄分、炭化物多
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山粒微、鉄分、炭化物微
4 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分多、炭化物少
5 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)80%、鉄分多、炭化物微

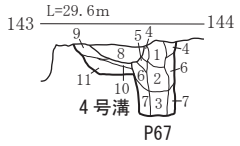
131-132
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山粒微、鉄分少、炭化物微
2 2.5Y4/1黄灰粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、鉄分少、炭化物少
3 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)40%、鉄分、炭化物少



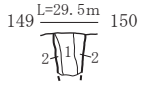
135-136
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)端に偏り30%、鉄分多、炭化物
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山粒少、鉄分、炭化物少
3 2.5Y4/1黄灰粘土 しまり密 砂質分多、地山ブロック(φ3cm)40%、鉄分多、炭化物微
4 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 砂質分多、地山ブロック(φ5cm)西に偏り80%、鉄分多、炭化物
5 ほぼ地山粘土 しまり密 砂質分、2.5Y4/1黄灰粘土少、鉄分多、炭化物微
6 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)下に偏り40%、鉄分多、炭化物
7 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)40%、鉄分、炭化物
8 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)50%、鉄分、炭化物
9 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ5cm)80%、鉄分、炭化物微

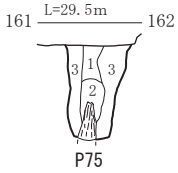


139-140
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)下に偏り30%、鉄分多、炭化物多
2 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)20%、鉄分、炭化物微
3 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ10cm)80%、鉄分多、炭化物微
4 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)30%、鉄分多、炭化物



143-144
1 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分多、炭化物
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分、炭化物
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分、炭化物少
4 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山粒少、鉄分、炭化物
5 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)20%、鉄分、炭化物多
6 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分、炭化物少
7 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック80%、鉄分、炭化物微
8 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト、地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物少
9 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ3cm)20%、鉄分多、炭化物
10 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)北に偏り30%、炭化物微
11 10YR5/2オリーブ灰粘土ブロック(φ5cmグライ化した地山) しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘土少 鉄分多、炭化物微



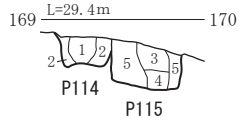


149-150
1 2.5Y4/1黄灰粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)北に偏り少、鉄分、炭化物
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック80%、鉄分、炭化物少

161-162
1 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、鉄分、炭化物一部に多
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 有機質分多
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ5cm)30%、鉄分、炭化物少

柱穴（120-2）

167-168
1 10YR5/6黄褐粘土ブロック しまり密 2.5Y4/1黄灰粘土、5Y7/1灰白粘土
2 10YR5/6黄褐粘土ブロック しまり密 5Y7/1灰白粘土少
3 2.5Y4/1黄灰粘土主体 しまり密 10YR5/6黄褐粘土ブロック多
4 10YR5/6黄褐・5Y5/1灰粘土ブロック しまり密 2.5Y4/1黄灰粘土多
5 10YR5/6黄褐・5Y5/1灰粘土ブロック しまり密 2.5Y4/1黄灰粘土少

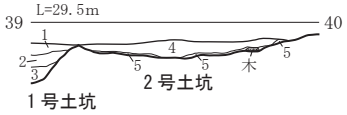


169-170
1 10YRY4/2灰黄褐・10YR8/1灰白粘土 10YRY6/6明黄褐粘土ブロック
2 10YRY4/2灰黄褐粘土 10YRY6/6明黄褐粘土ブロック
3 10YR8/1灰白粘土 しまり密 2.5Y7/3浅黄粘土ブロック
4 10YRY4/2灰黄褐・10YR8/1灰白粘土
5 2.5Y7/2灰黄粘土 しまり密 10YR8/1灰白粘土、2.5Y5/2暗灰黄シルト

0　1：60　2m

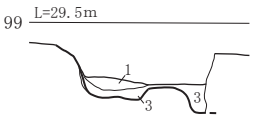
第8図　断面図（3）

土坑

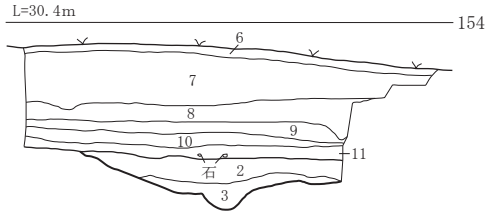


2号土坑

1号土坑



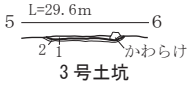
1号土坑



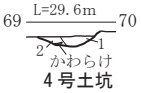
1号土坑

39-40・99-100・153-154

1 10YR4/2灰黄褐シルト 粘性弱 しまり密 砂質分、7.5YR5/6明褐粘土ブロック少、鉄分少、炭化物少
2 10YR2/1黒粘土 しまり密 2.5YR6/6明黄褐粘土ブロック少、鉄分少、炭化物少
3 2.5Y6/6明黄褐粘土 しまり密 2.5Y4/1褐灰粘土
4 10YR3/2黒褐シルト 粘性弱 しまり密 2.5Y7/4明黄砂粒状に少、鉄分、炭化物
5 10YR2/1黒褐粘土 しまり密 7.5YR6/6橙、焼土粒多、炭化物多
6 10YR4/3にぶい黄褐シルト 粘性弱 しまり粗 地山ブロック(φ5cm)60%、炭化物少、草の根 表土
7 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト しまりやや密 2.5Y4/2暗灰黄粘土10%、地山ブロック(φ20cm)10%、鉄分多、炭化物 盛土
8 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物微(水田耕作土)
9 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)
10 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)
11 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ2cm)微、炭化物微(包含層)



3号土坑



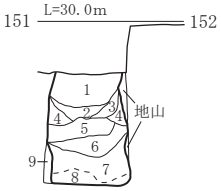
4号土坑

5-6

1 2.5Y4/2暗灰黄シルト しまり密 2.5Y4/1黄灰粘土(φ3cm)少、地山ブロック(φ10cm)、鉄分多、炭化物多(包含層か)
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ5cm)50%、炭化物微(地山漸移層か)

69-70

1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)20%、鉄分、炭化物
2 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φcm)80%、鉄分多、炭化物微

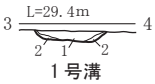


トイレ状遺構

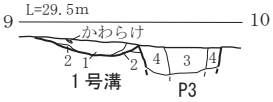
151-152

1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック(φ3cm)少、鉄分、炭化物多
2 2.5Y4/1黄灰粘土 しまり密 地山粒少、鉄分、炭化物多
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、鉄分、炭化物
4 2.5Y5/2暗灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ5cm)50%、鉄分、炭化物
5 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、鉄分少、炭化物少、有機質分多
6 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ5cm)80%、炭化物微、有機質分多く木片・種子等含む
7 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ5cm)少、炭化物、有機質分多く木片・種子等含む
8 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ5cm)80%、炭化物少
9 地山 2.5Y4/1黄灰シルト粘土 崩落の可能性

溝(1)



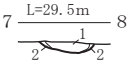
1号溝



1号溝

3-4・9-10

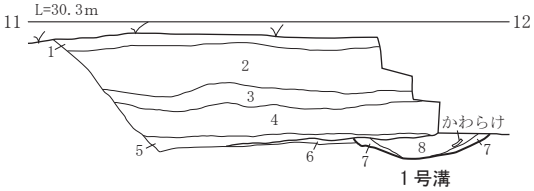
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 10Y4/3にぶい黄褐シルトブロック、地山ブロック(φ10cm)、炭化物
2 10YR5/2オリーブ灰粘土(グライ化した地山) しまり密 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト少 鉄分、炭化物微
3 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)20%、鉄分多、炭化物
4 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 地山ブロック(φ10cm)60%、鉄分多、炭化物少



1号溝

7-8

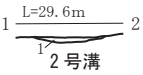
1 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 2.5Y4/2暗灰黄シルト40%、鉄分多 炭化物多
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ5cm)50%、炭化物微(地山漸移層か)



1号溝

11-12

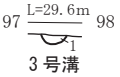
1 10YR4/3にぶい黄褐シルト 粘性弱 しまり粗 地山ブロック(φ5cm)60%、炭化物少、草の根 表土
2 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト しまりやや密 2.5Y4/2暗灰黄粘土10%、地山ブロック(φ20cm)10%、鉄分多、炭化物(盛土)
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物微(水田耕作土)
4 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまりやや密 2.5Y3/2黒褐粘土ブロック10%、地山ブロック(φ10cm)20%、鉄分多 炭化物(盛土)
5 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物微(水田耕作土)
6 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ5cm)50%、炭化物微(地山漸移層か)
7 10YR5/2オリーブ灰粘土(グライ化した地山) しまり密 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト少 鉄分、炭化物微(1号溝)
8 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 10Y4/3にぶい黄褐シルトブロック、地山ブロック(φ10cm)、炭化物(1号溝)



2号溝

1-2

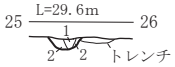
1 10YR4/2灰黄褐粘土 しまり密 10YR7/6明黄褐粘土ブロック、下に10YR4/1褐灰粘土が筋状に入る 鉄分、炭化物



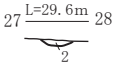
3号溝

97-98

1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物微



5号溝



5号溝

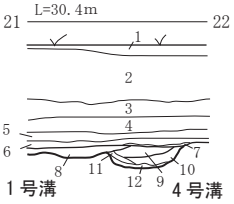
25-26・27-28

1 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 地山粒少、炭化物微 (板跡痕か)
2 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ5cm)70%炭化物微

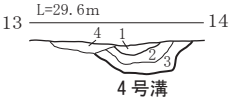
0　1:60　2m

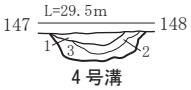
第9図　断面図(4)

溝（2）

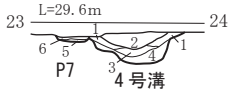


21-22
1 10YR4/3にぶい黄褐シルト 粘性弱 しまり粗 地山ブロック(φ5cm)60%、炭化物少、草の根含 表土
2 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト しまりやや密 2.5Y4/2暗灰黄粘土10%、地山ブロック(φ20cm)10%、鉄分多、炭化物(盛土)
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物微(水田耕作土)
4 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)
5 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)
6 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 地山ブロック(φ2cm)微、炭化物微(包含層)
7 10YR4/3にぶい黄褐シルト 粘性弱 しまり密 地山粒80%、鉄分多、炭化物微
8 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 10Y4/3にぶい黄褐シルトブロック、地山ブロック(φ10cm)、炭化物(1号溝)
9 地山粘土ブロック主体で2.5Y4/2暗灰黄シルト均一に混入 しまり密 地山ブロック(φ3cm)70%、鉄分やや多 炭化物少(4号溝)
10 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物微(4号溝)
11 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山粒少、炭化物微(4号溝)
12 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 砂質分多、地山ブロック(φ2cm)30%、炭化物微(4号溝)

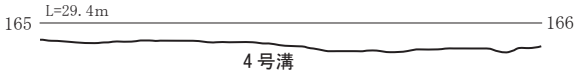


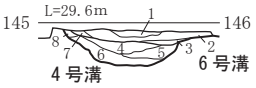


13-14・147-148
1 2.5Y4/3オリーブ褐シルト 粘性弱 しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘土10%、地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分多、炭化物少
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト、地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物少
3 10YR7/8黄橙粘土ブロック主体 同色砂 明黄褐砂混入 2.5Y4/2暗灰黄粘土少し混入
4 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物少、鉄分やや多

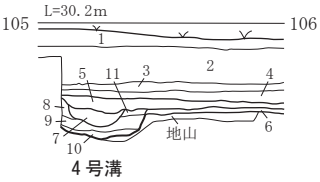


23-24
1 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト、地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物少
2 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分多、炭化物微
3 10YR5/2オリーブ灰粘土ブロック
4 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)40% 炭化物少
5 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)80%、炭化物微
6 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、炭化物多

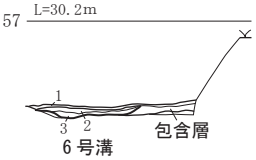


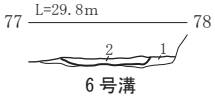


145-146
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ3cm)30%、鉄分、炭化物少(6号溝)
2 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ3cm)少、鉄分、炭化物少(6号溝)
3 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ3cm)40%、鉄分多、炭化物微(6号溝)
4 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ3cm)10%、鉄分、炭化物少(4号溝)
5 ほぼ地山粘土 しまり密 砂質分、2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト西に偏り少 鉄分、炭化物(4号溝)
6 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック90%、鉄分多、炭化物少(4号溝)
7 2.5Y4/1黄灰シルト 2.5Y8/2灰白ブロック少量混(6号溝)
8 2.5Y5/1黄灰シルト 2.5Y8/3淡黄粘土ブロック混 鉄分含(4号溝)



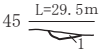
105-106
1 10YR4/3にぶい黄褐シルト 粘性弱 しまり粗 地山ブロック(φ5cm)60%、炭化物少、草の根 表土
2 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト しまりやや密 2.5Y4/2暗灰黄粘土10%、地山ブロック(φ20cm)10%、鉄分多、炭化物(盛土)
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物微(水田耕作土)
4 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)
5 2.5Y3/2黒褐シルト しまり密 地山ブロック、炭化物微
6 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)少、鉄分 自然堆積層
7 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分、炭化物多
8 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)10%、鉄分多 炭化物少
9 地山ブロック主体 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト少量 鉄分多 炭水化物微 砂質分
10 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分、炭化物微 砂質分
11 17層よりも地山ブロックは下位に少量のみ



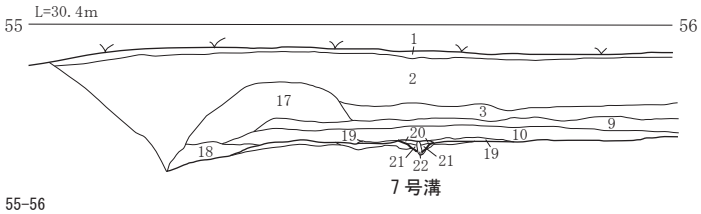


57-58
1 2.5Y5/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ2cm)20%、鉄分多、炭化物
2 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分多、炭化物微
3 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト、地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物少

77-78
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ2cm)微、炭化物微(包含層)
2 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分多、炭化物微



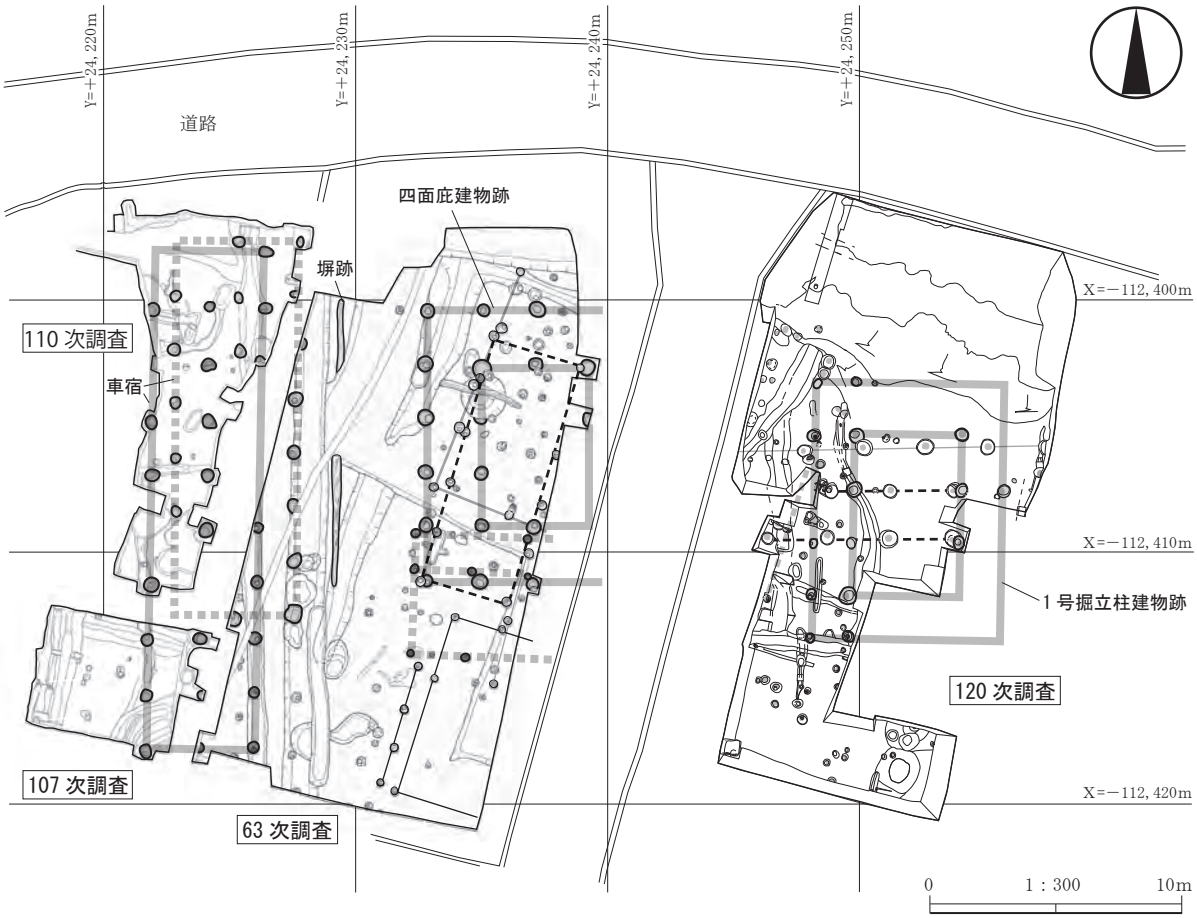
45-46
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)40%、鉄分多、炭化物微



55-56
1 10YR4/3にぶい黄褐シルト 粘性弱 地山ブロック(φ5cm)60%、炭化物少、草の根 表土
2 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルトや地山ブロックを主とした現代盛土
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物微(水田耕作土)
9 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)
10 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)
17 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト しまりやや密 鉄分多、鉄分多、炭化物微(水田畦畔か)
18 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山粒微、鉄分多、炭化物微
19 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック50%、鉄分多、炭化物微
20 2.5Y3/2黒褐粘性シルト しまり密 地山粒微、鉄分、炭化物微(7号溝)
21 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 砂質分、地山粒少、炭化物微(7号溝)
22 2.5Y3/2黒褐粘土 しまり密 地山粒少、炭化物微(杭穴か)

0　1：60　2m

第10図　断面図（5）



第11図　周辺調査区位置図

6号溝：調査区北側から中央にかけて西端を走る。途切れる箇所があるが、遺構の上層が削られ、低い所が残った状態と考えられる。埋土は底に暗灰黄から灰黄色シルトが堆積し、上は黄色から灰白の粘土ブロックで埋められている様子である。4号溝との新旧関係は、上面に暗灰黄土が薄く堆積していたため遺構同士の範囲や切り合いが判別しにくい状況であった。断面145-146から当溝の南側は4号溝南肩に近い箇所まで延びている事が分かった。

7号溝：調査区南にある。断面55-56では周辺所々にある現代の杭跡の一部が絡んでいる。

10号溝：後調査区の東側で、隣地との境に検出している。焼土とP110には切られている。板状の痕跡を認めたが、部分的であり、塀跡とするには根拠に乏しい。

11号溝：後調査区に検出している。6号溝より新しく、年代は埋土から近世と思われる。

（5）その他の遺構

後調査区東で、10号溝を切って焼土を含む柱穴状の遺構を検出している。当初柱穴として調査していたが、柱穴に焼土が入ったものではなく焼成遺構の一端の可能性がある。

4　まとめ

調査区西側から流れ込んだ様子でかわらけ片を含む堆積層が広がり、遺構を覆い隠した状態であった。そのため6号溝は当初溝とは判断できなかった。しかし浅い溝の形状を現し、また底に灰色の層が薄く入ることから他の遺構や層と判別することができた。4号溝は、他の遺構との重なりが多かった。

重複遺構は古い順に（旧）４号溝Ⅰ期―P29・１号掘立柱建物（P40・67）―４号溝Ⅱ期―６号溝・４号土坑（新）となる。

建物では２号掘立柱建物と１号柱穴列の新旧は不明であるが、これらより後に１号掘立柱建物が建てられている。新旧及び遺構の配置から、１号掘立柱建物跡と６号溝、２号掘立柱建物跡と４号溝が関係する可能性がある。

西側に隣接する過去の調査区（第11図）では四面庇建物や車宿と考えられる遺構などが検出されており、相応の階級の邸宅跡であることがうかがえる。63次調査ではかわらけや12世紀の陶器など多くの遺物が出土している。遺構の配置は、12世紀の建物や塀跡は南北軸を基本に建てられている。これに対し近世になると軸方向は南北から斜めに振れ、通路や道路に沿った配置となっている。

120次調査区の北側で下水管設置の際立会を行った。120-2では擁壁の解体跡の影響で確認できなかったが、12世紀の道路側溝と思われる掘り込みを検出した。上層は撹乱されており、下層のみと思われる。関連する遺物は出土しなかった。

第１表　柱穴観察表

番号	平面形	大きさ（cm）		深さ（cm）	底面標高（m）	出土遺物（ ）遺物番号	新旧	備考
		掘方	柱痕跡					
1	円	30×26	－	12	29.20	かわらけ		
2	円	59×52	22×20	42	28.87	かわらけ		2号建物
3	楕円	77×72	31×30	62	28.69	かわらけ	1号溝より旧	2号建物
4	楕円	60×56	22×21	51	28.89	かわらけ		2号建物
6	円	32×30	18×18	60	28.91	かわらけ(9)		2号柱穴列
7	楕円	43×33	19×15	7	29.44	かわらけ 土壁(62)	3・4号溝・4号土坑より新	
10	楕円	28×22	15×13	26	29.34	かわらけ		
11	円	38×36	18×16	15	29.44	かわらけ		
12	楕円	47×40	20×18	25	29.32	かわらけ		
13	楕円	34×28	16×16	34	29.22	かわらけ 角釘(96)		
14	円	25×24	－	20	29.27	かわらけ		
15	円	28×25	13×12	27	29.22	かわらけ		
16	円	44×44	18×17	39	29.08			
19	円か	33×[18]	15×[9]	27	29.24	かわらけ		
21	楕円	71×65	25×25	64	28.78	かわらけ	1・2号溝より旧	1号建物
22	円	22×21	－	12	29.28		1号溝より旧	
23	楕円	44×39	－	62	28.78	かわらけ		1号建物
24	楕円	36×30	10×8	47	28.95	かわらけ		1号建物
25	円	30×30	14×14	44	29.02	かわらけ		
26	円	26×24	10×10	26	29.06	かわらけ	1号溝より新	
27	楕円	59×56	18×17	39	28.78	かわらけ 粘土塊	P28より旧	2号建物
28	楕円	58×43	－	57	28.62		P27より新	1号建物
29	円	22×20	14×12	5	29.18		4号溝より旧	
30	円	24×22	11×11	6	29.27		2号土坑より旧	
31	円か	64×[52]	23×23	39	28.93	かわらけ	P32より旧	2号建物
32	楕円	40×33	－	23	29.12	かわらけ	P31・77より新	
33	円	21×19	－	20	29.24			
34	楕円	30×25	12×11	36	29.09	かわらけ		
35	円	30×29	12×12	35	28.92	かわらけ		
36	楕円	32×25	－	50	28.95	かわらけ		
37	円	29×29	14×13	63	28.85			
38	楕円	62×55	22×20	66	28.60		1号溝より旧	1号建物
40	楕円	54×41	14×13	47	28.94	かわらけ	4号溝2期より新、1・4号溝2期より旧	1号建物
41	円	23×23	10×9	11	29.32			
42	円	30×29	13×12	36	29.10			
43	楕円	18×14	－	43	29.04		3号溝より新	
47	不明	25×[13]	－	－	－		トイレ状遺構より新	
48	不明	22×[6]	－	－	－		トイレ状遺構より新	
49	楕円	30×25	9×9	35	29.06	かわらけ	P50より旧	
50	楕円	60×44	－	22	29.19	かわらけ	P49・51より新	
51	楕円	[41]×38	－	22	29.15	かわらけ	P50より旧	
53	円	23×23	12×12	16	29.28		5号溝より旧	
54	楕円	43×39	16×16	56	28.92	かわらけ	2・5号溝より旧	1号建物
55	楕円	26×23	11×11	35	29.05	かわらけ	2号土坑より旧	
57	楕円	47×35	－	40	29.11	かわらけ	3号溝より新	
58	隅丸方	17×11	6×6	25	29.28	かわらけ 粘土塊	4号溝と不明	
59	楕円か	65×[40]	－	47	28.71	かわらけ	P60・63より旧	2号建物
60	楕円	52×40	24×16	52	28.47	かわらけ	P59・63より新	1号建物
61	円	30×29	13×12	30	29.12			
62	円か	27×[15]	9×[5]	[34]	[29.08]			
63	楕円か	52×[32]	16×16	45	28.72		P59より新、P60より旧	2号建物
64	円か	24×[14]	14×[5]	21	29.05	かわらけ 木片	1号土坑より新	
65	円	60×58	21×21	61	28.69	かわらけ 土壁(65)	P66より新か	1号建物
66	楕円	72×64	21×21	51	28.84		P65より旧か	1号柱穴列
67	隅丸方	43×40	14×12	74	28.70	かわらけ	4号溝1期より新、4号溝2期より旧	1号建物
68	円	25×22	16×13	26	29.04	粘土塊	1号溝より旧	
69	円	51×47	24×20	55	28.90	かわらけ		2号建物
70	不明	[20]×[18]	－	25	29.21	かわらけ(6) 土壁(66)	6号溝より新、P71・72より旧	
71	楕円か	45×[29]	18×14	56	28.86	かわらけ	6号溝・P70より新、P72より旧	
72	円か	42×[32]	22×20	57	28.83	かわらけ	6号溝・P70・71より新	2号柱穴列
73	円	25×23	－	7	29.19			
75	楕円	55×50	17×16	81	28.55	柱根(109)		1号建物
76	楕円	17×[11]	－	6	29.26	土壁(67)		
77	不明	30×[20]	－	－	－		P32より旧	1号建物、検出のみ
101	楕円	40×27	－	－	－			1号建物、検出のみ
102	楕円	70×61	25×25	27	28.65			1号柱穴列
103	楕円	65×61	30×29	22	28.60			1号柱穴列
104	楕円	30×21	－	未測	未測		6号溝より旧	未完掘
105	楕円	54×48	25×23	23	28.56	かわらけ		1号建物
106	楕円	54×49	30×26	10	28.78	かわらけ		1号建物
107	楕円	20×16	－	－	－			検出のみ
108	円か	24×[20]	－	18	28.70			
110	不明	56×[28]	－	27	28.65	かわらけ	10号溝より新	1号柱穴列
111	楕円	41×35	22×19	未測	未測			1号建物
112	円	41×38	20×16	未測	未測	かわらけ 加工石	1号溝・P113より旧	
113	楕円	33×29	18×18	未測	未測	かわらけ 銭貨(98・99) 漆器(110～112) 種子(120)	P112より新、1号溝より旧	
114	楕円	47×40	21×20	27	29.03	かわらけ 国産陶器(33)	P115より新	
115	楕円	[68]×54	22×20	42	28.85		P114より旧	
116	円	30×30	15×15	未測	未測	柱根(113)		未完掘
117	楕円	35×29	18×13	未測	未測	かわらけ 種子(120)		未完掘
118	楕円	54×[30]	26×20	66	28.64	かわらけ		
119	楕円	25×16	9×6	未測	未測			未完掘
120	楕円	46×42	19×19	31	29.10	かわらけ		
121	円か	25×[23]	12×[11]	未測	未測	かわらけ		未完掘
122	円	22×20	12×9	未測	未測			未完掘
124	円	25×24	－	未測	未測			未完掘
125	円か	45×[30]	－	37	29.06	かわらけ		
126	楕円	40×32	－	44	28.82		11号溝より新	
127	円	21×19	－	9	29.13	かわらけ	6号溝より新	
128	楕円	60×50	19×15	52	28.87	かわらけ 国産陶器(34) 土壁(89)		1号柱穴列
129	楕円	51×38	30×23	97	28.47	柱根(114)		2号柱穴列
130	円	22×22	－	未測	未測	かわらけ	6号溝より新	未完掘
131	円	19×19	－	10	29.25	かわらけ		
132	楕円	38×34	24×22	36	28.67			

※無い番号は欠番［　］未完掘での計測値

かわらけ

国産陶器

中国産陶磁器

近世陶磁器

銭貨

土師器

木製品

鉄製品

赤色顔料

タール

シミ

0　1：3　5cm　0　1：6　10cm

銭…S=原寸　0　1：2　5cm

第12図　出土遺物

第２表　かわらけ観察表

（　）推定値　＜　＞残存値

№.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法　量（cm）			残存率（%）	年代	備　考	登録№.
					口径	底径	器高				
1	12	6	1号溝	手づくね大	14.4 ～ 14.8	－	2.9 ～ 3.5	95	12 c	指痕 摩滅	41
2	12	6	1号溝 検出面	手づくね小	9.0	－	1.7 ～ 2.0	完形	12 c	摩滅	59
3	12	6	1号溝	手づくね小	9.0	－	1.6 ～ 1.9	80	12 c	摩滅	44
4	12	6	1号溝	手づくね小	9.4	－	1.4 ～ 1.8	90	12 c	内面に漆付着か 指痕 摩滅	45
5	12	6	1号溝	手づくね小	9.6 ～ 10.2	－	1.7 ～ 1.9	90	12 c	スノコ痕 摩滅	48
6	12	6	P70 検出面	手づくね小	9.0 ～ 9.3	－	1.5 ～ 1.7	完形	12 c	スノコ痕 指痕	232
7	12	6	北西拡張区	手づくね小	(9.2)	－	1.9	50	12 c	摩滅 反転実測	104
8	12	6	4号土坑(4号溝上)	ロクロ小	－	6.0	－	60	12 c	底部のみ 摩滅 反転実測	137
9	12	6	P6	ロクロ小	－	5.8	－	40	12 c	底部のみ 摩滅 反転実測	69-3.171-1
10	12	6	3号土坑	ロクロ小	(8.3)	6.6	2.4	70	12 c	スノコ痕 摩滅 反転実測	56

第３表　国産陶器観察表

№.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備　考	登録№.
11	12	6	1号溝南東端肩 検出面	渥美	鉢	体部	12 c		6
12	－	－	1号土坑 上面	常滑	甕	胴部	12 c		52-2
13	12	6	2号土坑 上層	瀬戸	碗皿	口縁部	15・16c	大窯期 外面に沈線	115
14	12	6	調査区南側 包含層	渥美	甕	肩部	12 c		13-2
15	－	－	調査区南端 表土～盛土層	渥美	鉢	肩部	12 c		189
16	12	6	北側西拡張 表土～盛土	渥美	甕	胴部	12 c	押印	105-4
17	12	6	北側拡張 表土～水田層	渥美	甕	胴部	12 c	押印	254-2
18	－	－	調査区北西隅拡張区 表土・盛土・水田層	常滑	甕	胴部	12 c		160-3
19	12	6	調査区南東部拡張区 表土～水田層	常滑	甕	胴部	12 c		175-2
20	－	－	調査区南東部拡張区 表土～水田層	渥美	壷	胴部	12 c		175-7
21	－	－	調査区南東部拡張区 表土～水田層	渥美	甕	胴部	12 c		175-9
22	12	6	調査区南東部拡張区 表土～水田層	渥美	鉢	口縁部	12 c		175-8
23	12	6	盛土中	常滑	甕	肩～胴部	12 c	押印	315-2
24	－	－	調査区南側 水田の上	常滑	甕	胴部	12 c		11-2
25	12	6	調査区東壁 水田層	常滑	甕	肩部	12 c		311
26	－	－	北側西拡張 水田層	常滑	甕	胴部	12 c		106-2
27	12	6	重機対応	常滑	甕	頸～肩部	12 c	押印	1-4
28	12	6	重機対応	常滑	甕	胴部	12 c	押印	1-3
29	12	6	重機 清掃	常滑	甕	肩部	12 c	押印	2-2
30	12	6	重機 清掃	常滑	甕	肩部	12 c		2-3
31	12	6	南東隅 地山上堆積層	渥美	甕	胴部	12 c	断面に擦り痕	24
32	－	－	南西拡張部	渥美	甕	胴部	12 c		147-2
33	－	－	P114	常滑	甕	胴部	12 c		後7
34	12	6	P128	渥美	甕	肩部	12 c		後12-2
35	12	6	調査区東 堆積層	渥美	甕	胴部	12 c	表に刃物痕跡あり 砥石に転用か	後36-3
36	12	6	調査区南西拡張	常滑	甕	肩～胴部	12 c	押印	後26-2

第４表　中国産陶磁器観察表

№.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備　考	登録№.
37	12	6	1号溝 精査	褐釉陶器	壷	胴部	12 c		42-2
38	－	－	1号溝西縁(杭2-5間)	青磁	碗	体部	13 c	龍泉窯Ⅱ類か	50-2
39	－	－	北側西拡張 表土～盛土	白磁	碗	体部	12 c か		105-2
40	－	－	杭2西脇 表土～水田層	白磁	壷	胴部	12 c	Ⅲ系	226-2
41	12	6	北側東拡張 水田層	青磁	碗	体部	12 c	同安窯Ⅰ類 内外面に櫛目文	113-2
42	－	6	調査区中央検出面	白磁	壷	胴部	12 c	Ⅱ系	7
43	－	6	重機対応	白磁	壷	胴部	12 c	Ⅲ系	1-2
44	12	6	重機対応	白磁	皿	口縁部	15c	森田Ｄ群	1-11
45	12	6	調査区東北	青白磁	碗皿	口縁部	12 c	輪花	227-2
46	12	6	調査区東 堆積層	白磁	皿	口縁部	15・16c	森田Ｄ群	後36-5
47	12	6	11号溝	白磁	壷	口縁部	12 c	Ⅲ系	後37-2

第５表　土師器観察表

№.	図版	写真図版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備　考	登録№.
48	12	6	北西拡張	甕	肩部	奈良	外面に赤彩か	103-1
49	12	6	北西拡張	甕	肩部	奈良	外面に赤彩か 1と同一個体	103-2

第６表　須恵器観察表

№.	図版	写真図版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備　考	登録№.
50	－	6	北側西拡張 水田層	甕	胴部	古代	外面タタキ	106-3

第７表　縄文土器観察表

№.	図版	写真図版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備　考	登録№.
51	－	6	トイレ状遺構西半 1層	鉢か	体部か	晩期か	外面に複数の沈線　内外面に煤付着	292-2

第８表　近世陶磁器観察表

№.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備　考	登録№.
52	－	－	調査区東北拡張 表土～水田層	磁器	碗皿	体部か	近世	肥前産 染付	228-3
53	－	－	調査区北西隅拡張部 表土～水田層	陶器	碗	体部	近世	瀬戸産	296-2
54	－	－	調査区北側拡張 表土・盛土	陶器	甕	胴部	19c ～	在地産	76-2
55	12	6	調査区北西拡張部 水田層	磁器	小壷	蓋	近世	肥前産か 青磁	77-2
56	－	6	調査区東 堆積層	磁器	碗	口縁部	近世	肥前産 染付	後36-2
57	12	6	調査区西部 重機・清掃	磁器	皿	底部	17c	肥前産 染付	3-2
58	－	－	重機対応	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	1-5
59	－	－	重機対応	磁器	碗皿	体部か	近世	肥前産 染付	1-9
60	－	－	重機対応	陶器	碗	体部	近世	大堀相馬産か	1-10
61	－	－	調査区 壁切り	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	5-2

第9表　土壁観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	法量（cm）	重量（g）	スサの有無	備考	登録No.
62	－	－	P7 上面	1.5 ～ 2.3	3.4	不明	2点	29-2
63	－	－	P18 東半	1.1	1.3	有	1点	222-2
64	－	－	P44 南半	0.6 ～ 2.9	8.9	有	6点	191-2
65	－	－	P65	0.8	0.7	有	1点	241-2
66	－	－	P70 上面	1.5	1.6	有	1点	248-2
67	－	－	P76	0.8 ～ 1.5	2.2	有	3点	306
68	－	－	1号土坑東半 上層	1.2	1.4	有	1点	203-2
69	－	－	2号土坑 上面	0.9 ～ 1.1	1.7	有	3点	34-3
70	－	－	2号土坑 上面	0.6 ～ 2.3	9.1	有	10点	35-2
71	－	－	2号土坑西半 上面	1.3	1.6	有	1点	53-3
72	－	－	2号土坑 上面	0.8 ～ 1.8	2.9	有	3点	54-2
73	－	－	2号土坑 上層	1.9	3.0	有	1点	85-2
74	－	－	2号土坑 上層	1.4	1.3	有	1点	86-2
75	－	－	2号土坑 上層	0.9 ～ 1.8	5.4	有	5点	109-2
76	－	－	2号土坑西半 最上層	0.6 ～ 1.3	2.6	有	5点	95-2
77	－	－	1号溝 精査	1.3 ～ 2.7	14.9	有	5点	42-4
78	－	－	1号溝西縁杭2-5間	1.1	0.9	有	1点	63-2
79	－	－	調査区北西隅拡張部 1号溝 上層	1.0	0.9	有	1点	258-2
80	－	－	北側東拡張 表土～埋土	1.4	1.5	有	1点	88-3
81	－	－	北側拡張 表土～水田層	1.9	3.6	有	1点	254-3
82	－	－	調査区東北拡張 表土～水田層	1.3	1.2	有	1点	228-4
83	－	－	南壁際下 水田層	1.4	1.7	不明	1点	25-3
84	－	－	2号土坑 下面	1.5 ～ 4.2	72.1	有	17点	120-2
85	－	－	2号土坑 最上層	1.8 ～ 8.0	92.7	有	2点	92
86	－	－	2号土坑 下層	4.5	20.9	有	1点	116
87	－	－	地山直上堆積層	1.5 ～ 2.4	14.7	有	10点	後3-2
88	－	－	3号溝 底	0.9	0.5	有	1点	後11-2
89	－	－	P128	0.5 ～ 2.3	2.4	有	2点	後24-2
90	－	－	P125とP121の間	1.2	1.2	不明	1点	後31-2

第10表　鉄製品観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量（cm）			重量（g）	備考	登録No.
					長さ	幅	厚さ			
91	－	6	北東拡張1号溝 上面	角釘か	5.5	1.9	1.4	16.9		219-2
92	12	6	1号溝	角棒状	<7.7>	0.8	0.8	9.7		149
93	－	－	杭2南東壁下1号溝へり状箇所	角釘	2.5	0.8	0.7	2.0		36-2
94	－	－	4号溝東端	角釘	3.8	1.2	0.9	3.7		66-2
95	－	－	2号土坑 上面	角釘	2.6	0.4	0.2	0.9		34-2
96	－	－	P13	角釘	2.8	0.5	0.5	1.0		221
97	－	－	遺構検出面	不明	1.1	0.7	0.6	0.7		20-2

第11表　銭貨観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ（cm）	重量（g）	備考	登録No.
98	12	6	P113	銅銭	2.1	0.9	永楽通宝 1408年初鋳	後27-1
99	12	6	P113	銅銭	2.1	0.8	永楽通宝 1408年初鋳	後27-2

第12表　滓観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	大きさ（cm）	重量（g）	磁着	種類	備考	登録No.
100	－	－	1号溝 精査	1.1 × 0.9	0.8	有	鉄滓	1点	42-3
101	－	－	杭2南東壁下 1号溝へり状箇所	1.0 × 0.8	0.6	有	鉄滓	1点	36-3
102	－	－	6号溝	3.4 × 3.1	17.8	有	鉄滓	1点	218
103	－	6	2号土坑西半 上面	5.8 × 2.9	90.2	有	鉄滓	1点	53-2
104	－	－	南壁際下 水田層	3.1 × 2.5	11.2	有	鉄滓	1点	25-2
105	－	－	調査区南側 地山直上層	1.7 ～ 1.9	13.3	有	鉄滓	2点	14-2

第13表　木製品観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量（cm）			備考	登録No.
					長さ	幅	厚さ		
106	12	7	トイレ状遺構西半 7層	加工木	〈11.6〉	0.7	0.3	黒いシミ有り	307-1
107	12	7	トイレ状遺構 7層	ちゅう木か	〈15.0〉	1.9	0.4		303
108	－	7	トイレ状遺構 8層 壁	ちゅう木か	〈9.8〉	1.2	0.3	先端にコゲ	310
109	12	7	P75	柱根	29.8	13.3×12.9（径）		底面にタール	316
110	－	7	P113	漆器	3.8	2.0	0.3	2片	後22-7
111	－	7	P113	漆被膜	10.0	7.0	－	黒と朱の漆	後22-8
112	－	7	P113	漆被膜	4.0	4.0	－	黒と朱の漆	後22-12
113	－	7	P116	柱根	18.8	11.5×6.9（径）		底面にタールか	後28
114	－	7	P129	柱根	63.5	20.5×17.5（径）		底面にタールか	後39

第14表　種子観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ	備考	登録No.
115	－	－	1号土坑東半 上層	桃類	1.9 ～ 2.1		203-3
116	－	7	トイレ状遺構(P18) 下層(有機物多い)	スモモ・ウリ・ナス・不明種子	0.5 ～ 1.4	スモモ3点・ウリ5点・ナス14点・不明種子1点	267-1
117	－	－	トイレ状遺構(P18) 西半 7層（上層の範囲）	ウリ・ナス	0.4 ～ 0.8	ウリ10点・ナス9点	295-2
118	－	－	トイレ状遺構(P18) 西半 7層	スモモ・ウリ・ナス	0.4 ～ 1.6	スモモ2点・ウリ27点	307-3
119	－	－	トイレ状遺構(P18) 西半 8層	ウリ・ナス・ヤマブドウ	0.4 ～ 0.8	ウリ3点・ナス49点・ヤマブドウ1点	308-2
120	－	－	P113	桃類	1.1		後22-3
121	－	－	P117	桃類	2.1		後9

第15表　石製品観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種別	法量（cm）	重量（g）	色調	備考	登録No.
122	－	7	P112	加工石か	4.2 × 3.0 × 2.6	34.0	5Y8/1灰白	卵形	後21-3

第16表　その他観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ（cm）	重量（g）	備考	登録No.
123	－	7	北西拡張	不明土器	高台径（5.8）器高（2.1）	23.2	高台付土器の底部か 年代不明 反転実測	150-2

掘立柱建物跡（西から）

調査区全景（南から）

２号溝検出状況（南西から）

P70・71・72検出状況

トイレ状遺構検出状況

写真図版１　検出遺構（１）

P63・60断面

P103断面

P69断面

P72断面

１・２号土坑検出状況（東から）

１・２号土坑断面（西から）

３号土坑かわらけ出土状況（東から）

調査区南壁と７号溝

写真図版２　検出遺構（２）

４号土坑（東から）

４号土坑（南から）

トイレ状遺構（東から）

トイレ状遺構断面（西から）

１号溝（西から）

１号溝かわらけ出土状況（北から）

５号溝（西から）

３号溝（西から）

写真図版３　検出遺構（３）

４号溝断面（東から）

４号溝断面（西から）

４号溝断面21-22（西から）

４号溝断面143-144

４・６号溝断面145-146

６号溝断面57-58

４号溝（東から）

４号溝完掘状況（西から）

写真図版４　４・６号溝

後調査全景（南東から）

１号柱穴列（南西から）

P116柱根

10号溝検出状況（北から）

P112・P113（北から）

P113漆器出土状況

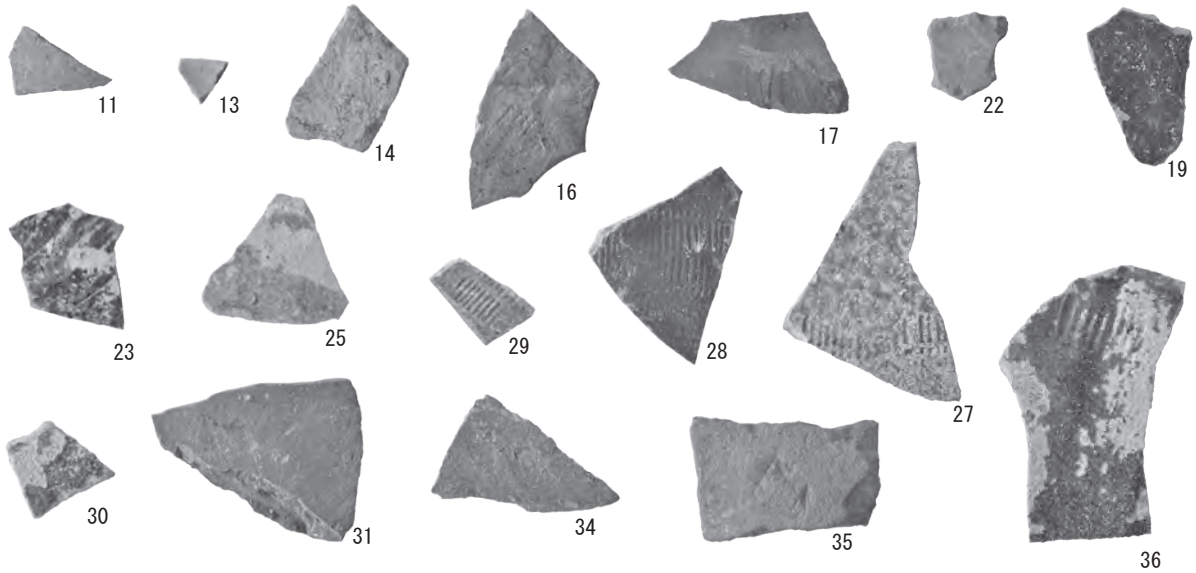
下水管工事（北から）

下水管工事断面（西から）

写真図版５　120-2・下水管工事立会

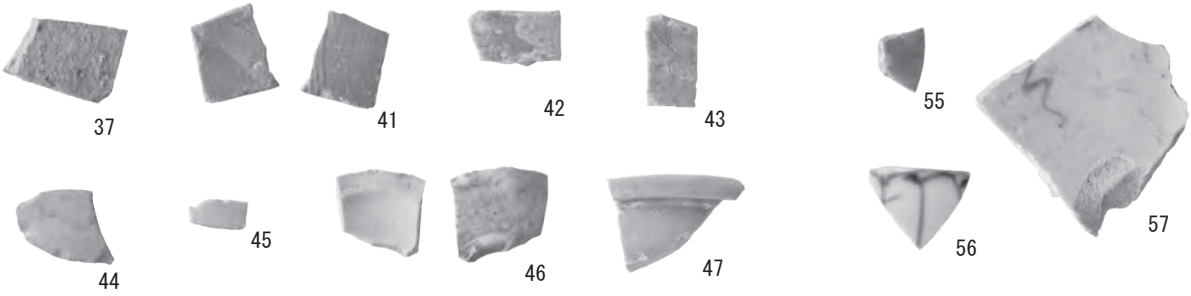
かわらけ

国産陶器

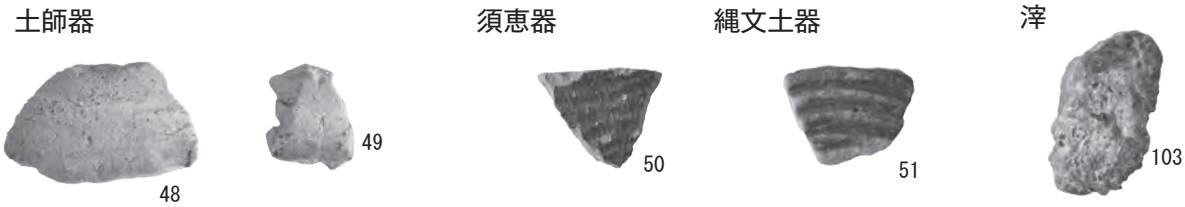


中国産陶磁器

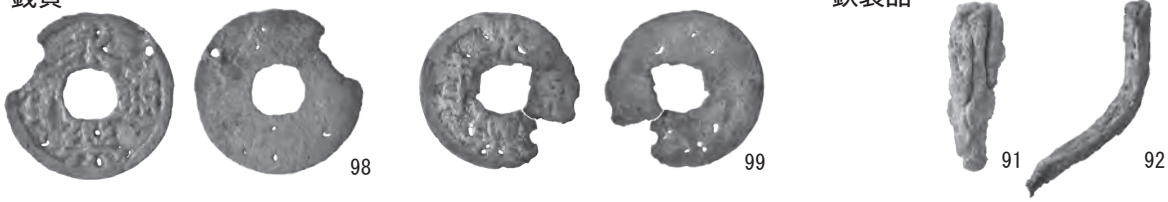
近世陶磁器



土師器　須恵器　縄文土器　滓

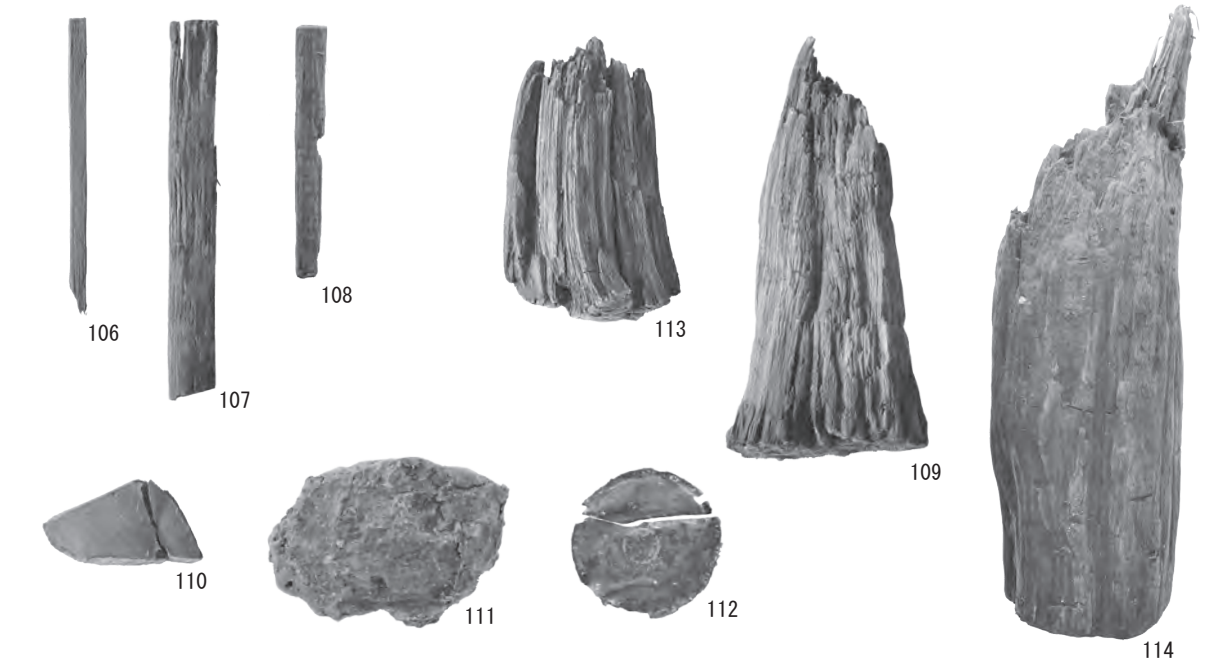


銭貨　鉄製品



写真図版６　出土遺物

木製品



種子　　石製品　　その他

写真図版７　出土遺物

写真図版８　調査区全景（南から）

写真図版９　種子出土状況

トイレ状遺構の土壌分析について

土壌分析（古代の森研究舎）により、以下の考察を得ている。一部を掲載する。

７層からは多くの寄生虫卵が検出されており、糞便堆積物と考えられる。出土した果実は、ブドウ属、キイチゴ属、クワ属、ヤマボウシ、メロン仲間、ナス近似種である。また、種そのものを食用あるいは薬用などで利用する可能性があるのはヒユ属、エゴマ、シソ属である。

なお、分析結果はJSPS科研費19K02356の成果の一部を使用しており、概要は島原弘征2022「平泉におけるトイレ状遺構の分布と性格について」（季刊『古代文化』第74巻第３号）の表１（№148）にも記されている。

志羅山遺跡第121次発掘調査

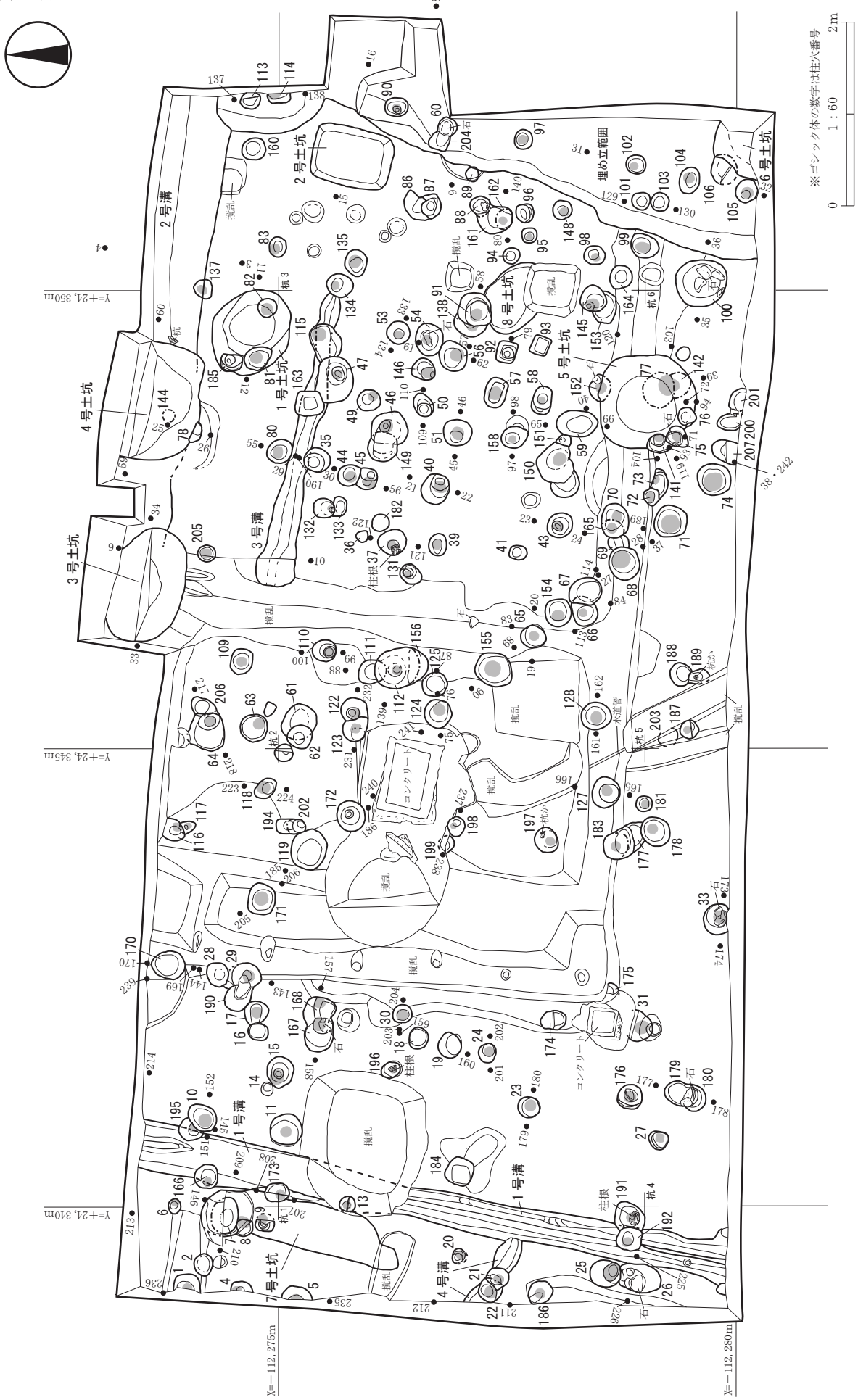
1　調査要項

調査地点　　岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山155-５、155-22
調査面積　　92㎡
調査期間　　令和４年６月16日～８月23日
原　　因　　住宅新築
担　　当　　鈴木江利子

2　位置と概要（調査地点位置図：66頁の志羅山遺跡120次第１図参照）

調査箇所は志羅山遺跡の中央からやや北側に位置する。ＪＲ東北本線平泉駅からは220ｍ西側で、周囲は住宅地となっている。周辺のこれまでの発掘調査では道路側溝や土坑・井戸・建物跡など12世紀の遺構を中心に検出している（第１図）。今回の調査でも多くの柱穴や土坑、溝などを検出した。しかし、現代まで利用された住宅の跡地であることや遺構面まで浅いため、基礎や水道管などの掘り込みの影響を多く受け、失われた遺構も多い様子である。遺構検出面の標高は、調査区の西から中央にかけて26.8～26.9ｍで、東側は26.7～26.8ｍでやや低くなっている。東端は、近代と思われる埋め立てが行われ、平坦地を広げている。

第１図　周辺調査位置図


※ゴシック体の数字は柱穴番号
0
1：60
2m
埋め立範囲
1号土坑
2号土坑
3号土坑
4号土坑
5号土坑
6号土坑
7号土坑
8号土坑
1号溝
2号溝
3号溝
4号溝
撹乱
コンクリート
水道管
柱根
杭
Y=+24,350m
Y=+24,345m
Y=+24,340m
X=−112,275m
X=−112,280m

第２図　全体図

３　調査成果

検出遺構は柱穴、土坑、井戸跡、溝跡である。

（１）柱穴

柱穴は全体で183個検出した。出土遺物から近世と思われる柱穴が多く、その埋土は黒色土と明黄褐色を主とした地山粘土ブロックが混じっていた。**１号掘立柱建物跡**も埋土や出土遺物から近世の建物跡である。規模は敷地全域に広がり、柱穴も深く掘り込んだしっかりした建物である。西端は、調査区外にある可能性もあるが、P166－P26の通りで考えた。北側の２号溝や３号溝と並行した位置関係にある。調査区全体の柱穴の多さからは建替が多く行われた可能性があるが、建物としての構成は難しく、全体で３棟となった。**２号掘立柱建物跡**は**１・３号掘立柱建物跡**とは方向が異なるが埋土から近世の可能性がある。３号掘立柱建物は、東と西の柱筋が離れた位置にあるが、並行しているため建物として構成した。南北どちらも調査区外にあると考えられる。**１号柱穴列**は、構成する柱穴は周辺の柱穴と異なる埋土で、締まった状態をしている。調査区を斜めに横断するように、12個の柱穴が70㎝前後の間隔で並んでいる。１条並んだ状態から塀であると考えられる。検出距離は８ｍ程であるが調査区外にも続いている様子である。

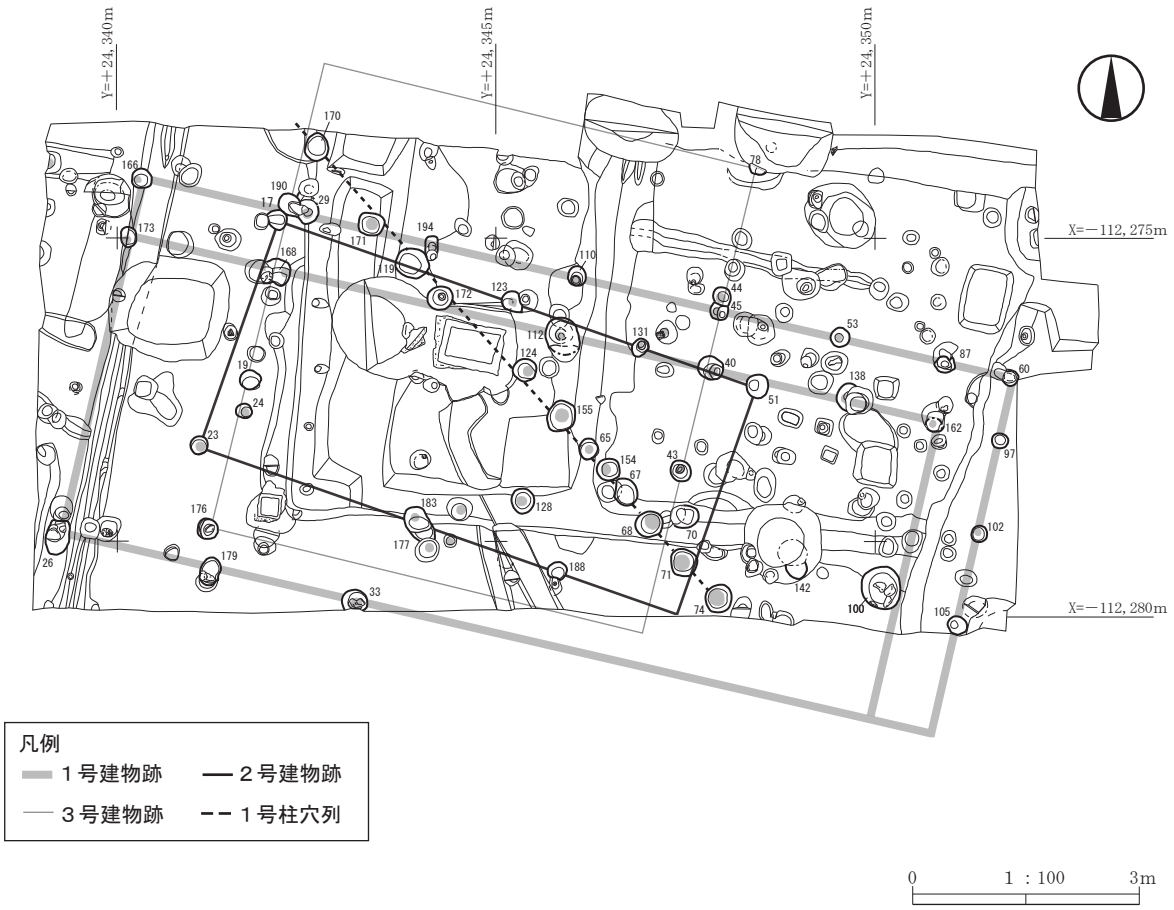
遺構名	規模（庇・下屋を含む）					方向	新旧関係	構成柱穴	出土遺物（遺物番号）
	南北		東西		庇・下屋				
	間数	全長	間数	全長					
1号建物	4	4.9	7	11.9	［2面］	N-13°-E	5・7号土坑より新1号溝より旧	166・29・194・110・44・53・87・60・173・168・112・40・138・162・97・24・128・70・142・100・102・105・26・179・33	かわらけ 近世陶磁器(36・37) 土壁(91・96・107) 木片 不明鉄製品　鉄銭(119)
2号建物	2	3.3	4	6.7	－	N-20°-E		17・123・131・51・23・177・183・188	かわらけ 近世陶器(35) 土壁(95・104)
3号建物	3	6.4	1	5.9	－	N-13～14°-E	4号土坑・1号建物より新	78・190・45・19・43・176	かわらけ 土壁(92)
1号柱穴列	11	8.1	－	－	－	N-40°-W		170・171・119・172・124・155・65・154・67・68・71・74	かわらけ

（２）土坑

１号土坑と**２号土坑**は、近世から近代の遺構である。**３・５号土坑**は埋土や出土遺物から12世紀と考えられる。３号土坑の埋土上層は灰色を主とし、下層は明黄褐色の粘土ブロックを主として埋め戻されている。５号土坑上層は、上層が灰から黒褐色の大きめのブロックで、下層は浅黄色の粘土やシルト質土で埋め戻されている。**４号土坑（井戸跡）**は検出面で近世の磁器を出土したため、近世の遺構であるとも考えたが、調査を進めても他には近世と判断する遺物は出土しなかった。近世の磁器は遺構上を通る２号溝底出土の可能性があり、他の出土遺物から12世紀の遺構と判断した。形状や水分を多く含む状態から**井戸跡**と思われ、出土木製品の状態も良好である。**６号土坑**は多くが調査区外にある。黒褐色にオリーブ黄色から青味がかった灰色の土が混じる。**７号土坑**は遺構の埋土などから古代以前の落とし穴の跡と考えられる。**８号土坑**は、深さ15㎝程度の浅い土坑で、埋土は灰黄褐色に明黄褐色粘土のブロックが混じった単層である。近世の遺物は出土していないが年代は不明である。

遺構名	平面形	規模（m）		標高（m）		深さ（m）	新旧関係	出土遺物（遺物番号）
		上面(長×短)	底面(長×短)	検出	底面			
1号土坑	楕円	1.00×0.85	0.50×0.45	26.73	26.62	0.11		かわらけ 国産陶器(4) 近世磁器(32) 土壁(81) 釘(116) 近現代陶磁器
2号土坑	長方	0.87×0.64	0.73×0.50	26.74	26.63	0.11		かわらけ 近世磁器(33) 土壁(82)
3号土坑	円か	1.28×［0.75］	0.54×［0.14］	26.66	25.66	1.00	2号溝より旧	かわらけ 土壁(83)
4号土坑	円か	1.30×［0.66］	1.08×［0.42］	26.40	［25.12］	［1.26］	2号溝・3号建物より旧	かわらけ(1) 国産陶器(5) 中国産磁器(10) 土師器(14) 土壁(84～87) 釘(117.・118・124) 木製品(128～130・132) 種子(133)
5号土坑	円	1.12×1.08	0.67×0.64	26.85	25.48	1.37	1号建物より新	かわらけ 国産陶器(6) 土壁(88) 加工木 種子(134)
6号土坑	円か	［0.70］×［0.45］	[0.34]×［0.26］	26.62	26.07	［0.55］		
7号土坑	長楕円	0.50×0.60	0.47×0.51	26.87	26.15	0.72	1号建物より新	
8号土坑	楕円か	0.87×0.57	0.75×0.47	26.80	26.67	0.20		かわらけ 不明土製品

※［　］は未完掘での計測値



第３図　建物配置図

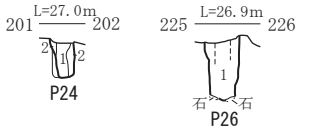
（３）溝跡

１・２・３号溝は出土遺物や埋土の状態から近世以降の遺構である。**１号溝**は２条の細く浅い溝が平行に南北方向に通っている。重なった柱穴よりも新しく、南北調査区外に続いている。**２号溝**は調査区北側を東西方向に通っている。現在の道路に沿った位置で、敷地の境を示している。この事から、道路舗装前まで道路側溝として上層は埋まり切らない状態で使われていた可能性がある。近世の区画を示す遺構である。**３号溝**は調査区北側に東西に延びている。西側は撹乱により切られ、東は底が僅かに低くなるが浅くなって消失している。１号建物から0.7 ～ 0.9ｍ離れて並行した位置にある。**４号溝**は調査区西端で僅かに検出し、西は調査区外に延びている。東側は１号溝に切られ、また造成によっても削られている可能性がある。P21・22より旧い。

遺構名	規模(m)		方向	標高(m)		深さ(m)	出土遺物（遺物番号）
	検出長	検出幅		検出	底面		
1号溝	6.50	0.32 ～ 0.65	N-10°-E	26.81	26.72 ～ 26.76	0.05 ～ 0.10	かわらけ 国産陶器(2) 近世陶磁器(16 ～ 18)
2号溝	6.10	［0.73］	N-81°-W	26.75	26.34 ～ 26.46	0.29 ～ 0.41	かわらけ 国産陶器(3) 近世陶磁器(19 ～ 30) 土壁(80) 釘(115) 近現代陶磁器 ビニール等現代物
3号溝	3.30	0.40	N-78°-W	26.82	26.74 ～ 26.78	0.04 ～ 0.08	かわらけ 近世陶器(31) 近現代陶磁器
4号溝	0.83	0.25	N-58°-W	26.86	26.78	0.20	

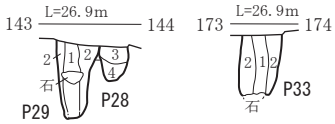
※［　］は検出値

ＳＢ１



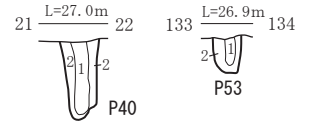
201-202
1 2.5Y3/1黒褐シルト 10YR6/6明黄褐粘土ブロック、10Y7/1灰白粘土ブロック40%混入 炭化物少量含
2 2.5Y3/1黒褐シルト 10YR6/6明黄褐粘土ブロック、10Y7/1灰白粘土ブロック1層より少量混入

225-226
1 2.5Y3/1黒褐シルト 2.5Y7/3浅黄粘土ブロック40%混入(柱痕跡不明瞭)



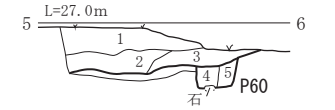
143-144
1 5Y2/1黒粘土 5GY7/1明オリーブ灰粘土ブロック少量混入
2 5Y7/2灰白粘土ブロック 2.5Y3/2黒褐シルト混入
3 10YR6/6明黄褐粘土ブロック 10YR3/1黒褐シルト混入
4 10YR3/2黒褐シルト 10YR6/6明黄褐粘土少量混入

173-174
1 2.5Y3/1黒褐粘土 7.5Y7/2灰白粘土ブロック30～40%混入
2 7.5Y7/2灰白粘土ブロック 2.5Y3/1黒褐粘土20～30%混入

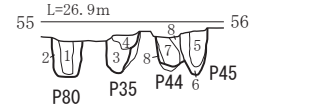


21-22
1 10YR3/2黒褐粘土 10YR6/6明黄褐粘土ブロック少量混入 上位に砂、鉄分、炭化物少量含
2 10YR6/6明黄褐粘土ブロック 10YR3/2黒褐粘土少量含

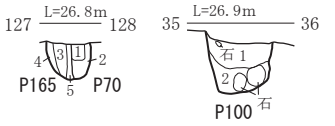
133-134
1 2.5Y3/2黒褐粘土 10YR7/4にぶい黄橙シルトブロック少量混入
2 10YR7/4にぶい黄橙シルトブロック 10YR3/1黒褐粘土少量混入



5-6
1 2.5Y3/2黒褐シルト
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 5Y3/2オリーブ黒シルト混入 砂含
3 5Y3/2オリーブ黒シルト 一部に5Y7/4浅黄粘土ブロック混入 砂、炭化物少量含
4 10YR3/2黒褐粘土 10YR6/6明黄褐粘土ブロック10%混入 炭化物少量含
5 10YR3/2黒褐粘土 10YR3/1黒褐シルト混入

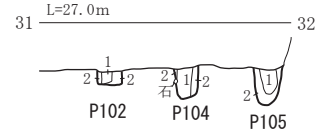


55-56
1 10YR3/1黒褐シルト 2.5Y5/4黄褐砂ブロック混入
2 10YR6/6明黄褐シルト 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック、2.5Y4/2暗灰黄シルト20%混入
3 2.5Y7/6明黄褐粘土 2.5Y3/1黒褐粘土50%混入
4 10YR5/6黄褐シルトブロック 2.5Y3/1黒褐粘土40%混入
5 2.5Y3/1黒褐シルト
6 2.5Y6/6明黄褐シルト 2.5Y4/1黄灰粘土少量混入
7 2.5Y3/1黒褐シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘土ブロック少量混入
8 2.5Y6/6明黄褐シルト 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック、2.5Y4/1黄灰粘土少量混入

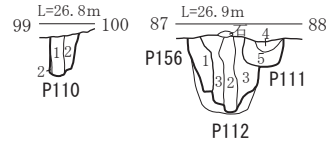


127-128
1 10YR3/1黒褐粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土、2.5Y7/2灰黄粘土混入
2 10YR3/1黒褐粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土、2.5Y7/2灰黄粘土少量混入
3 10YR3/1黒褐粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土、2.5Y7/2灰黄粘土少量混入
4 2.5Y7/2灰黄粘土 10YR3/1黒褐粘土、2.5Y6/6明黄褐粘土混入
5 10YR3/1黒褐粘土 2.5Y7/2灰黄粘土少量混

35-36
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘土 5Y7/3浅黄粘土ブロック混入 炭化物含
2 7.5Y3/1オリーブ黒粘土 7.5Y7/2灰白粘土ブロック混入

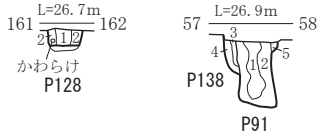


31-32
P102
1 2.5Y3/1黒褐粘土 10Y6/2オリーブ灰粘土ブロック混入
2 10Y6/2オリーブ灰粘土ブロック 2.5Y3/1黒褐粘土20%混入
P104
1 2.5Y3/1黒褐シルト 10Y5/2オリーブ灰砂ブロック混入 炭化物少量含
2 10Y5/2オリーブ灰粘土ブロック 2.5Y3/1黒褐粘土10%混入
P105
1 2.5Y3/1黒褐シルト 10YR4/6褐砂ブロック混入 炭化物少量含
2 2.5Y3/1黒褐シルト 10Y5/2オリーブ灰砂ブロック混入 炭化物少量含



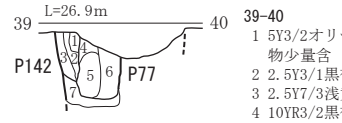
99-100
1 2.5Y3/1黒褐粘土 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック混入
2 2.5Y3/1黒褐粘土 2.5Y7/6明黄褐粘土小ブロック多量混入

87-88
1 10YR5/6黄褐粘土ブロック 10YR3/1黒褐粘土混入
2 10YR3/1黒褐粘土 10YR6/6明黄褐粘土小ブロック混入
3 10YR5/4にぶい黄褐砂 5Y7/4浅黄粘土ブロック、2.5Y3/1黒褐粘土混入
4 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2.5Y5/3黄褐砂ブロック混入
5 10YR4/6褐砂 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック、10YR4/2暗灰黄シルト混入



161-162
1 10YR5/4にぶい黄褐シルト 鉄分、炭化物少量含
2 2.5Y4/3オリーブ褐砂 5Y7/2灰白粘土ブロック60%混入

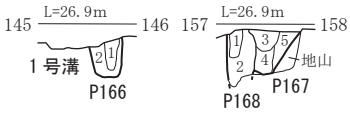
57-58
1 2.5Y4/2暗灰黄シルト 10YR6/6明黄褐シルトブロック少量混入
2 2.5Y7/6明黄褐～10YR6/6明黄褐シルトブロック 2.5Y4/2暗灰黄シルト20%混入
3 2.5Y4/2暗灰黄シルト 2.5Y6/6明黄褐シルトブロック少量混入
4 10YR6/6明黄褐 2.5Y8/3淡黄粘土ブロック、網状に2.5Y4/2暗灰黄シルト少量混入
5 2.5Y5/1黄灰シルト 2.5Y6/6明黄褐シルト混入



39-40
1 5Y3/2オリーブ黒粘土 5Y7/2灰白シルトブロック50%混入 炭化物少量含
2 2.5Y3/1黒褐シルト 10YR6/6明黄褐シルト～粘土ブロック混入
3 2.5Y7/3浅黄粘土ブロック 網状に2.5Y4/1黄灰シルト混入
4 10YR3/2黒褐シルト～粘土 2.5Y6/6明黄褐シルトブロック混入 炭化物含
5 10YR3/2黒褐粘土 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック40%混入 炭化物含
6 2.5Y3/1黒褐粘土 5Y6/3オリーブ黄粘土ブロック50% 混入
7 7.5Y4/1灰粘土(5号土坑)

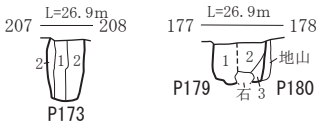
0　1：60　2m

第４図　断面図（１）



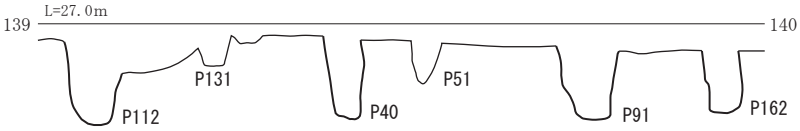
145-146
1 2.5Y3/1黒褐粘土
2 10YR6/6明黄褐粘土 2.5Y7/4浅黄砂、2.5Y3/1黒褐粘土混入 砂含

157-158
1 2.5Y3/2黒褐シルト 2.5Y6/4にぶい黄シルトブロック混入 炭化物少量含
2 2.5Y6/4にぶい黄シルト～砂ブロック 10YR5/8黄褐砂ブロック、2.5Y3/1黒褐シルトブロック混入
3 2.5Y3/1黒褐シルト 2.5Y7/4浅黄シルトブロック混入
4 2.5Y7/4浅黄砂ブロック 2.5Y3/1黒褐シルト混入
5 2.5Y6/4にぶい黄シルト～砂ブロック 10YR5/8黄褐砂ブロック、2.5Y3/1黒褐シルトブロック少量混入

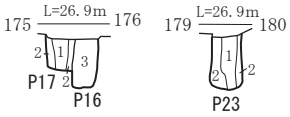


207-208
1 2.5Y3/1黒褐シルト 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック～10%混入
2 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック 10YR4/1褐灰シルト20%混入

177-178
1 5Y3/1オリーブ黒シルト 10Y6/1灰粘土ブロック50%混入
2 5Y3/1オリーブ黒シルト 10Y6/1灰粘土ブロック50%混入(中央で分層できるが新旧関係は不明)
3 5Y3/1オリーブ黒主体

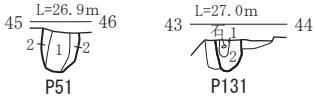


ＳＢ２



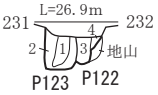
175-176
1 2.5Y3/1黒褐粘土 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック30～40%混入 砂含
2 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック 2.5Y3/1黒褐粘土30%混入
3 10YR4/2灰黄褐砂 2.5Y8/3淡黄粘土ブロック10%混入

179-180
1 10YR4/1褐灰シルト 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック混入 砂含
2 10YR4/1褐灰シルト 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック1層より少し多く混入 砂含



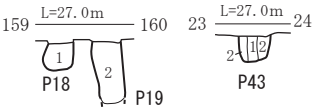
45-46
1 5Y4/1灰粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック少量、底付近に2.5Y2/1黒粘土混入
2 5Y4/1灰粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック40%混入

43-44
1 2.5Y3/2黒褐粘土
2 2.5Y3/2黒褐粘土 2.5Y5/6黄褐粘土ブロック30%混入



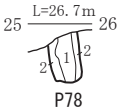
231-232
1 2.5Y4/3オリーブ褐粘土 2.5Y8/4淡黄粘土ブロック混入
2 2.5Y4/1黄灰粘土 10YR7/6明黄褐粘土ブロック、2.5Y7/4浅黄粘土ブロック混入
3 2.5Y3/1黒褐シルト 2.5Y6/4にぶい黄シルトブロック混入
4 10YR7/6明黄褐砂

ＳＢ３



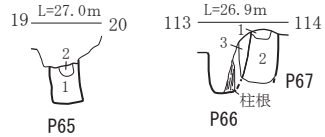
159-160
1 10YR3/2黒褐シルト 10YR7/6明黄褐粘土ブロック混入
2 2.5Y3/2黒褐シルト 2.5Y7/4浅黄シルトブロック少し混入

23-24
1 10YR3/2黒褐粘土 10YR6/6明黄褐粘土ブロック少量混入 上位に砂、鉄分、炭化物少量含
2 10YR6/6明黄褐粘土ブロック 10YR3/2黒褐粘土少量混入 炭化物含



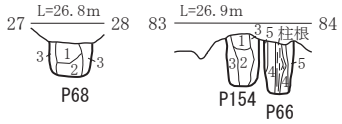
25-26
1 10YR4/2灰黄褐粘土 10YR4/6褐小粘土ブロック少量混入 鉄分含
2 10YR4/1褐灰粘土 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック混入炭化物少量含

１号柱穴列



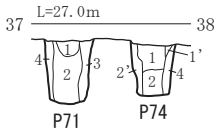
19-20
1 10YR4/3にぶい黄褐シルト 中位に多く2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック混入
2 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック主体

113-114
1 2.5Y4/1黄灰シルト 2.5Y5/4黄褐シルトブロック混入
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘土 10YR5/6黄褐粘土ブロック混入
3 10YR5/8黄褐砂 2.5Y6/4にぶい黄粘土ブロック、2.5Y3/2黒褐シルト混入



27-28
1 10YR4/2灰黄褐粘土 10YR4/6褐小粘土ブロック少量混入 鉄分、炭化物少量含
2 10YR4/1褐灰粘土 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック混入 炭化物少量含
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 10YR4/6褐粘土ブロック30%混入 炭化物少量含

83-84
1 10YR5/4にぶい黄褐シルト
2 10YR4/3にぶい黄褐粘土 10YR5/6黄褐粘土ブロック混入
3 10YR4/3にぶい黄褐粘土 10YR5/6黄褐粘土小ブロック混入
4 5Y4/1灰粘土 7.5GY6/1緑灰粘土ブロック混入
5 10YR4/3にぶい黄褐砂 2.5Y8/6黄粘土ブロック混入

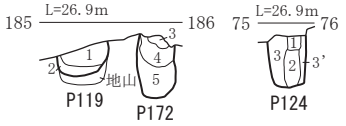


37-38
P71
1 10YR6/4にぶい黄橙シルト 2.5Y4/3オリーブ褐シルト混入
2 10YR4/2灰黄褐粘土 2.5Y7/2灰黄、10YR5/6黄褐粘土ブロック、10YR6/6明黄褐シルトブロック混入
3 10YR5/4にぶい黄褐シルト 10YR6/6明黄褐シルトブロック混入
4 2.5Y7/2灰黄粘土ブロック 10YR5/3にぶい黄褐シルト混入

P74
1 2.5Y5/3黄褐粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック混入 炭化物少量含
1’ 2.5Y5/3黄褐粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック混入
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 10YR4/4褐砂、2.5Y8/3淡黄粘土ブロック混入
2’ 2.5Y4/2暗灰黄粘土 10YR4/4褐砂、2.5Y8/3淡黄粘土ブロック多量混入
4 2.5Y7/2灰黄粘土ブロック 10YR5/3にぶい黄褐シルト混入

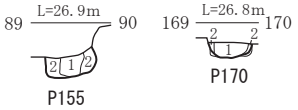
0　1：60　2m

第５図　断面図（２）



185-186
1 10YR5/3にぶい黄褐シルト 2.5Y7/3にぶい黄橙粘土ブロック混入 しまり密
2 10YR4/1褐灰シルト粘土 2.5Y6/4にぶい黄粘土ブロック混入
3 10YR6/6明黄褐粘土ブロック 2.5Y4/1褐灰シルト混入
4 2.5Y5/3黄褐シルト下位に2.5Y7/3浅黄シルトブロック混入 しまり密
5 2.5Y5/3黄褐シルト下位に2.5Y6/4にぶい黄シルトブロック40～50%混入

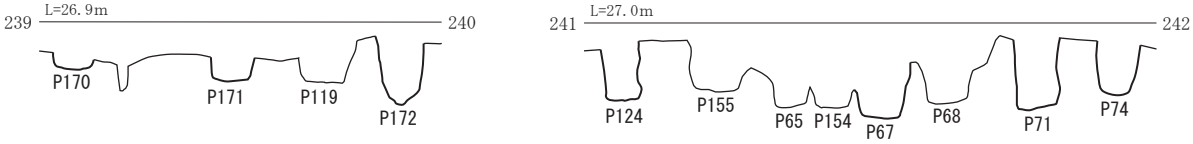
75-76
1 2.5Y4/2暗灰黄粘土
2 10YR4/3にぶい黄褐粘土 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック、10YR5/6黄褐粘土ブロック混入
3 2層とほぼ同
3’ 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック 2.5Y4/2暗灰黄粘土ブロック少量混入



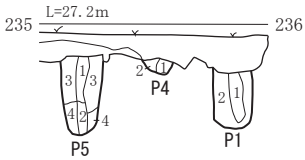
89-90
1 10YR5/3にぶい黄褐シルト 下位に2.5Y6/3にぶい黄褐粘土ブロック混入 上位に鉄分集積
2 10YR4/2暗灰黄粘土 2.5Y6/3にぶい黄砂ブロック混入 鉄分含

169-170
1 10YR5/2灰黄褐粘土 2.5Y8/4淡黄粘土ブロック混入 炭化物含
2 2.5Y5/2暗灰黄シルト 5Y7/2灰白シルトブロック混入

205-206
1 10YR6/6明黄褐シルトブロック 10YR5/2灰黄褐シルト混入 鉄分含
2 2.5Y5/2暗灰黄粘土 2.5Y7/1灰白粘土、10YR5/6黄褐粘土ブロック混入
3 10YR5/2灰黄褐シルト 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック、10YR5/6黄褐粘土ブロック混入



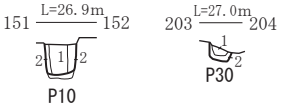
柱穴



235-236
P5
1 2.5Y4/1黄灰シルト 10YR3/1黒褐粘土混入
2 10YR3/3暗褐粘土 10YR5/6黄褐砂混入
3 2.5Y7/3浅黄粘土ブロック 10YR3/1黒褐粘土混入
4 2.5Y3/1黒褐シルト

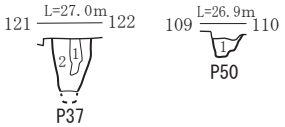
P4
1 2.5Y3/1黒褐シルト 灰含 2.5Y7/6粘土ブロック混入
2 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック混入 2.5Y4/1黄灰網状に入る

P1
1 10YR3/1黒褐粘土 10YR6/6明黄褐粘土ブロック混入
2 10YR7/6明黄褐粘土ブロック 10YR3/1黒褐混入



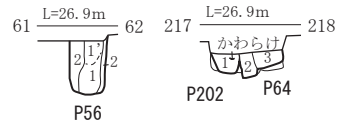
151-152
1 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック 2.5Y5/2暗灰黄粘土混入 中央に鉄分集積
2 10YR6/8明黄褐粘土 2.5Y7/6明黄褐粘土、10YR3/2黒褐粘土混入

203-204
1 10YR5/6黄褐粘土ブロック 10YR8/3浅黄橙シルトブロック、10YR4/2灰黄褐シルト少量混入
2 10YR4/2灰黄褐シルト 10YR8/3浅黄橙シルトブロック少量混入



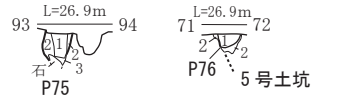
121-122
1 10YR4/2灰黄褐シルト 2.5Y6/4にぶい黄砂上部に混入
2 10YR6/6明黄褐粘土ブロック 2.5Y3/1黒褐粘土混入 2.5Y6/4にぶい黄上層に入る

109-110
1 10YR5/6黄褐粘土 10YR4/2灰黄褐粘土ブロック混入 しまり密



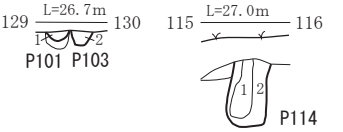
61-62
1 2.5Y3/2黒褐粘土 10YR5/6黄褐粘土ブロック
1’ 2.5Y3/2黒褐シルト 10YR5/6黄褐粘土ブロック少量混入
2 2.5Y6/6明黄褐シルトブロック 2.5Y3/2黒褐シルト40%混入

217-218
1 10YR3/2黒褐粘土 粘性強 2.5Y7/3浅黄シルトブロック混入
2 2.5Y7/6明黄褐粘土 10YR3/2黒褐シルトブロック混入 10YR7/6明黄褐粘土ブロック混入
3 2.5Y7/6明黄褐粘土 10YR3/2黒褐シルトブロック2より多く混入 10YR7/6明黄褐粘土ブロック混入



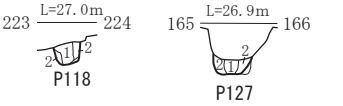
93-94
1 2.5Y4/1黄灰シルト 2.5YR7/4浅黄粘土ブロック少量混入
2 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック 2.5Y3/2黒褐シルト少量混入
3 2.5Y3/2黒褐シルト 水分多量

71-72
1 10YR3/2黒褐シルト 炭化物含
2 2.5Y6/3にぶい黄シルトブロック 2.5Y3/1黒褐シルト混入(5号土坑)



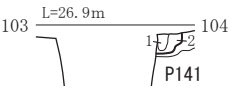
129-130
1 10YR2/1黒褐シルト 2.5Y7/6明黄褐シルトブロック混入
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 2.5Y7/4浅黄～2.5Y7/6明黄褐シルトブロック混入

115-116
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘土 10YR5/6黄褐粘土ブロック混入 下位に鉄分、炭化物少量含
2 10YR5/6黄褐砂 2.5Y8/6黄粘土ブロック混入

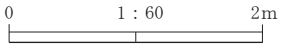


223-224
1 10YR3/1黒褐粘土 10YR6/6明黄褐粘土ブロック混入
2 10YR6/6明黄褐粘土ブロック 10YR3/1黒褐粘土混入

165-166
1 2.5Y3/1黒褐粘土 2.5Y6/4にぶい黄シルト、10YR5/6黄褐砂ブロック混入
2 5Y7/2灰白粘土 10YR5/6黄褐砂ブロック混入



103-104
1 2.5Y3/1黒褐シルト 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック混入
2 5Y7/4浅黄シルト 網状に2.5Y4/2暗灰黄シルト混入

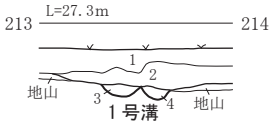


第6図　断面図（3）

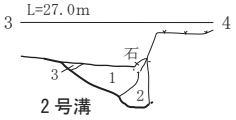
97-98
1 2.5Y3/2黒褐シルト 10YR6/6明黄褐粘土ブロック混入
2 10YR3/2黒褐シルト 2.5YR7/3浅黄粘土ブロック40%混入

237-238
1 2.5Y3/2黒褐粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック40%混入 炭化物少量含
2 2.5Y3/2黒褐粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック10%混入 炭化物少量含
3 2.5Y3/2黒褐粘土 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック10%混入 炭化物少量含

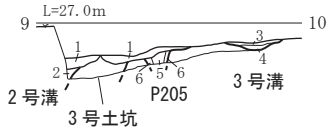
溝



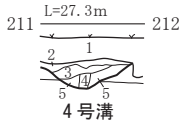
213-214
1 2.5Y4/2暗灰黄シルト 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック混入 炭化物含 表土
2 10YR3/2黒褐砂 表土
3 10YR4/2灰黄褐粘土 砂、鉄分含
4 10YR4/2灰黄褐粘土 上位に10YR7/8黄橙粘土混入 砂、鉄分含



3-4
1 2.5Y4/1黄灰粘土 全体に10YR3/2黒褐砂、2.5Y8/4浅黄粘土ブロック少量混入 小礫、炭化物含
2 5Y3/1オリーブ黒粘土 粘性強 水分多量、木片含
3 撹乱 小礫多

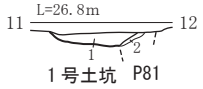


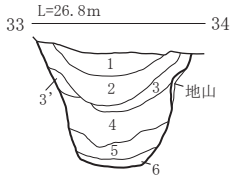
9-10
1 2.5Y3/2黒褐シルト 10YR5/6黄褐シルト粘土ブロック混入 礫含(表土・埋め土)
2 2.5Y3/2黒褐粘土
3 2.5Y3/2黒褐シルト 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック混入
4 3層とほぼ同だが、より固い
5 2.5Y3/2黒褐粘土 2.5Y4/2暗灰黄粘土ブロック少量混入
6 2.5Y6/4にぶい黄粘土 2.5Y3/1黒褐粘土少量混入

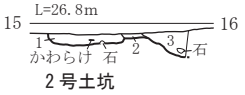


211-212
1 2.5Y4/3オリーブ褐シルト 水分多量含 表土
2 10YR3/2黒褐シルト 砂、炭化物含 表土
3 10YR6/8明黄褐粘土ブロック 10YR5/2灰黄褐シルト混入 炭化物含
4 10YR7/8黄橙シルトブロック 2.5Y7/3浅黄粘土ブロック、2.5Y5/2暗灰黄粘土ブロック少量混入
5 10YR4/2暗灰黄シルト 10YR7/8黄橙粘土ブロック混入

土坑



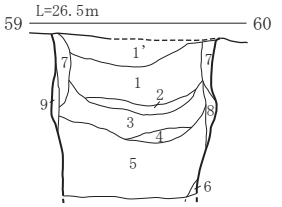


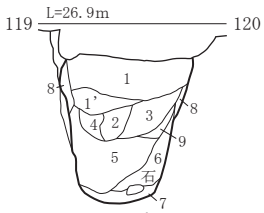


11-12
1 10YR3/3暗褐シルト 下位は粘性強 鉄分、炭化物少量含
2 10YR3/2黒褐粘土 10YR5/6黄褐粘土混入

15-16
1 10YR3/2黒褐シルト 10YR5/8黄褐砂小ブロック混入
2 10YR4/2灰黄褐粘土 10YR5/8黄褐砂小ブロック混入(埋め立土)
3 2.5Y4/1黄灰シルト 2.5Y8/4淡黄 2.5Y6/2灰黄褐粘土ブロック多量混入 炭化物少量含(埋め土)

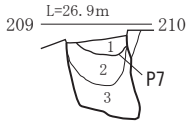
33-34
1 10YR4/1褐灰粘土 5Y6/2灰オリーブ粘土ブロック40%混入 炭化物含
2 2.5Y4/1黄灰粘土 10YR7/6明黄褐粘土ブロック混入 炭化物含
3 10YR6/6明黄褐粘土ブロック 10YR4/1褐灰粘土少量混入 砂含
3’ 10YR6/6明黄褐粘土ブロック 10YR4/1褐灰粘土少量混入
4 10YR6/8明黄褐粘土ブロック 層状に？2.5Y3/1黒褐粘土混入 炭化物含
5 2.5Y6/3にぶい黄粘土ブロック 東側に10YR6/8明黄褐粘土混入
6 2.5Y4/1黄灰粘土 2.5Y7/2灰黄粘土ブロック

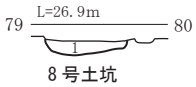




59-60
1 10YR3/2黒褐粘土 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック10%混入 砂、鉄分、炭化物多量含
1’ 2.5Y4/1黄灰粘土 2.5Y7/4浅黄粘土ブロック混入 炭化物含
2 5Y4/1灰粘土 5GY5/1オリーブ灰粘土ブロック少量混入 水分多量含
3 2.5Y1/2黒～2.5Y4/1黄灰粘土 10Y5/2オリーブ灰、壁側に10YR4/6褐砂ブロック混入 炭化物含
4 5GY6/1オリーブ灰砂と粘土ブロック 2.5Y2/1黒粘土混入
5 10YR4/1褐灰粘土 層位状に2.5Y2/1黒粘土混入
6 2.5GY6/1オリーブ灰シルト 2.5Y2/1黒粘土混入
7 10GY6/1緑灰粘土 筋状に2.5Y5/1黄灰粘土、上位に砂混入
8 10Y6/1灰粘土 筋状に2.5Y4/1黄灰粘土混入
9 2.5Y7/3浅黄砂 筋状に2.5Y3/1黒褐粘土混入

119-120
1 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック 5Y7/3浅黄粘土ブロック、2.5Y3/1黒褐シルト混入
1’ 2.5Y4/1黄灰シルト 2.5Y6/6明黄褐粘土ブロック少量混入
2 10YR4/1褐灰粘土 2.5Y7/3浅黄粘土ブロック混入炭化物含
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 2.5Y7/3浅黄粘土ブロック混入炭化物含
4 2.5Y6/4にぶい黄シルト 2.5Y4/1黄灰シルト混入
5 2.5Y7/2灰黄粘土 10YR5/2灰黄褐シルト少量、6層との境に2.5Y4/1黄灰粘土混入
6 5Y7/3浅黄シルト 複数の筋状に5Y4/1灰オリーブ粘土混入
7 2.5GY6/1オリーブ灰粘土 腐食木質混入
8 2.5Y6/6明黄褐～10YR5/6黄褐粘土
9 5Y7/2灰白粘土 地山崩壊層





209-210
1 10YR4/3にぶい黄褐シルト 2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック混入 鉄分含
2 10YR6/6明黄褐粘土 2.5Y4/2暗灰黄粘土少量混 砂含
3 10YR5/4にぶい黄褐粘土 2.5Y7/2灰黄砂、2.5Y8/3淡黄粘土ブロック混入

79-80
1 10YR5/2灰黄褐シルト 10YR6/6明黄褐粘土ブロック混入 炭化物含

0 1：60 2m

第７図　断面図（４）

4　まとめ

調査区は全体に近世遺構が濃い場所であった。区画は現在の区画とほぼ同じで、柱穴の量からは近世に建替を繰り返した様子である。

１号柱穴列は近世の建物跡とは方向や埋土が異なるため時代に隔たりがある。検出した建物跡よりは古いと思われるが、この塀跡の様な施設があれば、周辺に同年代の建物は建てにくい状況にあると考えられる。

周辺の調査位置図（第１図）に示した志羅山遺跡第98次調査区の南西側には、当調査区検出の１号柱穴列の続きと思われる溝の跡と柱穴列がある。北東側に膨らむ様な配置ではあるが一連の物と思われる。距離は直線で42ｍである。柱穴の並ぶ方向も近世の建物とは異なり、出土遺物もかわらけのみである。12世紀の遺構の可能性があるが、98次調査区の北側には東西に並ぶ12世紀の塀跡があり、方向が異なる。この２条の塀跡の関係について、今後検討が必要である。

出土遺物は近世の遺物が多い。12世紀のかわらけはコンテナ（53×35×12㎝）１箱に満たない程度であるが、３・４号土坑から比較的まとまって出土した。

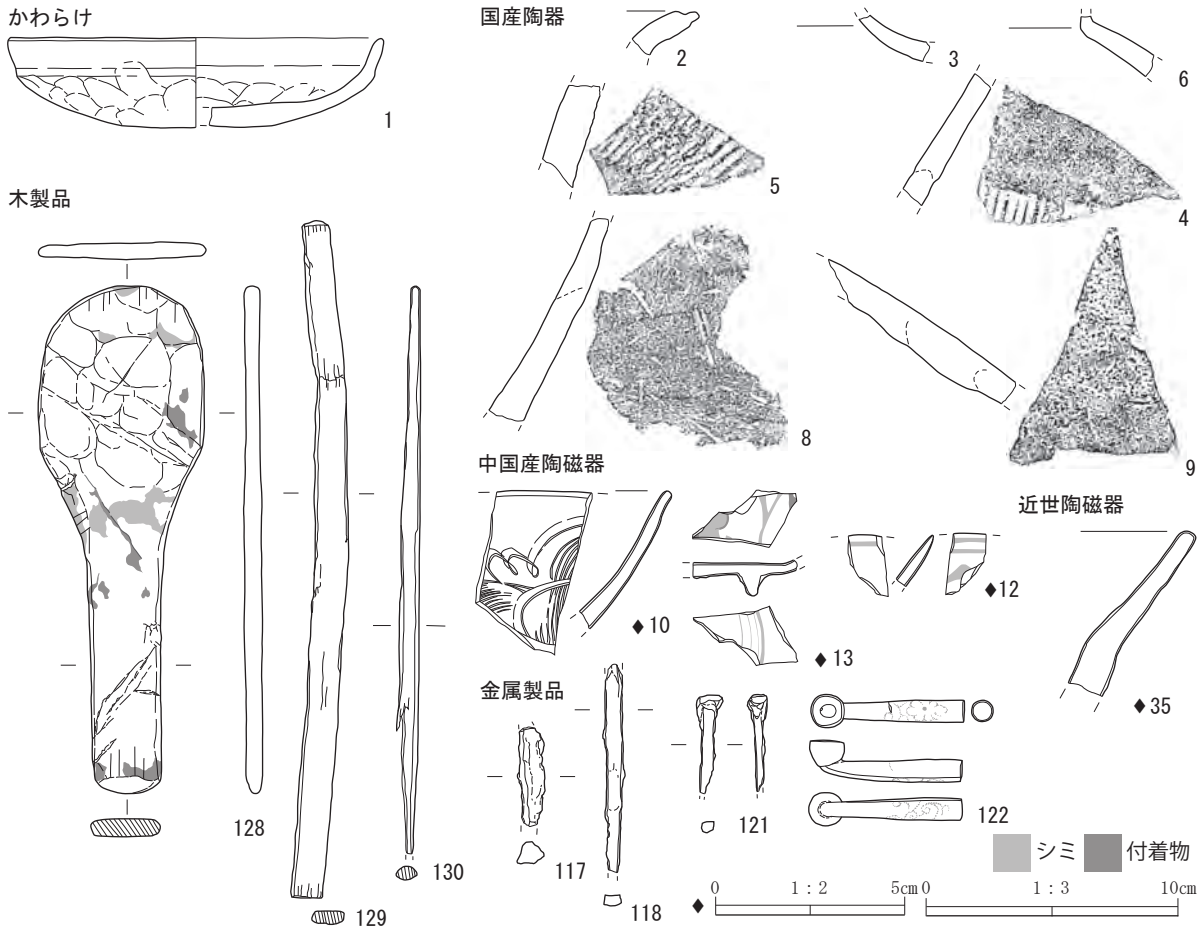
第１表　柱穴観察表

番号	平面形	大きさ(cm) 掘方	大きさ(cm) 柱痕跡	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物(遺物番号)	新旧関係	備考
1	円か	30×[21]	11×－	56	26.38			
2	楕円	24×20	－	23	26.67	かわらけ		
4	円か	24×[12]	11×－	12	26.80			
5	円か	35×[15]	11×－	61	26.33			
6	楕円	16×14	9×8	22	26.66	かわらけ		
7	楕円	40×30	－	20	26.65	かわらけ	7号土坑より新	
8	円	22×21	未測	48	26.39	かわらけ	7号土坑より新	
9	隅丸方	21×19	11×11	38	26.46	かわらけ	7号土坑より新	
10	楕円	34×28	14×14	27	26.46	かわらけ	P195より新	
11	円	35×33	11×11	42	26.33	かわらけ		
13	円	22×19	10×8	33	26.53	土壁(89)	7号土坑より新	
14	円	15×13	－	4	26.75	かわらけ		
15	楕円	34×29	16×－	34	26.48	かわらけ		
16	隅丸方	22×22	－	40	26.40	かわらけ 木片	P17より新	
17	楕円か	26×[25]	13×13	29	26.53	かわらけ	P16より旧	2号建物
18	円	23×21	－	24	26.64	かわらけ 土壁(90)		
19	円	29×27	－	49	26.36			3号建物
20	円か	18×[14]	10×10	12	26.74			
21	楕円	25×[22]	12×12	31	26.52	かわらけ	4号溝より新 P22より旧	
22	円	22×24	13×13	24	26.63	かわらけ	4号溝・P21より新	
23	円	26×24	13×－	47	26.38	かわらけ 近世陶器(35)		2号建物
24	円	21×19	12×12	31	26.58	かわらけ		1号建物
25	楕円	34×30	20×18	57	26.25	かわらけ 鉄製品		
26	楕円	48×[32]	－	52	26.29	かわらけ		1号建物 底に石
27	円	22×20	11×10	[19]	[26.65]			
28	円	28×26	－	28	26.46	かわらけ		
29	楕円	[42]×30	14×－	62	26.16	かわらけ 桃の種(135)	P190より新	1号建物
30	円	22×22	10×11	16	26.70			
31	円	33×[25]	15×－	59	26.27	かわらけ		
33	円	34×[24]	14×14	51	26.35	かわらけ		1号建物 底に石
35	円	32×27	12×10	33	26.50			底に石
36	円	11×10	－	－	－			検出のみ
37	楕円	32×28	10×10	[51]	[26.37]	かわらけ 柱根		
39	楕円	26×20	12×11	14	26.78			
40	円	32×30	16×13	64	26.25	かわらけ 土壁(91)		1号建物
41	円	20×17	－	22	26.69	かわらけ		
43	円	27×26	12×12	20	26.70	かわらけ		3号建物
44	楕円か	[26]×26	13×12	32	26.52	かわらけ	P45より旧	1号建物
45	円	24×22	12×11	37	26.49	かわらけ 土壁(92)	P44より新	3号建物
46	楕円	56×41	14×－	22	26.63		P149より旧	
47	楕円	50×39	11×11	40	26.42	かわらけ 土壁(93) 柱根	P115より新 P163より旧	
49	楕円	27×22	11×－	27	26.53	近世陶器(53) 近世磁器(54)		
50	楕円	28×22	－	20	26.64	かわらけ 土壁(94)		
51	円	31×28	14×－	35	26.51	かわらけ 土壁(95)		2号建物
53	円	26×24	10×－	30	26.51	土壁(96)		1号建物
54	楕円	37×30	11×－	28	26.53	かわらけ 土壁(97)		底に石
56	円	32×32	15×14	46	26.37	かわらけ		
57	楕円	32×23	16×15	23	26.60	かわらけ		
58	楕円	31×20	9×9	39	26.47	かわらけ		
59	楕円	43×30	－	15	26.71	かわらけ 土壁(98)		
60	円か	23×21	－	[14]	[26.51]	かわらけ		1号建物 底に石
61	円	40×39	－	20	26.74	かわらけ 土壁(99)	P62より新	
62	円	27×25	－	29	26.65	焼土	P61より旧	
63	円	30×29	14×－	33	26.51	かわらけ		
64	楕円	42×39	12×－	28	26.48	かわらけ	P206より旧	
65	円	29×25	11×－	32	26.36			1号柱穴列
66	楕円	33×29	9×－	43	26.34	かわらけ 柱根	P67より新	
67	楕円	36×30	－	43	26.42		P66より旧	1号柱穴列
68	円	37×35	21×－	26	26.38		P69と不明	1号柱穴列
69	不明	22×[11]	－	10	26.57	かわらけ	P165より旧	
70	楕円	[33]×30	[12]×－	29	26.36	かわらけ	P165より旧	1号建物
71	円	39×37	19×19	51	26.37	かわらけ		1号柱穴列
72	円	20×18	11×9	34	26.57		P73より新	
73	楕円	[34]×18	8×－	20	26.67	かわらけ	P72より旧	
74	円	37×34	23×－	44	26.43			1号柱穴列
75	楕円	26×22	12×11	25	26.53		5号土坑・P141より新	底に石
76	楕円	21×21	－	11	26.72	かわらけ	5号土坑より新	
77	楕円	40×35	22×16	49	26.30	かわらけ	5号土坑・P142より新	
78	円	27×26	15×12	42	26.24		4号土坑より新	3号建物
80	円	29×28	13×9	31	26.47	かわらけ 土壁(101)		
81	楕円	32×24	14×11	26	26.49	かわらけ 国産陶器(7)	1号土坑より旧	
82	円	21×21	15×－	20	26.54		1号土坑より旧	

第１表　柱穴観察表

番号	平面形	大きさ(cm) 掘方	大きさ(cm) 柱痕跡	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物(遺物番号)	新旧関係	備考
83	楕円	21×19	12×－	16	26.56			
86	楕円か	37×[25]	－	19	26.54	かわらけ 土壁(102)	P87より旧	
87	楕円	29×23	－	30	26.45		P86より新	1号建物
88	円	25×20	－	36	26.42	かわらけ 国産陶器(8)	P161より新	底に石
89	円	15×14	－	－	－			検出のみ
90	楕円	26×21	9×9	19	26.45			
91	円	37×37	14×14	57	26.24	かわらけ	P138より新	
92	長方	23×20	14×12	25	26.58	かわらけ		
93	長方	21×19	－	10	26.73	かわらけ		
94	円	18×17	－	8	26.72			
95	円	16×16	12×10	9	26.71	土壁(103)		
96	隅丸方	20×20	－	15	26.24	かわらけ		
97	円	21×22	10×10	17	26.47			1号建物
98	楕円	23×20	12×9	11	26.72			
99	円	31×25	16×13	18	26.49			
100	円	55×50	－	51	26.34	かわらけ 近世陶磁器(36・37) 鉄製品 木片		1号建物
101	円	21×19	－	9	26.55	かわらけ		
102	円	22×21	9×8	13	26.51			1号建物
103	円	20×20	－	12	26.52			
104	楕円	29×21	13×－	25	26.40	かわらけ		
105	円	27×25	12×11	30	26.35	かわらけ		1号建物
106	楕円か	33×－	－	17	26.47	かわらけ	6号土坑より新	
109	楕円	29×24	11×11	23	26.53			
110	楕円	26×23	12×12	38	26.38	かわらけ		1号建物
111	楕円	31×26	－	24	26.56	かわらけ	P112より新	
112	楕円	50×46	12×－	61	26.21		P156より新 P111より旧	1号建物
113	円か	23×[21]	－	22	26.44			
114	円か	26×[10]	14×－	53	26.18	かわらけ		
115	楕円	[43]×33	15×－	26	26.54	かわらけ	3号溝・P47より旧	
116	楕円か	[23]×23	11×[9]	28	26.47	かわらけ	P117より旧	
117	楕円	18×15	9×9	20	26.45	かわらけ	P116より新	
118	楕円	26×23	15×－	23	26.67	かわらけ		
119	楕円	44×40	－	29	26.47			1号柱穴列
122	楕円	38×[31]	11×－	45	26.41	かわらけ	P123より旧	
123	楕円	33×28	11×10	36	26.52	かわらけ	P122より新	2号建物
124	円	31×29	13×－	48	26.39	かわらけ		1号柱穴列
125	円	28×25	－	56	26.81			
127	円	32×32	11×－	17	26.50	かわらけ		
128	円	33×30	13×－	14	26.52			1号建物
131	楕円	35×32	9×－	27	26.63	かわらけ 土壁(104)		2号建物
132	円	24×22	7×－	21	26.67		P133より新	
133	楕円	22×[15]	－	10	26.77		P132より旧	
134	楕円	29×25	10×－	24	26.53			
135	楕円	29×25	15×－	23	26.51			
137	楕円	22×18	16×11	－	－		2号溝より旧	検出のみ
138	円か	35×[23]	12×[7]	33	26.48	かわらけ	P91より旧	1号建物
141	楕円	28×20	11×－	16	26.68		5号土坑より新 P75より旧	
142	楕円か	29×[25]	13×[7]	39	26.45	かわらけ	5号土坑より新 P77より旧	1号建物
144	円	12×12	－	6	26.40		4号土坑より新	
145	楕円	31×29	15×－	38	26.46	かわらけ	P153より新	
146	円	26×23	13×－	35	26.44	かわらけ		
148	円	22×20	11×－	37	26.46	かわらけ		
149	円	33×33	－	16	26.67	かわらけ	P46より新	
150	楕円	45×40	15×－	47	26.43	かわらけ	P151より新	
151	円か	16×[10]	－	16	26.74	かわらけ	P150より旧	
152	楕円	29×25	12×12	－	－	かわらけ	5号土坑より新	検出のみ
153	楕円	35×[27]	－	16	26.69	かわらけ	P145より旧	
154	円	30×30	13×13	41	26.41			1号柱穴列
155	円	41×36	16×16	38	26.46			1号柱穴列
156	円か	40×[26]	－	43	26.37		P112より旧	
158	楕円	30×24	9×9	18	26.66	かわらけ		
160	円	25×23	－	11	26.59			
161	楕円	[60]×51	－	50	26.29		P88・162より旧	
162	楕円	44×21	10×－	48	26.31	鉄銭(119)	P161より新	1号建物
163	長方	35×25	－	39	26.41		P47より新 3号溝より旧	
164	隅丸方	25×25	－	33	26.66			
165	楕円	25×[20]	12×11	30	26.37		P69・70より新	
166	円	26×26	12×10	32	26.48		1号溝より旧	1号建物
167	楕円	[33]×31	15×－	[37]	[26.50]	かわらけ 近世陶器(39) 土師(15) 土壁(105,106) 不明銅製品(125)	P168より新	底に石
168	円	40×[25]	11×－	65	26.40	かわらけ 土壁(107)	P167より旧	1号建物
170	楕円	37×30	－	16	26.52			1号柱穴列
171	楕円	34×30	15×－	22	26.43			1号柱穴列
172	円	33×32	－	51	26.30			1号柱穴列
173	楕円	26×22	12×10	50	26.31		7号土坑より新	1号建物
174	楕円	28×22	－	7	26.70			
175	不明	[14]×[12]	－	－	－			
176	円	28×28	12×－	30	26.49			3号建物 底に石
177	楕円	[37]×34	－	24	26.62		P178・183より旧	2号建物
178	楕円	33×30	11×－	25	26.60	かわらけ 土壁(108)	P177より新	
179	楕円	38×30	－	37	26.43	かわらけ	P180と不明	1号建物 底に石
180	円か	30×[23]	－	34	26.43	かわらけ	P179と不明	
181	円	18×18	10×－	10	26.74			
182	円	20×18	－	－	－	不明鉱滓(126)		検出のみ
183	楕円	[55]×32	11×11	25	26.62	かわらけ	P177より新	2号建物
184	正方	32×30	－	31	26.49	かわらけ		
185	隅丸方	24×18	－	23	26.52	かわらけ	1号土坑より旧	
186	楕円	28×26	14×12	46	26.20	かわらけ		
187	円	20×20	8×8	31	26.56	かわらけ		
188	円	25×25	－	26	26.64	かわらけ	P189と不明	2号建物
189	楕円	[26]×17	6×6	22	26.65	かわらけ 不明鉱滓(127)	P188と不明	
190	円	30×29	12×10	－	－		P29より新	3号建物
191	円	34×33	11×10	29	26.51	近世磁器(40) 柱根	1号溝より旧	
192	円	26×26	12×10	12	26.62		1号溝より旧	
194	隅丸方	[17]×15	－	21	26.57	かわらけ	P202より旧	1号建物
195	円か	27×[23]	[8]×7	15	26.61		1号溝・P10より旧	
196	楕円	24×17	12×8	35	26.47	柱根		
197	楕円	29×23	13×13	12	26.78	かわらけ		
198	楕円	21×18	7×7	29	26.57	かわらけ 土壁(109)		
199	円か	22×[10]	－	15	26.72	かわらけ		
200	楕円か	[26]×16	－	14	26.69			
201	楕円か	[24]×[18]	－	12	26.71			
202	円	20×16	－	26	26.52		P194より新	
203	円	23×21	－	－	－			検出のみ
204	隅丸方	[23]×21	－	22	26.50			
205	円	21×20	11×10	[11]	[26.67]			
206	楕円	28×20	－	24	26.52	かわらけ 土壁(100)	P64より新	
207	楕円	[30]×26	－	40	26.43			

※　無い番号は欠番［　］未完掘での計測値



第８図　出土遺物

第２表　かわらけ観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量（cm）			残存率（%）	年代	備考	登録No.
					口径	底径	器高				
1	8	5	4号土坑南半	手づくね大	14.8	−	3.6	40	12c	指痕　反転実測	78.86-1.111-1

第３表　国産陶器観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
2	8	5	1号溝 底面	常滑	甕	口縁部	12c		3
3	8	5	2号溝	常滑	甕	頸部	12c		27-3
4	8	5	1号土坑 上面	常滑	甕	胴部	12c	押印	12
5	8	5	4号土坑南半	渥美	甕	肩部	12c	押印	74-2
6	8	5	5号土坑 1層	常滑	甕	頸～肩部	12c		187-2
7	−	−	P81 検出面	東濃	山皿	体部	12c	小片	60-2
8	8	5	P88 底面	東北産か	鉢か	体部	13・14c	内面擦り痕	164
9	8	5	杭5北撹乱	東北産か	甕	肩部	13・14c	瓷器系	18-2

第４表　中国産陶磁器観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
10	8	5	4号土坑 4層周辺	青磁	碗	口～体部	12c	龍泉窯Ⅰ2・3	83-1
11	—	—	調査区東半クリーニング	染付	碗	体部	15・16c	明染付 肥前産の可能性も 内面に文様　小片	8-8
12	8	5	西側拡張	染付	皿	口～体部	17c 初	明末清初	50-11
13	8	5	西側拡張	染付	皿	底部	15・16c	明染付 内外面に文様	50-12

第５表　土師器観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備考	登録No.
14	—	—	4号土坑南半	甕	胴部か	平安		85-7
15	—	—	P167 南半	甕	口縁部	平安		254-2

第６表　近世陶磁器観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
16	−	−	1号溝 上面	陶器	碗	口～底部	近世	瀬戸美濃産	2
17	−	−	1号溝 上面	陶器	甕	肩部	19c～	在地産	204
18	−	5	1号溝	陶器	碗	体部	17･18c	肥前産 呉器手碗	226
19	−	−	2号溝 トレンチ	陶器	鉢	体～底部	19c～	在地産	16-3
20	−	−	2号溝 トレンチ	陶器	擂鉢	体部	19c～	在地産	16-4
21	−	−	2号溝 トレンチ	陶器	鉢か	体部	19c～	在地産 孔あり	16-9

第6表　近世陶磁器観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
22	−	−	2号溝 トレンチ	磁器	碗	口縁部	19c	瀬戸産 染付	16-6
23	−	−	2号溝 トレンチ	磁器	碗	体〜底部	19c	瀬戸産 染付	16-2
24	−	5	2号溝	陶器	蓋	摘み〜底部	19c	大堀相馬産 藁灰釉	27-16
25	−	5	2号溝	陶器	甕か	胴部	19c〜	産地不明	27-17
26	−	−	2号溝	陶器	鉢	口縁部	19c〜	在地産	27-18
27	−	−	2号溝	磁器	皿	底部	近世	肥前産 染付	27-4
28	−	−	2号溝	磁器	皿か	体部	近世	肥前産 染付 型打ち成形	32-10
29	−	−	2号溝	磁器	碗	体〜底部	19c	瀬戸産 染付	27-15
30	−	−	2号溝	磁器	小碗	体部	19c〜	瀬戸産 染付 筒型小碗か	32-2
31	−	−	3号溝	磁器	瓶	胴部	19c	切込産か	28-2
32	−	−	1号土坑 上面	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	14-2
33	−	−	2号土坑 南半	磁器	皿か	底部か	近世	肥前産 染付	26-2
34	−	−	4号土坑南半 検出面	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	84-2
35	8	5	P23	陶器	大皿	口〜体部	16c末〜17c	唐津産	216
36	−	5	P100南半	陶器	瓶	胴部	19c〜	産地不明	55-3
37	−	−	P100南半	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	55-2
38	−	−	撹乱	陶器	壺	口縁部	19c〜	産地産不明	147
39	−	−	P167南半	陶器	碗	体部	近世	産地産不明	254-3
40	−	−	P191	磁器	碗	口〜体部	近世	肥前産 染付	249
41	−	−	埋め立範囲	陶器	鉢	口縁部	19c〜	在地産	29-6
42	−	−	埋め立範囲	陶器	火入か	体部	19c〜	産地不明	29-7
43	−	−	埋め立範囲	磁器	碗	口縁部	19c前	瀬戸産 染付 端反碗	29-2
44	−	−	P70周辺基礎部清掃	陶器	碗	体部	近世	瀬戸美濃産か	191-1
45	−	−	埋め立範囲ベルト	陶器	蓋か	摘み部	19c	大堀相馬産	35-7
46	−	−	埋め立範囲ベルト	陶器	碗	口縁部	18c	大堀相馬産 灰釉	35-8
47	−	5	埋め立範囲ベルト	磁器	華瓶	耳部	近世	肥前産 頸部の装飾か	35-6
48	−	−	埋め立範囲ベルト	磁器	碗	体部	19c	瀬戸産か 染付	35-2
49	−	−	埋め立範囲ベルト	磁器	碗	口縁部	19c〜	産地不明 染付	35-5
50	−	−	埋め立範囲	陶器	碗	体部	19c	大堀相馬産 藁灰釉	30-2
51	−	−	埋め立範囲	陶器	皿	体部	19c	大堀相馬産 藁灰釉	30-4
52	−	5	埋め立範囲	磁器	皿	口縁部	近世	肥前産 染付 唐草文	48-2
53	−	−	撹乱	陶器	小鉢か	体部	19c〜	在地産	132-2
54	−	−	撹乱	磁器	小杯	口縁部	18c前	肥前産 染付	132-1
55	−	−	重機	陶器	碗	体部	19c	大堀相馬産か 藁灰釉	1-17
56	−	−	重機	陶器	碗	体部	19c〜	産地不明 藁灰釉	1-3
57	−	−	重機	磁器	瓶	胴部	近世	肥前産 染付	1-14
58	−	−	重機	磁器	碗	口〜体部	近世	肥前産 染付	1-6
59	−	−	重機	磁器	碗	口〜体部	近世	肥前産 染付	1-9
60	−	−	重機	磁器	碗	体〜底部	近世	肥前産 染付	1-8
61	−	−	重機	磁器	碗	底部	近世	肥前産 染付	1-10
62	−	−	重機	磁器	碗	底部	近世	肥前産 染付	1-11
63	−	−	重機	磁器	碗	底部	近世	肥前産 染付	1-13
64	−	5	重機	磁器	皿	口縁部	近世	肥前産 染付 型打ち成形	1-12
65	−	5	重機	磁器	皿	底部	18c後〜19c	肥前産 染付 内面見込みに五弁花	1-2
66	−	−	重機	磁器	皿	底部	近世	肥前産 染付	1-7
67	−	5	重機	磁器	碗	口〜底部	19c	瀬戸産 染付 焼き継ぎ 外底に「白山」の文字	1-15
68	−	−	調査区北側 清掃壁切り	陶器	碗	体部	近世	肥前産 呉器手碗	291-3
69	−	−	調査区北側 清掃壁切り	陶器	碗	体部	近世	美濃産	291-2
70	−	−	調査区北側 清掃壁切り	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	291-4
71	−	−	調査区北側 清掃壁切り	陶器	碗	体部	19c〜	産地不明	291-15
72	−	−	調査区南側 清掃壁切り	陶器	擂鉢	体部	19c〜	在地産	292-2
73	−	−	調査区西側 清掃	陶器	碗	体部	近世	肥前産か	206-2
74	−	5	調査区東半 清掃	磁器	碗	口縁部	18〜19c初	肥前産 染付	8-7
75	−	5	西側拡張	陶器	瓶	胴部	18c	大堀相馬産 灰釉	50-13
76	−	5	西側拡張	陶器	碗	底部	19c	大堀相馬産 藁灰釉	50-3
77	−	5	西側拡張	陶器	碗	口縁部	19c〜	在地産	50-14
78	−	−	西側拡張	磁器	碗	体部	19c〜	産地不明 染付	50-2
79	−	−	出土位置不明	陶器	焜炉台	口縁部	19c〜	在地産	207

第7表　土壁観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	法量(cm)	重量(g)	スサの有無	数量	登録No.
80	−	−	2号溝	0.8〜1.4	1.3	有	4点	32-6
81	−	−	1号土坑 上面	0.9〜1.2	1.6	有	4点	14-4
82	−	−	2号土坑南半	1.4	0.4	不明	1点	26-4
83	−	−	3号土坑南半 最上層	1.3〜2.0	8.4	有	4点	57-2
84	−	−	4号土坑南半 最上層	0.9〜1.7	1.5	有	2点	73-2
85	−	−	4号土坑南半	0.7〜1.6	2.0	有	3点	84-4
86	−	−	4号土坑南半	0.8〜2.8	12.9	不明	4点	85-8
87	−	−	4号土坑南半	1.4	1.0	有	1点	86-5
88	−	−	5号土坑南半	1.2	0.7	不明	1点	146-2
89	−	−	P13	0.7〜4.1	76.8	有	40点	260
90	−	−	P18西半	0.9〜1.5	1.5	不明	2点	213-2
91	−	−	P40西半	0.5〜1.0	0.6	不明	3点	52-2
92	−	−	P45西半	1.4	1.2	有	1点	68-2
93	−	−	P47北半	2.0	1.8	有	1点	167-2
94	−	−	P50南半	1.3	1.0	有	1点	139-2
95	−	−	P51南半	1.1	0.5	不明	1点	69-2
96	−	−	P53北半	2.4	4.1	有	1点	184-2
97	−	−	P54東半	0.6〜1.1	1.1	不明	4点	133-2
98	−	−	P59検出面	2.3	3.6	有	1点	41
99	−	−	P61	1.1〜1.5	2.3	不明	3点	22-2
100	−	−	P206	1.5	1.1	不明	1点	274-2
101	−	−	P80西半	0.9〜1.5	0.8	不明	2点	71
102	−	−	P86 検出面	1.0	0.5	不明	1点	42
103	−	−	P95 検出面	0.5〜1.1	0.6	有	2点	44
104	−	−	P131検出面	1.6	0.8	有	1点	56
105	−	−	P167・168 上面	1.6	2.2	有	1点	201-2
106	−	−	P167 南半	0.9〜2.1	5.6	有	5点	254-4
107	−	−	P168 南半	1.8	2.5	有	1点	255-3
108	−	−	P178 西半	1.1〜2.5	4.7	有	2点	256-2
109	−	−	P198 南半	1.9	1.8	不明	1点	288-2
110	−	−	埋め立範囲	2.2	3.1	有	1点	29-4
111	−	−	調査区中央撹乱溝	3.3	7.5	不明	1点	10-1
112	−	−	調査区北西隅 清掃	1.4〜2.1	6.1	有	2点	6-3
113	−	−	調査区西半 清掃	1.3〜2.9	9.6	有	5点	9-2
114	−	−	調査区東半 清掃	1.1	0.3	有	1点	49-2

第８表　金属製品観察表

〈　〉残存値

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類		法量（cm）			重量（g）	備考	登録No.
						長さ	幅	厚さ			
115	－	－	2号溝	鉄	角釘か	3.7	0.7	0.7	1.86		27-9
116	－	－	1号土坑北半	鉄	角釘か	3.5	0.7	0.7	1.57		15-2
117	8	5	4号土坑 上面	鉄	角釘	〈3.9〉	1.1	0.9	5.14		63-2
118	8	5	4号土坑南半拡張部 検出面	鉄	角釘	8.2	0.8	0.5	7.83		84-6
119	－	－	P162東半 柱痕跡か	鉄	鉄銭か	2.6	2.2	0.7	10.26	円形	174
120	－	－	埋め立範囲	鉄	角釘か	4.8	0.5	0.3	2.32	角棒状	29-9
121	8	5	埋め立範囲	鉄	角釘	〈3.9〉	1.0	0.7	4.40		30-3
122	8	5	埋め立範囲	銅	煙管	6.1	火皿径1.3 小口径0.9		7.33	雁首部のみ 唐草文	48-3
123	－	－	埋め立範囲	鉄	鉄銭か	2.4	2.5	0.7	4.23	円形 中央に穴 鋳多い	48-4
124	－	－	4号土坑 南半 1層	鉄	角釘	5.2	0.7	0.5	4.10		73-6
125	－	5	P167南半	銅	不明	1.7	1.6	0.4	1.60	リング状	254-5

第９表　滓観察表

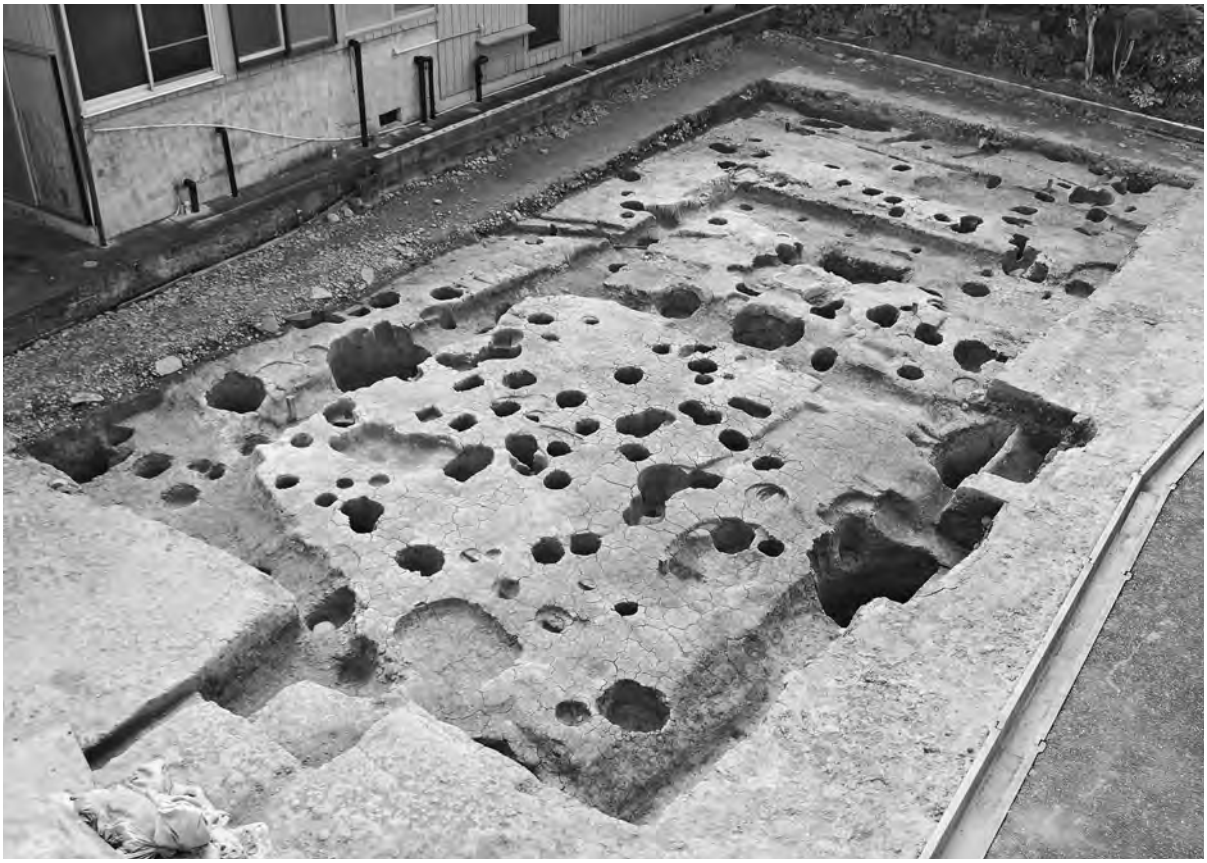
No.	図版	写真図版	出土位置・層位	大きさ（cm）	重量（g）	磁着	備考	登録No.
126	－	－	P182 底	0.7～1.9	6.1	無		265
127	－	－	P189東半	1.4～1.5	23.0	無		247-2

第10表　木製品観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量（cm）			備考	登録No.
					長さ	幅	厚さ		
128	8	5	4号土坑 南半	篦	20.1	6.6	0.7		79
129	8	5	4号土坑 南半	板状加工木	26.8	1.4	0.5		77
130	8	5	4号土坑 南半	箸	〈22.5〉	0.8	0.5		86-2
131	－	－	4号土坑	箸	〈19.0〉	0.7	0.6	先端にコゲ	111-2
132	－	－	4号土坑	椀か	〈2.7〉	〈2.5〉	0.5	刳り物 2片接合	111-3

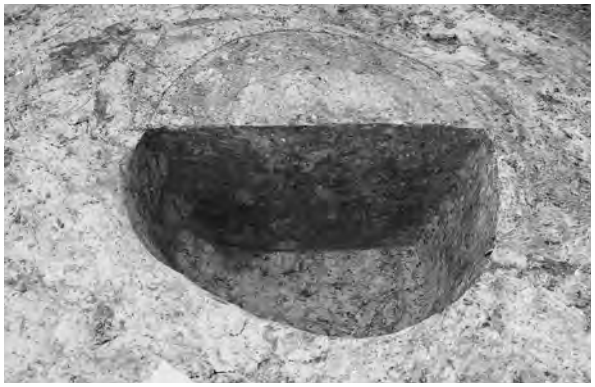
第11表　植物遺体観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ（cm）	備考	登録No.
133	－	－	4号土坑南半	桃類	2.3 ～ 2.7	3点	85-4
134	－	－	5号土坑	豆類か	0.4	1点	196-3
135	－	－	P29東半	桃類	1.4 ～ 2.2	2点	252-2



写真図版１　調査区全景（北東から）

調査区全景（北西から）



P71断面

P179・P180

P156・P112・P111断面

P154・P66断面

写真図版２

P167・P168

P33断面

P150断面

P168・P167断面

P100断面

３号土坑断面

４号土坑断面

４号土坑 篦出土状況

写真図版３

５号土坑断面

６号土坑

７号土坑検出状況（東から）

７号土坑・P7 断面209-210

１号溝 断面213-214

２号溝（東から）

３号溝（西から）

４号溝 断面197-198

写真図版４

かわらけ

1

中国産陶磁器

10 13 12

国産陶器

2 6 4 9 8 3 5

近世陶磁器

18 24 25 36 47 35 52 64

金属製品

117 121 118 125 122

木製品

128 130 129

65 67 74 75 77 76

写真図版５　出土遺物

花立Ⅱ遺跡第30次発掘調査

1　調査要項

地　　点　　岩手県西磐井郡平泉町平泉字鈴沢96-2
調査面積　　80㎡
調査期間　　令和５年８月24日～11月12日
原　　因　　住宅新築
調査担当　　藤田崇志・鈴木博之

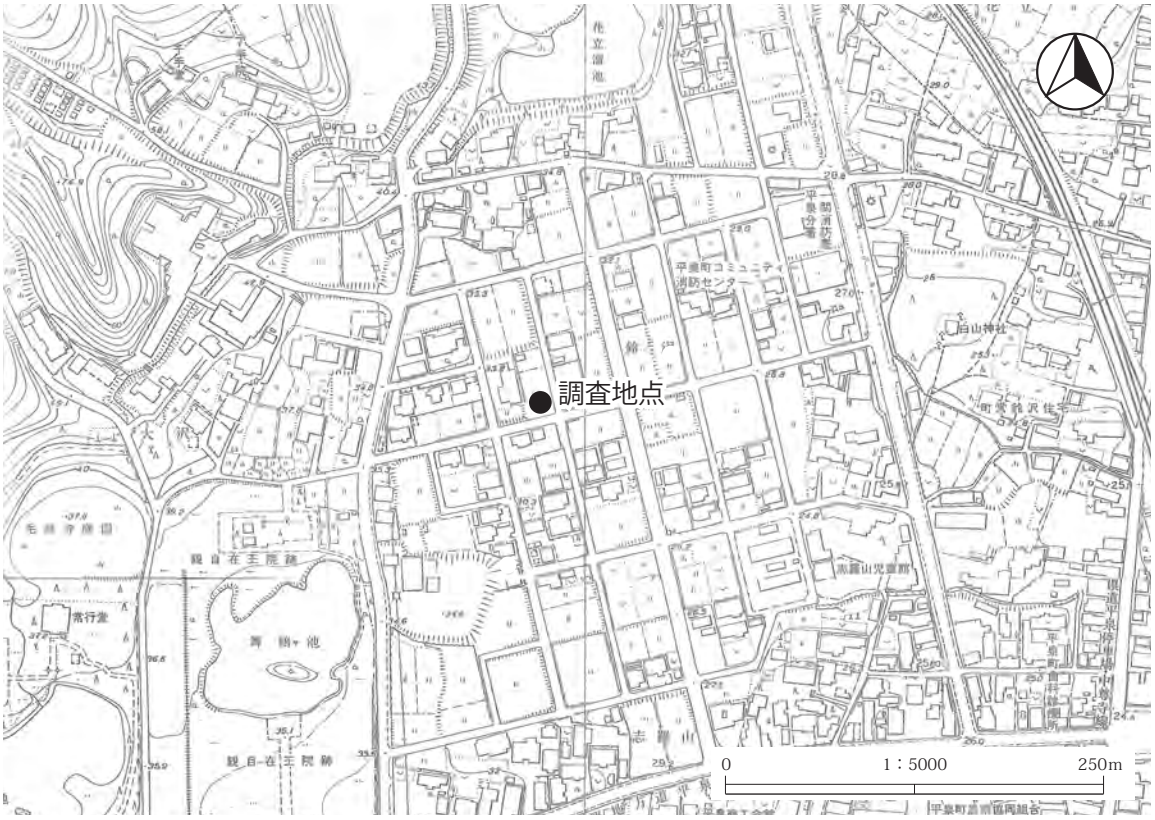
2　遺跡の位置と概要

調査地点はＪＲ東北本線平泉駅の北西400m、志羅山遺跡の北隣に位置する。この付近は金鶏山から東方向に向かって緩やかに下る地形で、かつては水田が広がっていたが、昭和50年代に区画整理されて以降、宅地化が進んでいる。区画整理時の際に切土・盛土された影響から、遺構の残存状況は場所によって異なるが、今回の調査地点は概ね盛土された場所であったことから、遺構の残存状況は良好であった。また、区画整理時の盛土中にかわらけや陶器等が混入していた。そのほとんどは12世紀のものであるが、一部は13～14世紀と考えられるかわらけも含まれている。

調査区北側で行われた23次調査では、13世紀から14世紀初頭を主体とする掘立柱建物、井戸跡、溝で構成された屋敷地の一部を検出し、同時に12世紀から14世紀にかけて断続的に地業が行われていたことが確認され、同様の遺構・整地層が検出されることが予想された。

3　基本土層

Ⅰ層：表土　　10YR4/4にぶい黄褐シルト
Ⅱ層：造成土　2.5Y4/2暗灰黄シルトなど　昭和50年代の区画整理時の造成土



第１図　位置図

Ⅲ層：旧水田層　10YR3/4暗褐色シルトなど　少なくとも二時期の水田耕作層あり
Ⅳ層：整地層１　2.5Y5/3黄褐色粘性シルトなど　12～14世紀の遺物出土
Ⅴ層：整地層２　2.5Y5/2暗灰黄粘性シルトなど　12～14世紀の遺物出土
Ⅵ層：地山　2.5Y5/3にぶい黄～黄褐色粘性シルト

４　調査概要

重機により概ねⅢ層まで掘削し、人力により遺構検出及び精査を行った。

検出遺構：中世の整地層と溝跡１条、柱穴50個、時期不明の土坑１基を検出した。

＜分布傾向＞北調査区全域において中世の整地層を確認した。中世の整地層は二時期（Ⅳ・Ⅴ層）確認したが、大半の遺構はⅣ層上面で検出した。ただし、１号土坑は例外的にⅣ層に覆われた状態で検出し、Ⅴ層面を掘り込んでいたが、Ⅳ・Ⅴ層の把握に手間取ったこともあり、この土坑以外に明確にⅤ層面を検出面とする遺構を確認することができなかった。この整地層の帰属時期だが、Ⅳ層の整地層１及びⅤ層面の整地層２ともに出土量は少ないものの13～14世紀のかわらけが出土したことから中世に帰属すると考えられる。このⅣ・Ⅴ層に類似した整地が北隣の23次調査において断続的に確認しており、帰属時期は中世であることから齟齬は無いと考えられる。

（１）溝跡

２条検出した。個々の属性は一覧表を参照願いたい。ここでは傾向について触れる。

	全長（m）	幅（m）	断面形	深さ（cm）	方位	検出面標高（m）	底面標高（m）	その他
30SD1	[2.90]	0.6～1.17	逆台形	8～14	N－18°－E	30.15～30.21	30.07～30.10	本文参照
30SD2	[0.90]	0.7～0.75	逆台形	4～19	N－13°－W	29.99～30.14	29.95	

１号溝（30SD1）＜位置・検出状況＞北調査区中央東端においてⅣ層上面で検出した。P50と重複関係にあり同遺構より新しい。また、軸線が北北東－南南西方向に向いているものの、調査区外に続いているため、全体の延長規模は不明である。＜埋土＞オリーブ粘性褐色シルトを主体とした自然堆積を呈する。＜底面＞北から南に向かうにつれて低くなっていき、比高差６㎝を測る。底面は概ね平坦である。＜出土遺物＞かわらけ細片、国産陶器２点（№38の常滑、№39の東北産各１点）、瓦１点（№76）、土壁２点（№86・87）、角釘１点（№117）が出土した。＜所属時期＞中世の整地層を掘り込んでいること、新しい時期に帰属する遺物がないことから中世に帰属するものと思われる。

２号溝（30SD2）＜位置・検出状況＞北調査区東端においてⅣ層上面で検出した。位置的にP43・44・52と重複関係にあると思われ、P43・44に切られていることから同遺構より古いが、P52との新旧関係ははっきりしない。また、軸線も不明確かつ、大半が調査区外にあることから全体の規模は不明である。＜埋土＞暗オリーブ粘性褐色シルトを主体とした自然堆積を呈する。＜底面＞底面は概ね平坦である。＜出土遺物＞かわらけ細片が出土した。＜所属時期＞中世の整地層を掘り込んでいること、新しい時期に帰属する遺物がないことから中世に帰属するものと思われる。

（２）中世の整地層

23次調査成果から、中世の整地層が広がっていることが予想されていたが、遺構検出の結果、黄褐色粘性シルトを主体とした整地層を確認した。北調査区では、北、西、東端及び中央にサブトレンチを設定し堆積状況を確認した。その結果、整地層は上下二面（Ⅳ・Ⅴ層）あることが確認された。この整地層は概ね斜面上位である西側から東側に土砂が堆積し、表面を黄褐色粘性シルトで覆ったようにも見受けられるが、北東側の１号土坑がⅤ層を掘り込み、Ⅳ層面に覆われていたことから、二時期と判断した。この整地層は12世紀の遺物を主体として、一部中世の遺物が含まれていたことから、帰属時期は中世で、整地時に12世紀の遺構・遺物が巻き込まれたものと判断した。

整地層１＜位置・検出状況＞調査区全域において検出した。検出面標高は北調査区では29.94 ～ 30.42ｍで比高差48cmを測る。南調査区では29.6 ～ 29.73mで比高差13cmを測る。＜埋土＞黄褐色～暗灰黄粘性シルトを主体とした人為堆積を呈し、層厚は北側で18 ～ 35cm、南側で７～９cmを測る。＜出土遺物＞大型の手づくねが３点(№２～４)、小型の手づくねが15点(№６～19)、大型のロクロが１点(№24)、小型のロクロが４点(№25 ～ 28)、他に№35の台状、№37の内折れが出土した。国産陶器は、渥美が２点(№44･45)出土した。他に青白磁合子(№65)、平瓦１点(№78)、土壁は一定量出土し、楔、点(№120)が出土した。＜所属時期＞出土遺物から中世に帰属すると判断した。

整地層２＜位置・検出状況＞南調査区を除く北調査区全域において検出した。検出面標高は29.75 ～ 30.2ｍで比高差45cmを測る。＜埋土＞黄褐色～オリーブ褐粘性シルトを主体とした人為堆積を呈し、最大厚23cmを測る。＜出土遺物＞小型の手づくねが１点(№10)、大型のロクロが１点(№22)、小型のロクロが４点(№29 ～ 32)などが出土した。＜所属時期＞出土遺物から中世に帰属すると判断した。

（３）土坑

中世の土坑１基を検出した。個々の属性は一覧表を参照願いたい。ここでは傾向について触れる。

	平面形	規模	断面形	深さ（cm）	検出面標高（m）	底面標高（m）	遺物
30SK1	円形	［1.5］× 2.69	半円形	93	30.18	29.24	本文参照

１号土坑（30SK1）＜位置・検出状況＞北調査区西側に位置する。検出面はⅤ層である。調査区北端のサブトレンチにおいてⅣ層に覆われた状況を確認した。その後南北方向にサブトレンチを入れて土坑の範囲を把握し、当該部分のⅣ層を除去し精査を行った。本土坑は北側は調査区外に延びており、南側の一部を検出したため底面まで到達しているか判然としなかった。＜埋土＞上位は暗灰黄粘性シルトを主体とした整地層１に覆われ、中位は黄褐色粘性シルト、下位は暗灰黄粘性シルトを主体とした自然堆積を呈する。＜出土遺物＞かわらけ・土壁が出土したが、細片主体のため、掲載できる遺物はなかった。＜所属時期＞検出状況から中世に帰属するものと判断した。

（４）柱穴

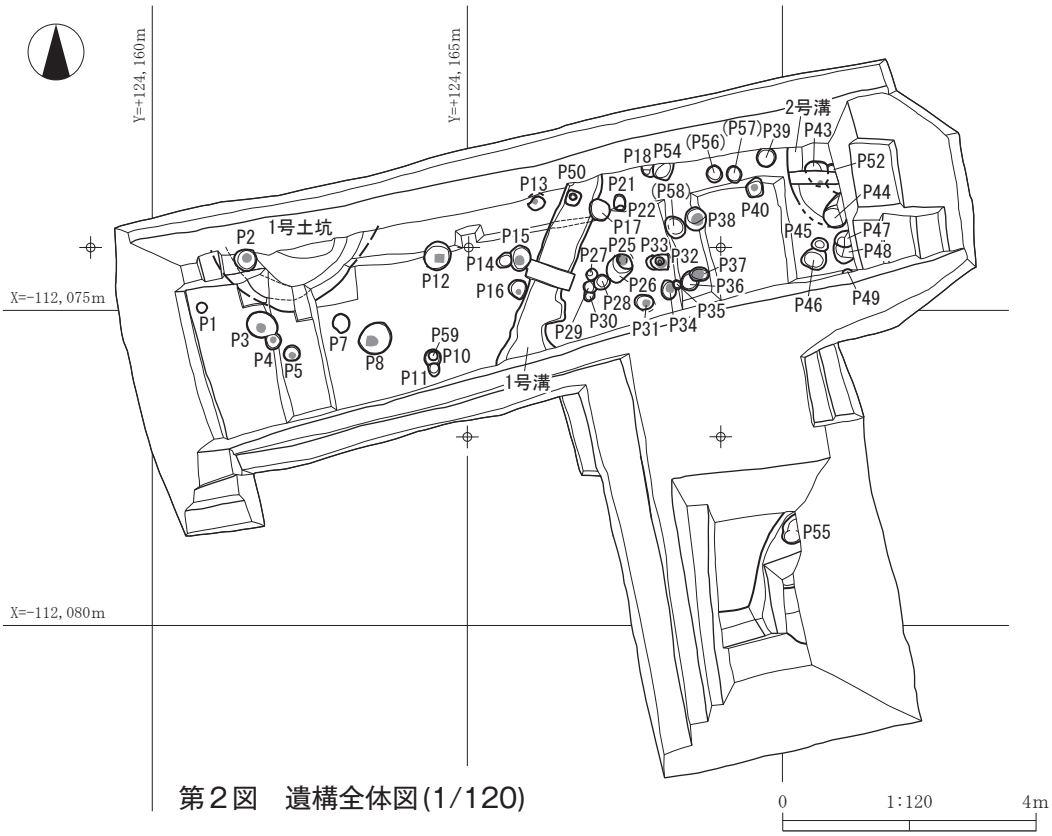
49個検出した。帰属時期は概ね中世に帰属する。個々の属性は一覧表を参照願いたい。ここでは傾向について触れる。

＜検出状況＞基本土層Ⅳ層で検出した。＜平面形＞円形、楕円形主体で一部角形が含まれる。＜規模＞10 ～ 54cm、深さは５～ 59cmと様々である。＜出土遺物＞ほぼ全ての柱穴からかわらけ細片が出土し、形のあるものはＰ７から出土した№1のかわらけがある。この他にＰ２から№118の角釘、Ｐ８から№41の渥美、№88･89の土壁、P12から№90の土壁、№119の角釘、P13から№91の土壁、P14から№126の鉄滓、P17から№5のかわらけ、№92・93の土壁、P21から№71の土師器坏、P25から№72・73の土師器甕、P26から№34の高台付かわらけ、P28から№94の土壁、№127の鉄滓、P31から№95の土壁、P34から№96の土壁、P36から№60の中国産白磁Ⅲ、№77の瓦、№97の土壁、P38から№61の天目茶碗、№74の土師器、P43から№43の渥美、№98の土壁、P44から№20のかわらけ、№63の白磁水注、№133の砥石、P54から№100の土壁が出土し、掲載した。＜所属時期＞古代・12世紀・中世の遺物が混在しているが、Ⅳ層面を検出面とし、新しい時期の遺物が含まれていないことから中世と判断した。

（５）出土遺物

かわらけがコンテナ(53 × 35 × 12cm) ６箱、国産陶器21点、中国産陶磁器12点、土師器５点、瓦10点、土壁31点、鉄滓３点、種子数点、砥石１点などが出土した。

かわらけは12世紀のものが主体で、13 ～ 14世紀に帰属するものが少量出土し、そのほとんどが、整地層からの出土であり、整地層を掘り込んだ遺構からは若干出土したのみである。

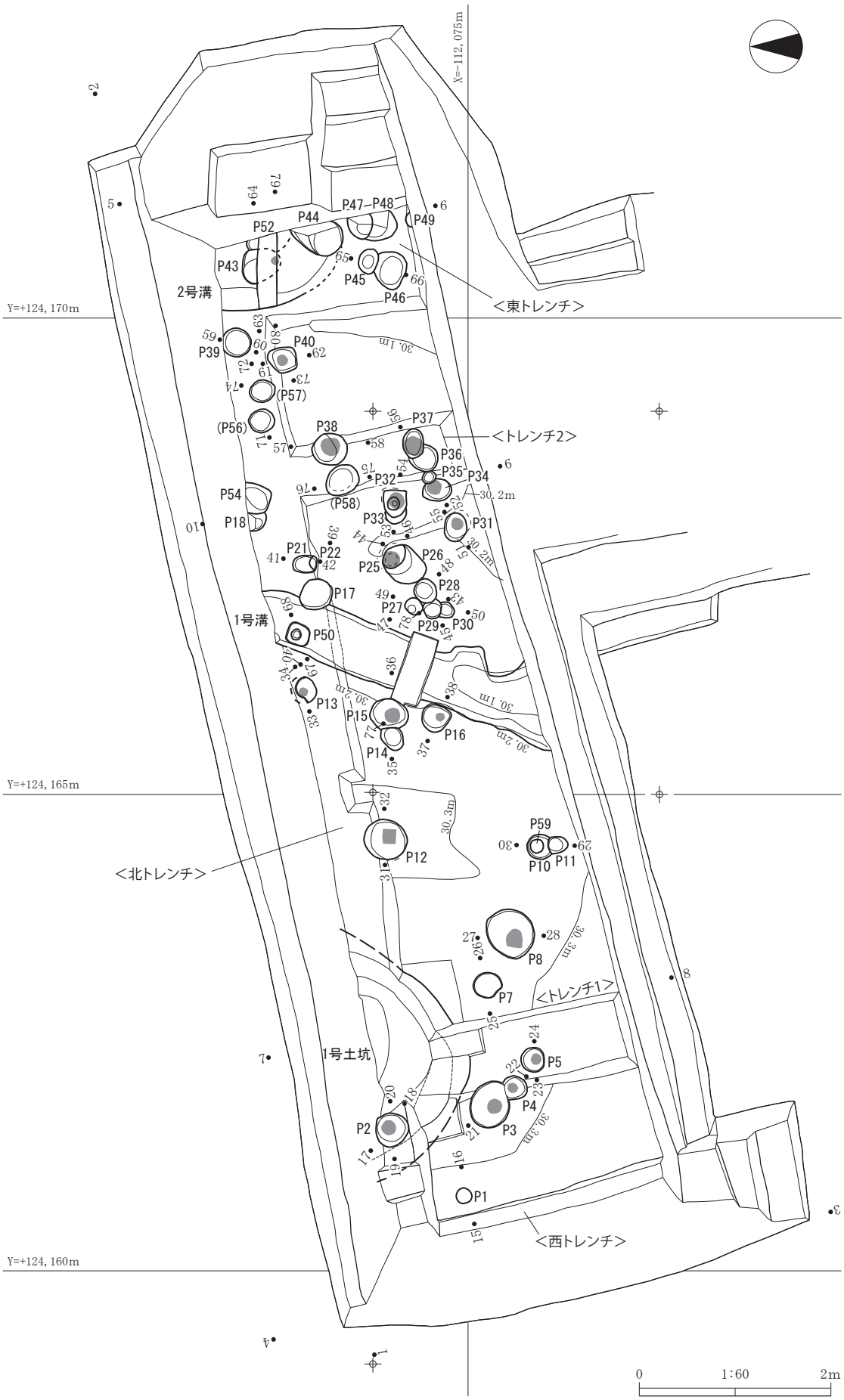


第２図　遺構全体図(1/120)

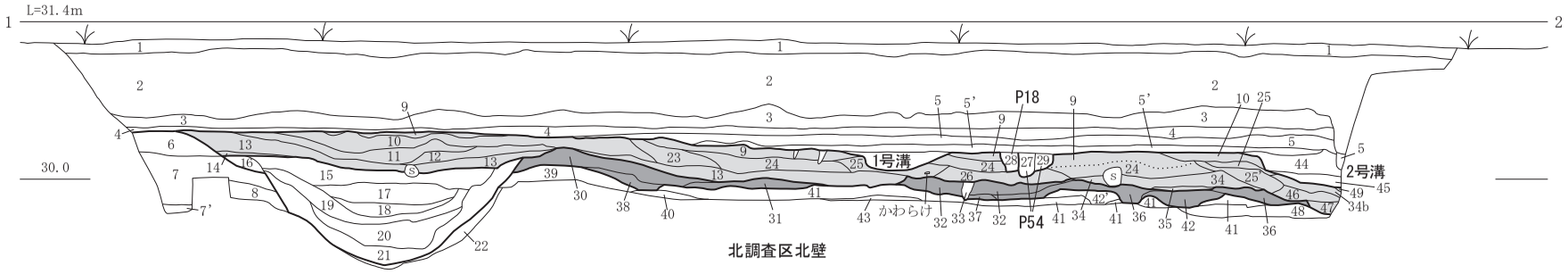
かわらけの内訳は、大型の手づくねが４点(№1 ～ 4)、小型の手づくねが15点(№5 ～ 19)、大型のロクロが５点(№20 ～ 24)、小型のロクロが９点(№25 ～ 33)、他に№34の高台、№36の柱状高台、№37の内折れがあり、形のわかるものは掲載した。国産陶器は、常滑が５点(№38他)、渥美が７点(№41他)、13 ～ 14世紀に帰属する東北産が７点(№39他)である。いずれも器種は甕が多く、壺、鉢、小皿が少数である。中国産磁器は白磁が６点で、皿(№60)、碗(№59･66)、四耳壺(№70)、水注(№63・64)が、青白磁は４点で、皿(№62)、合子(№65)、梅瓶(№67)、碗(№68)が出土した。土師器は５点で赤彩甕が２点(№73･74)出土した。瓦は10点(№76 ～ 85)で破片かつ平瓦主体で中世に帰属するものである。土壁は全点計測し表掲載した。金属製品(№117 ～ 125)は角釘がほとんどで、整地層と柱穴から出土した。鉄滓は３点(№126 ～ 128)出土した。植物遺体数点(№129 ～ 132)出土しており、モモの種子がほとんどである、他に砥石１点(№133)など出土した。

５　まとめ

今回の調査では、中世の整地層とその上面から柱穴・溝を検出した。建物の構成は把握できなかったが、北に隣接する23次調査で確認された屋敷地が南に広がっていることが明らかとなった。中世の整地層は調査区全域で確認した。この整地層は二時期(Ⅳ・Ⅴ層)確認したが、大半の遺構はⅣ層上面で検出している。ただし、１号土坑は例外的にⅣ層に覆われた状態で検出し、Ⅴ層面を掘り込んでいたが、調査は大半をⅣ層面に留めたこともあり、この土坑以外に明確にⅤ層面を検出面とする遺構を確認することができなかった。この整地層の帰属時期だが、Ⅳ層の整地層１及びⅤ層の整地層２から出土量は少ないものの13 ～ 14世紀のかわらけ、国産陶器が出土したことから中世に帰属すると考えられる。また、12世紀に帰属する遺物が整地層から多く出土したが、これらは中世の整地の際に混入したものと思われ、周辺にかつては12世紀の遺構が展開されていた様子が窺える。



第３図　北調査区遺構配置図(1/60)



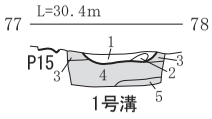
北調査区北壁(1-2)

1　10YR4/3にぶい黄褐シルト 粘性弱 しまりやや密 表土
2　2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック40% 炭・鉄分微量 昭和造成盛土
3　2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分微量 旧水田層
4　2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒30%混 旧水田層
5　10YR4/3にぶい黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒3% 炭微量混 旧水田層
5’10YR4/4褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒10%混 旧水田層
6　2.5Y6/4にぶい黄シルト 粘性中 しまり密 鉄分微量
7　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒5% 炭1% 地山
7’2.5Y6/6明黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山
8　2.5Y6/3にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒1% 地山
9　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭微量 整地層1
10　2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭・鉄分微量 整地層1
11　2.5Y6/2灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭微量 整地層1
12　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 鉄分粒1% 整地層1
13　2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック炭1% 鉄少量 整地層1
14　2.5Y5/4黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 鉄少量 整地層1
15　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒30% 炭微量 1号土坑
16　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒1% 1号土坑
17　2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭鉄微量 1号土坑
18　2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭微量 地山由来ブロック状 1号土坑
19　2.5Y6/4にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山由来ブロック状
　　2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト10%混 1号土坑
20　2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭1% 地山ブロック1% 1号土坑
21　2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒1% 炭微量 砂質交じり 1号土坑
22　2.5Y7/2灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒3% 地山由来
23　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 鉄分粒1% 炭微量 整地層1
24　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭微量 鉄分粒1% 整地層1
25　2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック 炭1% 鉄分粒3% 整地層1
25’2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭1% 鉄微量 整地層1
26　2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭1% 鉄分粒微量 整地層1
27　2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭1% 鉄分粒微量 P54
28　2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭1% 鉄分粒1% P18
29　2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物1% 鉄分粒微量混 P54
30　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭・鉄分粒微量 整地層2
31　2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック20% 鉄分粒3% 炭微量 整地層2
32　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭1% 鉄微量 整地層2
33　2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭1% 杭跡
34　2.5Y7/4浅黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック30～40% 炭・鉄微量 整地層1
34b 2.5Y7/6明黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 ブロック状炭微量 整地層1
35　2.5Y5/4黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 鉄分粒1% 炭微量 整地層1
36　2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭1% 鉄分粒微量 整地層2
37　2.5Y6/3にぶい黄粘性シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック1% 鉄分粒3% 炭微量 整地層2
38　2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭・鉄分微量 整地層2
39　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒3% 炭1% 地山
40　2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒3% 炭1% 地山
41　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分微量 地山
42　2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭・鉄微量 整地層2
42’2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒1% 地山
43　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分3% 地山
44　2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭10% 2号溝
45　2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭・鉄分微量 2号溝
46　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 整地層1
47　2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 整地層1
48　2.5Y6/4にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山
49　2.5Y5/3黄褐 粘性シルト 地山ブロック7% 炭微量 整地層1

整地層1
整地層2

0　1:60　2m

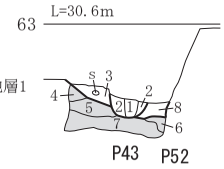
溝



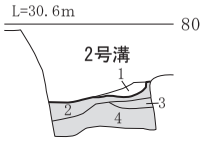
1号溝トレンチ北側

1号溝(77-78)

1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密
　地山ブロック1% 炭化物微量
2 2.5Y7/4浅黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 整地層1
3 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 整地層1
　地山ブロック7% 炭化物微量 整地層1
4 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 整地層1
5 2.5Y6/3にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 整地層1



2号溝トレンチ北側



2号溝トレンチ南側

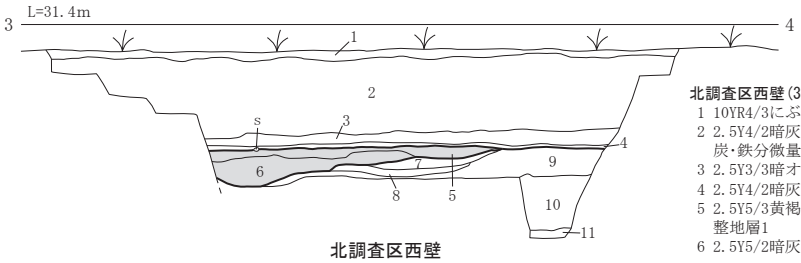
2号溝 P43 P52(63-64)

1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック20%混 鉄・炭化物微量 P43柱痕跡
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック15%混 鉄・炭化物1% P43
3 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物1%（2号溝）
4 2.5Y5/6黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄・炭化物微量 整地層1
5 2.5Y5/2暗灰黄シルト 粘性中 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量 整地層1
6 10YR5/2灰黄褐砂質シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量 整地層1
7 5Y5/2灰オリーブ粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭・鉄微量 整地層1
8 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 鉄・炭化物1% P52

2号溝(79-80)

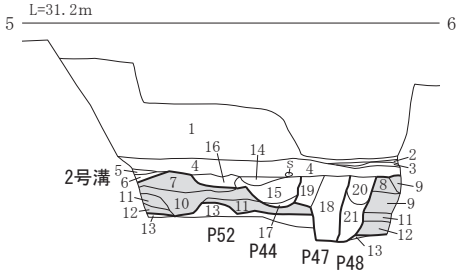
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物1%
2 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄・炭化物微量 整地層1
3 2.5Y5/4黄褐砂質シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 整地層1
4 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量含む 整地層1

第４図　北調査区北壁断面・溝断面



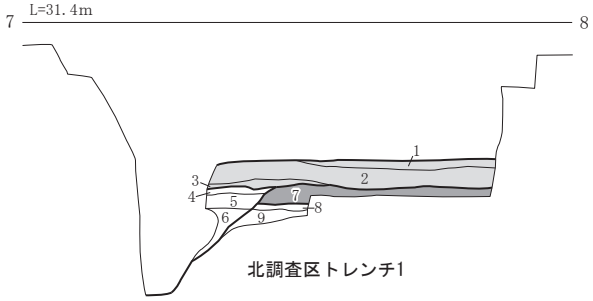
北調査区西壁

北調査区西壁(3-4)
1 10YR4/3にぶい黄褐シルト 粘性弱 しまりやや密 表土
2 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック40% 炭・鉄分微量 昭和造成盛土
3 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分微量 旧水田層
4 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒30%混 旧水田層
5 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック40% 炭1% 整地層1
6 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分微量 炭微量 整地層1
7 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 鉄分微量 地山
8 2.5Y4/4オリーブ褐砂質シルト～シルト 粘性中 しまり強 地山ブロック20% 鉄分微量 地山
9 2.5Y6/4にぶい黄シルト 粘性中 しまり密 鉄分微量 地山
10 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒5% 炭1% 地山
11 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒5% 炭1% 地山



北調査区東壁

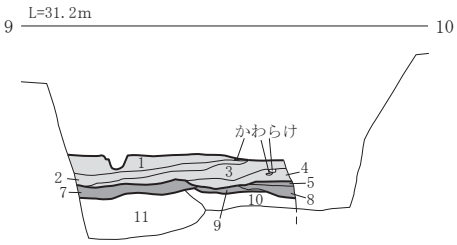
北調査区東壁(5-6)
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック40% 炭・鉄分微量 昭和造成盛土
2 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密
3 2.5Y4/4オリーブ褐砂 粘性なし しまり疎
4 10YR4/3にぶい黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒3% 炭微量混 旧水田層
5 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 2号溝
6 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 2号溝
7 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 地山ブロック7% 炭微量 整地層1
8 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭微量 整地層1
9 2.5Y4/4オリーブ褐シルト 粘性強 しまり密 炭微量 整地層1
10 2.5Y7/6明黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山由来ブロック状 炭微量 整地層1
11 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 整地層1
12 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 整地層1
13 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山
14 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 鉄・炭微量 P44
15 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄・炭微量 P44
16 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 鉄・炭微量 P52
17 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 鉄・炭微量 P44
18 2.5Y3/1黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 鉄・炭微量 P47
19 2.5Y5/4黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック20% 鉄・炭微量 P47
20 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 鉄・炭微量 P48
21 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 鉄・炭微量 P48



北調査区トレンチ1

1号土坑

北調査区トレンチ1(7-8)
1 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密
2.5Y6/6明黄褐粘土地山ブロック50% 炭1%含む 整地層1
2 2.5Y6/1黄灰粘性シルト 粘性強 しまり密 2.5Y6/6明黄褐地山ブロック1% 炭1% 鉄分微量 整地層1
3 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒5% 整地層1
4 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭1～2% 1号土坑
5 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒2% 炭微量 1号土坑
6 2.5Y5/1黄灰粘性シルト 粘性強 しまり密 炭・鉄分粒微量 1号土坑
7 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒3% 炭微量 整地層2
8 2.5Y6/3にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒1% 地山
9 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒10% 地山

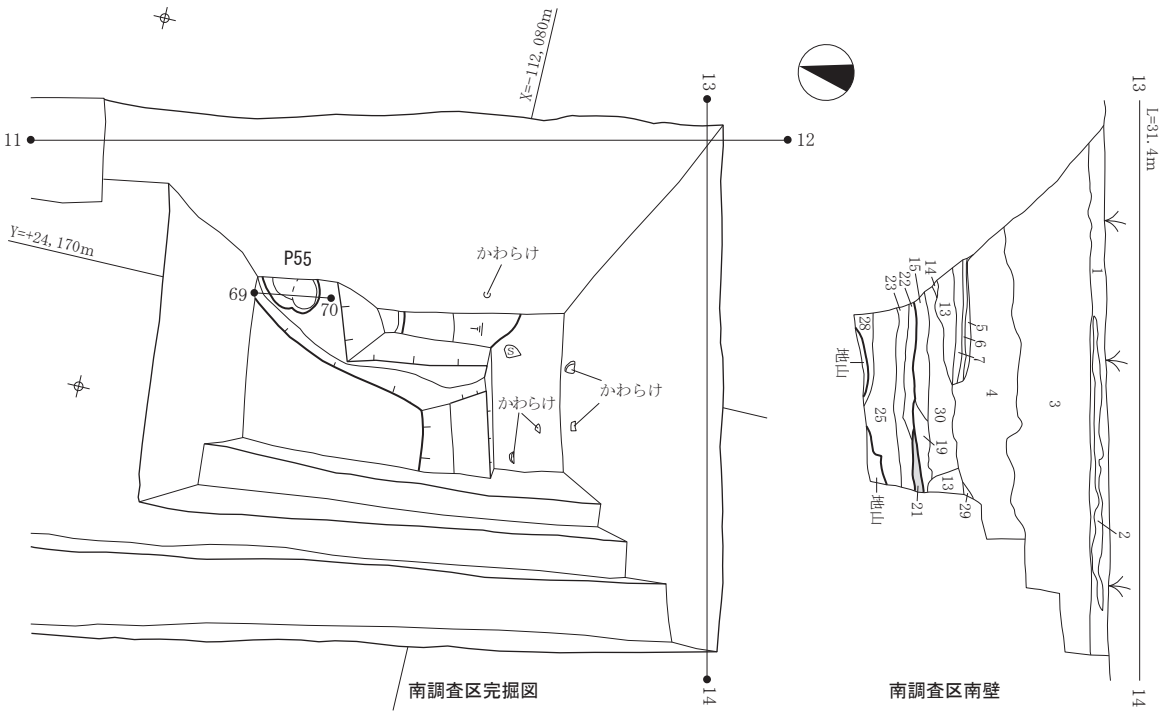


北調査区トレンチ2

北調査区トレンチ2(9-10)
1 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 2.5Y6/6明黄褐粘土地山ブロック50% 炭1%含む 整地層1
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭3% 鉄分微量 整地層1
3 2.5Y6/1黄灰粘性シルト 粘性強 しまり密 2.5Y6/6明黄褐地山ブロック1% 炭1% 鉄分微量 整地層1
4 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭1% 鉄分少量 整地層1
5 2.5Y7/4浅黄粘性シルト 粘性強 しまり密 粘土ブロック状・炭微量 整地層2
7 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 炭・鉄分粒微量 整地層2
8 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 鉄分粒3%、炭微量 整地層2
9 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭1% 鉄分粒5% 整地層2
10 2.5Y6/3にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒1% 地山
11 10YR5/2灰黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒20% 地山層(自然堆積)

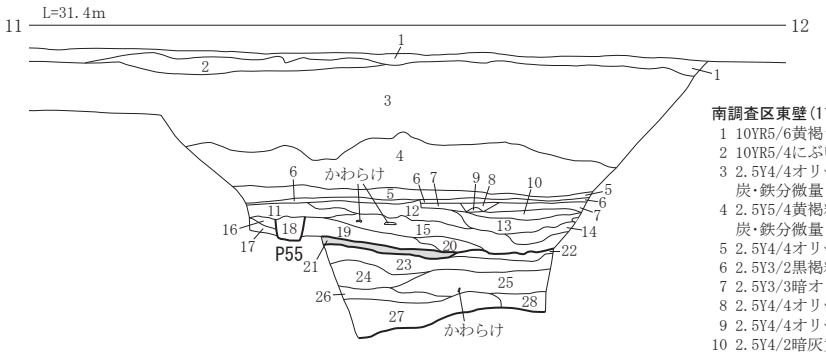
整地層1
整地層2
0 1:60 2m

第５図　北調査区トレンチ断面



南調査区完掘図

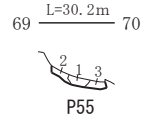
南調査区南壁



南調査区東壁

南調査区東壁(11-12)　南調査区南壁(13-14)

1 10YR5/6黄褐シルト 粘性中 しまりやや有り 表土
2 10YR5/4にぶい黄褐シルト 粘性やや有り しまり有り 炭・鉄分微量
3 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性中 しまり密 地山ブロック10% 炭・鉄分微量
4 2.5Y5/4黄褐粘性シルト 粘性中 しまり密 地山ブロック40% 炭・鉄分微量
5 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性中 しまり密 炭微量 旧水田層
6 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性中 しまり密 鉄分40% 旧水田底
7 2.5Y3/3暗オリーブ褐シルト 粘性やや有り しまり密 炭微量
8 2.5Y4/4オリーブ褐シルト 粘性やや有り しまり密 炭・鉄分微量
9 2.5Y4/4オリーブ褐シルト 粘性やや有り しまり密 鉄分粒10% 炭微量
10 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭1% 9層ブロック10%
11 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 炭微量 鉄微量
12 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭微量 鉄分粒1%
13 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭1%
14 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭・鉄分微量
15 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭・鉄分微量
16 2.5Y4/1黄灰粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック20% 鉄微量
17 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山由来土
18 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭・鉄分微量 P55
19 10YR4/2灰黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭・鉄分微量
20 10YR4/2灰黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭・鉄分微量
21 2.5Y5/6黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密
2.5Y3/2黒褐粘性シルトブロック5%含む 整地層1
22 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒5% 炭微量
23 2.5Y4/1黄灰粘性シルト 粘性強 しまり密 炭微量
24 2.5Y5/2暗灰黄砂質シルト 粘性中 しまり密 地山ブロック5% 炭・鉄分微量
25 2.5Y5/2暗灰黄砂質シルト 粘性中 しまり密 地山ブロック5% 炭微量
26 2.5Y3/1黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒10% 炭微量
27 2.5Y3/1黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒3%
28 2.5Y4/1黄灰粘性シルト 粘性強 しまり密 炭・鉄分微量
29 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭微量
30 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭・鉄分粒微量

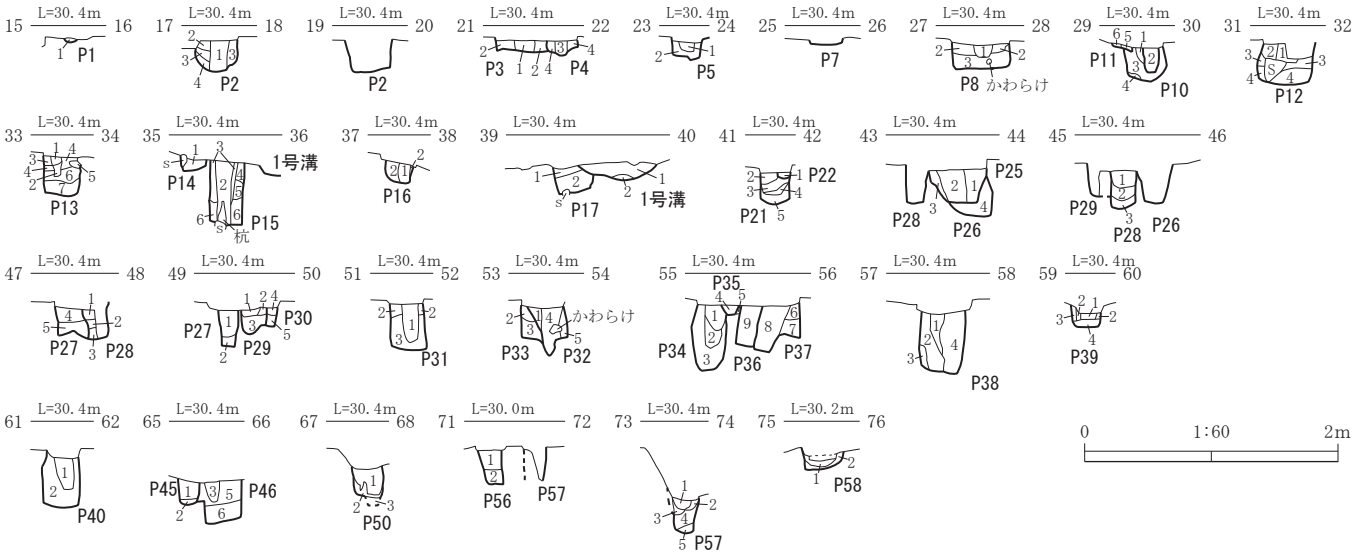


P55
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物微量 柱痕跡
2 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック20% 炭化物微量
3 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物1%

整地層1

0　1:60　2m

第６図　南調査区 平面・断面



P1(15-16)
1 10YR3/1黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物微量

P2(17-18)
1 10YR3/1黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物微量 柱痕跡
2 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量
3 10YR3/1黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 炭化物微量
4 10YR7/2にぶい黄橙粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量

P3, P4(21-22)
1 2.5YR4/2灰赤粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物微量含む P3の柱痕跡
2 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5%含む P3
3 2.5YR4/2灰赤粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量含む P4柱痕跡
4 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物微量含む P4

P5(23-24)
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量含む 柱痕跡
2 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量含む

P8(27-28)
1 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物微量含む 柱痕跡
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック7% 炭化物微量含む
3 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 堆積鉄分微量含む

P10, P11, P59(29-30)
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山粒微量 炭化物微量含む P10
2 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック30% 層状に含む P59
3 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック7% 炭化物微量含む P10
4 2.5Y5/4黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山粒 鉄分粒含む P10
5 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量含む P11柱痕跡
6 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物微量含む P11

P12(31-32)
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量含む 柱痕跡
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック30% 炭化物1%含む
3 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量含む
4 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量含む

P13(33-34)
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山粒1% 炭化物微量 柱痕跡
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山粒5% 炭化物微量 柱痕跡
3 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物1%含む
4 2.5Y5/4黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物1%含む
5 10YR5/8黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山由来?
6 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 堆積鉄分1% 炭化物微量
7 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 堆積鉄分5% 炭化物微量

P14, P15(35-36)
1 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 P14
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 P15の柱痕跡
3 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 鉄・炭化物微量
4 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 鉄・炭化物微量
5 2.2.5Y6/3にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 鉄分粒5% 炭化物1%
6 2.5Y6/2灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒20%含む

P16(37-38)
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物1%含む
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック20% 炭化物微量

P17, 1号溝(39-40)
1 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物1%
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物1%

1号溝
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量含む
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック30% 炭微量混

P21, P22(41-42)
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 P22
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物微量 P23
3 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物微量 P23
4 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 炭化物微量 P23
5 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 P23

P25, P26(43-44)
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量 P25
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物微量 P25
3 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物微量 P25
4 2.5Y3/1黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量 P26

P27(49-50)
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック30% 鉄・炭化物微量
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物微量

P28(45-46, 47-48)
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物1%
3 2.5Y6/3にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量

P29, P30(49-50)
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量
2 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 炭化物微量
3 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物微量
4 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物1%
5 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量

P31(51-52)
1 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物1% 柱痕跡
2 2.5Y4/4オリーブ褐 地山ブロック30% 炭化物1%
3 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量

P32, P33(53-54)
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量
2 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物1%
3 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 炭化物微量
4 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5% 炭化物微量
5 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量

P34, P35, P36, P37(55-56)
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 P34
2 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物微量 P34
3 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物微量 P34
4 2.5Y3/3暗オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 P35
5 2.5Y6/3にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 整地層
6 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭・焼土粒微量 P37
7 2.5Y5/3黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物1% P37
8 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック3% 炭化物1% P37
9 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物1% 鉄微量 P36

P38(57-58)
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物1%
2 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物微量
3 5Y7/2灰白粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック崩落土
4 2.5Y4/3オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック20% 炭化物1%

P39(59-60)
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物1% 焼土微量含む
2 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量
3 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量
4 2.5Y5/4黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック5%

P40(61-62)
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物1%
2 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物1% 焼土粒微量含む

P45, P46(65-66)
1 2.5Y3/1黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量 焼土微量
2 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量
3 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック30% 炭化物微量
4 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック1% 炭化物微量
5 2.5Y4/1黄灰粘性シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック10% 炭化物・鉄分粒微量
6 5Y4/2灰オリーブ粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量

P50(67-68)
1 2.5Y3/2黒褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物1%
2 2.5Y6/3にぶい黄粘性シルト 粘性強 しまり密
3 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量

P56(71-72)
1 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒3% 炭化物微量
2 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量

P57(73-74)
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒3% 炭化物微量
2 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒微量
3 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒微量
4 2.5Y4/1黄灰粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒微量
5 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 炭化物微量

P58(75-76)
1 2.5Y4/4オリーブ褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒・炭化物1%
2 2.5Y5/4黄褐粘性シルト 粘性強 しまり密 鉄分粒・炭化物1%

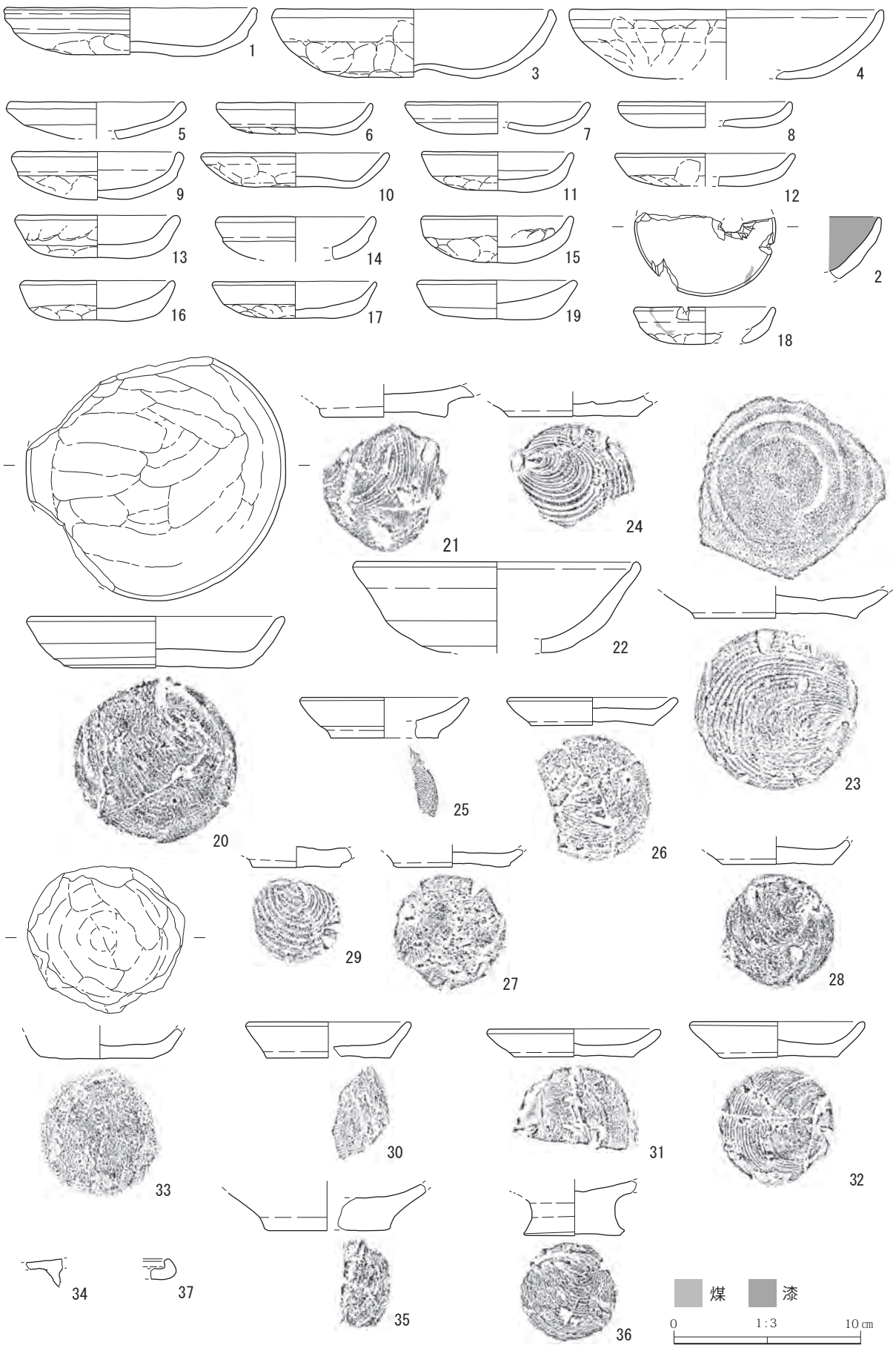
第７図　柱穴断面図

第１表　柱穴観察表

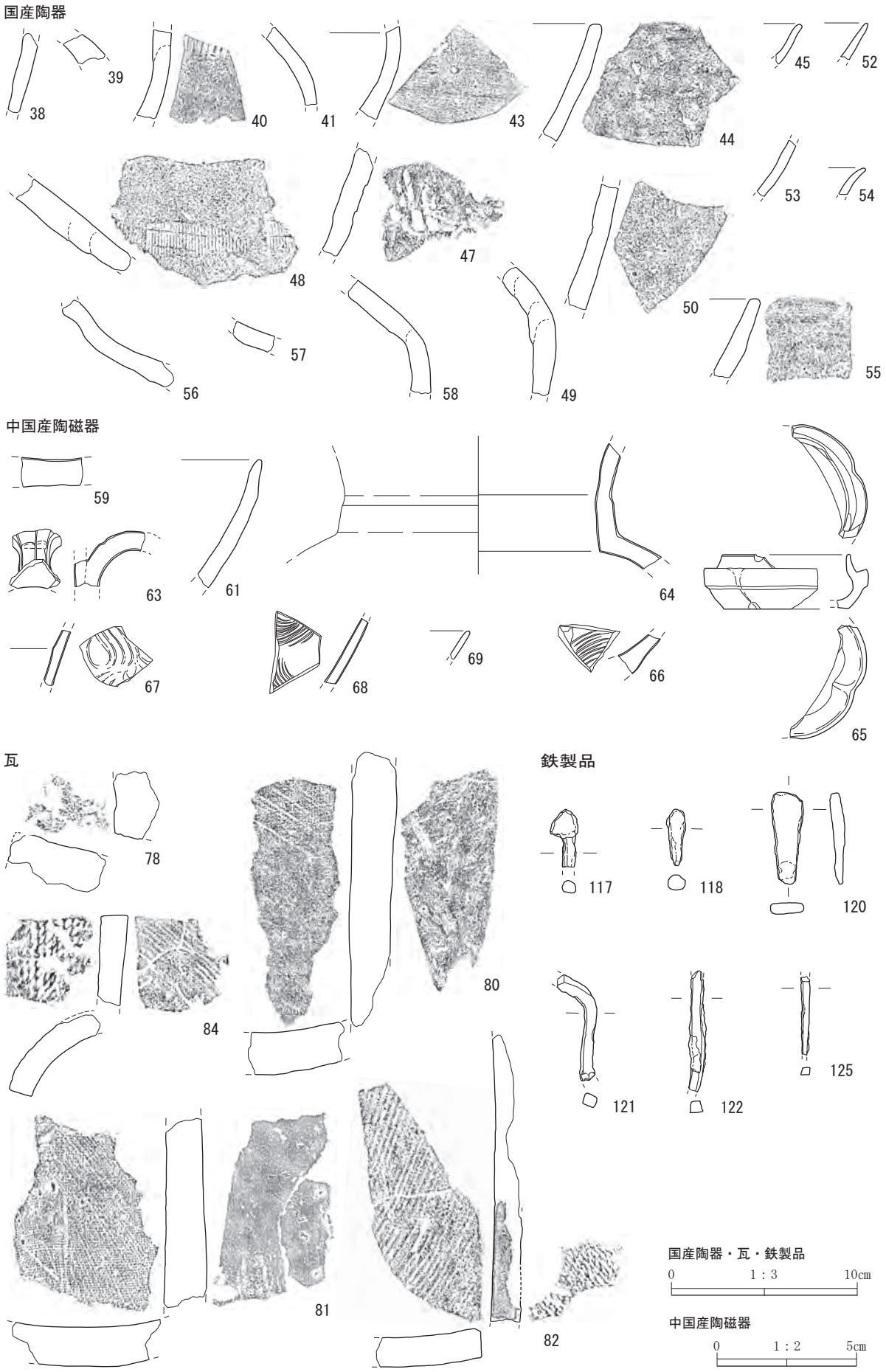
No	掘方(cm)	平面形	柱痕跡(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物他(遺物No.)
1	10×10	円形	−	8	20.23	
2	33×34	円形	14×14	28	30.04	角釘(No.118)、かわらけ
3	41×48	隅丸	15×15	14	30.18	かわらけ、P4>P3
4	24×26	円形	13×13	16	30.16	かわらけ、P4>P3
5	26×26	円形	12×12	20	30.12	かわらけ、粘板岩
7	30×28	楕円形	−	5	30.25	かわらけ(No.1)
8	46×54	隅丸	14×22	26	30.04	かわらけ、国産陶器(渥美No.41)、土壁(No.88・89)
10	27×28	円形	−	30	29.96	かわらけ、P11>P10
11	22×[12]	隅丸	14×14	8	30.18	かわらけ、P11>P10
12	42×45	円形	17×16	36	29.92	かわらけ、土壁(No.90)、角釘(No.119)、粘板岩、炭
13	28×31	円形	9×8	34	29.92	かわらけ、土壁(No.91)、炭
14	25×22	楕円形	−	15	30.12	かわらけ、鉄滓(No.126)
15	28×40	楕円形	15×16	59	29.68	かわらけ、杭
16	31×30	円形	8×8	23	30.02	かわらけ、土製品
17	34×36	楕円形	−	24	29.94	かわらけ(No.５)、土壁(No.92・93)
18	18×[19]	円形	−	37	29.99	かわらけ
21	20×25	楕円形	−	32	29.84	かわらけ、土師器坏(No.71)
22	12×15	円形	−	12	30.05	かわらけ
25	18×20	円形	13×13	34	29.86	かわらけ、土師器甕(No.72・73)、桃の種(No.129)、P25>P26
26	48×36	角	−	46	29.74	かわらけ(高台：No.34)
27	16×17	隅丸	−	36	29.82	かわらけ、P28>P27
28	22×24	円形	−	36	29.82	かわらけ、土壁(No.94)、鉄滓(No.127)、桃類種(No.130)、P28>P27
29	17×22	円形	−	26	29.92	かわらけ
30	18×48	円形	−	20	29.98	かわらけ
31	24×30	楕円形	14×14	40	29.80	かわらけ、土壁(No.95)、粘板岩
32	24×28	楕円形か	15×(15)	44	29.74	かわらけ、P32>P33
33	24×33	円形	−	36	29.88	かわらけ、P32>P33
34	25×32	楕円形	15×16	58	29.62	かわらけ、土壁(No.96)
35	13×14	円形	−	14	30.06	かわらけ、かわらけ質土器
36	30×[30]	隅丸	−	40	29.80	かわらけ、中国産白磁皿(No.60)、瓦(No.77)、土壁(No.97)
37	22×30	楕円形	23×23	44	29.76	かわらけ 炭
38	34×36	円形	19×19	58	29.60	中国産陶器(天目No.61)、土師器(No.74)、土製品
39	26×28	円形	−	18	29.98	かわらけ
40	27×30	隅丸	13×15	47	29.72	かわらけ
43	40×30	楕円形	10×10	20	29.86	かわらけ、国産陶器(渥美No.43)、土壁(No.98)、P43>SD2・P52
44	35×[35]	角か	−	21	29.75	かわらけ(No.20)、中国産白磁水注(No.63)、砥石(No.133)
45	17×25	楕円形	−	22	29.75	かわらけ、P45>P46
46	35×36	楕円形か	12×−	35	29.59	かわらけ、土壁(No.99)、P45>P46
47	25×[24]	楕円形	−	52	29.50	かわらけ
48	[30]×[20]	楕円形	−	52	29.46	
49	28×28	円形	−	−	−	
50	24×26	隅丸	−	35	29.70	かわらけ、SD1>P50
52	[10]×[10]	楕円形	−	17	29.85	P43>SD2・P52
54	[32]×32	隅丸	−	35	29.81	かわらけ、土壁(No.100)
55	25×44	楕円形	17×−	29	29.68	かわらけ
56	23×28	楕円形	−	12	29.64	
57	22×27	楕円形	−	21	29.71	かわらけ
58	30×35	楕円形	−	18	29.82	
59	12×12	円形	−	24	30.02	

P6・9・19・20・23・24・41・42・51・53は欠番　［　］実測値

かわらけ



第８図　出土遺物（１）


国産陶器
38
39
40
41
43
44
45
52
48
47
53
54
50
56
57
58
49
55
中国産陶磁器
59
63
61
64
67
68
69
66
65
瓦
78
80
84
81
82
鉄製品
117
118
120
121
122
125
国産陶器・瓦・鉄製品
0
1：3
10cm
中国産陶磁器
0
1：2
5cm

第９図　出土遺物（２）

第２表　かわらけ観察表

（　）推定値　＜　＞残存値

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量(cm) 口径	底径	器高	残存率(%)	年代	備考	登録No.
1	8	4	北調査区 P7 検出面	手づくね大	13.2～13.5	－	2.3～2.7	95	12c	スノコ痕 指痕	86
2	8	4	北調査区 整地層1	手づくね大	－	－	－	小片	12c	内外面に黒い付着物(漆か)	295
3	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層1	手づくね大	(15.2)	－	3.7	30	12c	外面ナデ 反転実測	296
4	8	4	北調査区 整地層1	手づくね大	(16.8)	－	－	25	12c	外面ナデ 反転実測	304-2
5	8	4	北調査区 P17 埋土	手づくね小	(9.6)	－	－	30	12c	反転実測	160-4
6	8	4	北調査区 整地層1	手づくね小	8.4	－	1.4～1.8	50	12c	指痕	383-3
7	8	4	北調査区 トレンチ1 整地層1	手づくね小	(9.9)	－	1.7	50	12c	スノコ痕 反転実測	280-1
8	8	4	北調査区 トレンチ1 整地層1	手づくね小	(9.3)	－	1.4	30	12c	反転実測	280-2
9	8	4	北調査区 東トレンチ 整地層1	手づくね小	(9.2)	－	2.5	40	12c	指痕 外面ナデ 反転実測	356
10	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	手づくね小	10.1	－	1.7～2.0	70	12c	外面ナデ	273-3.308
11	8	4	南調査区 東側深掘り 整地層	手づくね小	8.2	－	1.7～2.3	完形	13cか	外面指痕 内底ササラナデ	246
12	8	4	南調査区 東側深掘り 整地層～下	手づくね小	(9.6)	－	1.8	40	12c	指痕 反転実測	267-4
13	8	4	南調査区 落込み	手づくね小	(8.8)	－	2.3	30	13cか	外面指痕 反転実測	225-4
14	8	4	南調査区 落込み	手づくね小	(8.6)	－	－	25	13cか	反転実測	225-5
15	8	4	南調査区 中央 清掃	手づくね小	8.2～8.4	－	1.9～2.4	完形	13cか	内外面指痕	219
16	8	4	南調査区 東側 清掃	手づくね小	8.2～8.5	－	1.9～2.2	90	13cか	指痕	220
17	8	4	南調査区 南側 深掘り	手づくね小	8.6～9.0	－	1.7～2.2	80	12c	指痕	249-7
18	8	4	南調査区 南側 深掘り	手づくね小	7.6	－	1.9	50	12c	穿孔か 口縁に煤付着 外面指痕	249-8
19	8	4	南調査区	手づくね小	8.6	－	1.9～2.2	70	13cか	摩滅	217-3.225-6
20	8	4	北調査区 東壁P44	ロクロ大	13.8	9.0	2.7～3.0	70	13c	内底ナデ 外底端部ナデ	407
21	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層	ロクロ大	－	6.1	－	50	12c	底部のみ 底部台状 内底ナデ 内外面被熱	178-5.180
22	8	4	北調査区 整地層2	ロクロ大	(15.4)	－	－	10	12c	反転実測	406-3
23	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	ロクロ大	－	8.6	－	60	14cか	底部のみ 内底ナデ 反転実測	337
24	8	4	北調査区 東トレンチ 整地層1	ロクロ大	－	(6.9)	－	30	12c	底部のみ 反転実測	379
25	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層1	ロクロ小	(9.0)	(5.8)	2.2	25	12c	反転実測	366-4
26	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層1	ロクロ小	(9.2)	6.2	1.5	60	12c	摩滅 反転実測	262-3.265-1 294-1.413-3
27	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層1	ロクロ小	－	6.0	－	60	14cか	底部のみ 内底ナデ	351
28	8	4	北調査区 トレンチ1 整地層1	ロクロ小	－	5.8	－	60	12c	底部のみ	330
29	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	ロクロ小	－	4.6	－	60	12c	底部のみ	309
30	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	ロクロ小	(8.8)	(6.6)	1.9	30	12c	反転実測	344
31	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	ロクロ小	(9.3)	6.4	1.5	50	12c		342.345
32	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	ロクロ小	9.4	6.2	1.9～2.2	80	12c	内底ナデ	346-2.347 348.349
33	8	4	南調査区	ロクロ小	－	6.5	－	60	13cか	内外面ナデ 摩滅	221
34	8	4	北調査区 P26 掘り方	高台	－	－	－	小片	12c	高台のみ	193
35	8	4	北調査区 トレンチ1 整地層1	台状	－	(6.8)	－	20	12c	底部台状 摩滅 反転実測	275-4
36	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層1	柱状高台	－	5.3	－	50	12c	高台のみ スノコ痕	300
37	8	4	北調査区 トレンチ1 整地層1	内折れ	－	－	－	小片	12c		275-3

第３表　国産陶器観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備　考	登録No.
38	9	5	北調査区 1号溝埋土	常滑	甕	胴部	12c		108-2
39	9	5	北調査区 1号溝埋土	東北	甕	肩部	13・14c		108-3
40	9	5	北調査区 溝状遺構 埋土	常滑	甕	胴部	12c	押印	6
41	9	5	北調査区 P8埋土	渥美	壺	肩部	12c		59-1
42	－	－	北調査区 整地層	東北	甕	胴部	13・14c		80-2
43	9	5	北調査区 P43埋土 上層	渥美	壺	胴部	12c		211
44	9	5	北調査区 東トレンチ 整地層1	渥美	鉢	口縁～体部	12c		370
45	9	5	北調査区 北トレンチ 整地層1	渥美	小皿	口縁部	12c		265-5
46	－	－	北調査区 Ⅱ層	常滑	甕	胴部	12c		12-2
47	9	5	北調査区 Ⅱ層	渥美	甕	胴部	12c	押印	13-3
48	9	5	北調査区 南壁切り時 Ⅱ層	東北	甕	肩部	13・14c	押印	18-2
49	9	5	北調査区 Ⅱ層	東北か	甕	肩部	13・14c		410
50	9	5	北調査区 Ⅱ層	東北	甕	胴部	13・14c		13-4
51	－	－	北調査区 Ⅲ層	常滑	甕	胴部	12c		22-2

52	9	5	北調査区 南壁切り時 Ⅲ層	古瀬戸	平碗	口縁部	14・15c		19-2
53	9	5	北調査区 北トレンチ Ⅲ層	古瀬戸	平碗	体部	14・15c		20
54	9	5	北調査区 Ⅲ層鉄分集積層	渥美	小皿	口縁部	12c		21-2
55	9	5	南～北調査区 東壁 Ⅱ層	渥美	鉢	口縁部	12c		31-2
56	9	5	南～北調査区 東壁 Ⅱ層	東北	甕	肩部	13・14c		31-3
57	9	5	遺構外	常滑	甕	肩部	12c		3-3
58	9	5	遺構外	東北	甕	肩部	13・14c		3-2

第４表　中国産磁器観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
59	9	4	北調査区 整地層上面	白磁	碗	底部	12c	Ⅳ類	57-2
60	－	4	北調査区 P36 埋土上層	白磁	皿	体部	12c	Ⅴ・Ⅵ類	105
61	9	4	北調査区 P38	陶器	天目	口縁部	不明	黒釉	173
62	－	4	北調査区 整地層上面	青白磁	皿	体部か	12c		81
63	9	4	北調査区 P44	白磁	水注	取手部	12c	Ⅲ系	236
64	9	4	北調査区 東トレンチ 整地層1	白磁	水注か	肩部	12c	Ⅲ系	378
65	9	4	北調査区 整地層1	青白磁	合子	身部	12c	型押し 輪花	288
66	9	4	北調査区 整地層上面	白磁	碗	体部	12c	Ⅴ4・Ⅵ・Ⅶ類 内面に櫛目文	36
67	9	4	北調査区 Ⅱ層	青白磁	梅瓶	胴部	13c	外面に文様	13-2
68	9	4	北調査区 Ⅲ層	青白磁	碗	体部	12c	内面に櫛目文	16
69	9	4	北調査区 Ⅲ層	青磁か	碗か	口縁部	不明	近世の可能性	25-2
70	－	4	南～北調査区 Ⅲ層	白磁	四耳壺	胴部	12c		32-2

第５表　土師器観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備考	登録No.
71	－	5	北調査区 P21 埋土	坏か	体部	平安		68-2
72	－	5	北調査区 P25 掘り方	甕か	不明	平安		166-2
73	－	5	北調査区 P25 掘り方	甕	頸部か	平安	赤彩	166-3
74	－	5	北調査区 P38 柱痕跡	甕か	不明	平安	赤彩	174-2
75	－	5	北調査区 Ⅲ層	坏	口縁部	平安		10-2

第６表　瓦観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量（cm）			重量(g)	色調	備考	登録No.
					長さ	幅	厚さ				
76	－	－	北調査区 1号溝 埋土	不明	<2.8>	<2.2>	<0.6>	2.5	10YR8/3浅黄橙	中世 凹面に布目	108-4
77	－	－	北調査区 P36掘り方	不明	－	－	－	1.3	2.5Y7/1灰白	小片	196-2
78	9	5	北調査区 東トレンチ 整地層1	平瓦か	<4.0>	<5.4>	<2.5>	40.2	10YR8/1灰白	中世 凹面に布目離れ砂	372
79	－	5	南調査区 整地層1一括	不明	<5.6>	<3.0>	1.3	17.5	10YR8/4浅黄橙	中世 凹面に布目 凸面に縄目・離れ砂	397-2
80	9	5	重機 整地層1上面	平瓦	<14.8>	<5.8>	2.4	199.7	10YR8/2灰白	中世 凹面に布目 凸面に縄目	5
81	9	5	北調査区 北トレンチ 整地層	平瓦	<11.7>	<8.0>	2.3	183.3	2.5Y8/3淡黄	中世 凹面に布目 凸面に縄目	293.279-2
82	9	5	北調査区 北トレンチ北西側	平瓦	<13.5>	<6.5>	1.6	98.0	5Y7/1灰白	中世 凹面に布目 凸面に縄目・離れ砂 側面にケズリ	241
83	－	－	重機一括	不明	<3.8>	<4.0>	1.5	16.0	7.5YR8/3浅黄橙	中世 凹面に布目 側面にケズリ	1-2
84	9	5	重機一括	丸瓦	<5.3>	<5.9>	1.5	56.7	10YR8/3浅黄橙	中世 凹面に布目 凸面に縄目 側面にケズリ	2-2
85	－	－	重機一括	不明	<2.7>	<2.6>	1.6	8.5	10YR8/2灰白	中世 凹面に布目 側面にケズリ	2-3

第７表　土壁観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	法量（cm）			重量(g)	スサの有無	備考	登録No.
				長さ	幅	厚さ				
86	－	－	北調査区 1号溝埋土	1.2	1.3	1.1	1.1	有		23-3
87	－	－	北調査区 1号溝埋土	0.8～1.8	0.6～1.0	0.5～1.4	16.1	有	11個	108-6
88	－	－	北調査区 P8	0.9～2.8	0.8～2.0	0.5～1.4	9.6	無	3個	98-2
89	－	－	北調査区 P8 掘り方下位	1.9	1.0	0.8	1.8	無		119-2
90	－	－	北調査区 P12 埋土	0.9～1.5	0.5～1.0	0.4～0.9	1.3	無	2個	101-2

91	−	−	北調査区 P13 掘り方	0.8〜1.9	0.5〜1.6	0.6〜1.1	8.8	無	7個	136-2
92	−	−	北調査区 P17 掘り方	3.3	2.2	0.9	5.2	無		188-2
93	−	−	北調査区 P17 埋土	1.7	1.3	0.9	1.9	無		160-2
94	−	−	北調査区 P28 埋土	1.3	1.2	1.4	2.5	無		254-2
95	−	−	北調査区 P31 埋土	1.1〜1.5	0.9〜2.2	0.9〜1.5	4.4	有	2個	210-2
96	−	−	北調査区 P34 掘り方下位	0.9	0.6	1.0	0.5	無		147-2
97	−	−	北調査区 P36	1.6	1.2	0.7	1.2	無		148-2
98	−	−	北調査区 P43	1.9	1.4	0.8	1.5	有		271-2
99	−	−	北調査区 P46 埋土	2.5	2.2	1.8	11.0	有		214-2
100	−	−	北調査区 P54 掘り方	1.5	0.7	0.8	0.9	無		178-2
101	−	−	北調査区 北トレンチ 整地層1	1.2〜4.0	0.8〜1.5	1.7〜2.0	13.1	有	2個	328-2
102	−	−	北調査区 北トレンチ 整地層1	1.0	0.8	0.7	0.5	無		413-2
103	−	−	北調査区 北壁付近 整地層1	1.0〜1.5	1.0〜1.2	0.8〜1.3	5.5	無	3個	52-2
104	−	−	北調査区 西壁付近 整地層1	1.5	1.4	0.8	1.9	無		53-2
105	−	−	北調査区 整地層1	2.2	1.5	2.5	7.4	無		92-3
106	−	−	北調査区 整地層1上面	2.0	1.2	0.9	2.6	有		9-2
107	−	−	北調査区 Ⅲ層	1.2〜2.2	1.0〜1.7	1.5	6.1	無	2個	10-3
108	−	−	北調査区 整地層1上面	2.0	1.5	1.8	5.1	有		48-2
109	−	−	北調査区 北トレンチ2号溝周辺 整地層	1.5	1.1	1.5	2.2	無		374-2
110	−	−	北調査区 トレンチ1 整地層〜下	2.5	2.2	1.5	6.9	有		276-2
111	−	−	北調査区 南壁切り時	1.4	1.0	0.7	1.3	有		17-2
112	−	−	北調査区 北トレンチ 清掃	1.0	0.7	0.7	0.5	無		156-2
113	−	−	北調査区 北トレンチ北西側	2.0	1.0	2.1	3.1	無		262-2
114	−	−	北調査区 北トレンチ北西側	1.8	1.0	1.0	1.6	有		412-2
115	−	−	北調査区 Ⅲ層鉄分集積層	1.5〜1.7	1.0〜1.3	0.7〜0.8	2.6	無	2個	21-3
116	−	−	南〜北調査区 東壁 Ⅲ層	1.5	1.5	1.5	2.7	無		33-2

第8表　金属製品観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類		法量（cm）			重量（g）	備考	登録No.
						長さ	幅	厚さ			
117	9	5	北調査区 1号溝埋土	鉄	角釘	<3.1>	0.7	0.6	3.9		108-5
118	9	5	北調査区 P2 柱痕跡	鉄	角釘	3.1	1.0	0.9	3.7		111-2
119	−	−	北調査区 P12 掘り方	鉄	角釘か	3.5	1.4	0.8	3.0		141-2
120	9	5	北調査区 整地層1	鉄	楔か	4.9	1.7	0.6	7.9		400
121	9	5	北調査区 北トレンチ整地層1	鉄	鎹か	<5.7>	0.7	0.8	10.8		278
122	9	5	北調査区	鉄	角釘	<6.5>	0.7	0.7	7.4		35-2
123	−	−	北調査区 整地層	鉄	不明	3.9	2.6	1.5	9.2		279-3
124	−	−	北調査区 整地層	鉄	角釘か	3.0	1.7	1.3	3.7		279-5
125	9	5	北調査区 トレンチ1整地層〜下	鉄	角釘か	<4.3>	0.5	0.4	1.8		276-3

第9表　鉄滓観察表

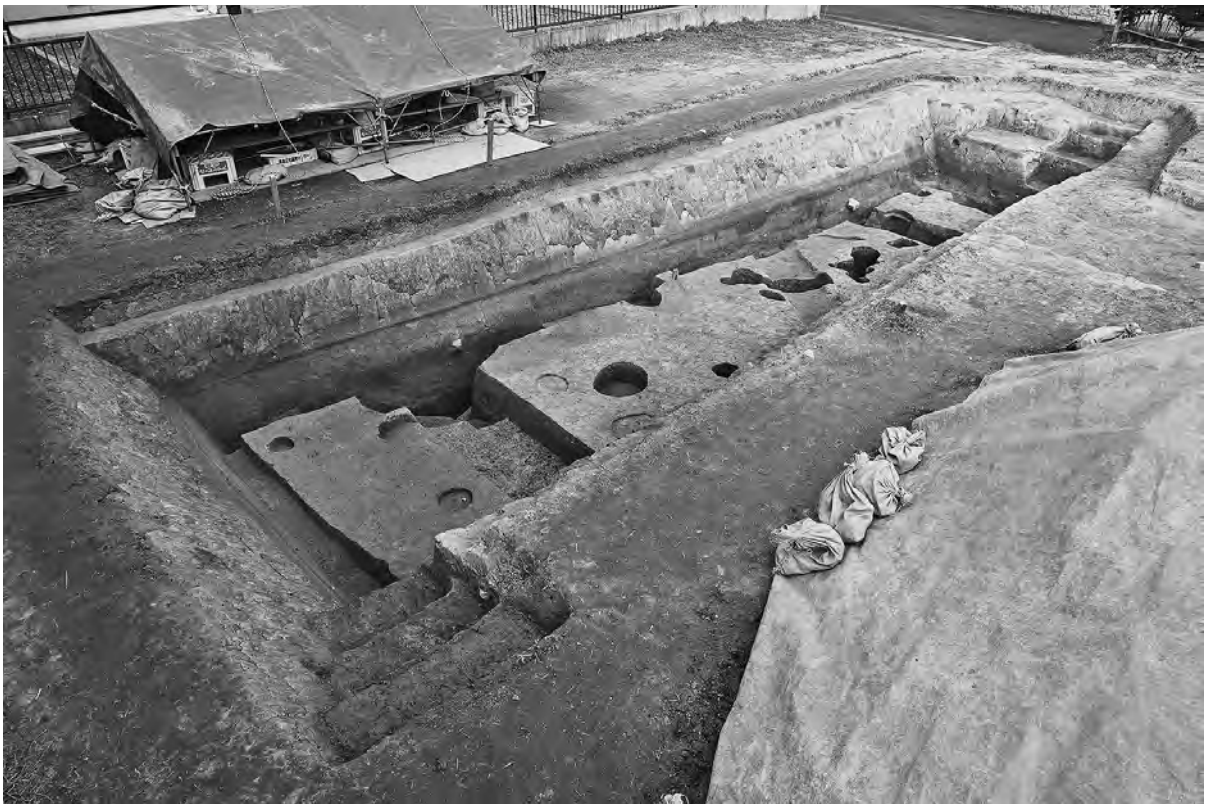
No.	図版	写真図版	出土位置・層位	重量（g）	磁着	種類	備考	登録No.
126	−	−	北調査区 P14 埋土	17.0	有	鉄滓		204-2
127	−	−	北調査区 P28 埋土	170.7	有	鉄滓		254-3
128	−	−	北調査区 整地層	27.0	有	鉄滓		279-6

第10表　種子観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	備考	登録No.
129	−	−	北調査区 P25 柱痕跡	桃		192-1
130	−	−	北調査区 P28 埋土	桃		256
131	−	−	南調査区 南側深掘り	桃・不明種子		249-4
132	−	−	南調査区 東側深掘り	桃		267-3

第11表　石製品観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種別	法量（cm）			重量（g）	色調	備考	登録No.
					長さ	幅	厚さ				
133	−	5	北調査区 P44根石付近	砥石	9.3	7.9	2.1	251.4	10YR8/2灰白		238-2



北調査区全景（南西から）

北調査区北壁断面１（南から）

北調査区北壁断面２（南から）

北調査区北壁断面３（南から）

北調査区北壁断面４（南から）

写真図版１

北調査区西側全景 1（北から）

北調査区中央全景 2（北から）

北調査区全景（南西から）

北調査区全景（南東から）

北調査区 トレンチ２ 西壁（東から）

30SD1 南壁断面（北から）

北調査区西壁断面（東から）

北調査区東壁断面（西から）

写真図版２

北調査区西側全景３（北から）

30SK1 全景（南東から）

南調査区全景（東から）

南調査区全景（北から）

南調査区西壁断面（東から）

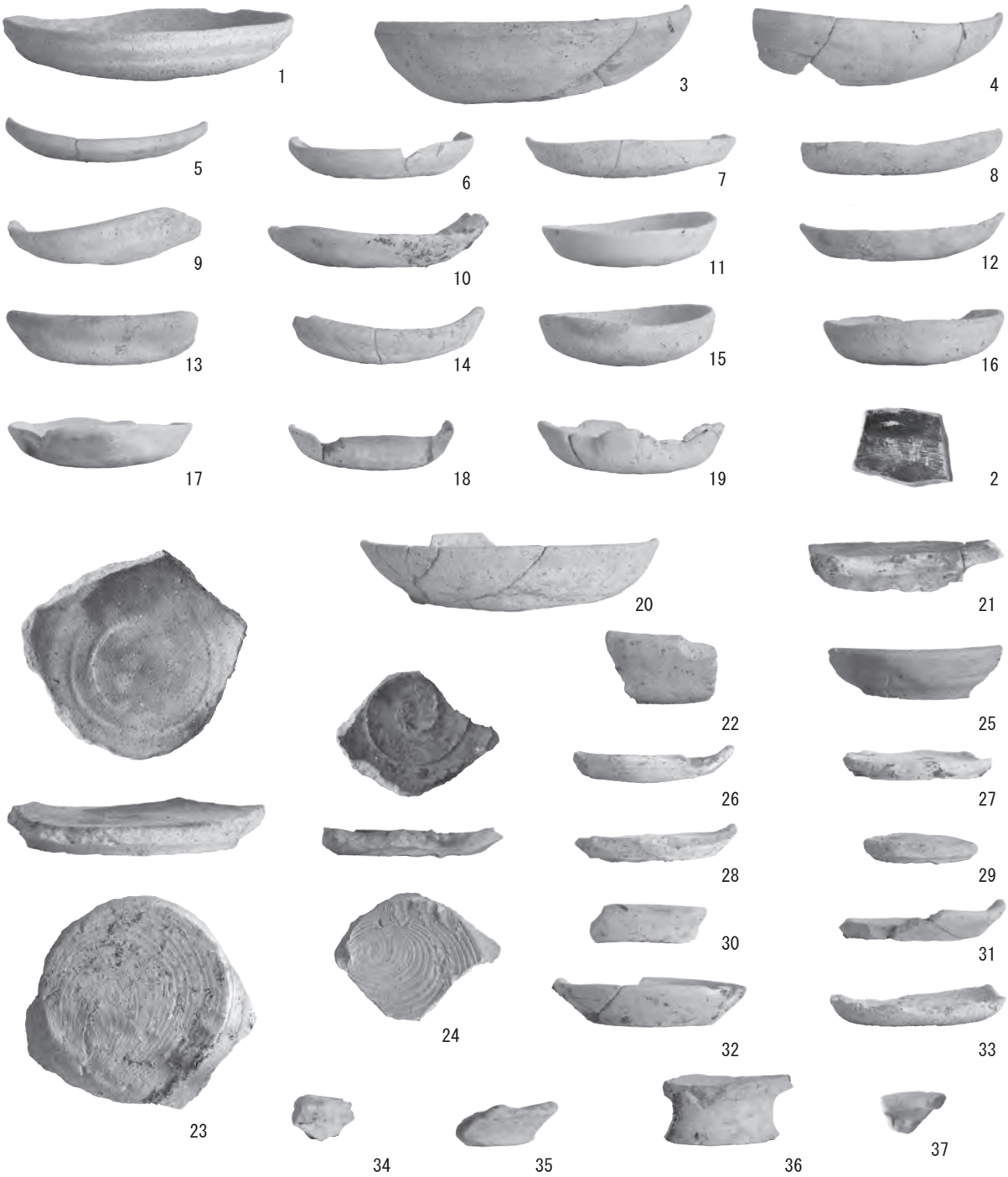
南調査区南壁断面（北から）

南調査区東壁（西から）

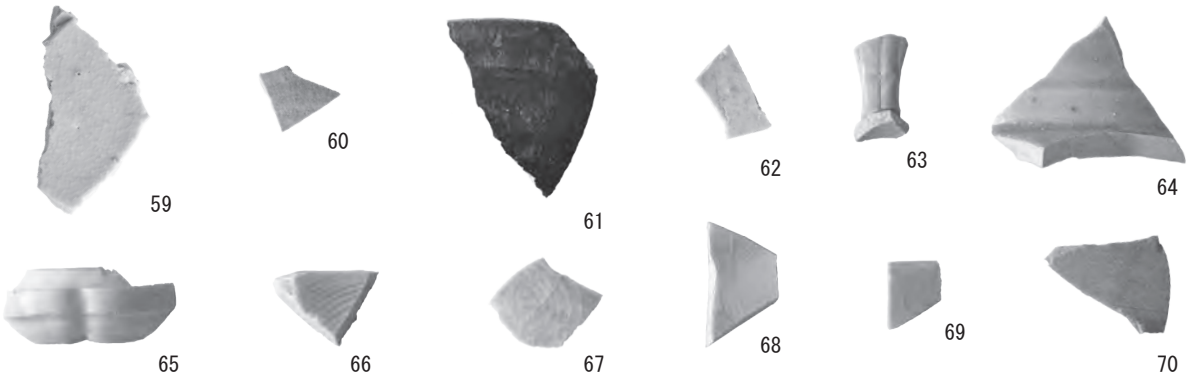
南調査区東壁（西から）

写真図版３

かわらけ

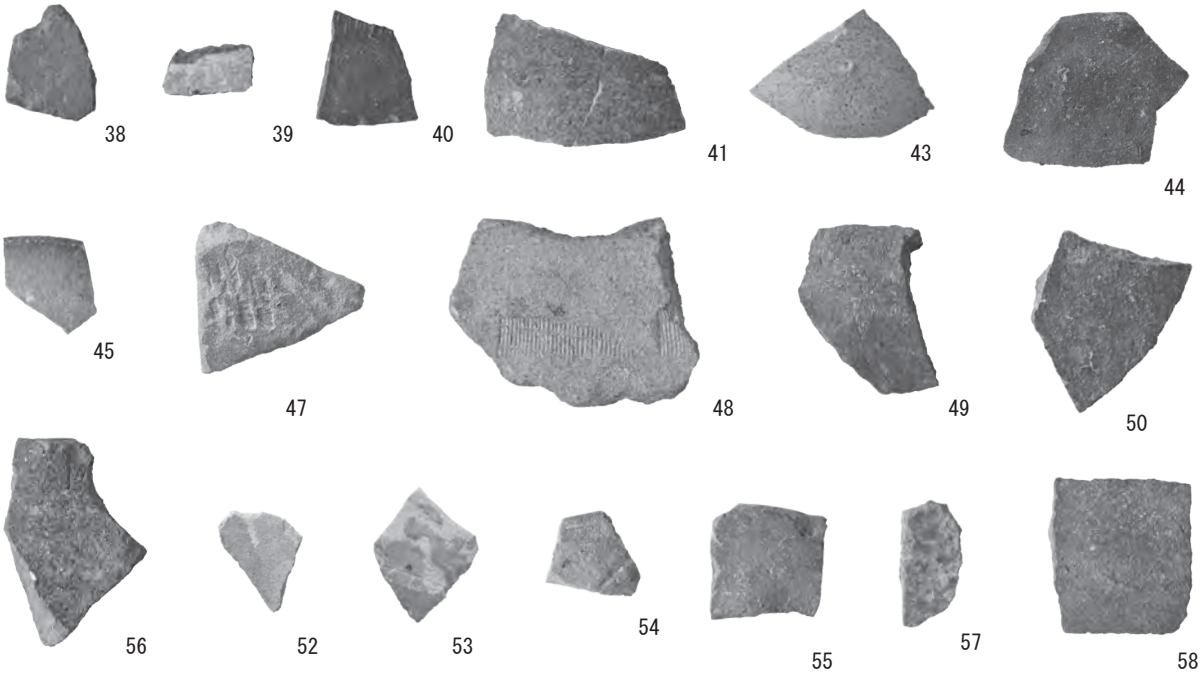


中国産陶磁器



写真図版４　出土遺物（１）

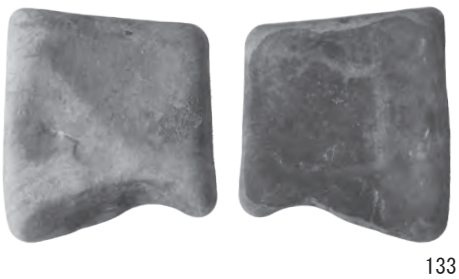
国産陶器



土師器

瓦

石製品



金属製品

写真図版５　出土遺物（２）

岩手県平泉町文化財調査報告書第146集

平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅱ遺跡第20次　国衡館跡第16次
伽羅之御所跡第31次　西光寺跡第14・15次
志羅山遺跡第120・121次　花立Ⅱ遺跡第30次

印　刷　令和６年３月27日
発　行　令和６年３月31日

編集・発行　平泉町教育委員会
〒029-4102　岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2
電話（0191）46-2111㈹　FAX（0191）46-2015

印　　刷　株式会社 一関プリント社
〒029-0031　岩手県一関市青葉一丁目7-24
電話（0191）23-4586㈹

© 平泉町教育委員会 2024